

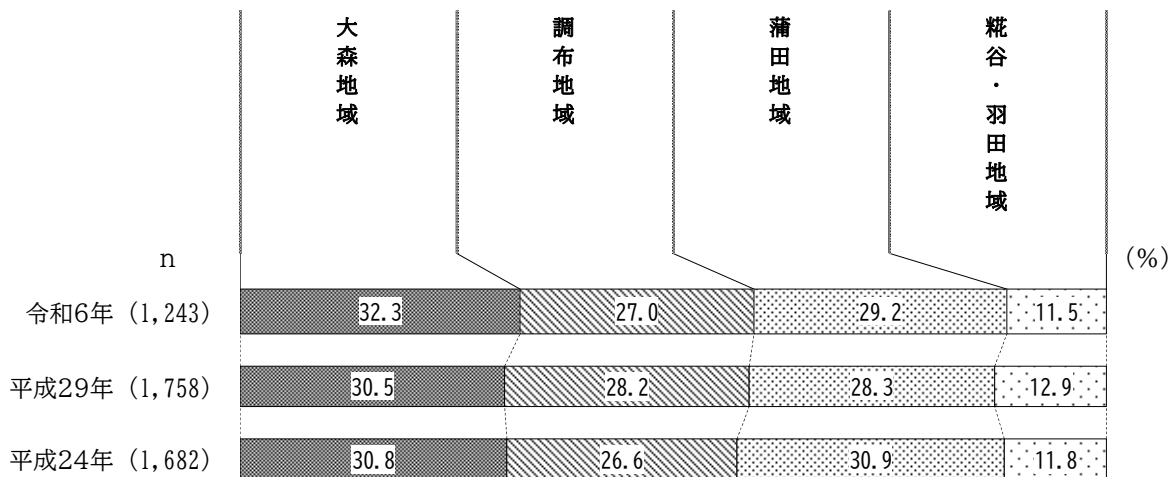
第2部 健康に関するアンケート調査結果

1. あなた自身について

(1) 地域

回答者の地域は、「大森地域」が32.3%、「調布地域」が27.0%、「蒲田地域」が29.2%、「糀谷・羽田地域」が11.5%となっている。

時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。

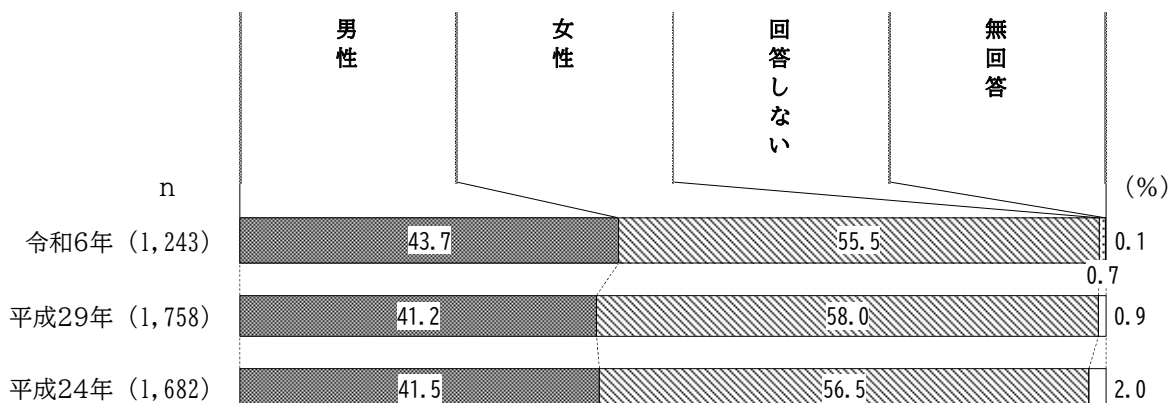


(2) 性別

基本情報1 あなたの性別に○をつけてください。(○は1つ)

回答者の性別は、「男性」が43.7%、「女性」が55.5%となっている。

時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。



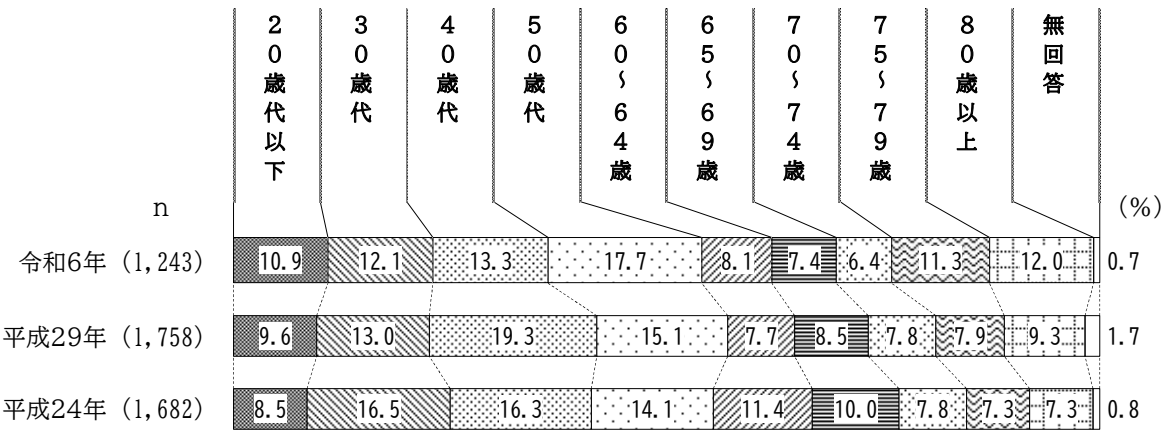
※今回調査より、選択肢「回答しない」が追加された。

(3) 年齢

基本情報2 あなたの年齢を記入してください。

回答者の年齢は、「50歳代」が17.7%で最も高く、次いで「40歳代」が13.3%、「30歳代」が12.1%となっている。65歳以上は合計37.1%（前期高齢者（65歳以上75歳未満）：13.8%、後期高齢者（75歳以上）：23.3%）となっている。

時系列で比較すると、「40歳代」（令和6年：13.3% 平成29年：19.3% 平成24年：16.3%）が前回調査より6ポイント減少している。



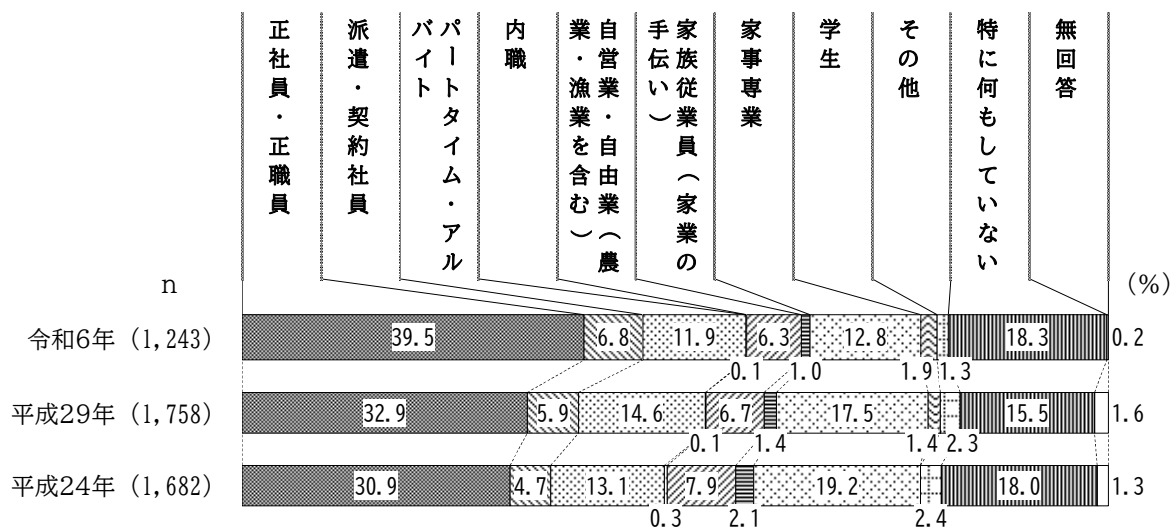
※今回調査より、調査対象者が18歳以上の区民に変更となったため、回答区分を10歳代と20歳代を合わせた「20歳代以下」に変更している。

(4) 就労形態

基本情報3 あなたの就労形態は次のうちどれですか。(○は主なもの1つ)

回答者の就労形態は、「正社員・正職員」が39.5%で最も高く、次いで「家事専業」が12.8%、「パートタイム・アルバイト」が11.9%となっている。一方、「特に何もしていない」は18.3%となっている。

時系列で比較すると、「正社員・正職員」(令和6年：39.5% 平成29年：32.9% 平成24年：30.9%)が前回調査より6.6ポイント、前々回調査より8.6ポイント増加している。一方、「家事専業」(令和6年：12.8% 平成29年：17.5% 平成24年：19.2%)が前々回調査より6.4ポイント減少している。



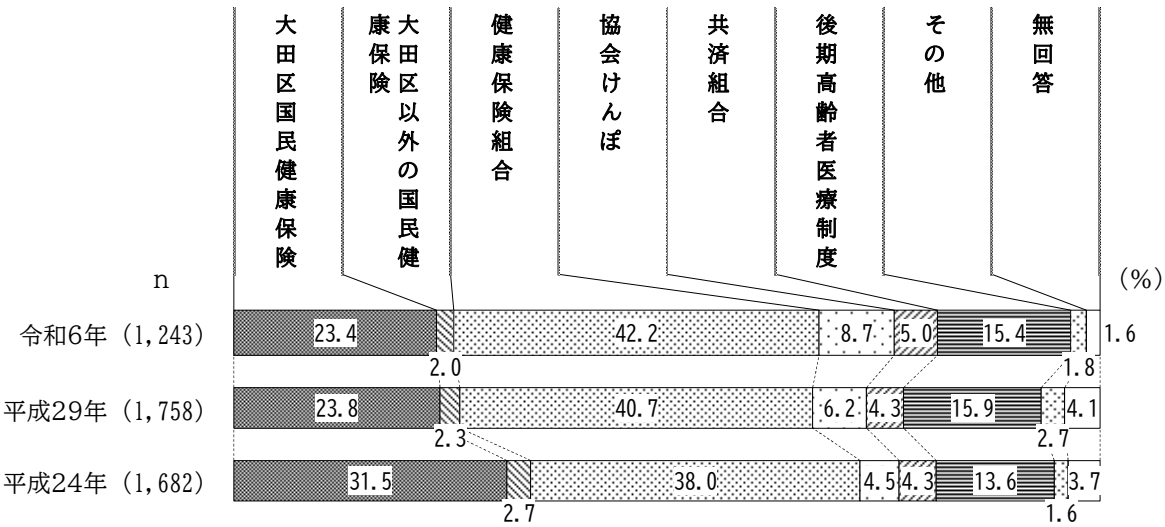
※前回調査より、選択肢「学生」が追加された。

(5) 加入している健康保険

基本情報4 あなたの加入している（扶養に入っている）健康保険は何ですか。（○は1つ）

回答者が加入している健康保険は、「健康保険組合」が42.2%で最も高く、次いで「大田区国民健康保険」が23.4%となっている。また、「後期高齢者医療制度」が15.4%となっている。

時系列で比較すると、「大田区国民健康保険」（令和6年：23.4% 平成29年：23.8% 平成24年：31.5%）が前々回調査より8.1ポイント減少している。



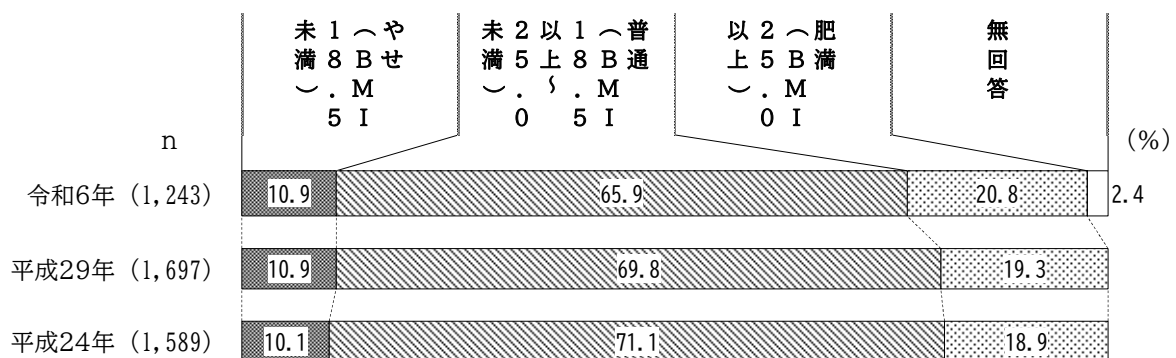
(6) 身長・体重 (BMI)

基本情報5 あなたの身長、体重を分かる範囲で記入してください。

※身長・体重については、BMIを求めるものなので、ここに表記していない。

身長と体重の結果をもとにBMIを算出した結果、構成比は「やせ (BMI 18.5未満)」が10.9%、「普通 (BMI 18.5以上～25.0未満)」が65.9%、「肥満 (BMI 25.0以上)」が20.8%となっている。

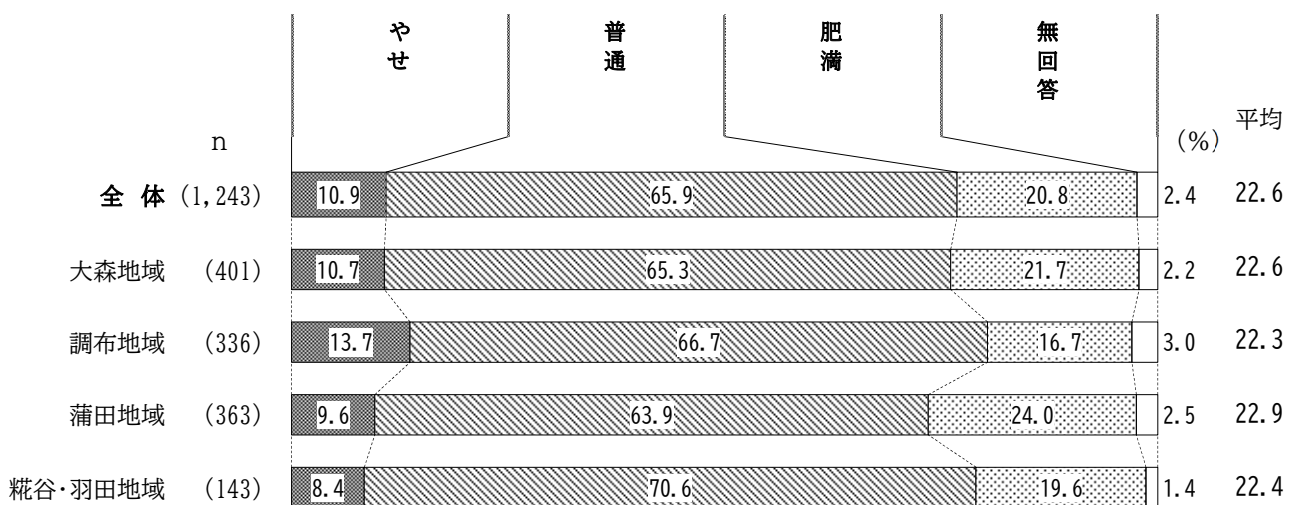
時系列で比較すると、「普通 (BMI 18.5以上～25.0未満)」(令和6年：65.9% 平成29年：69.8% 平成24年：71.1%) が前々回調査より5.2ポイント減少している。



【地域別】

地域別での平均は、蒲田地域で22.9、大森地域で22.6、糀谷・羽田地域で22.4、調布地域で22.3となっている。

構成比でみると、「やせ」が調布地域で13.7%、「肥満」が蒲田地域で24.0%と最も高くなっている。



【性別、性／年代別】

性別でみると、平均は男性で23.6、女性で21.7となっている。

構成比でみると、「やせ」（男性：4.6％ 女性：15.9％）は女性の方が男性よりも11.3ポイント高くなっている。一方、「肥満」（男性：30.4％ 女性：13.3％）は男性の方が女性よりも17.1ポイント高くなっている。

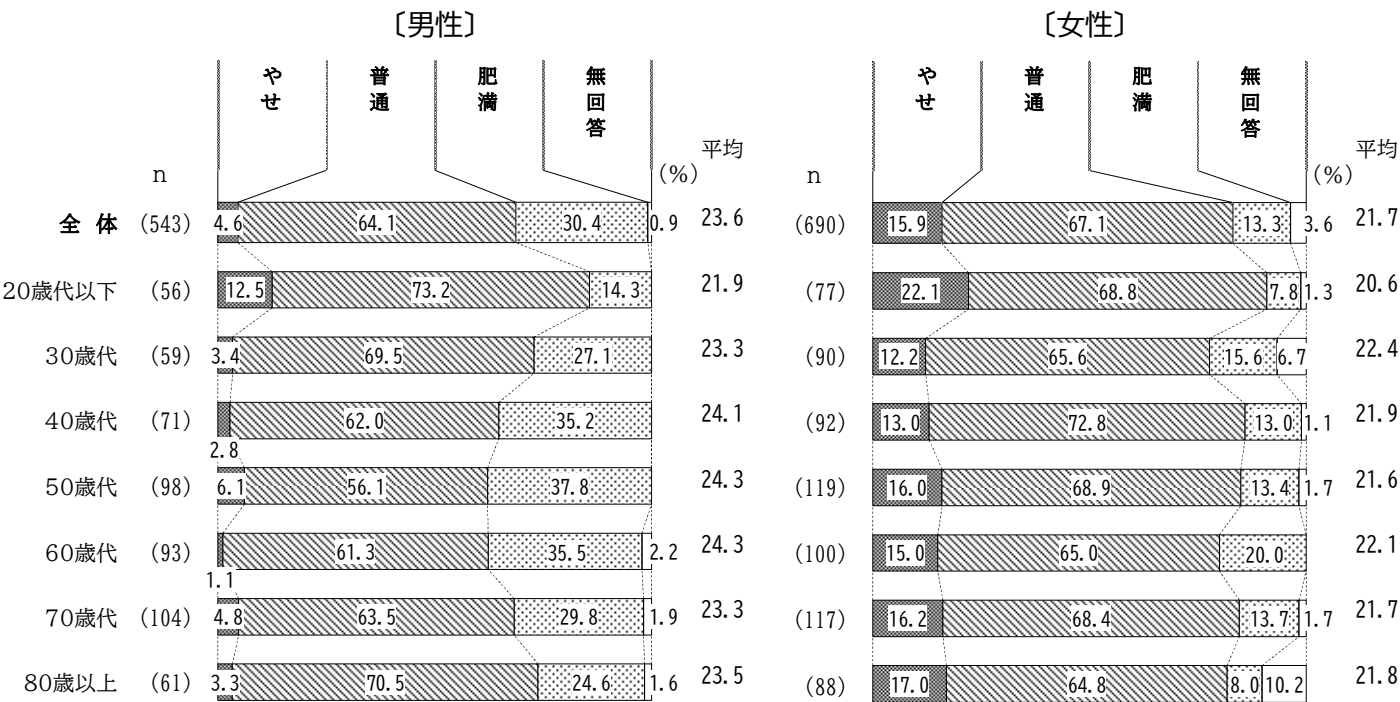
性／年代別でみると、男性では、「肥満」は40歳代～60歳代で高くなっており、40歳代で35.2％、50歳代で37.8％、60歳代で35.5％となっている。

女性では、「やせ」が20歳代以下で22.1％と他の年代に比べて高くなっている。一方、「肥満」が60歳代で20.0％となっている。

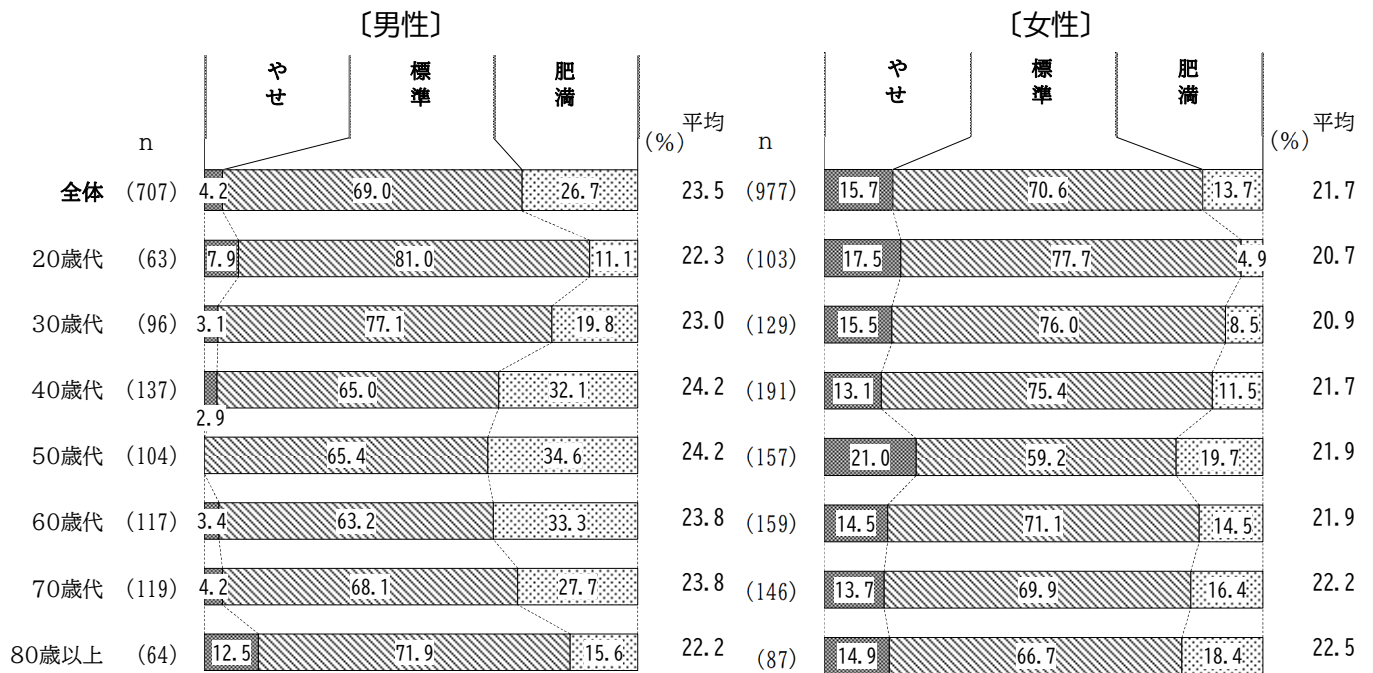
性／年代別を時系列で比較すると、男性では、「肥満」がすべての年代で増加しており、特に30歳代（令和6年：27.1％ 平成29年：19.8％ 平成24年：36.1％）で前回調査より7.3ポイント、80歳以上（令和6年：24.6％ 平成29年：15.6％ 平成24年：20.0％）で前回調査より9.0ポイント増加している。一方、「やせ」は50歳代（令和6年：6.1％ 平成29年：0.0％）で前回調査より6.1ポイント増加している。

女性では、「肥満」が30歳代（令和6年：15.6％ 平成29年：8.5％ 平成24年：6.5％）で前回調査より7.1ポイント、60歳代（令和6年：20.0％ 平成29年：14.5％ 平成24年：11.5％）で前回調査より5.5ポイント増加している。一方、50歳代（令和6年：13.4％ 平成29年：19.7％ 平成24年：14.6％）で前回調査より6.3ポイント、80歳以上（令和6年：8.0％ 平成29年：18.4％ 平成24年：7.7％）で前回調査より10.2ポイント減少している。

■令和6年

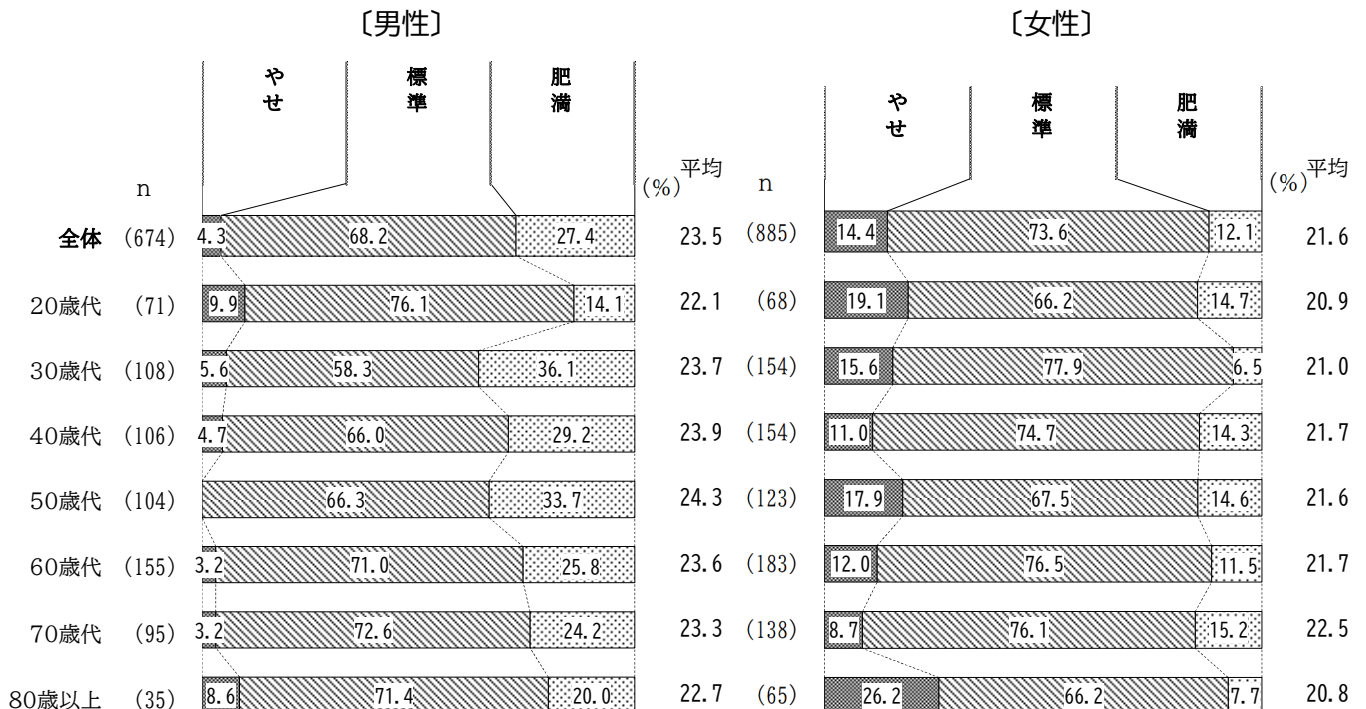


■平成29年



※今回調査より、対象者が18歳以上となっているため条件が異なることに留意する。

■平成24年



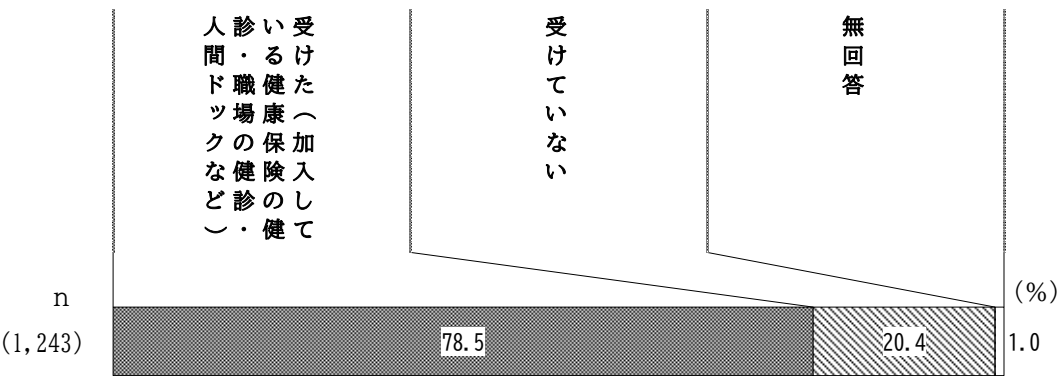
2. 健診・検診について

(1) 健診の受診状況

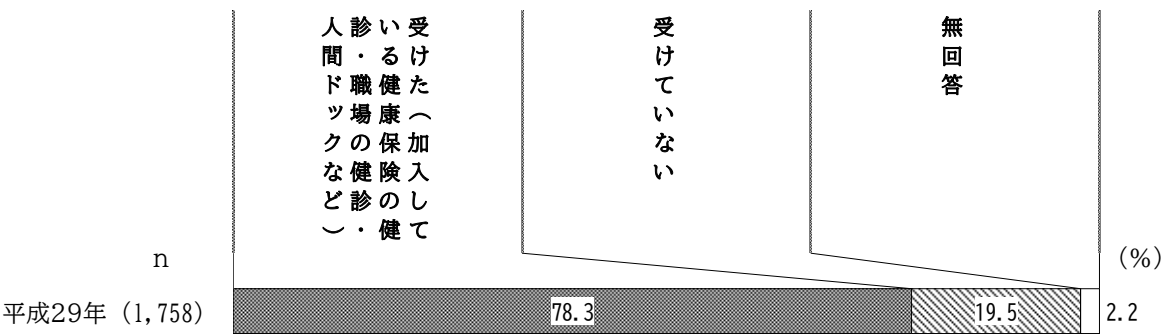
問1 あなたはこの1年間に健康診断(健康診査)を受けましたか(がん検診を除く)。(○は1つ)

健診の受診状況は、「受けた」が78.5%、「受けていない」が20.4%となっている。

参考までに時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。



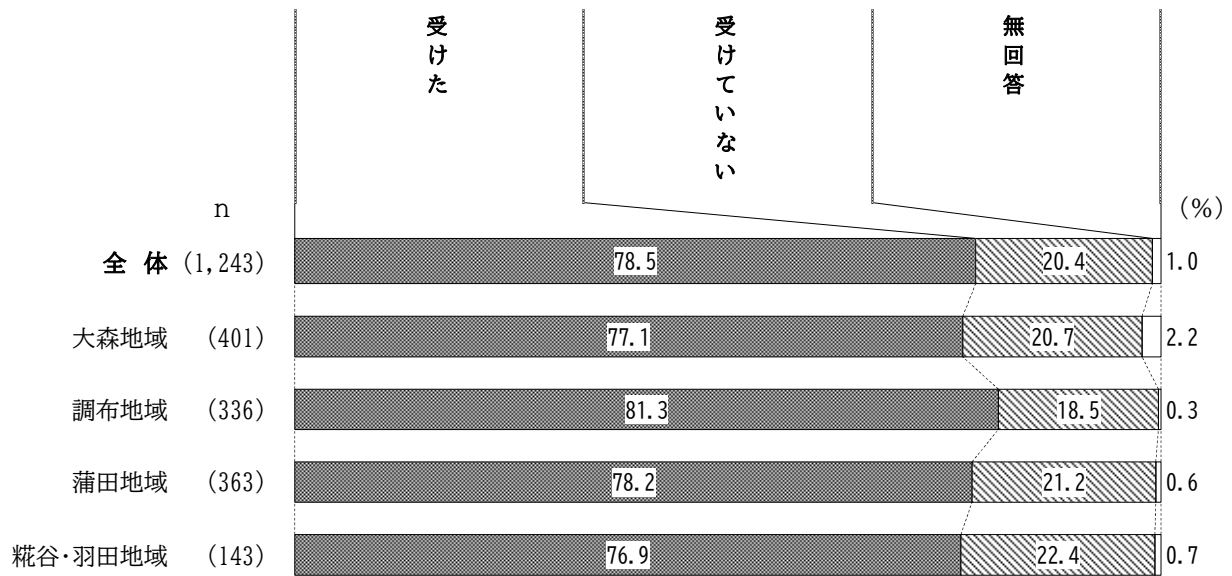
【参考：経年比較】



※前回調査の設問は、「あなたはこの1年間に血液検査を含めた健診を受けましたか。(がん検診を除く)」となっており、今回調査の設問と類似しているため、参考までに経年比較した。

【地域別】

地域別でみると、「受けた」は調布地域で81.3%と最も高く、糀谷・羽田地域で76.9%と最も低くなっている。



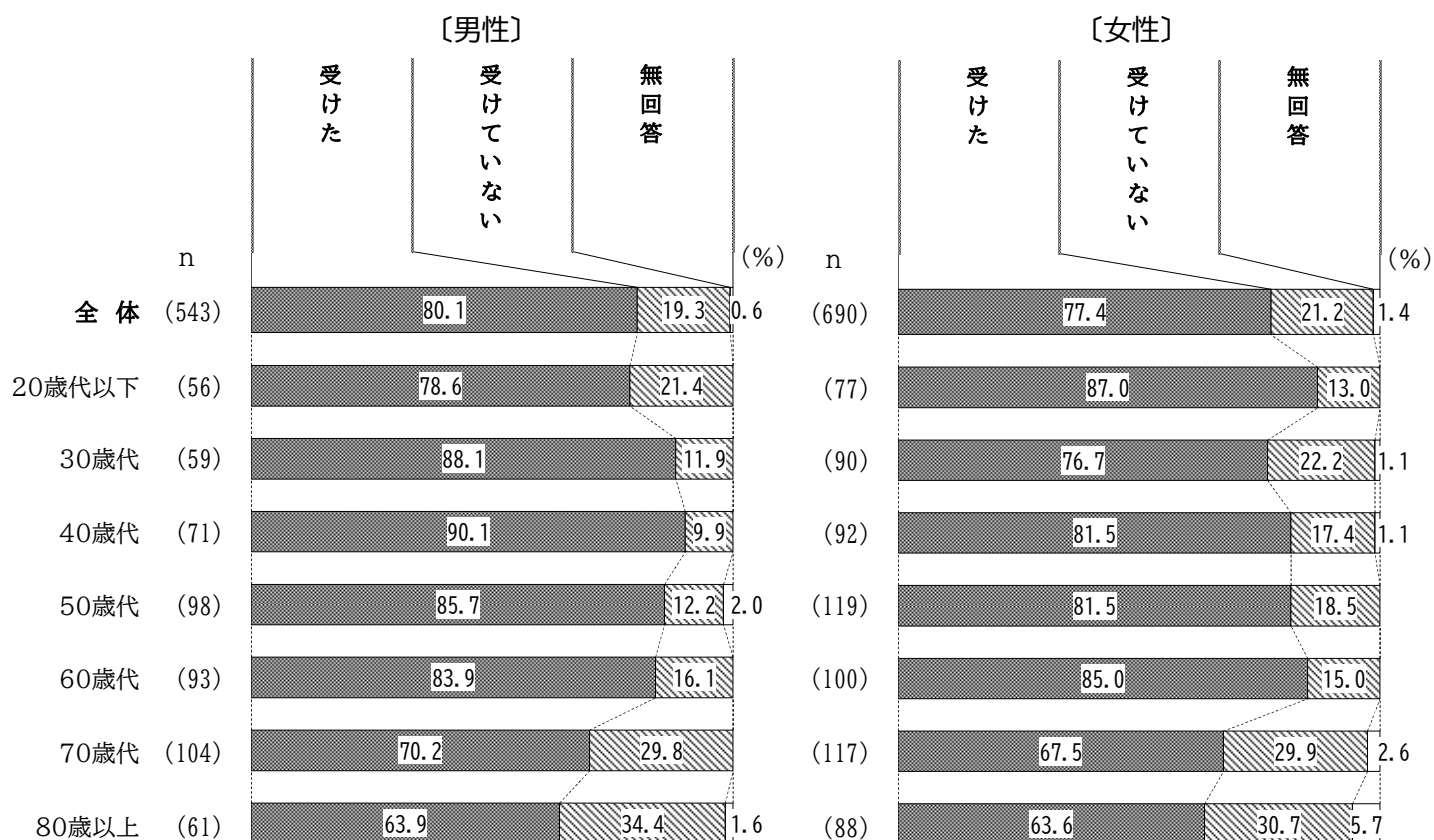
第2部 健康に関するアンケート調査結果

【性別、性／年代別】

性別でみると、特に大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、男性では、「受けた」が80歳以上を除いて7割～9割を超えているが、80歳以上は63.9%にとどまっている。

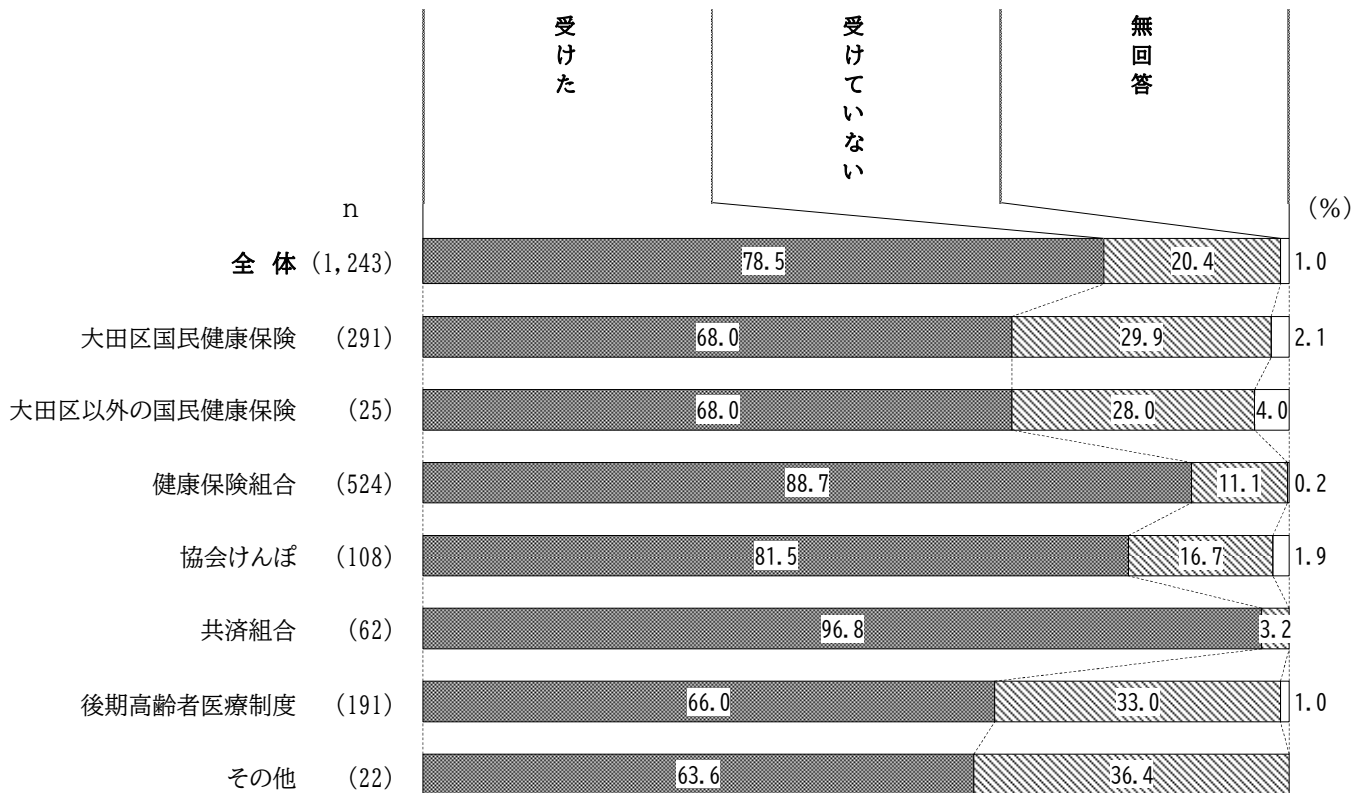
女性では、「受けた」が20歳代以下で87.0%と最も高く、次いで60歳代で85.0%、40歳代と50歳代で81.5%となっている。



【加入している健康保険別】

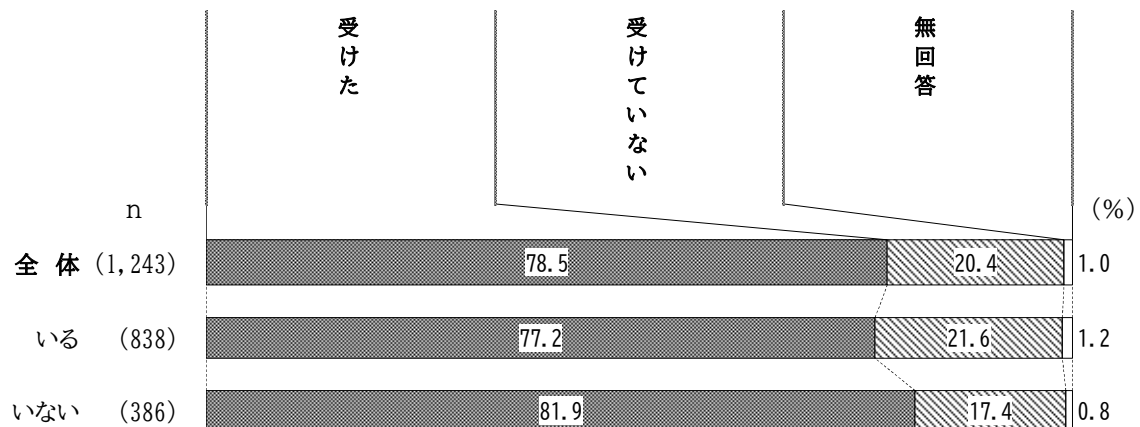
加入している健康保険別でみると、「受けた」が共済組合で96.8%と最も高く、次いで健康保険組合で88.7%、協会けんぽで81.5%となっている。

一方、「受けていない」は後期高齢者医療制度で33.0%、大田区国民健康保険で29.9%、大田区以外の国民健康保険で28.0%となっている。



【かかりつけ医の有無別】

かかりつけ医の有無別でみると、特に大きな違いはみられない。



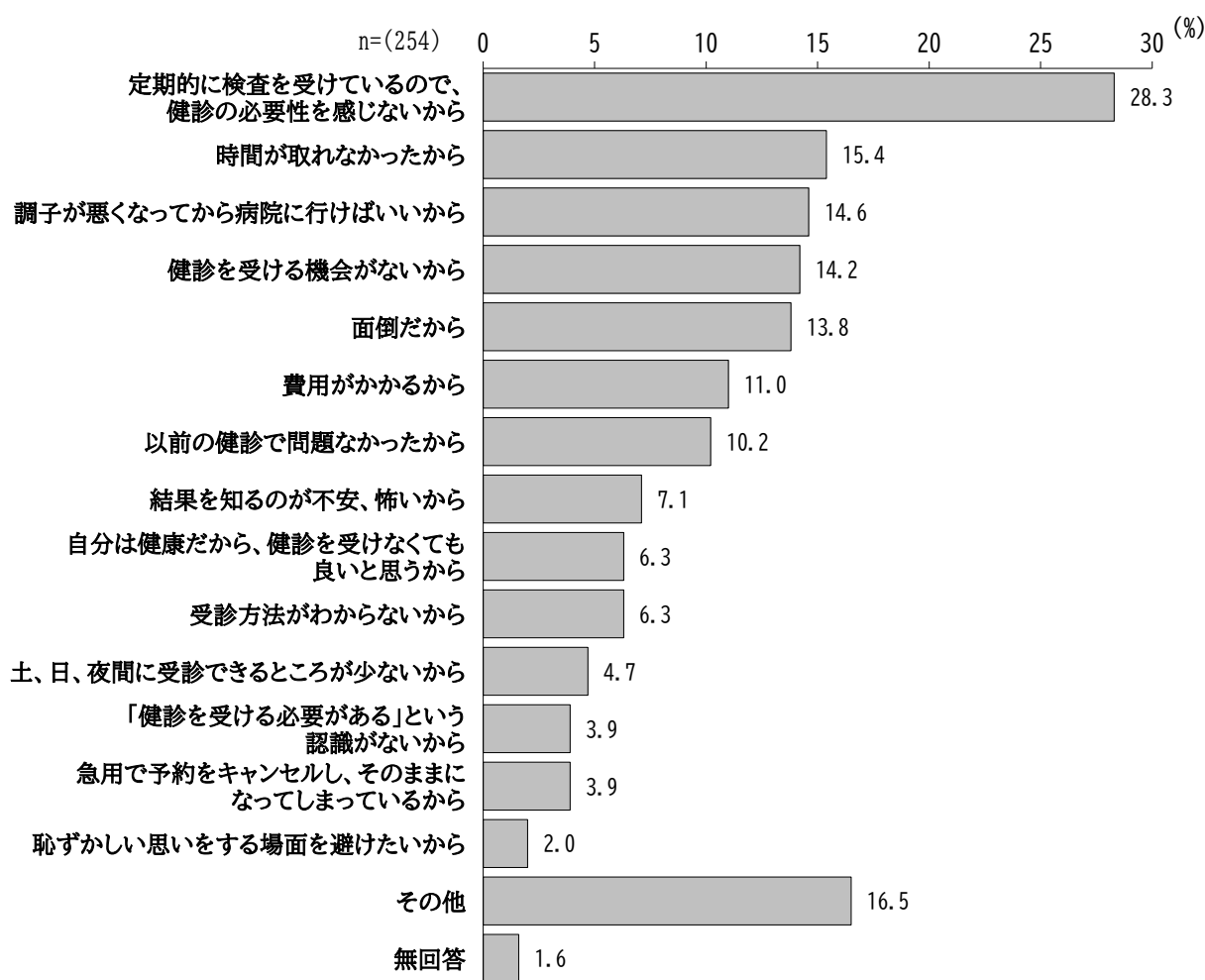
(2) 健診を受けていない理由

(問1で「受けていない」と回答した方におたずねします。)

問1-1 その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

検診の受診状況で「受けていない」と回答した方にその理由をたずねた。その結果、「定期的に検査を受けているので、健診の必要性を感じないから」が28.3%で最も高く、次いで「時間が取れなかったから」が15.4%、「調子が悪くなってから病院に行けばいいから」が14.6%となっている。

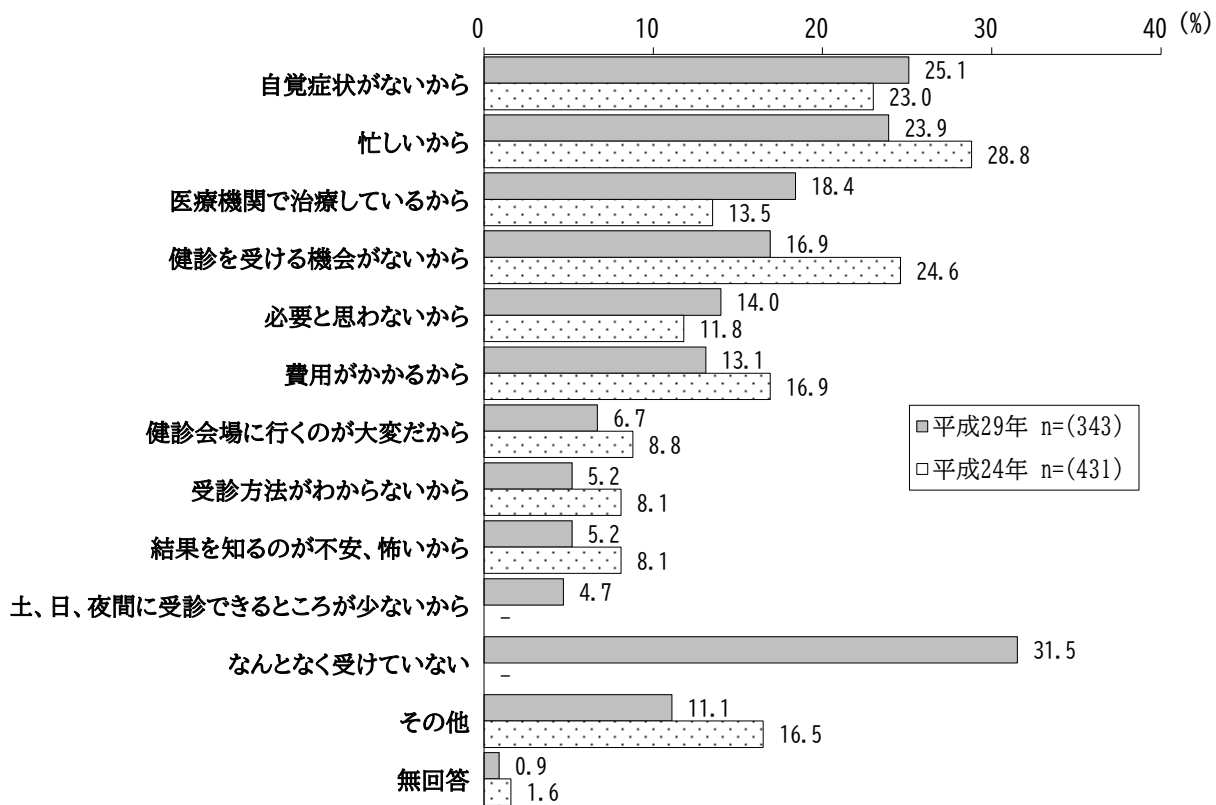
参考までに時系列で比較すると、「費用がかかるから」(令和6年：11.0% 平成29年：13.1% 平成24年：16.9%)が前々回調査より5.9ポイント減少している。



【その他の回答内容 (抜粋)】

- ・希望する所の申し込みをしても予約で一杯との事。(男性・50歳代)
- ・育休で会社で受けることができなかった。(女性・30歳代)
- ・40歳を迎えてから受けようと思っているから。(女性・30歳代)
- ・猛暑だったので涼しくなったら受診するつもりがこれからになってしまった。(女性・70歳代)

【参考：経年比較】



※前回調査より、選択肢「土、日、夜間に受診できる場所が少ないから」、「なんとなく受けていない」が追加された。

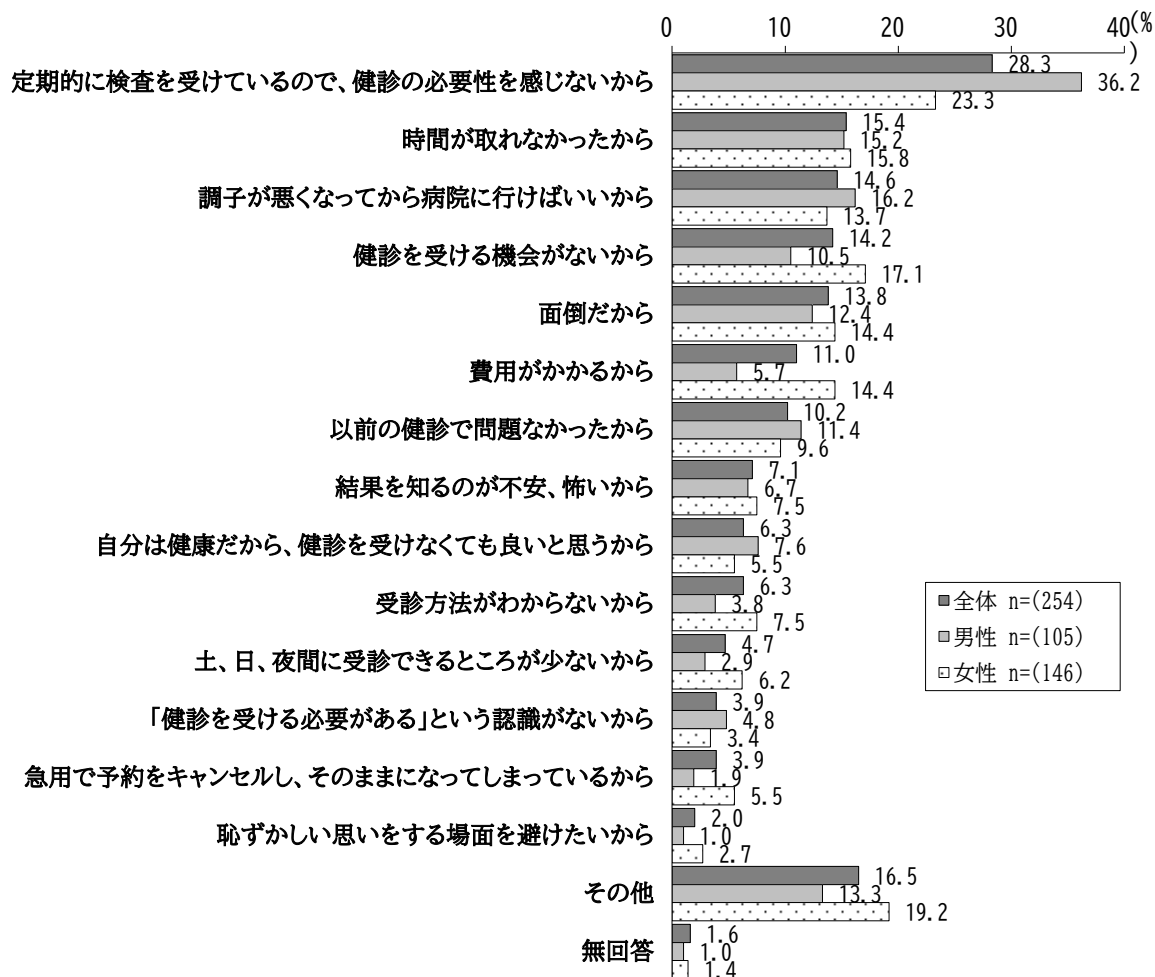
※今回調査より、選択肢「定期的に検査を受けているので、健診の必要性を感じないから」、「以前の健診で問題なかったから」、「自分は健康だから、健診を受けなくても良いと思うから」、「調子が悪くなってから病院に行けばいいから」、「『健診を受ける必要がある』という認識がないから」、「恥ずかしい思いをする場面を避けたいから」、「時間が取れなかったから」、「急用で予約をキャンセルし、そのままになってしまっているから」、「面倒だから」が追加された。

※今回調査より、「必要と思わないから」、「自覚症状がないから」、「忙しいから」、「医療機関で治療しているから」、「健診会場に行くのが大変だから」、「なんとなく受けていない」が削除された。

第2部 健康に関するアンケート調査結果

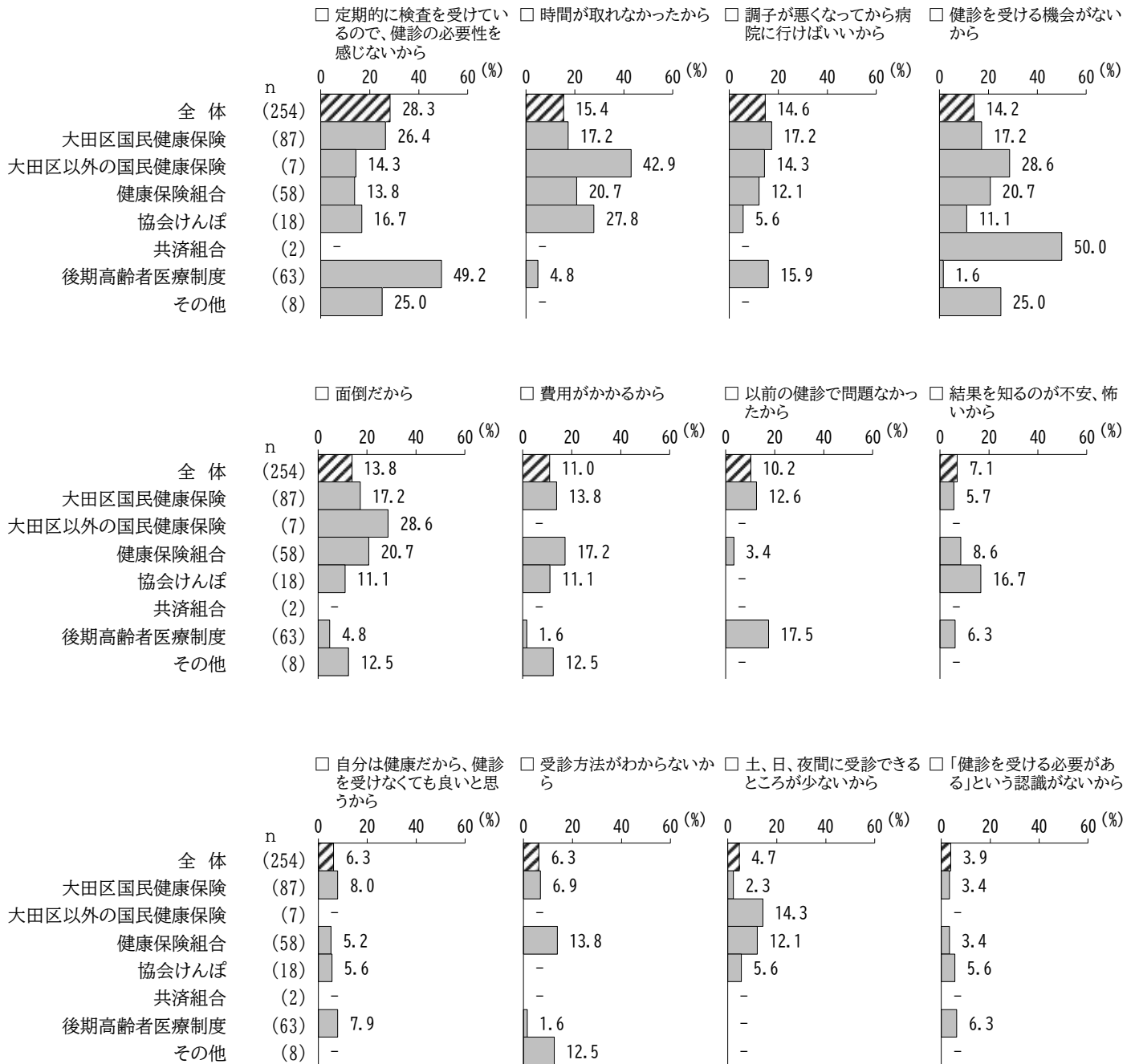
【性別】

性別でみると、「定期的に検査を受けているので、健診の必要性を感じないから」（男性：36.2% 女性：23.3%）は男性の方が女性よりも12.9ポイント高くなっている。一方、「費用がかかるから」（男性：5.7% 女性：14.4%）は女性の方が男性よりも8.7ポイント、「健診を受ける機会がないから」（男性：10.5% 女性：17.1%）は女性の方が男性よりも6.6ポイント高くなっている。

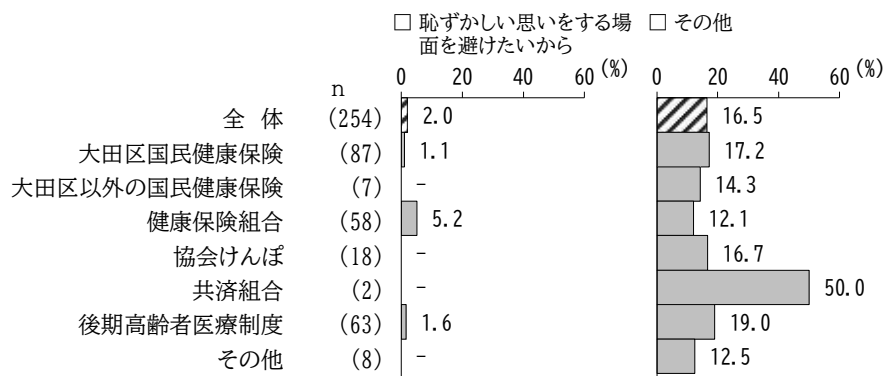


【加入している健康保険別】

一部の回答者数が少ないため参考として加入している健康保険別でみると、「定期的に検査を受けているので、健診の必要性を感じないから」は後期高齢者医療制度で49.2%と最も高く、次いで大田区国民健康保険で26.4%となっている。「時間が取れなかったから」、「健診を受ける機会がないから」、「面倒だから」は健康保険組合でいずれも20.7%となっている。



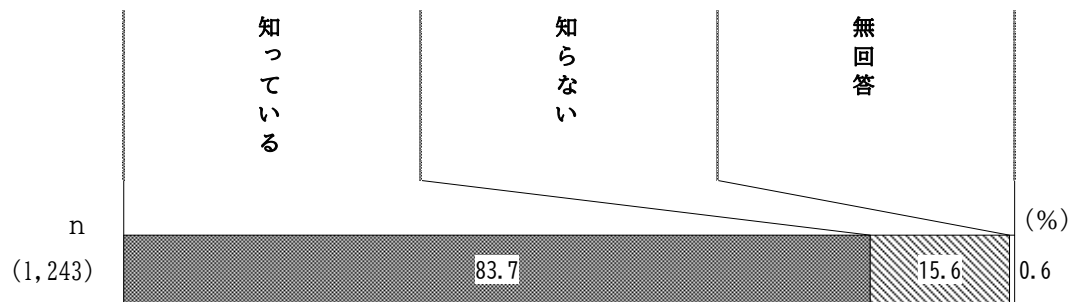
第2部 健康に関するアンケート調査結果



(3) 大田区が行っているがん検診の認知度

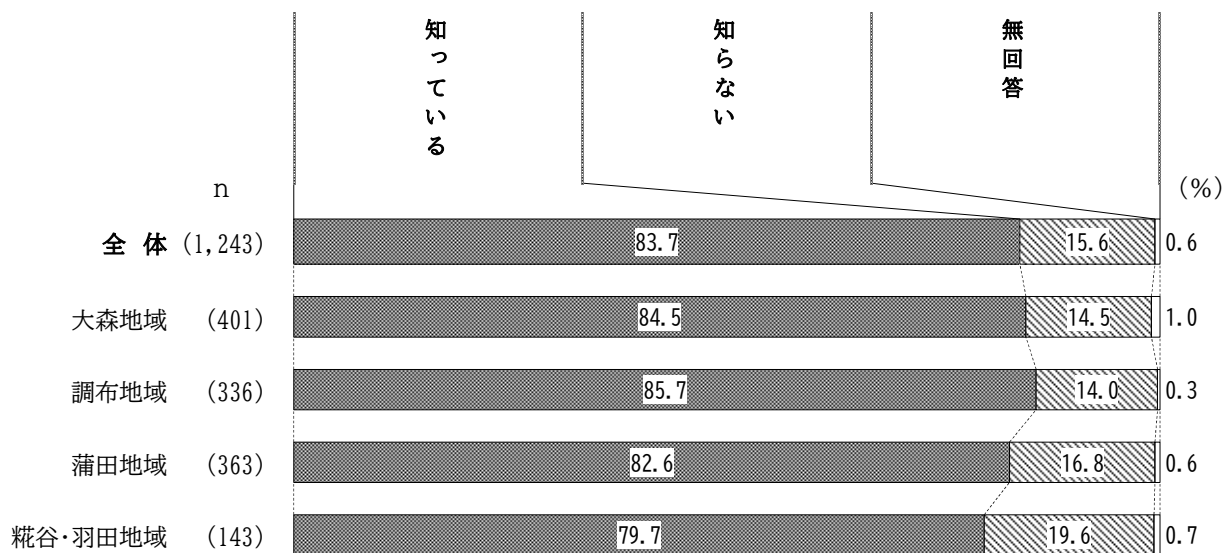
問2 あなたは大田区が実施しているがん検診について知っていますか。(○は1つ)

大田区が行っているがん検診の認知度は、「知っている」が83.7%、「知らない」が15.6%となっている。



【地域別】

地域別でみると、「知っている」が調布地域で85.7%と最も高く、糀谷・羽田地域で79.7%と最も低くなっている。



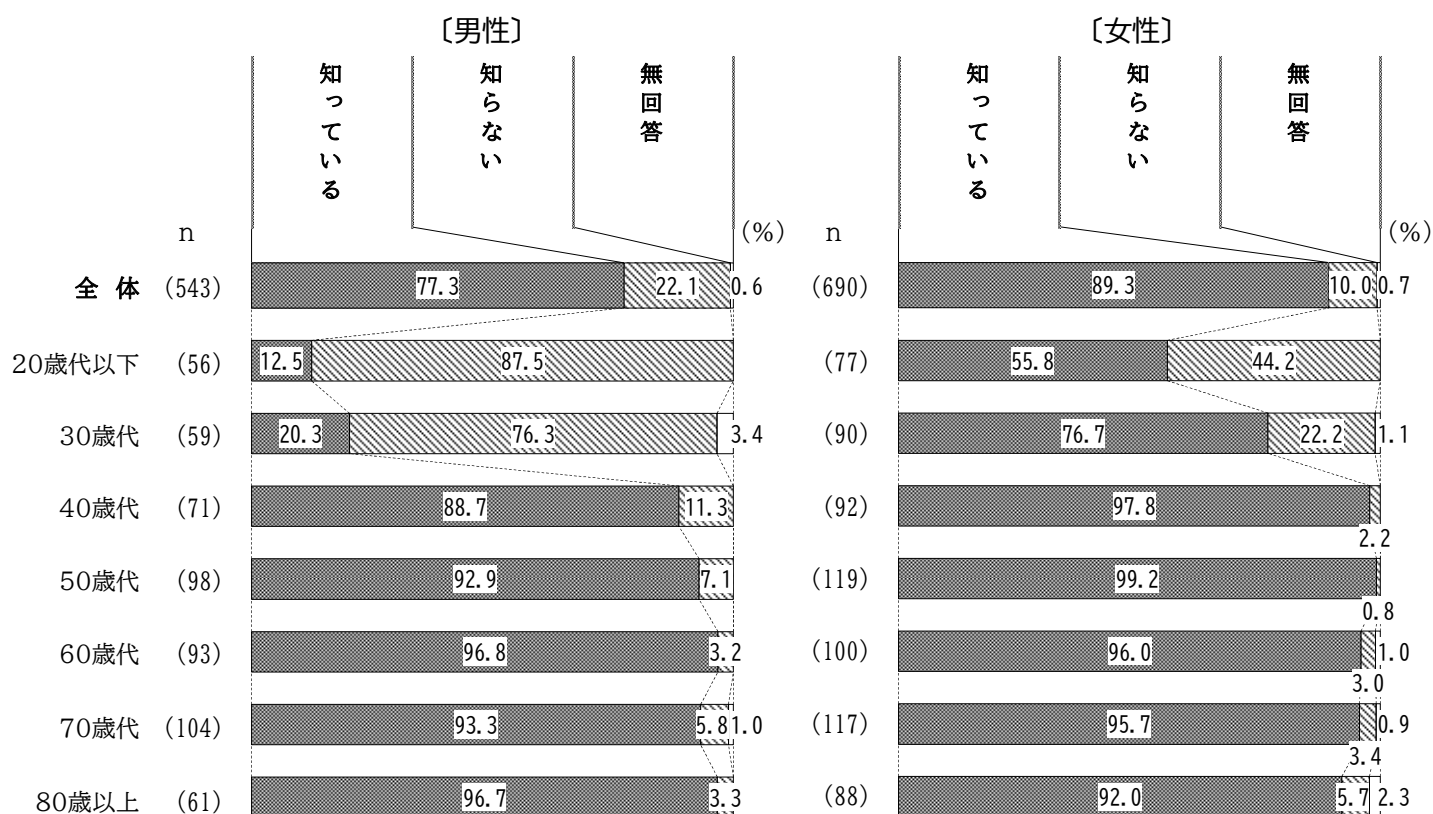
第2部 健康に関するアンケート調査結果

【性別、性／年代別】

性別でみると、「知っている」（男性：77.3% 女性：89.3%）は、女性の方が男性よりも12.0ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、男女ともに、「知っている」は20歳代以下と30歳代を除いて8割台から9割を超えているが、男性の20歳代以下で12.5%、30歳代で20.3%にとどまっている。

女性では、「知っている」は40歳代～70歳代で9割台半ば以上を占めている。



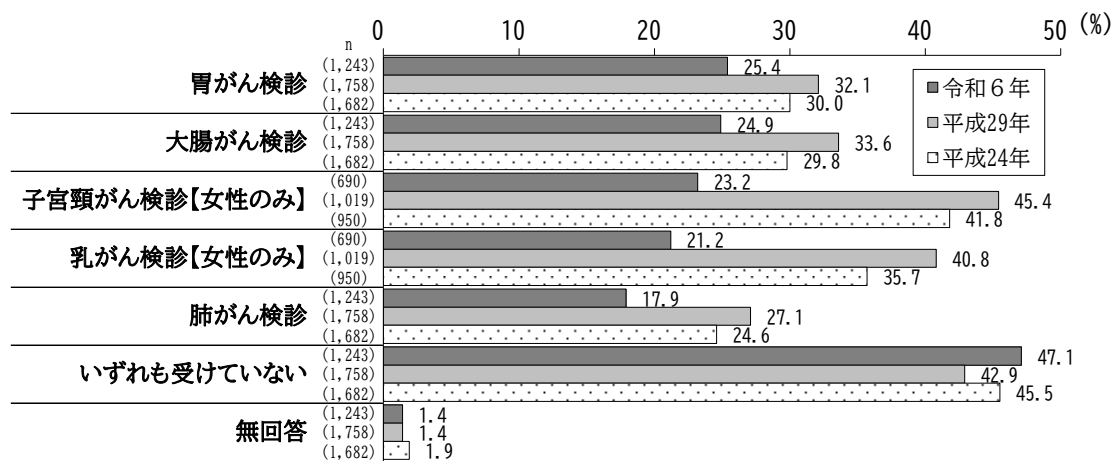
(4) がん検診の受診状況

問3 がん検診の中で1年または2年に1回は受けているものを選んでください。

(○はいくつでも)

がん検診の受診状況は、「胃がん検診」が25.4%で最も高く、次いで「大腸がん検診」が24.9%、「子宮頸がん検診【女性のみ】」が23.2%、「乳がん検診【女性のみ】」が21.2%となっている。一方、「いずれも受けていない」が47.1%を占めている。

時系列で比較すると、すべてのがん検診の受診率が前回調査、前々回調査より減少しており、特に「子宮頸がん検診【女性のみ】」（令和6年：23.2% 平成29年：45.4% 平成24年：41.8%）と「乳がん検診【女性のみ】」（令和6年：21.2% 平成29年：40.8% 平成24年：35.7%）が前回調査、前々回調査より大幅に減少している。



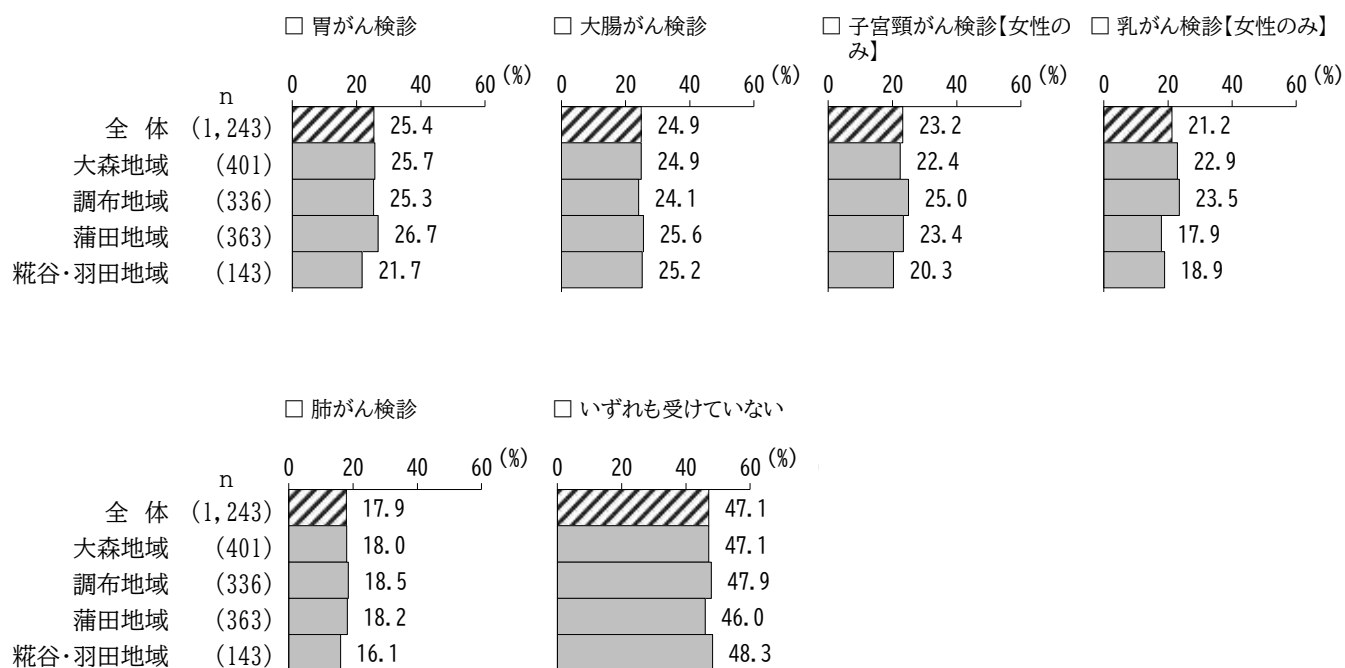
※前回調査までの調査では各検診について受診状況の有無を回答する形式となっている。

※今回調査の選択肢「いずれも受けていない」は、前回までの調査では、「がん検診をひとつも受けていない」となっている。

第2部 健康に関するアンケート調査結果

【地域別】

地域別でみると、「胃がん検診」は大森地域、調布地域、蒲田地域で2割台半ばとなっている一方、糀谷・羽田地域で21.7%と他の地域に比べて低くなっている。「乳がん検診」は調布地域で23.5%、大森地域で22.9%と2割台の一方、蒲田地域と糀谷・羽田地域で約2割となっている。



【性別、性／年代別】

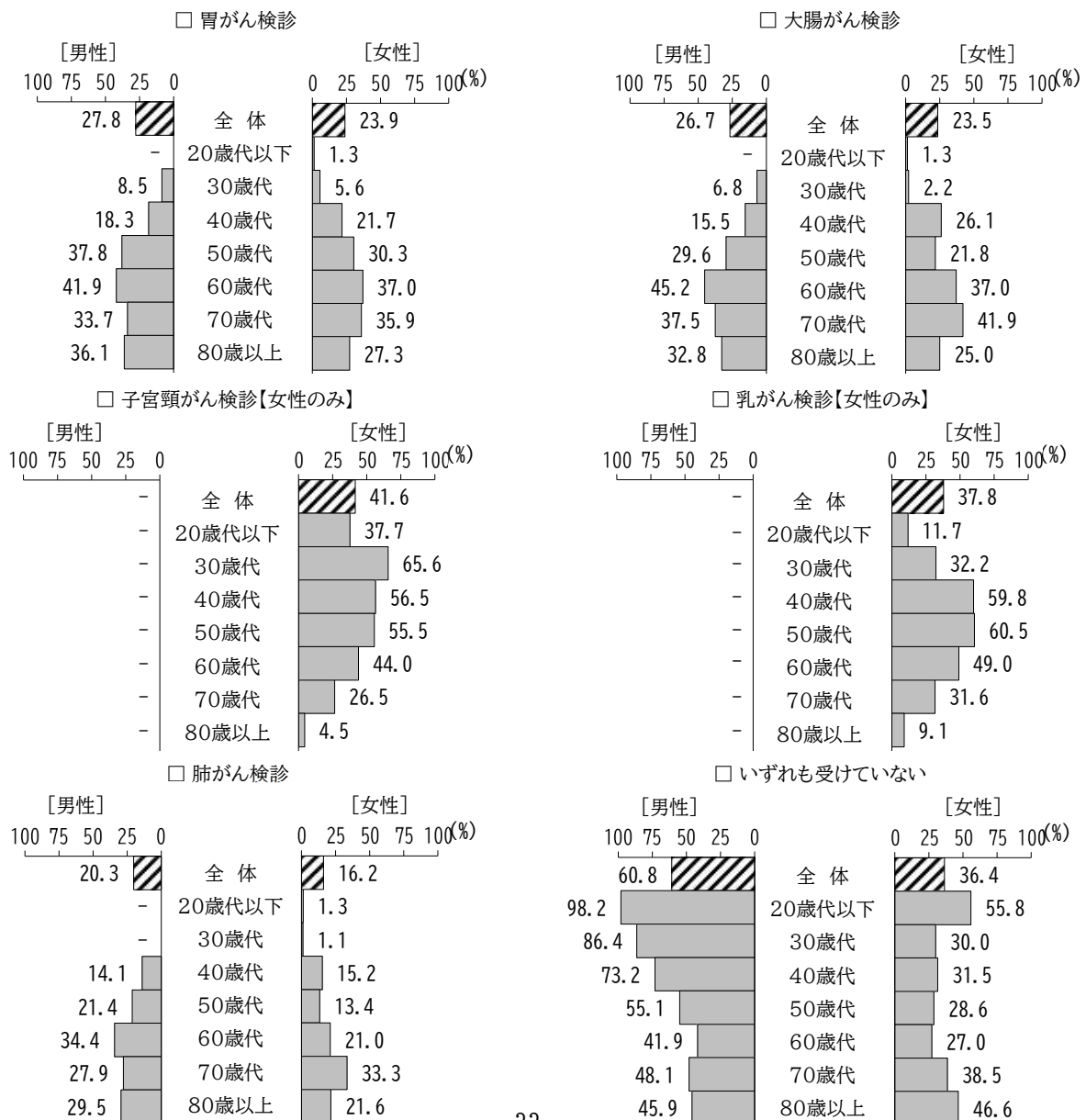
性別でみると、「肺がん検診」、「胃がん検診」、「大腸がん検診」はいずれも男性の方が女性よりも3～4ポイント高くなっている。また、「いずれも受けていない」（男性：60.8% 女性：36.4%）は男性の方が女性よりも24.4ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「胃がん検診」、「大腸がん検診」は男性では50歳代以上で高い傾向がみられ、特に60歳代で「大腸がん検診」が45.2%、「胃がん検診」が41.9%となっている。女性でも「大腸がん検診」が70歳代で41.9%と他の年代に比べて高くなっている。

女性のための「子宮頸がん検診」は30歳代～50歳代で5割以上となっており、特に30歳代で65.6%となっている。「乳がん検診」は40歳代、50歳代で6割前後と高くなっている。

また、「いずれも受けていない」は男性の20歳代～50歳代で5割以上となっており、特に20歳代以下で98.2%、30歳代で86.4%と高くなっている。

[男性]	全 体	n=(543)	50歳代	n=(98)	[女性]	全 体	n=(690)	50歳代	n=(119)
	20歳代以下	n=(56)	60歳代	n=(93)		20歳代以下	n=(77)	60歳代	n=(100)
	30歳代	n=(59)	70歳代	n=(104)		30歳代	n=(90)	70歳代	n=(117)
	40歳代	n=(71)	80歳以上	n=(61)		40歳代	n=(92)	80歳以上	n=(88)



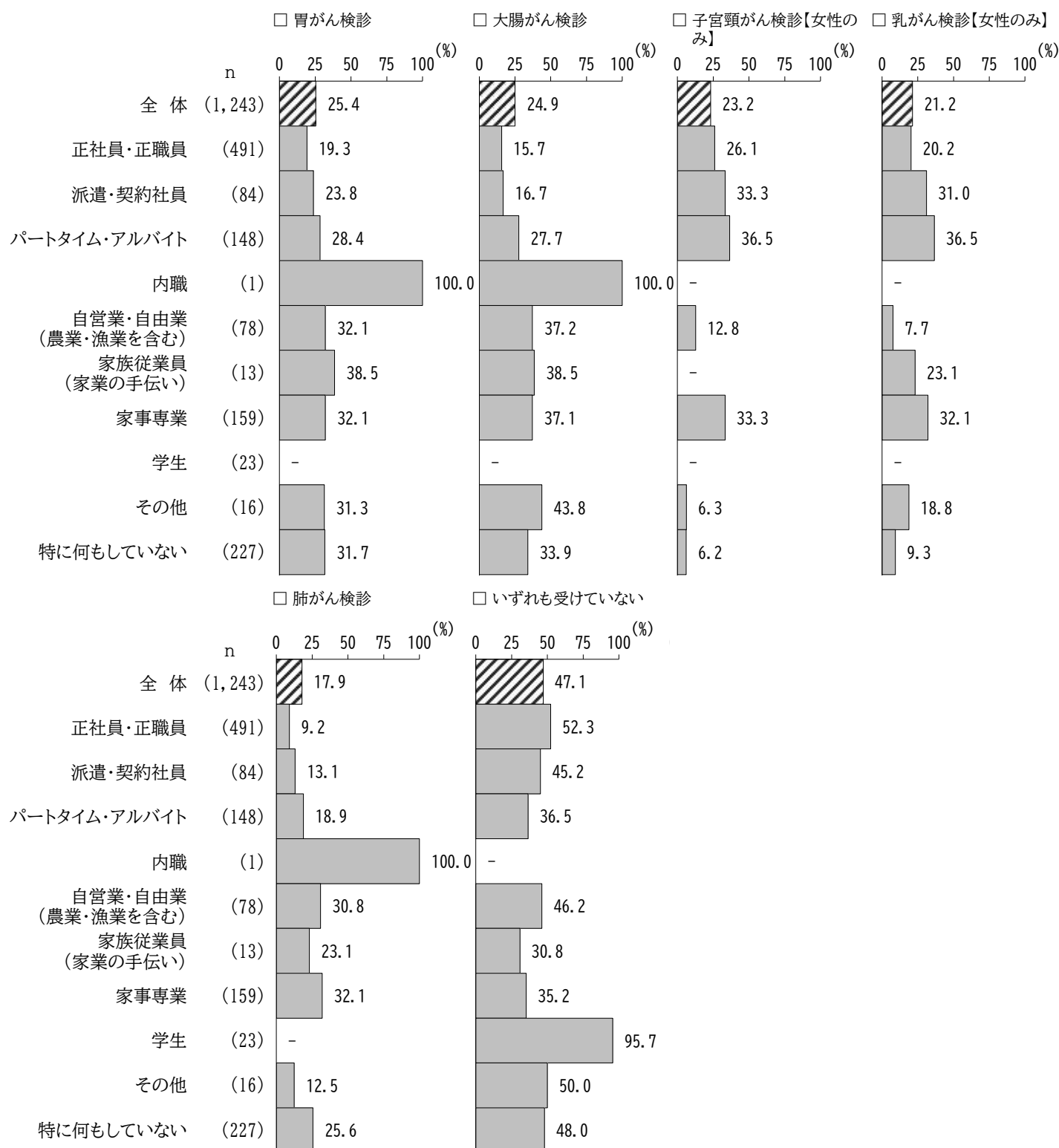
第2部 健康に関するアンケート調査結果

【就労形態別】

就労形態別でみると、「胃がん検診」、「大腸がん検診」は自営業・自由業（農業・漁業を含む）、家事専業、特に何もしていない、「肺がん検診」は自営業・自由業（農業・漁業を含む）、家事専業でいずれも3割を超えている。

女性のための「子宮頸がん検診」、「乳がん検診」は派遣・契約社員、パートタイム・アルバイト、家事専業でいずれも3割を超えている。一方、正社員・正職員は2割台にとどまっている。

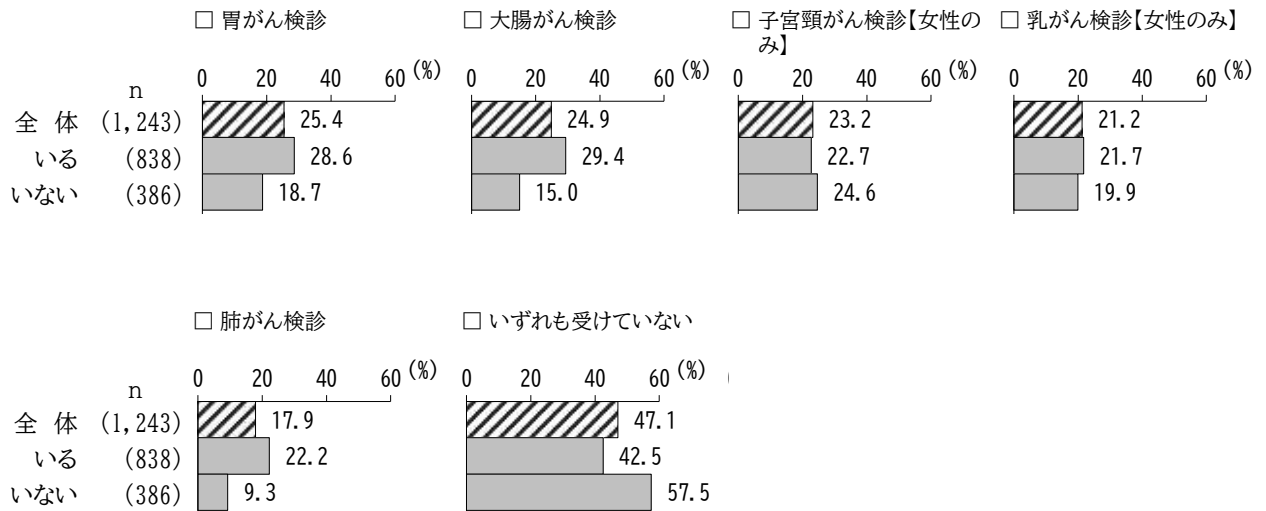
また、「いずれも受けていない」は正社員・正職員で52.3%と最も高く、特に何もしていないで48.0%、自営業・自由業（農業・漁業を含む）で46.2%、派遣・契約社員で45.2%となっている。



【かかりつけ医の有無別】

かかりつけ医の有無別でみると、「胃がん検診」（いる：28.6% いない：18.7%）で9.9ポイント、「大腸がん検診」（いる：29.4% いない：15.0%）で14.4ポイント、「肺がん検診」（いる：22.2% いない：9.3%）で12.9ポイント、それぞれいる方がいないよりもポイントが高くなっている。

一方、「いずれも受けていない」（いる：42.5% いない：57.5%）は、いない方がいるよりも15.0ポイント高くなっている。



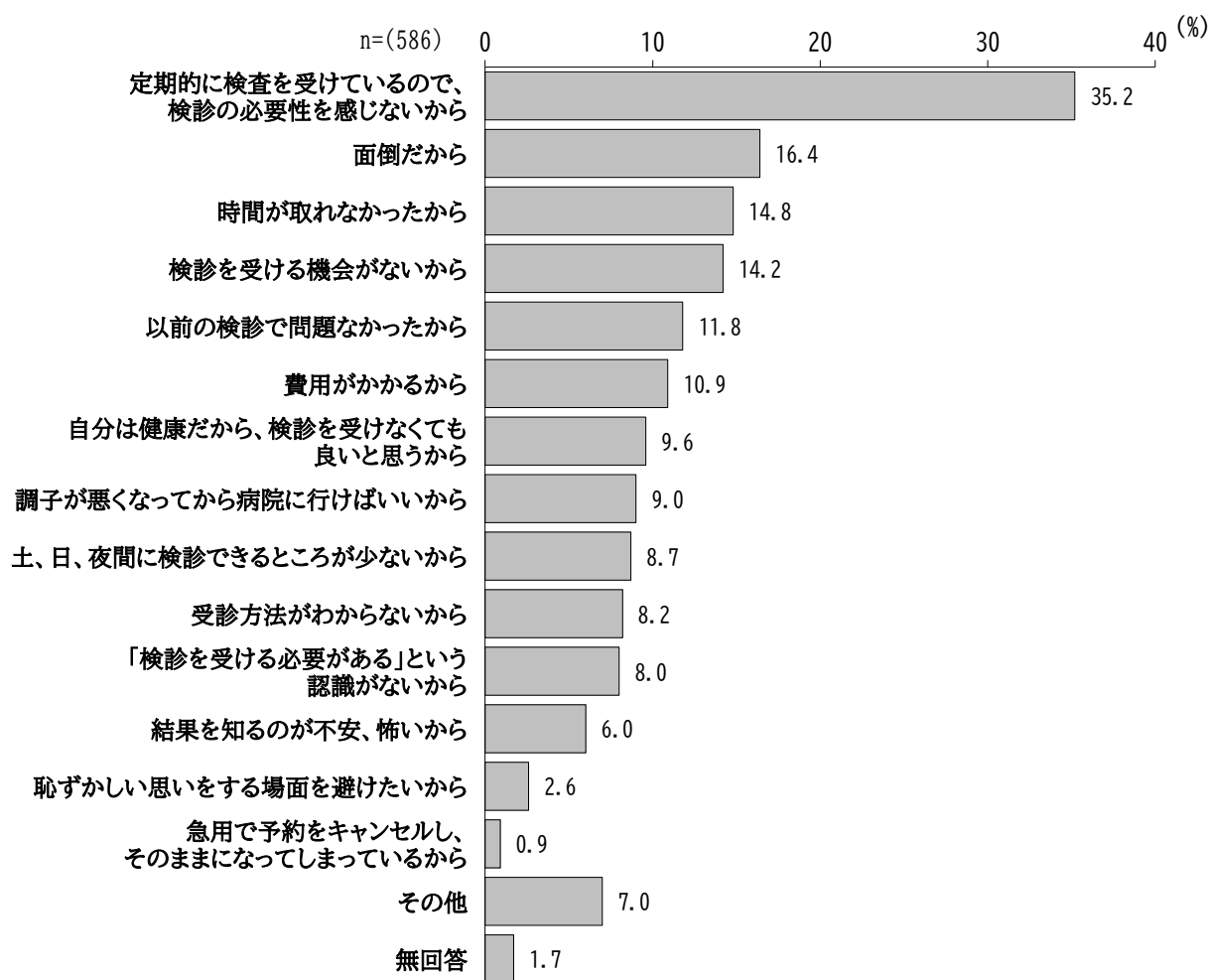
(5) がん検診を受けていない理由

(問3で「いずれも受けていない」と回答した方におたずねします。)

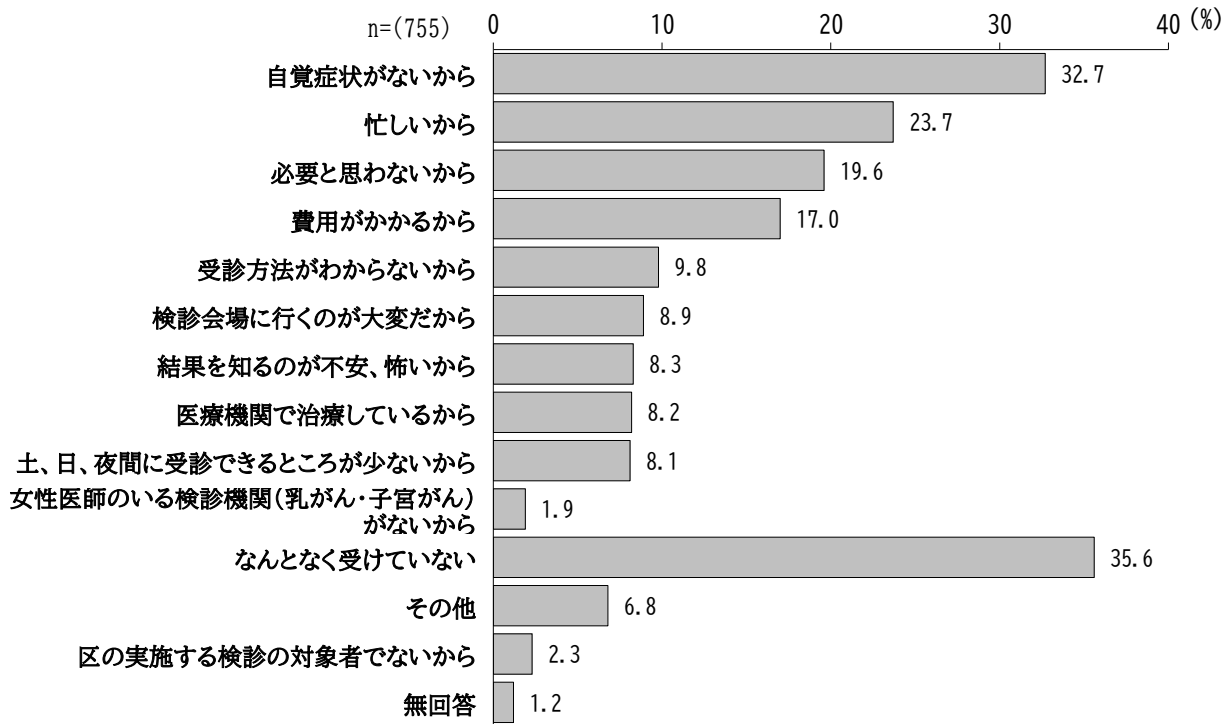
問3-1 その理由は何ですか。(○はいくつでも)

がん検診の受診状況で「いずれも受けていない」と回答した方にその理由をたずねた。その結果、「定期的に検査を受けているので、検診の必要性を感じないから」が35.2%で最も高く、次いで「面倒だから」が16.4%、「時間が取れなかったから」が14.8%、「検診を受ける機会がないから」が14.2%となっている。

参考までに時系列で比較すると、「費用がかかるから」(令和6年：10.9% 平成29年：17.0%)が前回調査より6.1ポイント減少している。



【参考：経年結果】



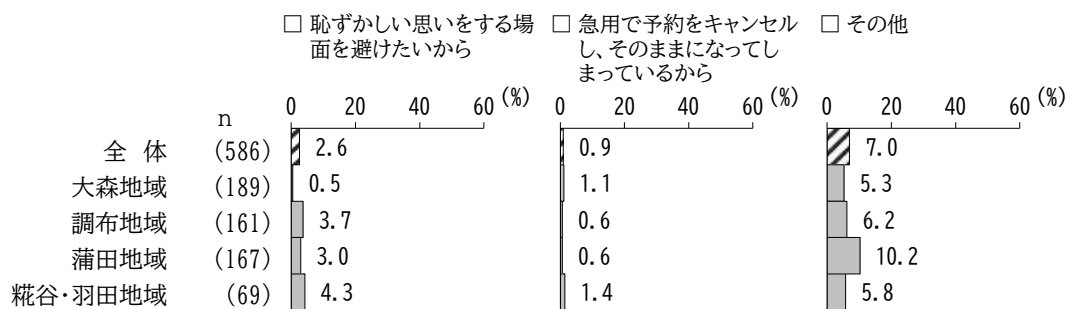
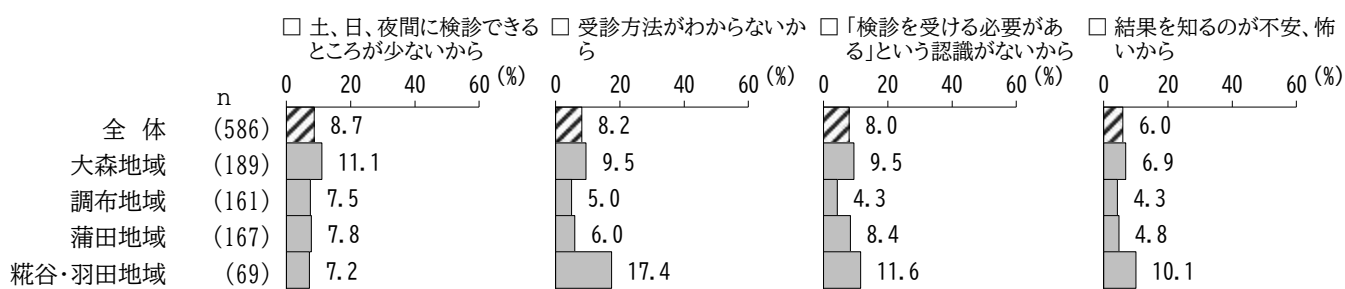
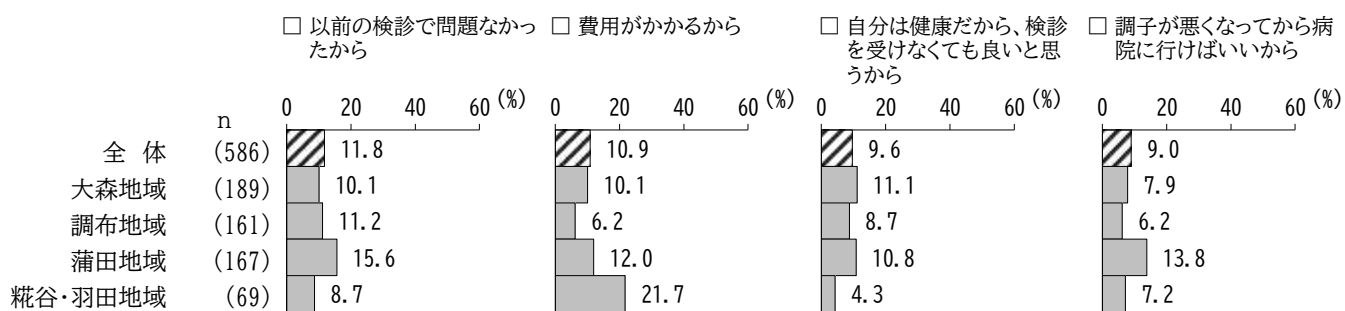
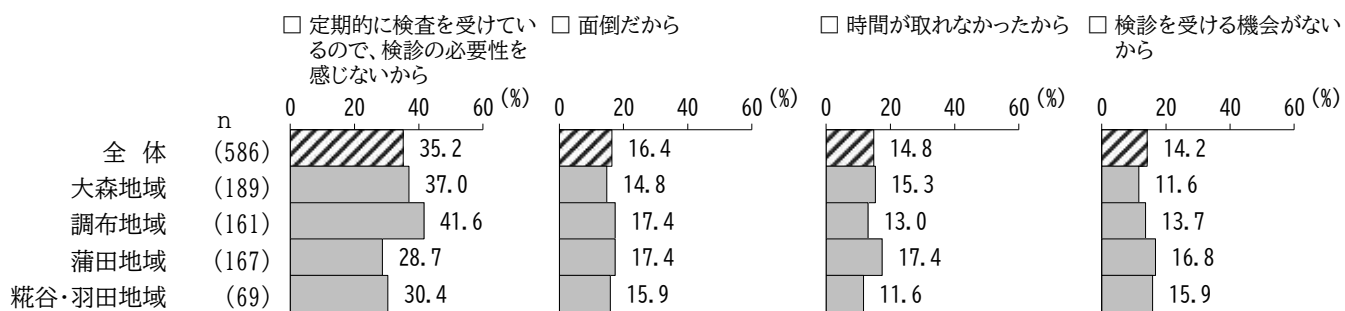
※今回調査より、選択肢「定期的に検査を受けているので、検診の必要性を感じないから」、「以前の検診で問題なかったから」、「自分は健康だから、検診を受けなくても良いと思うから」、「調子が悪くなってから病院に行けばいいから」、「『検診を受ける必要がある』という認識がないから」、「恥ずかしい思いをする場面を避けたいから」、「検診を受ける機会がないから」、「時間が取れなかったから」、「急用で予約をキャンセルし、そのままになってしまっているから」、「面倒だから」が追加された。

※今回調査より、「必要と思わないから」、「自覚症状がないから」、「忙しいから」、「医療機関で治療しているから」、「検診会場に行くのが大変だから」、「女性医師のいる検診機関(乳がん・子宮がん)がないから」、「なんとなく受けていない」、「区の実施する検診の対象者でないから」が削除された。

第2部 健康に関するアンケート調査結果

【地域別】

地域別でみると、「定期的に検査を受けているので、検診の必要性を感じないから」は調布地域で41.6%と最も高く、蒲田地域で28.7%と最も低くなっている。「費用がかかるから」は糀谷・羽田地域で21.7%と最も高く、調布地域で6.2%と最も低くなっている。「受診方法がわからないから」は糀谷・羽田地域で17.4%と他の地域に比べて高くなっている。

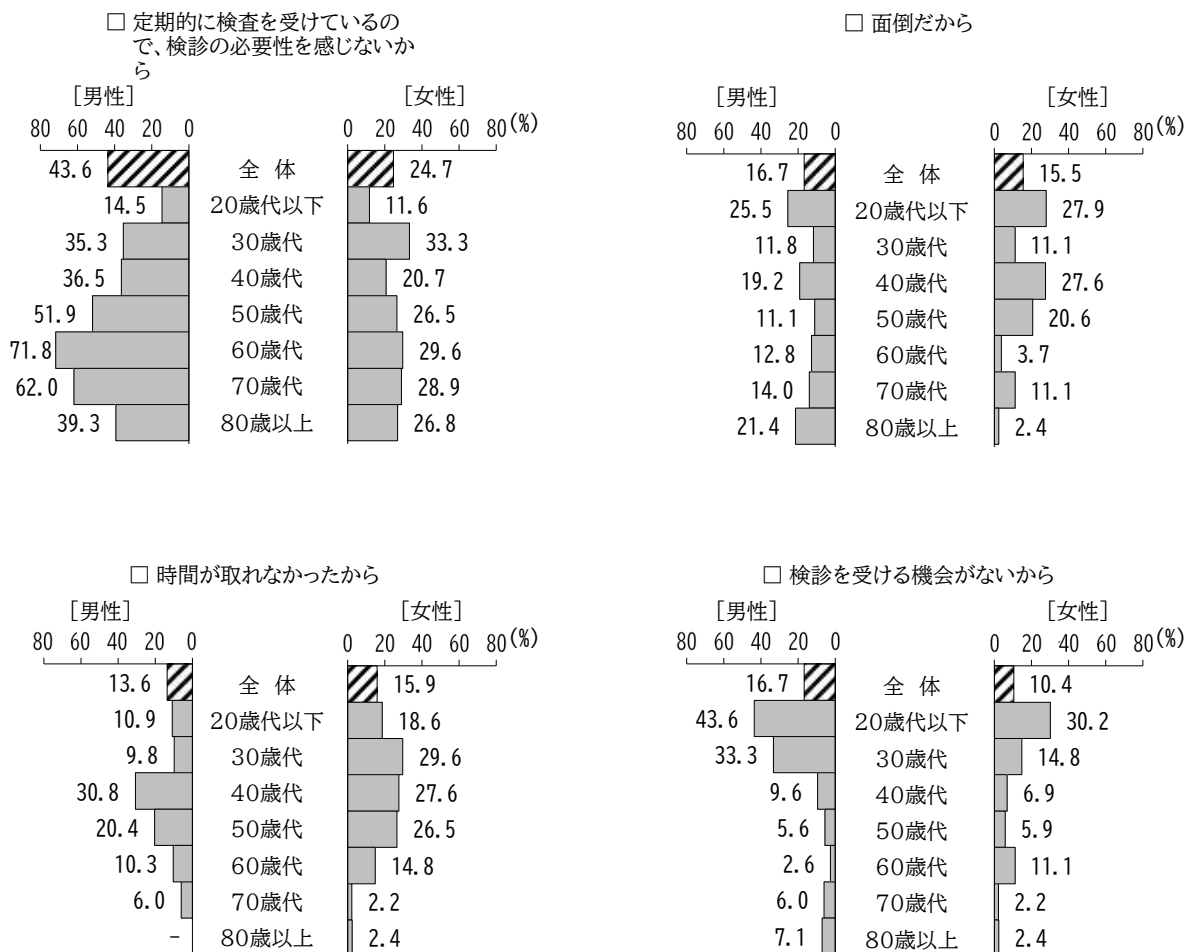


【性別、性／年代別】

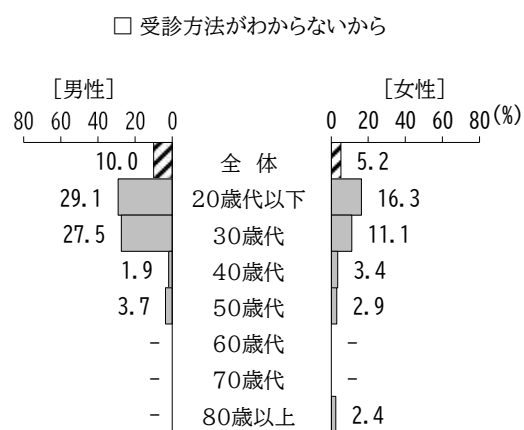
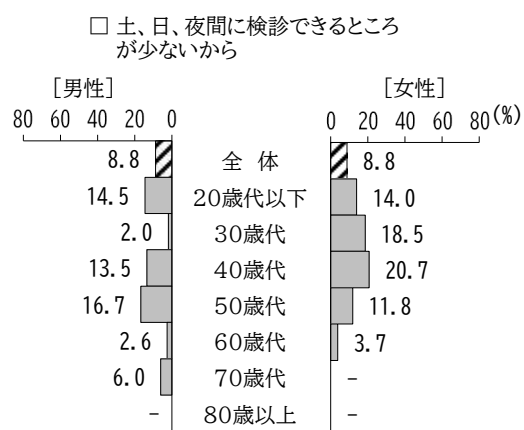
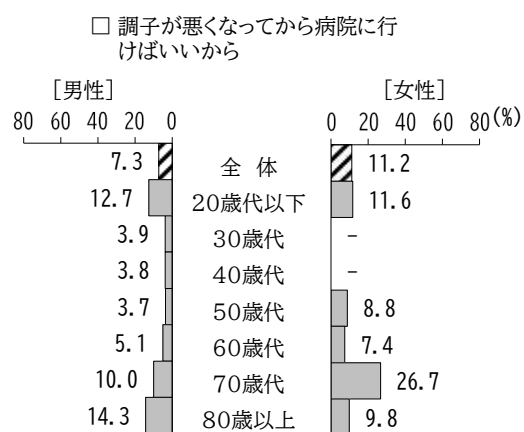
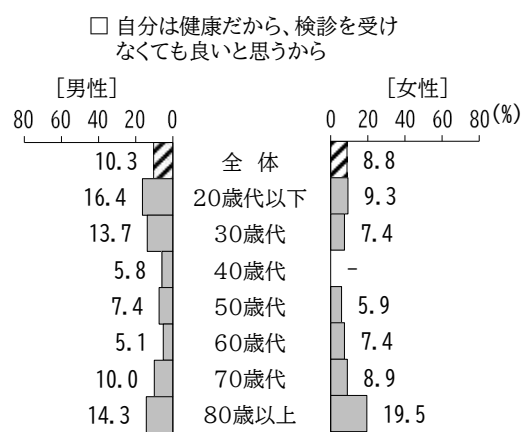
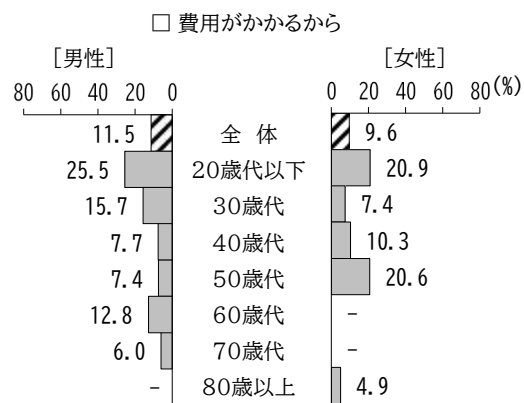
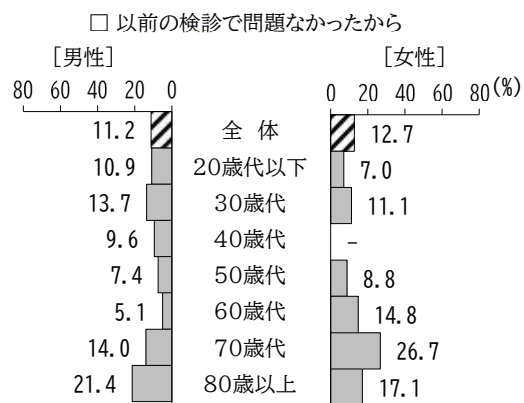
性別でみると、「定期的に検査を受けているので、検診の必要性を感じないから」（男性：43.6% 女性：24.7%）で18.9ポイント、「検診を受ける機会がないから」（男性：16.7% 女性：10.4%）で6.3ポイント、それぞれ男性の方が女性よりもポイントが高くなっている。

性／年代別でみると、「定期的に検査を受けているので、検診の必要性を感じないから」は男性の50歳代～70歳代で5割を超えており、60歳代で71.8%と最も高くなっている。「面倒だから」は男女ともに20歳代以下（男性：25.5% 女性：27.9%）で最も高くなっている。「時間が取れなかったから」は男性の40歳代で30.8%と他の年代に比べて高くなっている。「検診を受ける機会がないから」は男女ともに20歳代以下（男性：43.6% 女性：30.2%）で最も高く、男性の30歳代でも33.3%と他の年代に比べて高くなっている。

[男性]				[女性]			
全 体	n=(330)	50歳代	n=(54)	全 体	n=(251)	50歳代	n=(34)
20歳代以下	n=(55)	60歳代	n=(39)	20歳代以下	n=(43)	60歳代	n=(27)
30歳代	n=(51)	70歳代	n=(50)	30歳代	n=(27)	70歳代	n=(45)
40歳代	n=(52)	80歳以上	n=(28)	40歳代	n=(29)	80歳以上	n=(41)

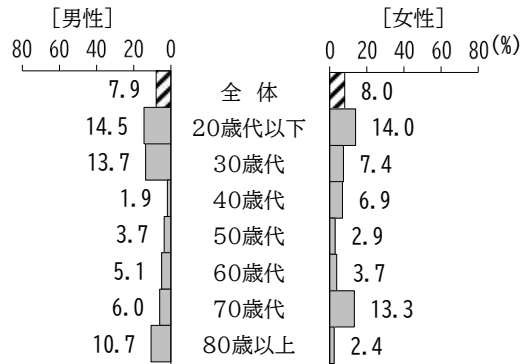


第2部 健康に関するアンケート調査結果

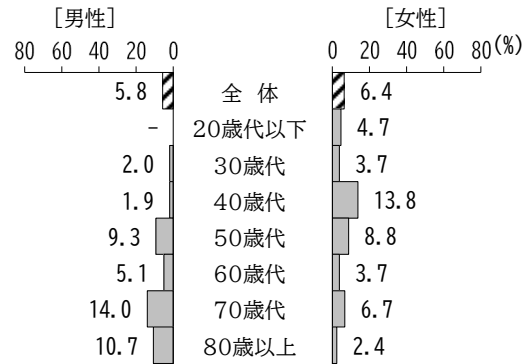


第2部 健康に関するアンケート調査結果

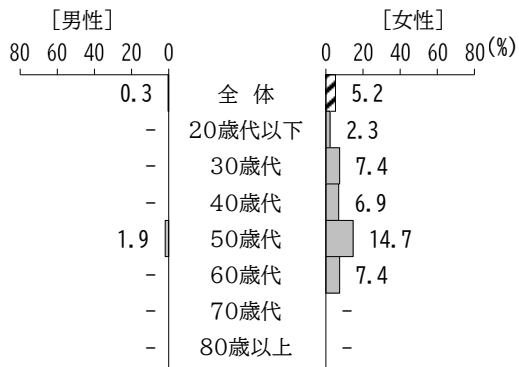
□ 「検診を受ける必要がある」という認識がないから



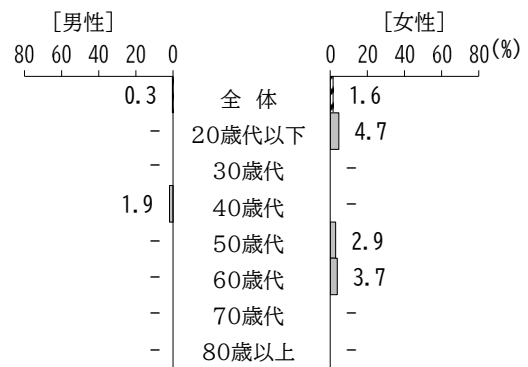
□ 結果を知るのが不安、怖いから



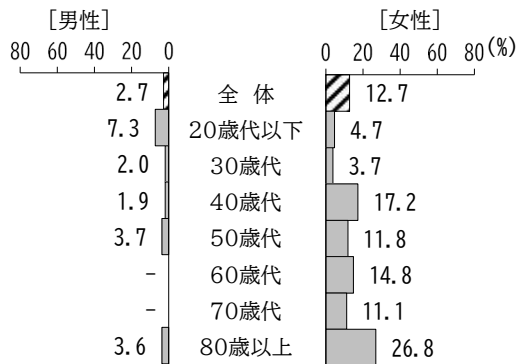
□ 恥ずかしい思いをする場面を避けたいから



□ 急用で予約をキャンセルし、そのままになってしまっているから



□ その他



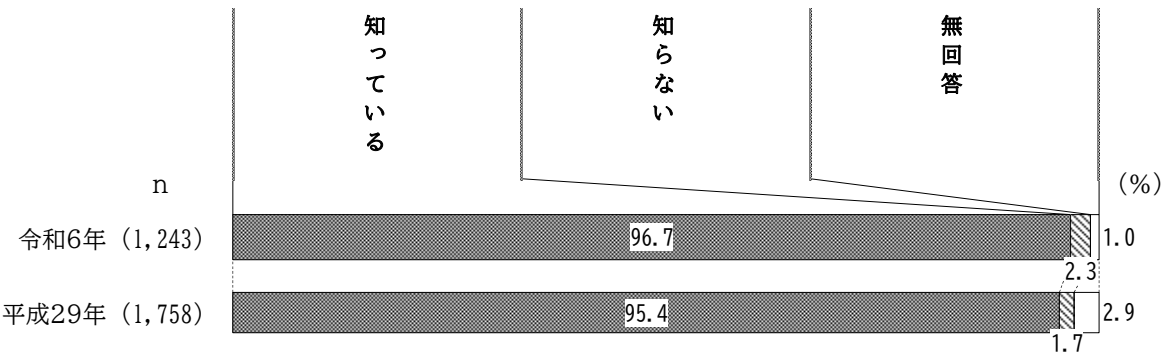
(6) がんとの関連性

問4 あなたは次のことが、がんの発生と関連していることを知っていますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

①喫煙とがんの関連性

喫煙とがんの関連性は、「知っている」が96.7%、「知らない」が2.3%となっている。

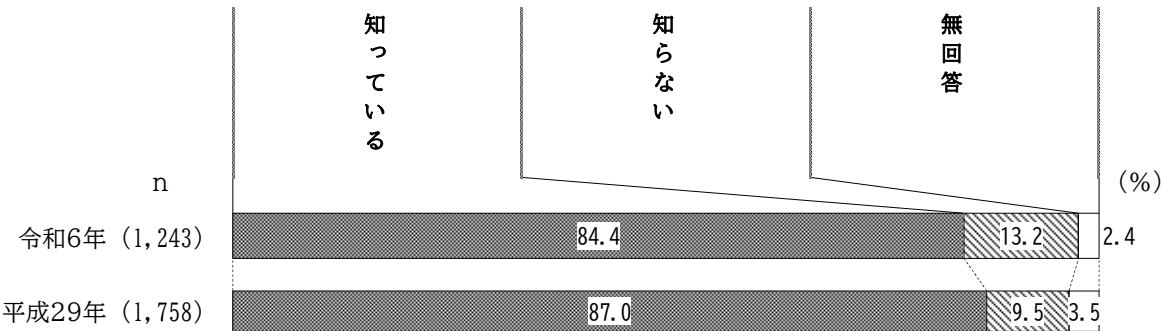
時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。



②飲酒と食道がん、肝臓がん、咽頭がんの関連性

飲酒と食道がん、肝臓がん、咽頭がんの関連性は、「知っている」が84.4%、「知らない」が13.2%となっている。

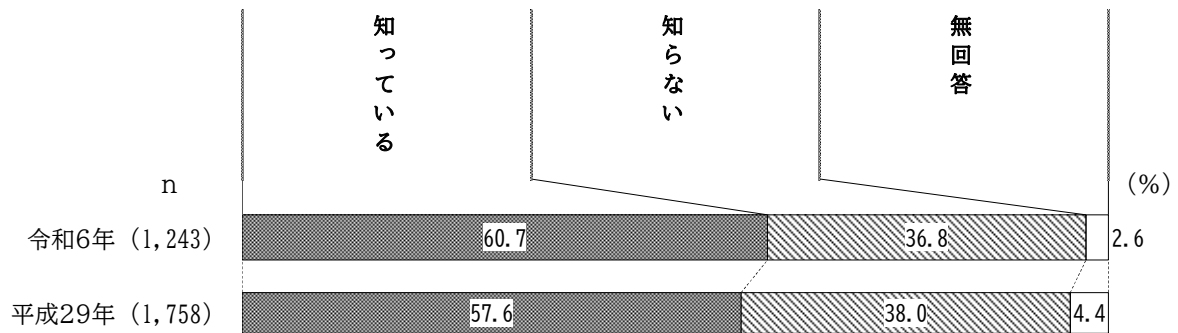
時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。



③肥満と食道がん、結腸がん、直腸がんの関連性

肥満と食道がん、結腸がん、直腸がんの関連性は、「知っている」が60.7%、「知らない」が36.8%となっている。

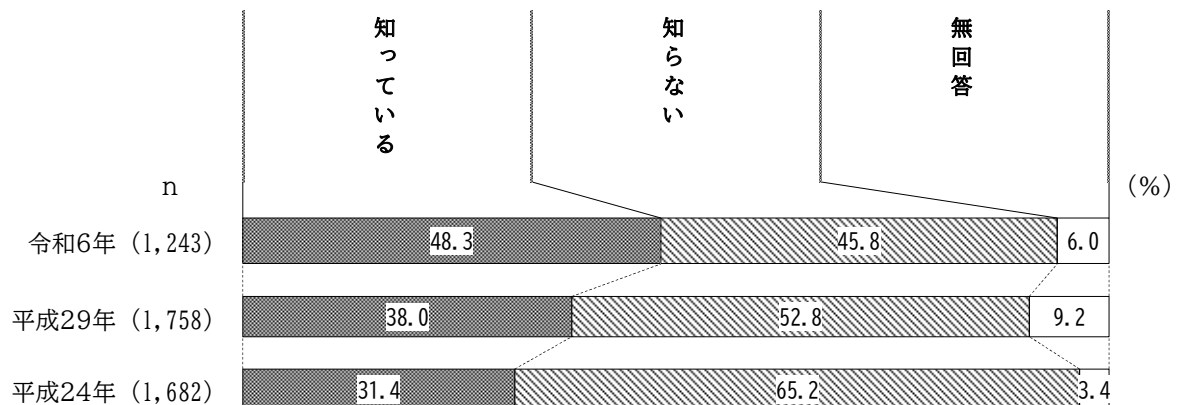
時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。



④HPV（ヒトパピローウイルス）と子宮頸がんの関連性

HPV（ヒトパピローウイルス）と子宮頸がんの関連性は、「知っている」が48.3%、「知らない」が45.8%となっている。

時系列で比較すると、「知っている」（令和6年：48.3% 平成29年：38.0% 平成24年：31.4%）が前回調査より10.3ポイント、前々回調査より16.9ポイント増加している。

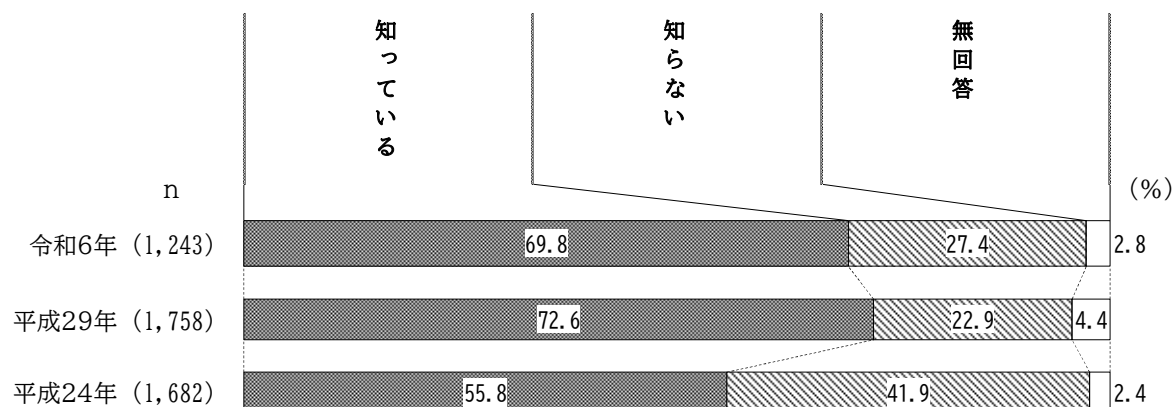


第2部 健康に関するアンケート調査結果

⑤ヘリコバクター・ピロリ菌と胃がんの関連性

ヘリコバクター・ピロリ菌と胃がんの関連性は、「知っている」が69.8%、「知らない」が27.4%となっている。

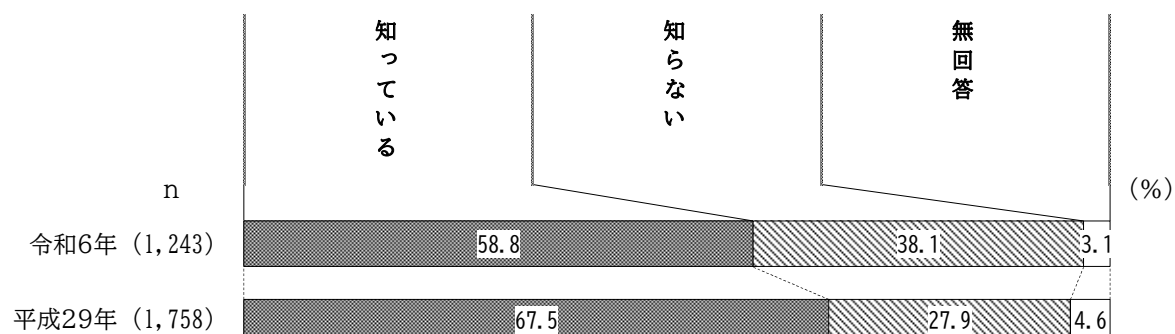
時系列で比較すると、「知っている」（令和6年：69.8% 平成29年：72.6% 平成24年：55.8%）が前々回調査より14.0ポイント増加している。



⑥B型・C型肝炎ウイルスと肝臓がんの関連性

B型・C型肝炎ウイルスと肝臓がんの関連性は、「知っている」が58.8%、「知らない」が38.1%となっている。

時系列で比較すると、「知っている」（令和6年：58.8% 平成29年：67.5%）が前回調査より8.7ポイント減少している。



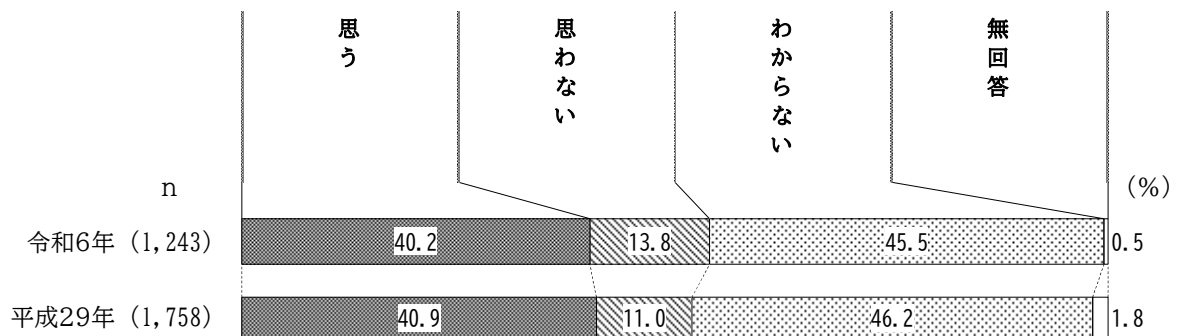
(7) がん発病後の地域での暮らし

問5 あなたはがんになっても今までどおり地域で暮らしていけるとおもいますか。

(○は1つ)

がん発病後の地域での暮らしは、「わからない」が45.5%で最も高く、次いで「思う」が40.2%、「思わない」が13.8%となっている。

時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。



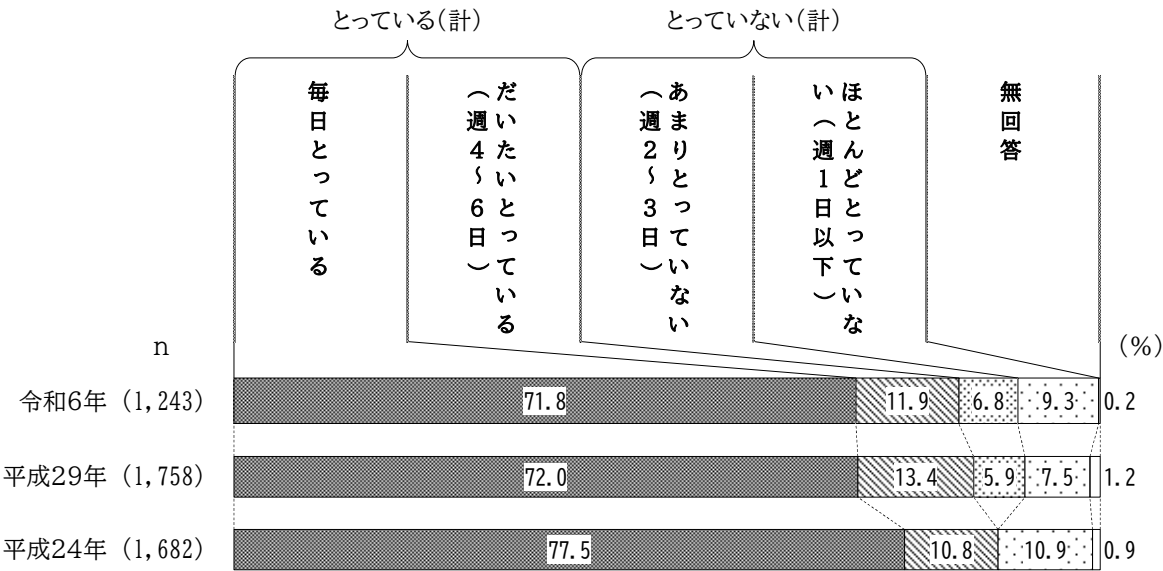
3. 食生活について

(1) 朝食の摂取状況

問6 あなたは普段朝食をとっていますか。(○は1つ)

朝食の摂取状況は、「毎日とっている」が71.8%で最も高く、次いで「だいたいとっている（週4～6日）」が11.9%となっている。一方、「あまりとっていない（週2～3日）」（6.8%）と「ほとんどとっていない（週1日以下）」（9.3%）を合わせて、《とっていない（計）》は16.1%となっている。

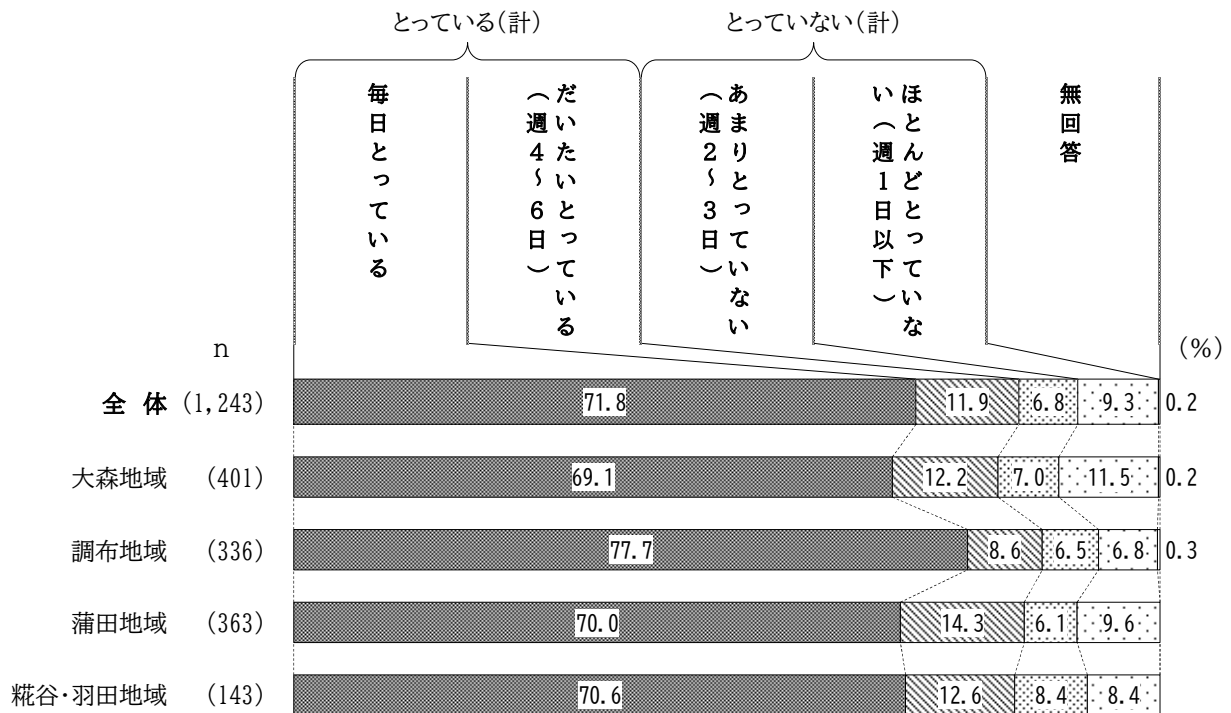
時系列で比較すると、「毎日とっている」（令和6年：71.8% 平成29年：72.0% 平成24年：77.5%）が前々回調査より5.7ポイント減少している。



※前々回までの調査における選択肢「週2～6日はとっている」は、前回調査より「だいたいとっている（週4～6日）」、「あまりとっていない（週2～3日）」の2つに細分化された。

【地域別】

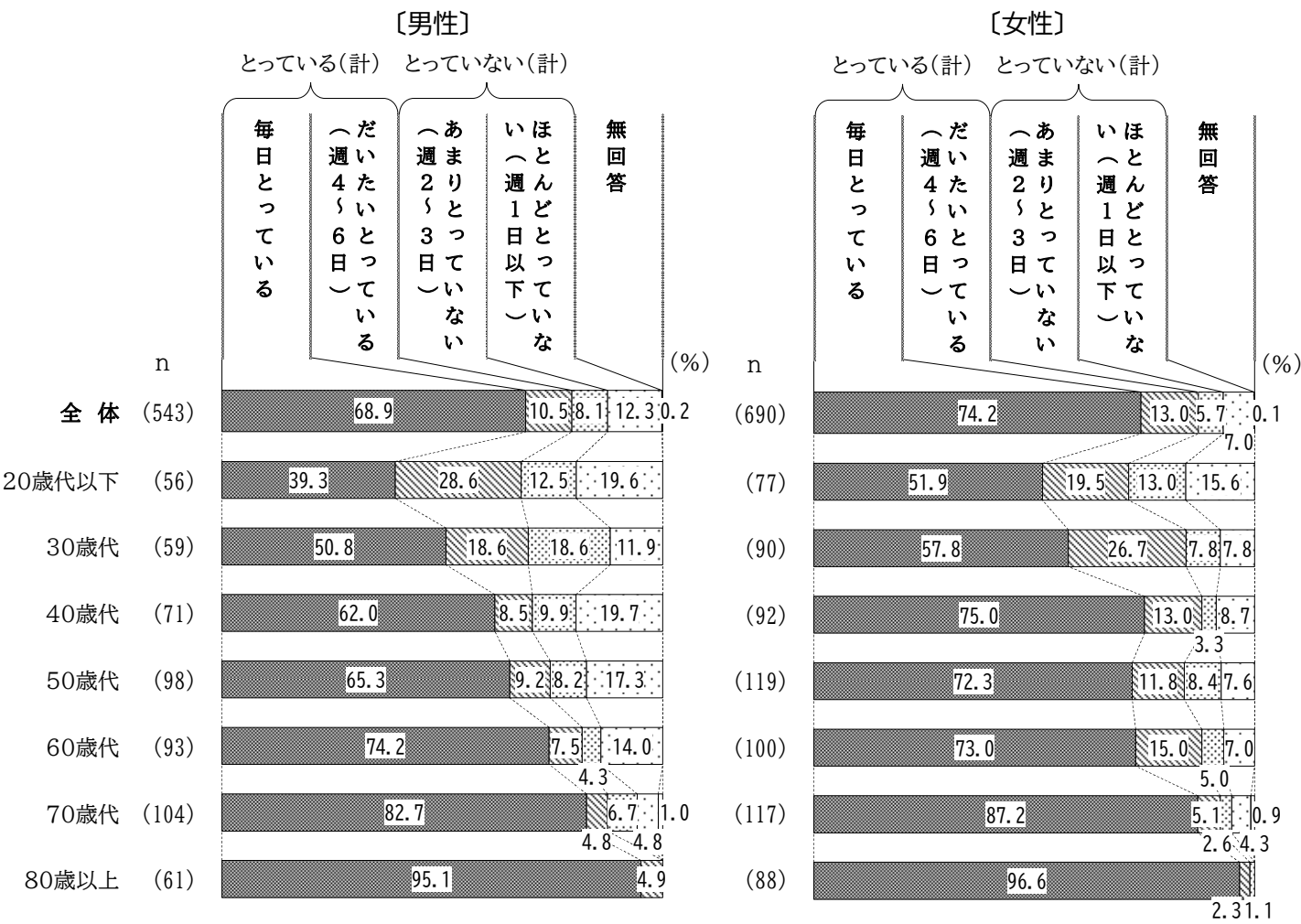
地域別でみると、「毎日とっている」が調布地域で77.7%と最も高く、大森地域で69.1%と最も低くなっている。また、「毎日とっている」と「だいたいとっている（週4～6日）」を合わせた「とっている（計）」はいずれの地域でも8割を超えている。



【性別、性／年代別】

性別でみると、「毎日とっている」（男性：68.9% 女性：74.2%）は、女性の方が男性よりも5.3ポイント高く、「《とっている（計）》」（男性：79.4% 女性：87.2%）は、女性の方が男性よりも7.8ポイント高くなっている。一方、「ほとんどとっていない」（男性：12.3% 女性：7.0%）は、男性の方が女性より5.3ポイント高くなっている。

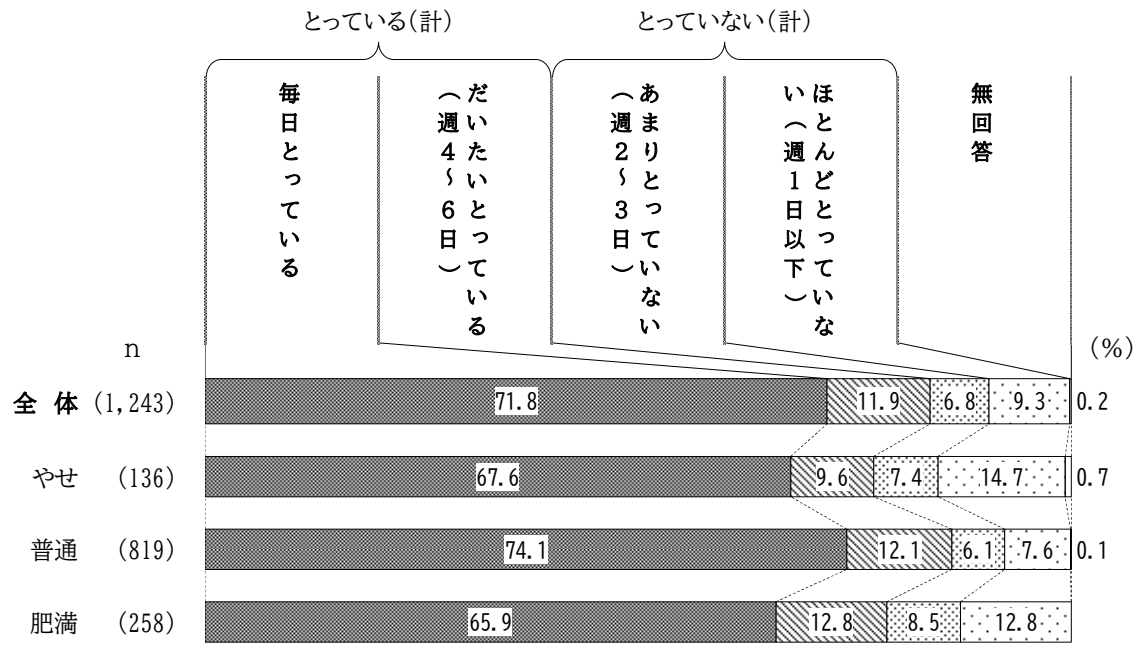
性／年代別でみると、「毎日とっている」は男女ともに20歳代以下（男性：39.3% 女性：51.9%）が最も低く、おおむね年代が上がるほど高くなっており、「《とっている（計）》」も同様の傾向がみられる。一方、「《とっていない（計）》」は男女ともに20歳代以下（男性：32.1% 女性：28.6%）で最も高くなっており、男性で30歳代～40歳代も3割前後となっている。



【BMI別】

BMI別でみると、「毎日とっている」が普通で74.1%と最も高く、肥満で65.9%と最も低くなっている。

《とっている（計）》は普通で86.2%と最も高くなっている。一方、《とっていない（計）》はやせで22.1%、肥満で21.3%と普通の13.7%に比べて高くなっている。

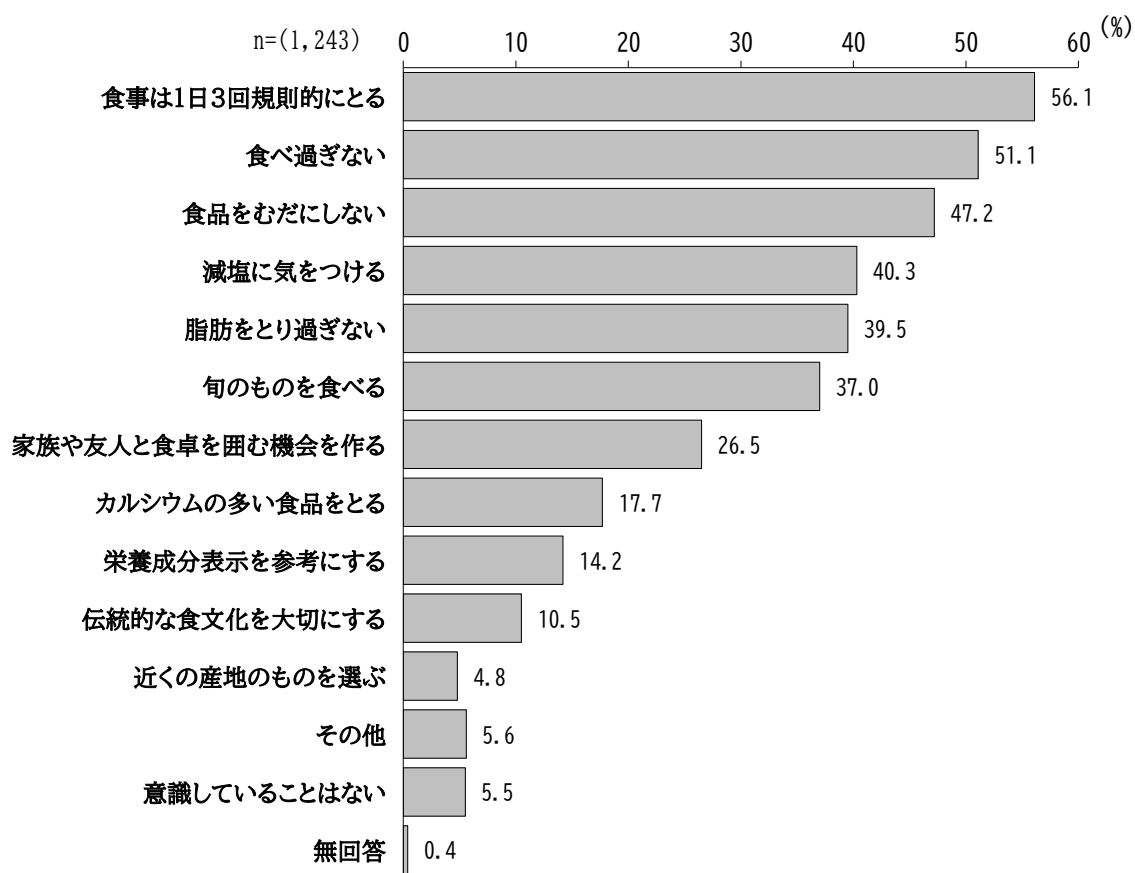


(2) 日頃の食生活で気をつけていること

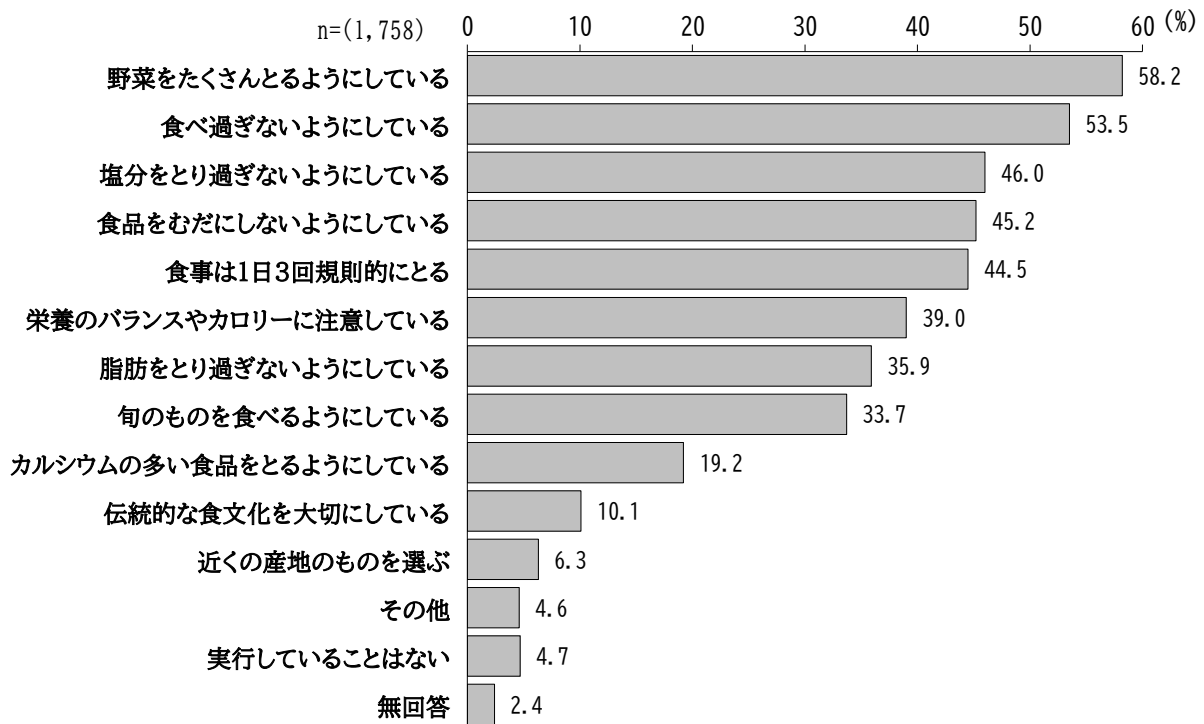
問7 あなたは日頃の食生活で、どんなことに気をつけていますか。(〇はいくつでも)

日頃の食生活で気をつけていることは、「食事は1日3回規則的にとる」が56.1%で最も高く、次いで「食べ過ぎない」が51.1%、「食品をむだにしない」が47.2%、「減塩に気をつける」が40.3%となっている。

参考までに時系列で比較すると、「食事は1日3回規則的にとる」(令和6年：56.1% 平成29年：44.5%)が前回調査より11.6ポイント増加している。



【参考：経年比較】



※今回調査より、選択肢「栄養成分表示を参考にする」、「家族や友人と食卓を囲む機会を作る」が追加された。

※今回調査より、「野菜をたくさんとるようにしている」、「栄養のバランスやカロリーに注意している」が削除された。

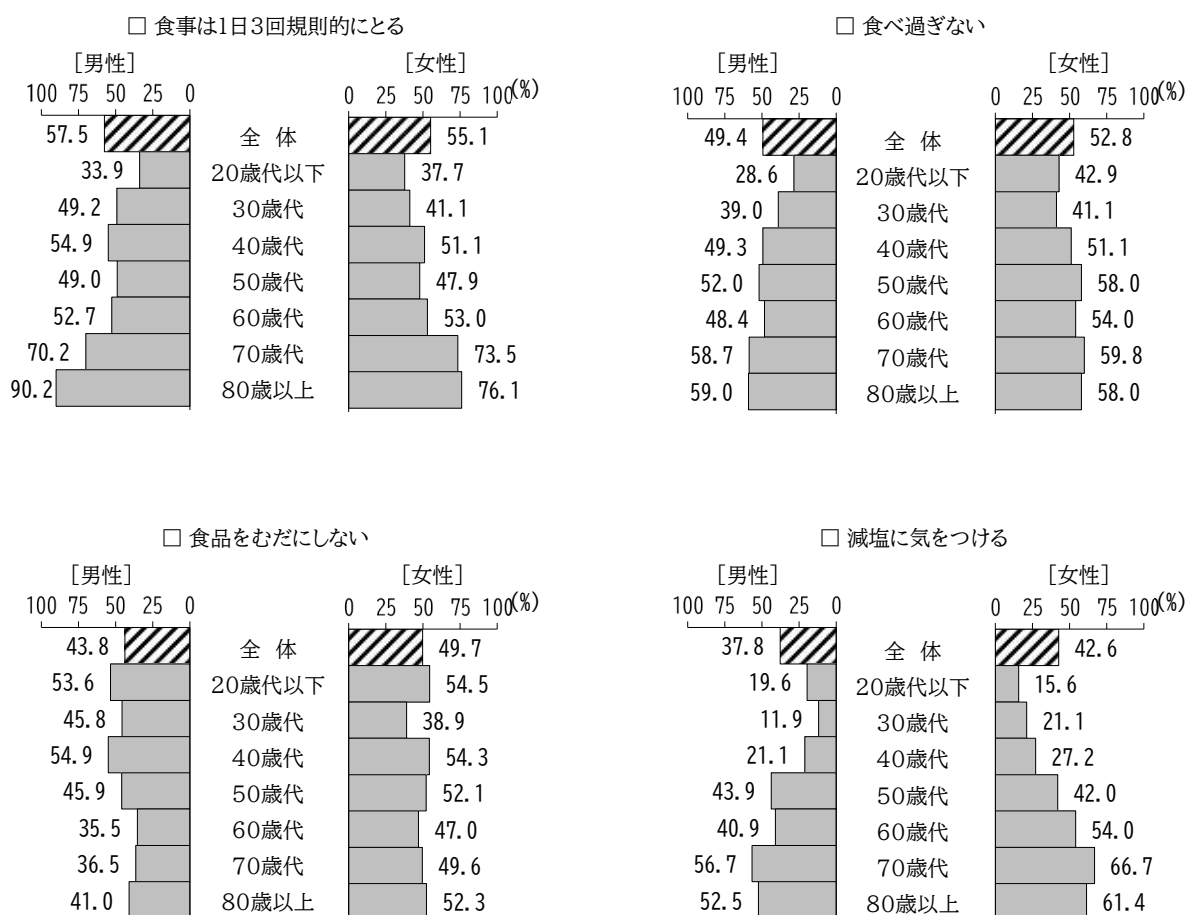
※今回調査より、選択肢「塩分をとり過ぎないようにしている」は「減塩に気をつける」、「食べ過ぎないようにしている」は「食べ過ぎない」、「脂肪をとり過ぎないようにしている」は「脂肪をとり過ぎない」、「カルシウムの多い食品をとるようにしている」は「カルシウムの多い食品をとる」、「食品をむだにしないようにしている」は「食品をむだにしない」、「伝統的な食文化を大切にしている」は「伝統的な食文化を大切にする」、「旬のものを食べるようにしている」は「旬のものを食べる」、「実行していることはない」は「意識していることはない」という表記に変更している。

【性別、性／年代別】

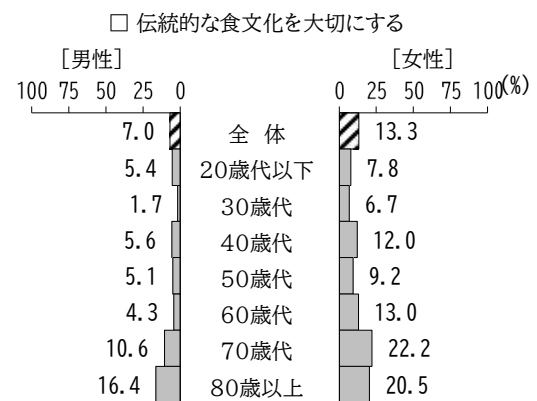
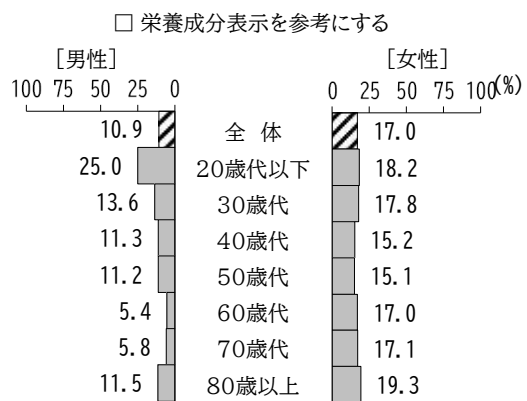
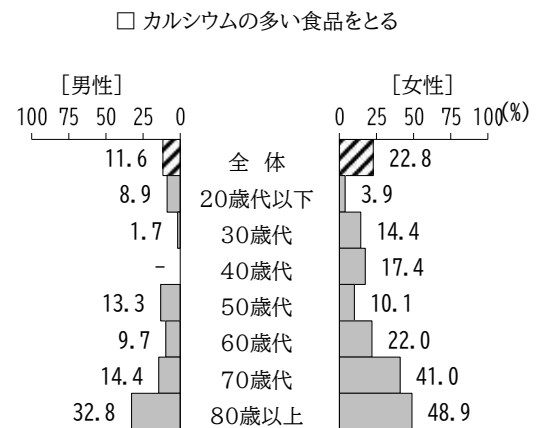
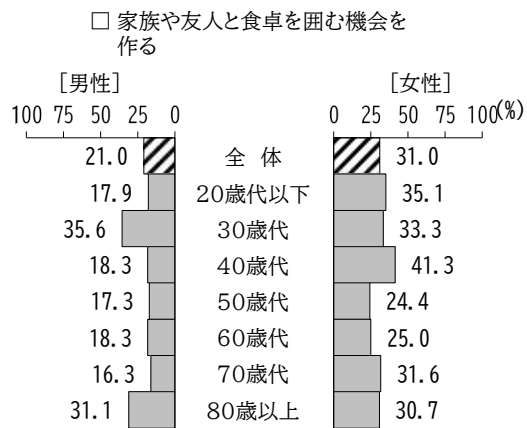
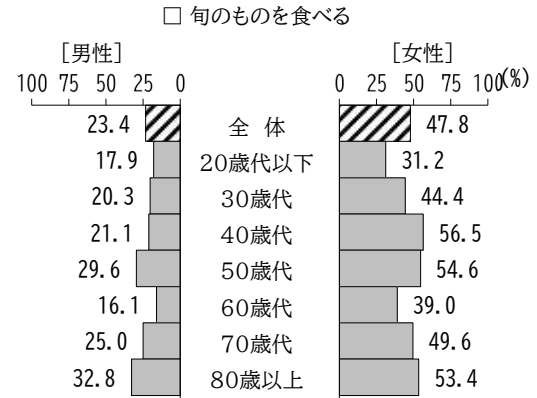
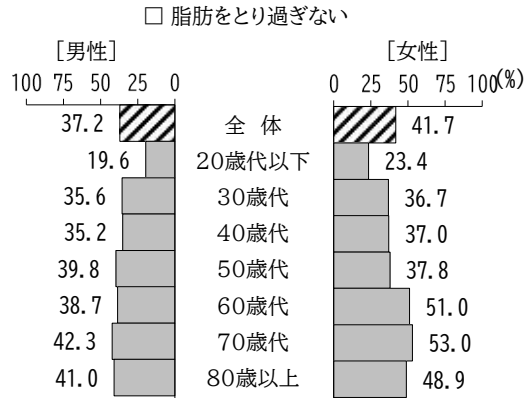
性別でみると、「食事は1日3回規則的にとる」を除くすべての項目で女性が男性を上回っており、特に「旬のものを食べる」（男性：23.4％ 女性：47.8％）で24.4ポイント、「カルシウムの多い食品をとる」（男性：11.6％ 女性：22.8％）で11.2ポイント、「家族や友人と食卓を囲む機会を作る」（男性：21.0％ 女性：31.0％）で10.0ポイント、それぞれ女性の方が男性より10ポイント以上高くなっている。

性／年代別でみると、「食事は1日3回規則的にとる」は男性では80歳以上で90.2％と最も高く、20歳代以下で33.9％と最も低くなっており、女性では80歳以上と70歳代が7割台で高く、20歳代以下で37.7％と最も低い。「食品をむだにしない」は男性では40歳代で54.9％、20歳代以下で53.6％と高く、60歳代で35.5％と最も低い。女性では20歳代以下で54.5％、40歳代で54.3％と高く、30歳代で38.9％と最も低い。「減塩に気をつける」は男性では70歳代で56.7％と最も高く、30歳代で11.9％と最も低くなっている。女性ではおおむね年代が上がるほど高くなっており、70歳代で66.7％と最も高く、20歳代以下で15.6％と最も低くなっている。

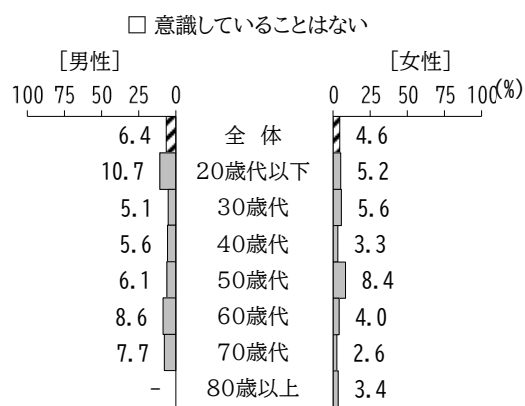
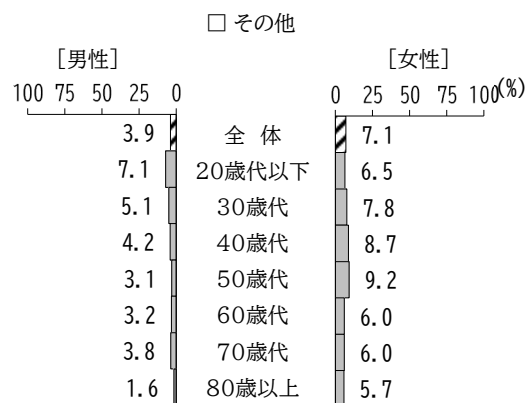
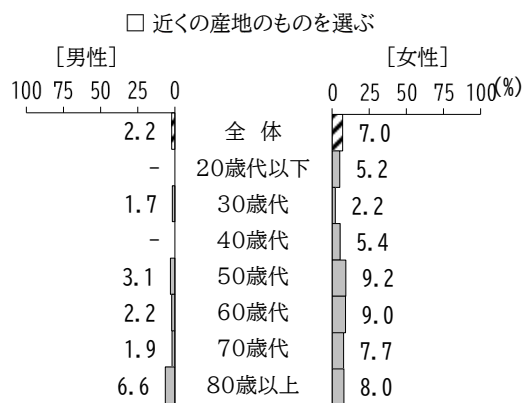
性別	年代	人数 (n)	性別	年代	人数 (n)
男性	全体	543	女性	全体	690
	20歳代以下	56		20歳代以下	77
	30歳代	59		30歳代	90
	40歳代	71		40歳代	92
	50歳代	98		50歳代	119
	60歳代	93		60歳代	100
	70歳代	104		70歳代	117
	80歳以上	61		80歳以上	88



第2部 健康に関するアンケート調査結果



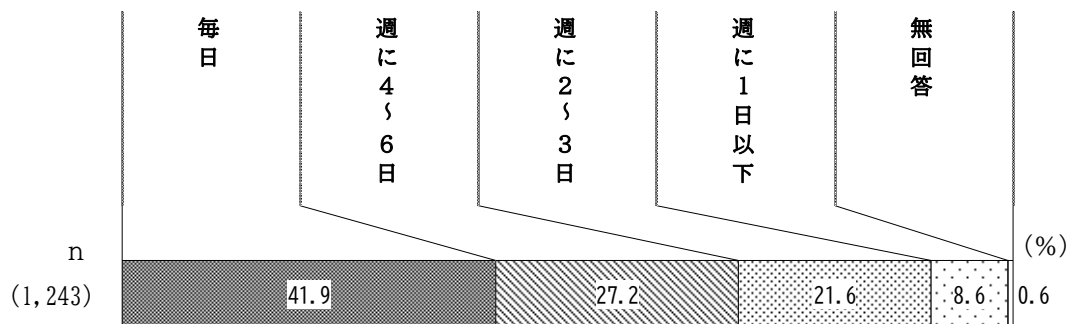
第2部 健康に関するアンケート調査結果



(3) 主食、主菜、副菜をそろえた食事の回数

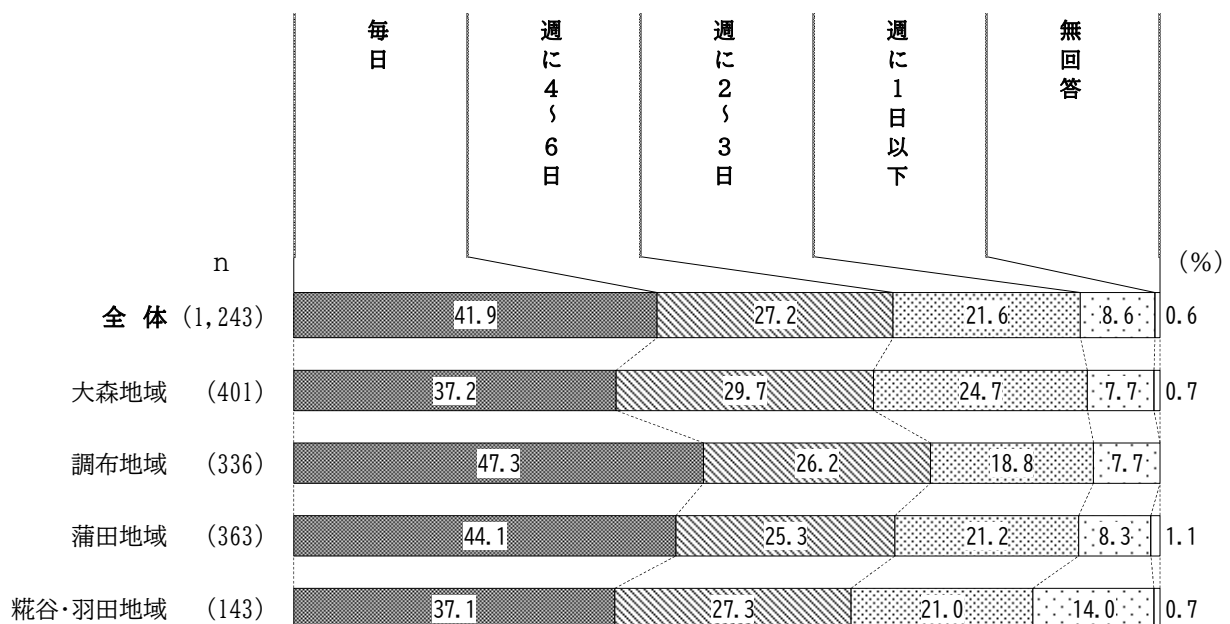
問8 あなたは、1日に2回以上、主食（ごはん、パン、麺類などの料理）、主菜（魚介類、肉類、卵類、大豆・大豆製品を主材料にした料理）、副菜（野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理）の3つを組み合わせる食べることが週に何日ありますか。最もあてはまるものをお答えください。（○は1つ）

主食、主菜、副菜をそろえた食事の回数は、「毎日」が41.9%で最も高く、次いで「週に4～6日」が27.2%、「週に2～3日」が21.6%、「週に1日以下」が8.6%となっている。



【地域別】

地域別でみると、「毎日」が調布地域で47.3%と最も高く、糀谷・羽田地域で37.1%、大森地域で37.2%と低くなっている。

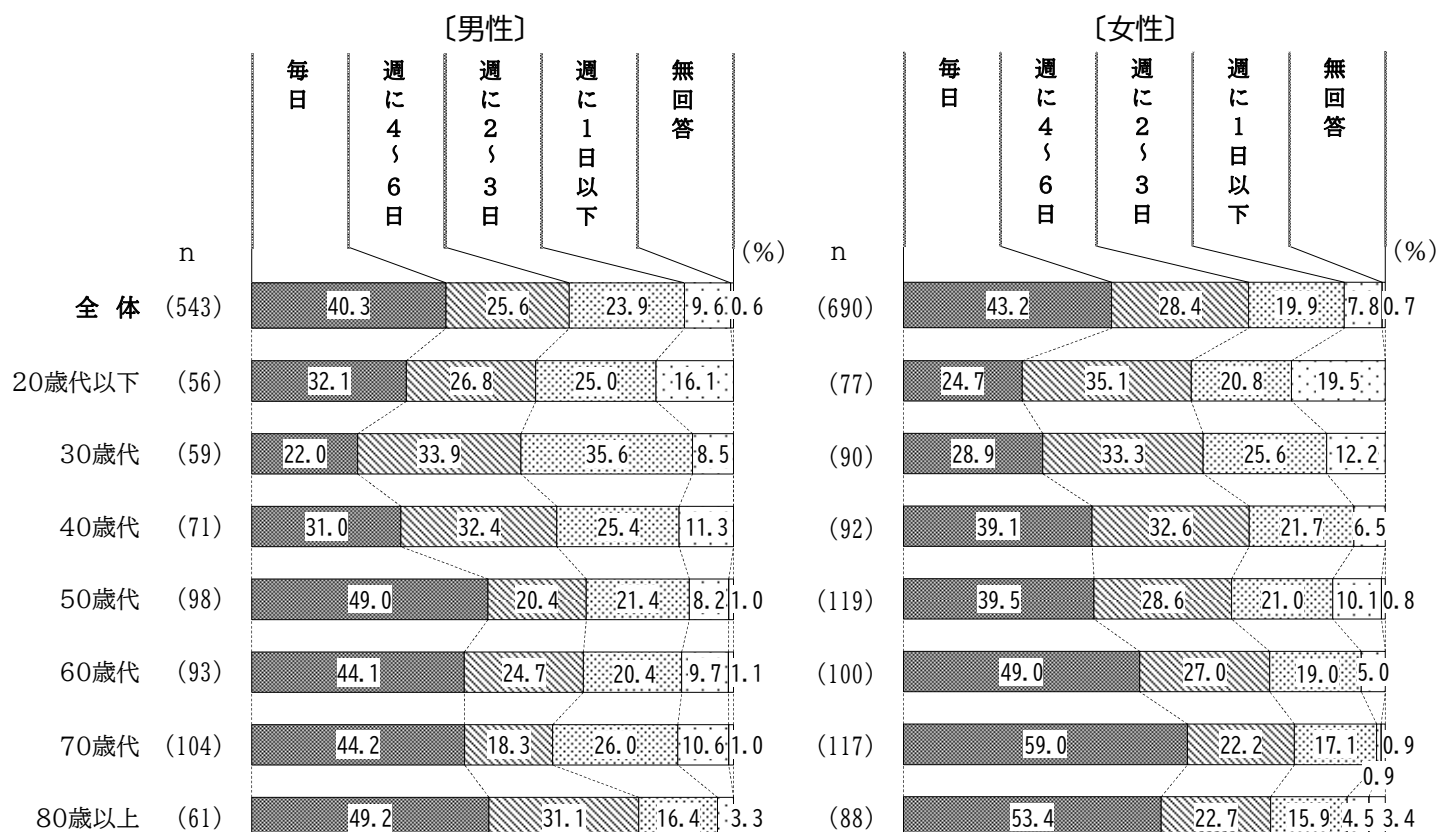


第2部 健康に関するアンケート調査結果

【性別、性／年代別】

性別でみると、特に大きな違いはみられない。

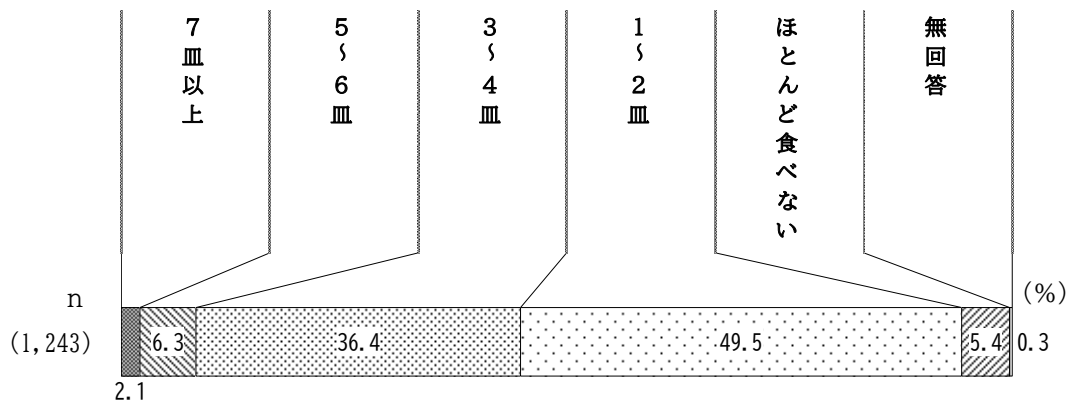
性／年代別でみると、「毎日」は男性が50歳以上で4割台と高くなっており、30歳代で22.0%と最も低くなっている。女性では20歳代以下で24.7%と最も低く、おおむね年代が上がるほど高くなっている。一方、「週に1日以下」は男女ともに20歳代以下（男性：16.1% 女性：19.5%）で最も高くなっている。



(4) 野菜の1日の摂取量

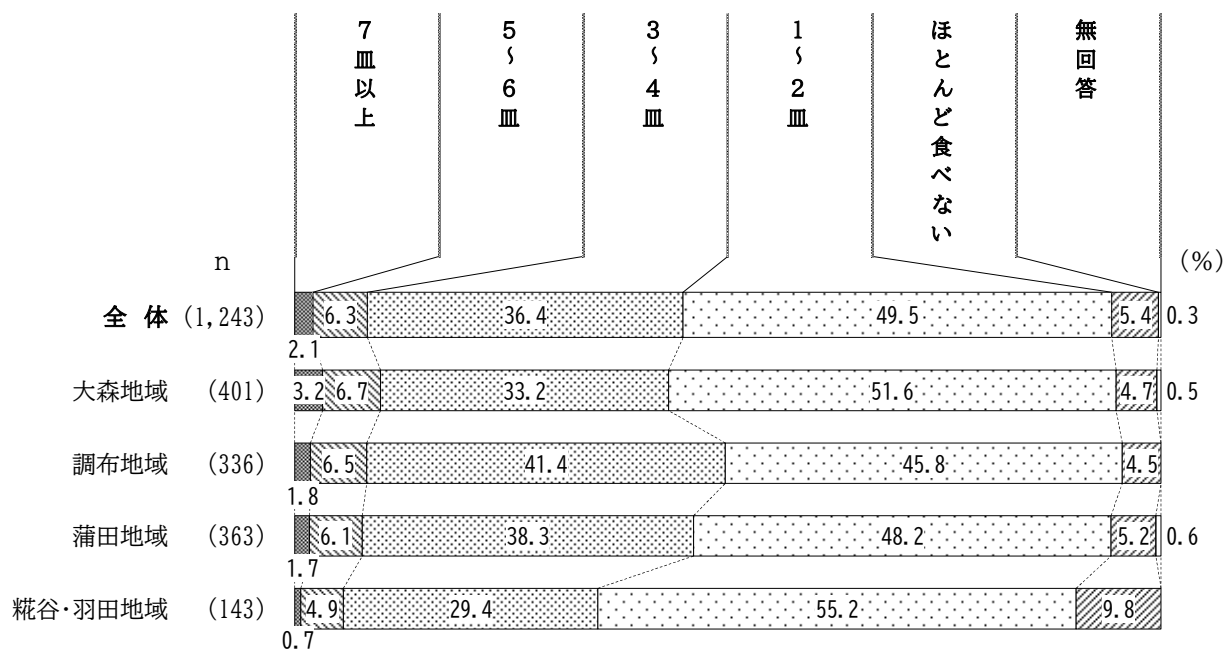
問9 あなたは、ふだん、1日に野菜料理（野菜を主な材料とした料理）を皿数で数えると何皿食べていますか。最もあてはまるものをお答えください。1皿は、小鉢1個分程度と考えてください。（○は1つ）

野菜の1日の摂取量は、「1～2皿」が49.5%で最も高く、次いで「3～4皿」が36.4%、「5～6皿」が6.3%となっている。一方、「ほとんど食べない」が5.4%となっている。



【地域別】

地域別でみると、「1～2皿」が糀谷・羽田地域で55.2%、大森地域で51.6%と高くなっている。「3～4皿」が調布地域で41.4%と最も高く、糀谷・羽田地域で29.4%と最も低くなっている。また、「ほとんど食べない」が糀谷・羽田地域で9.8%と他の地域に比べて高くなっている。

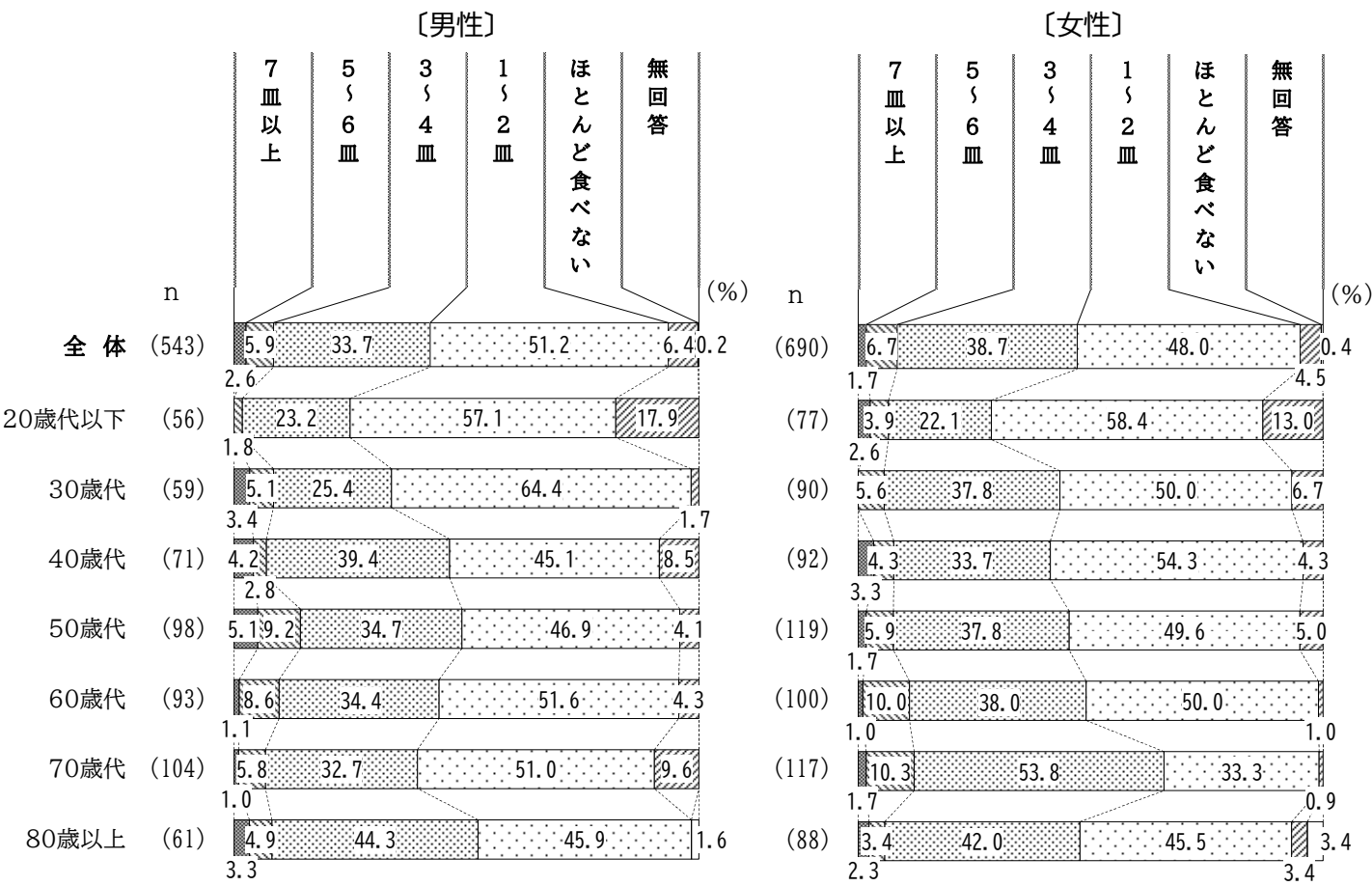


第2部 健康に関するアンケート調査結果

【性別、性／年代別】

性別でみると、「3～4皿」（男性：33.7% 女性：38.7%）は、女性の方が男性よりも5.0ポイント高くなっている。

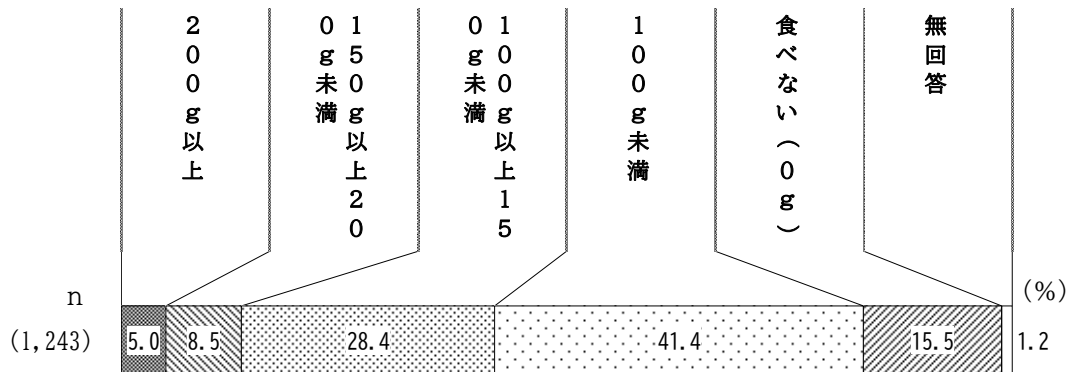
性／年代別でみると、「3～4皿」は男性が80歳以上で44.3%、女性が70歳代で53.8%と最も高く、男女ともに20歳代以下で2割台と最も低くなっている。一方、「ほとんど食べない」は男女ともに20歳代以下（男性：17.9% 女性：13.0%）で最も高くなっている。



(5) 果物の1日の摂取量

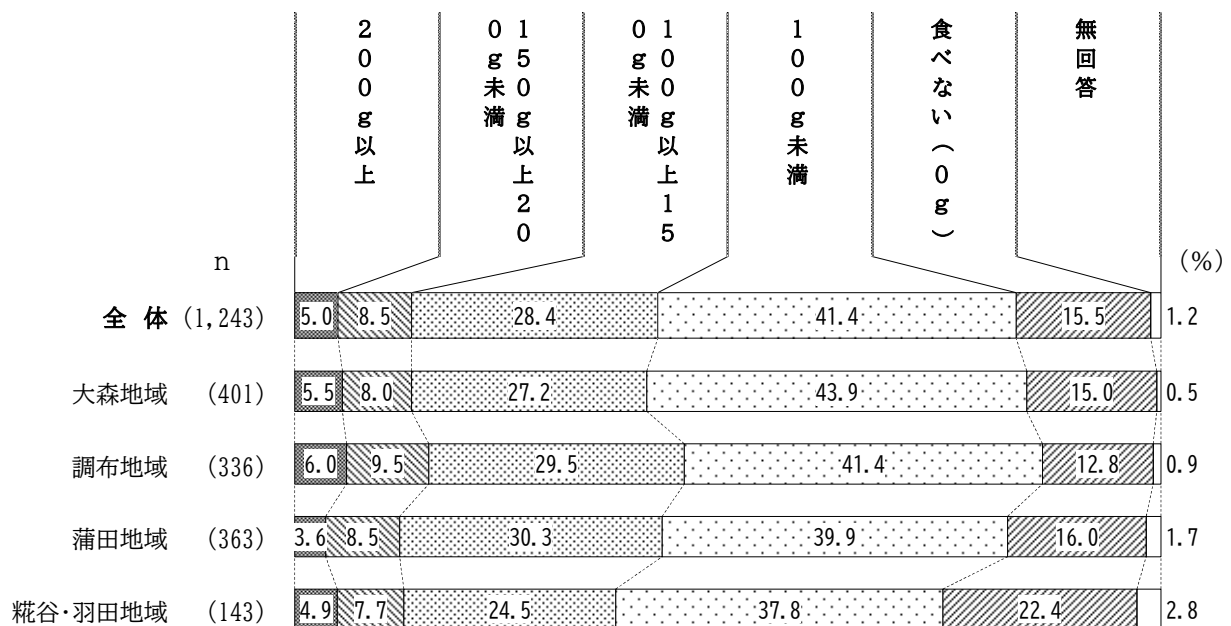
問10 あなたは、果物を1日当たりどの程度の量、食べていますか。(○は1つ)

果物の1日の摂取量は、「100g未満」が41.4%で最も高く、次いで「100g以上150g未満」が28.4%、「150g以上200g未満」が8.5%となっている。一方、「食べない(0g)」が15.5%となっている。



【地域別】

地域別でみると、「100g以上150g未満」が蒲田地域で30.3%と最も高く、糀谷・羽田地域で24.5%と最も低くなっている。また、「食べない(0g)」が糀谷・羽田地域で22.4%と他の地域に比べて高くなっている。

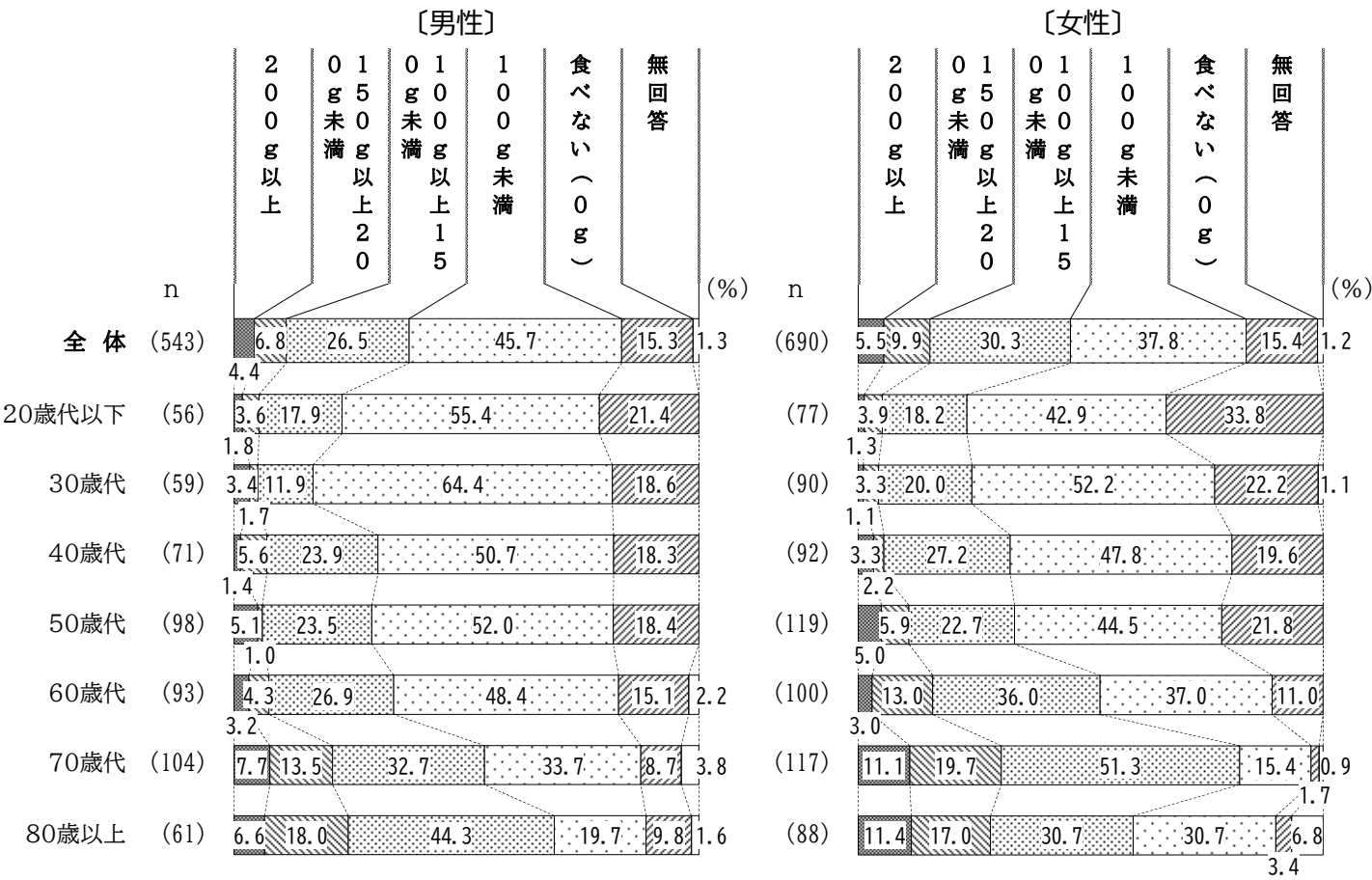


第2部 健康に関するアンケート調査結果

【性別、性／年代別】

性別でみると、「100g未満」（男性：45.7% 女性：37.8%）は、男性の方が女性より7.9ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「100g以上150g未満」は女性が70歳代で51.3%と最も高く、20歳代以下で18.2%と最も低くなっている。「100g未満」は男性が20歳代以下～50歳代で5割以上となっており、特に30歳代で64.4%と最も高くなっている。一方、「食べない（0g）」は男女ともに20歳代以下（男性：21.4% 女性：33.8%）で最も高くなっており、女性は30歳代～50歳代で2割前後となっている。



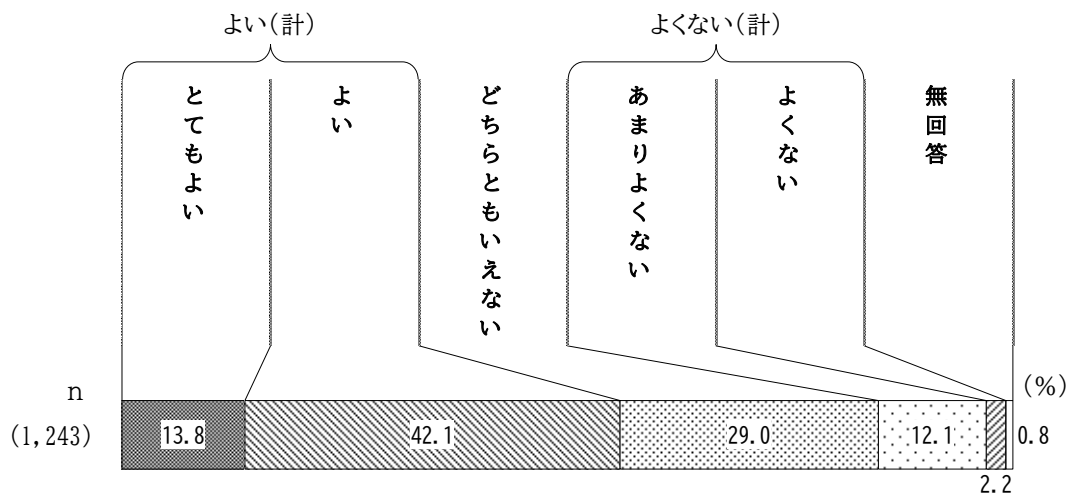
4. 健康づくりについて

(1) 健康状態

問11 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(○は1つ)

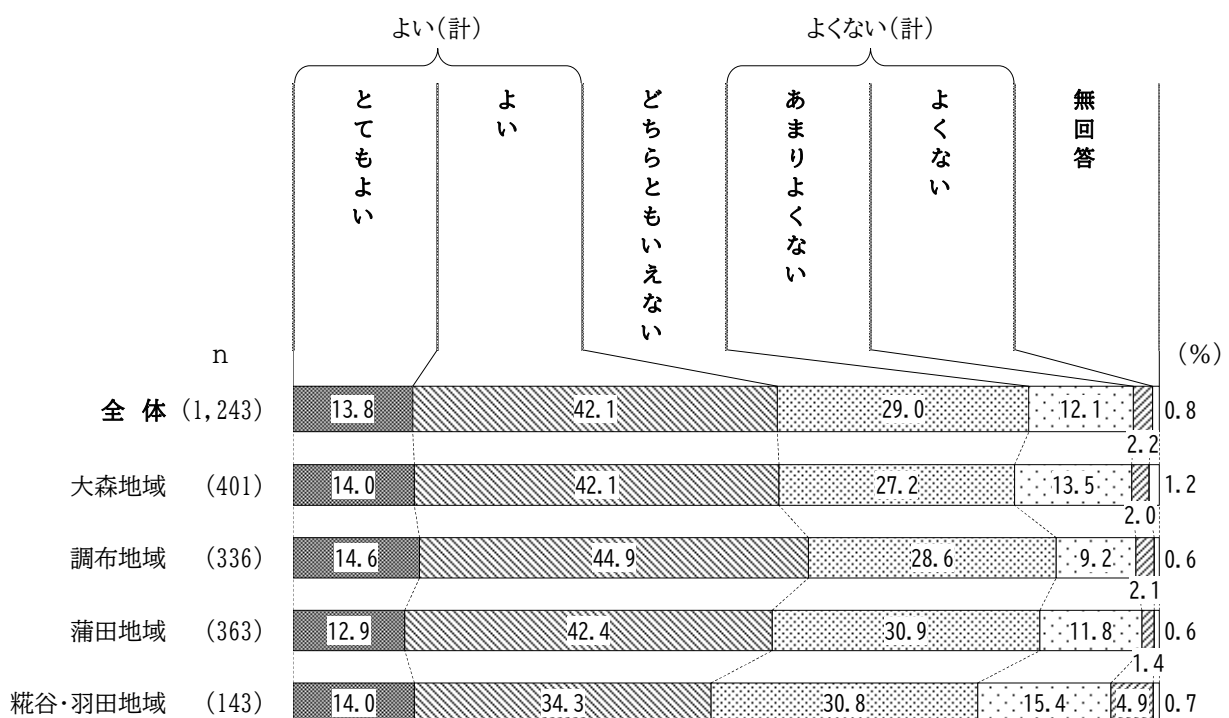
健康状態は、「よい」が42.1%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が29.0%、「とてもよい」が13.8%となっている。

一方、「あまりよくない」(12.1%)と「よくない」(2.2%)を合わせて、「よくない(計)」は14.3%となっている。



【地域別】

地域別でみると、「とてもよい」と「よい」を合わせた「よい(計)」は調布地域で59.5%と最も高く、糀谷・羽田地域で48.3%と最も低くなっている。



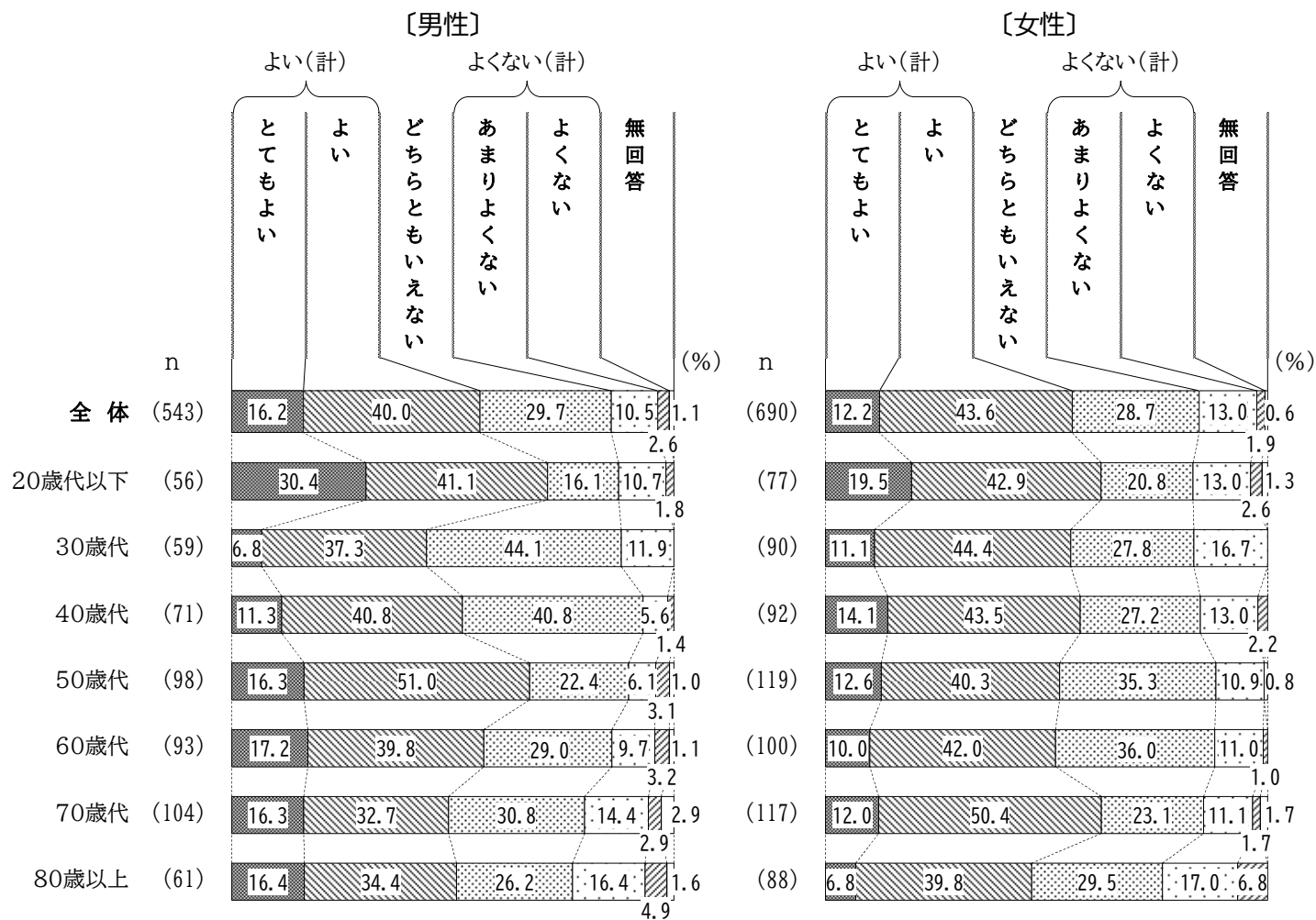
第2部 健康に関するアンケート調査結果

【性別、性／年代別】

性別でみると、特に大きな違いはみられない。

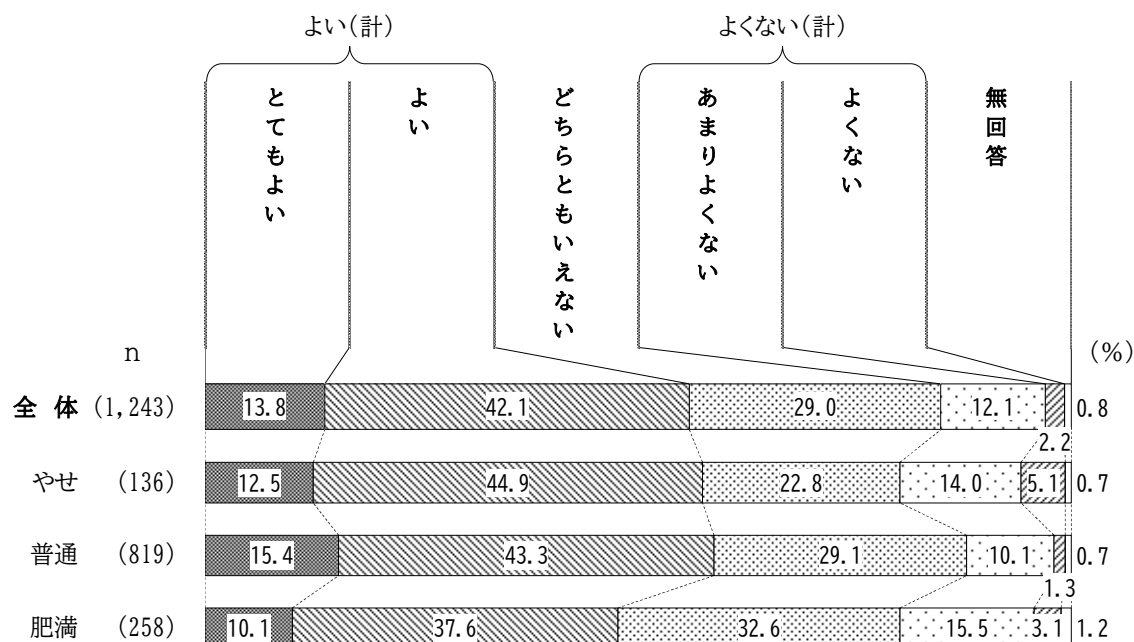
性／年代別でみると、男性では、《よい（計）》は20歳代以下で71.5%と最も高く、次いで50歳代で67.3%となっており、30歳代で44.1%と最も低くなっている。

女性では、《よい（計）》は80歳以上を除くすべての年代で5割を超えているが、80歳以上は46.6%にとどまっている。



【BMI別】

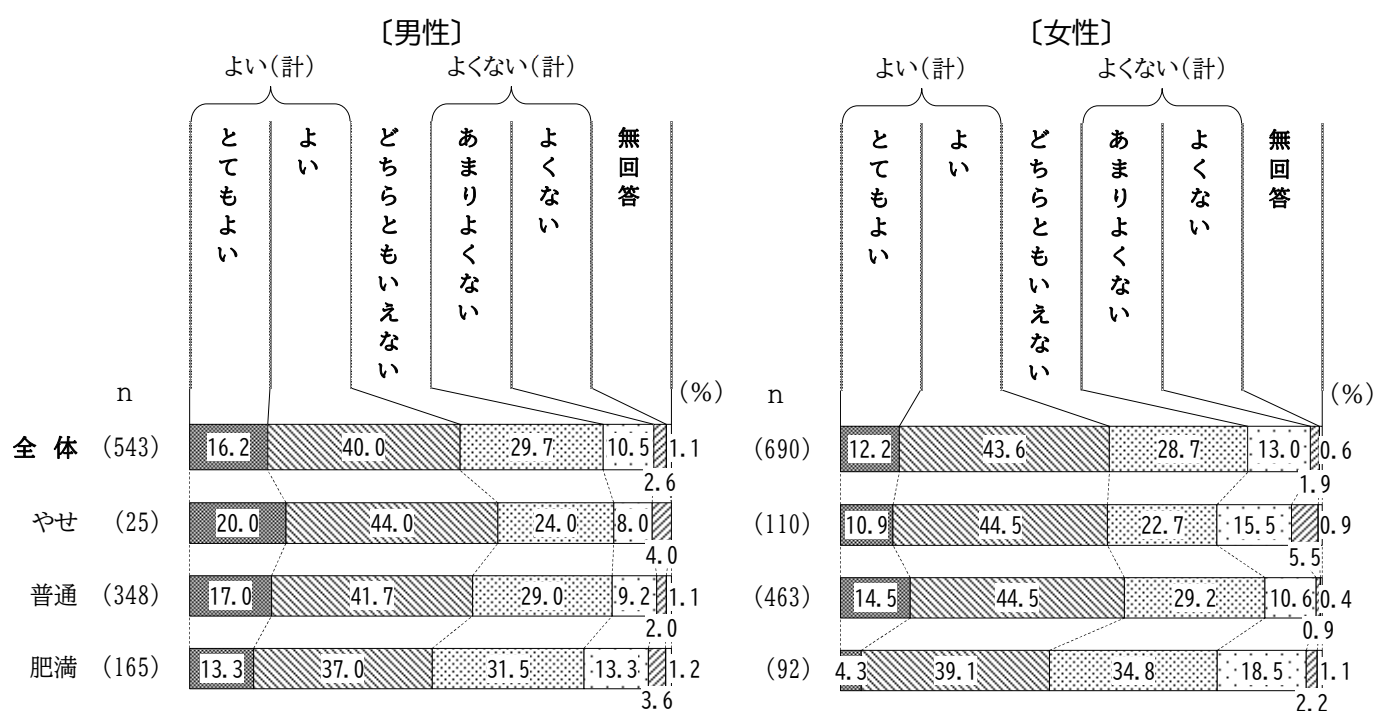
BMI別でみると、「よい（計）」は普通で58.7%、やせで57.4%、肥満で47.7%となっている。一方、「よくない（計）」はやせで19.1%、肥満で18.6%と普通の11.4%に比べて高くなっている。



【性／BMI別】

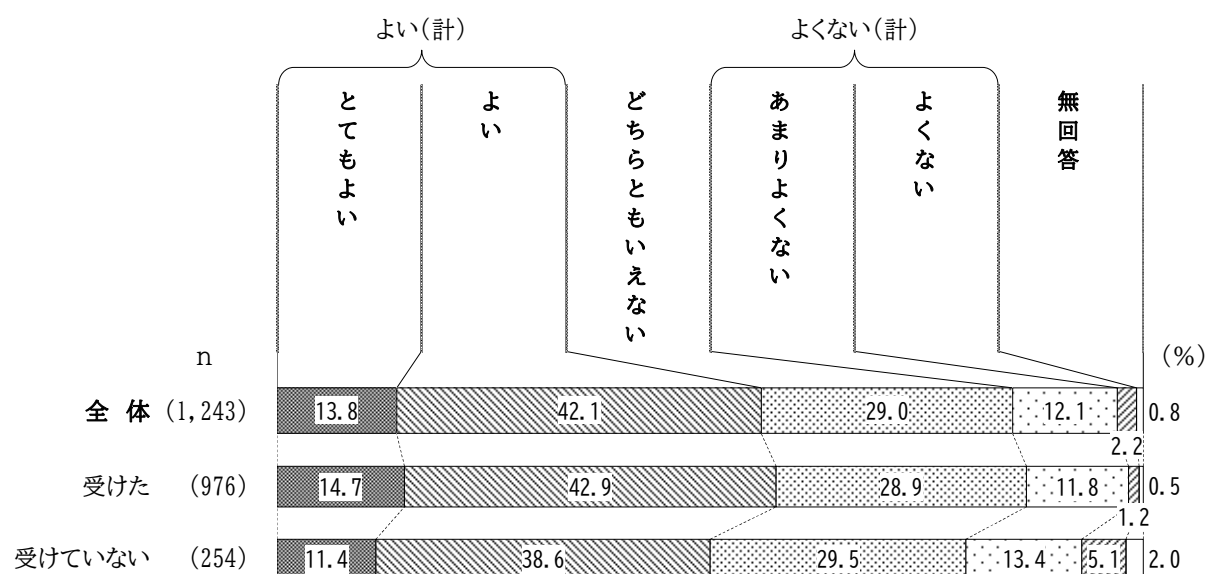
性／BMI別でみると、男性では「よい（計）」はやせで64.0%と最も高く、肥満で50.3%と最も低くなっている。一方、「よくない（計）」は肥満で16.9%と最も高くなっている。

女性では「よい（計）」は普通で59.0%と最も高く、肥満で43.4%と最も低くなっている。一方、「よくない（計）」はやせで21.0%、肥満で20.7%と普通の11.5%に比べて高くなっている。



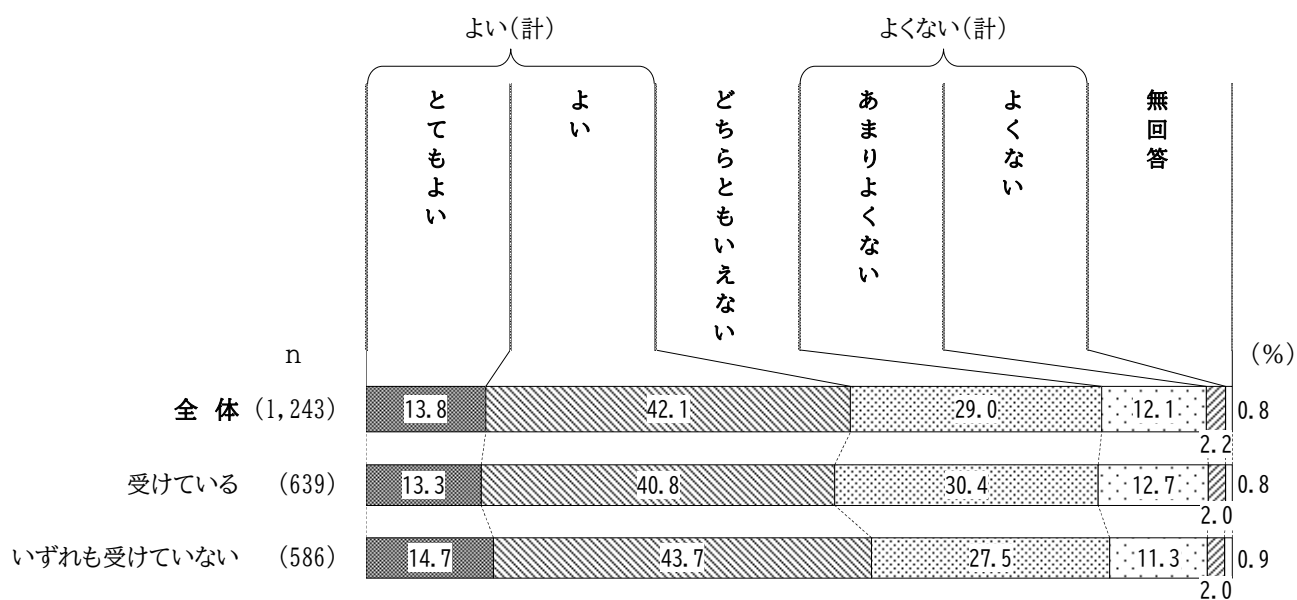
【健診の受診状況別】

健診の受診状況別でみると、「よい（計）」（受けた：57.6% 受けていない：50.0%）は、受けた方が受けていない方よりも7.6ポイント高くなっている。



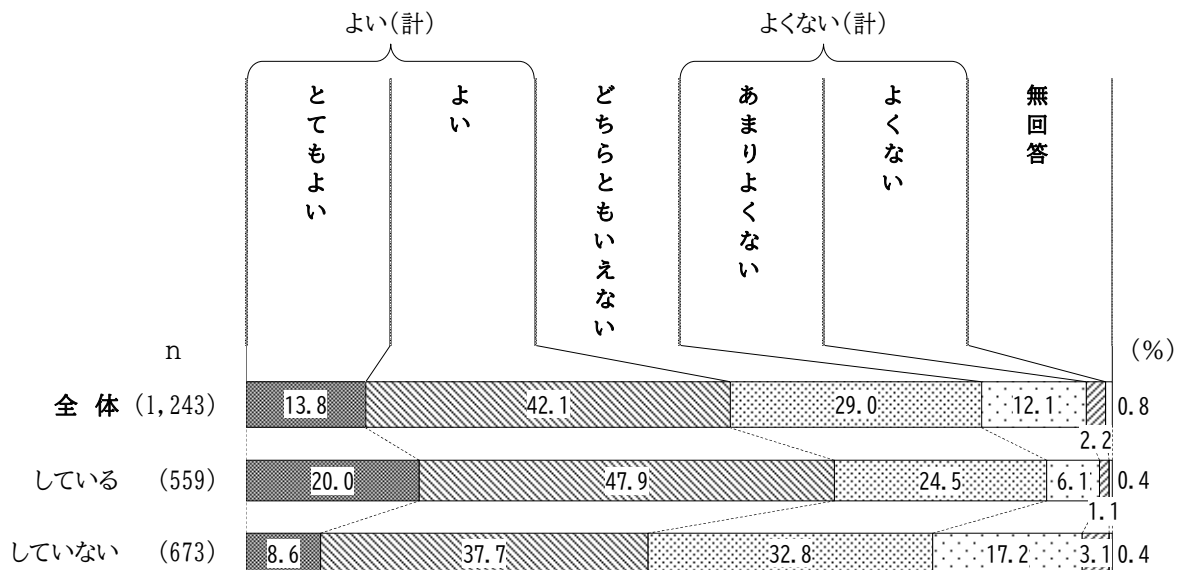
【がん検診の受診状況別】

がん検診の受診状況別でみると、「よい（計）」（受けている：54.1% いずれも受けていない：58.4%）は、いずれも受けていない方が受けている方よりも4.3ポイント高くなっている。



【運動の状況別】

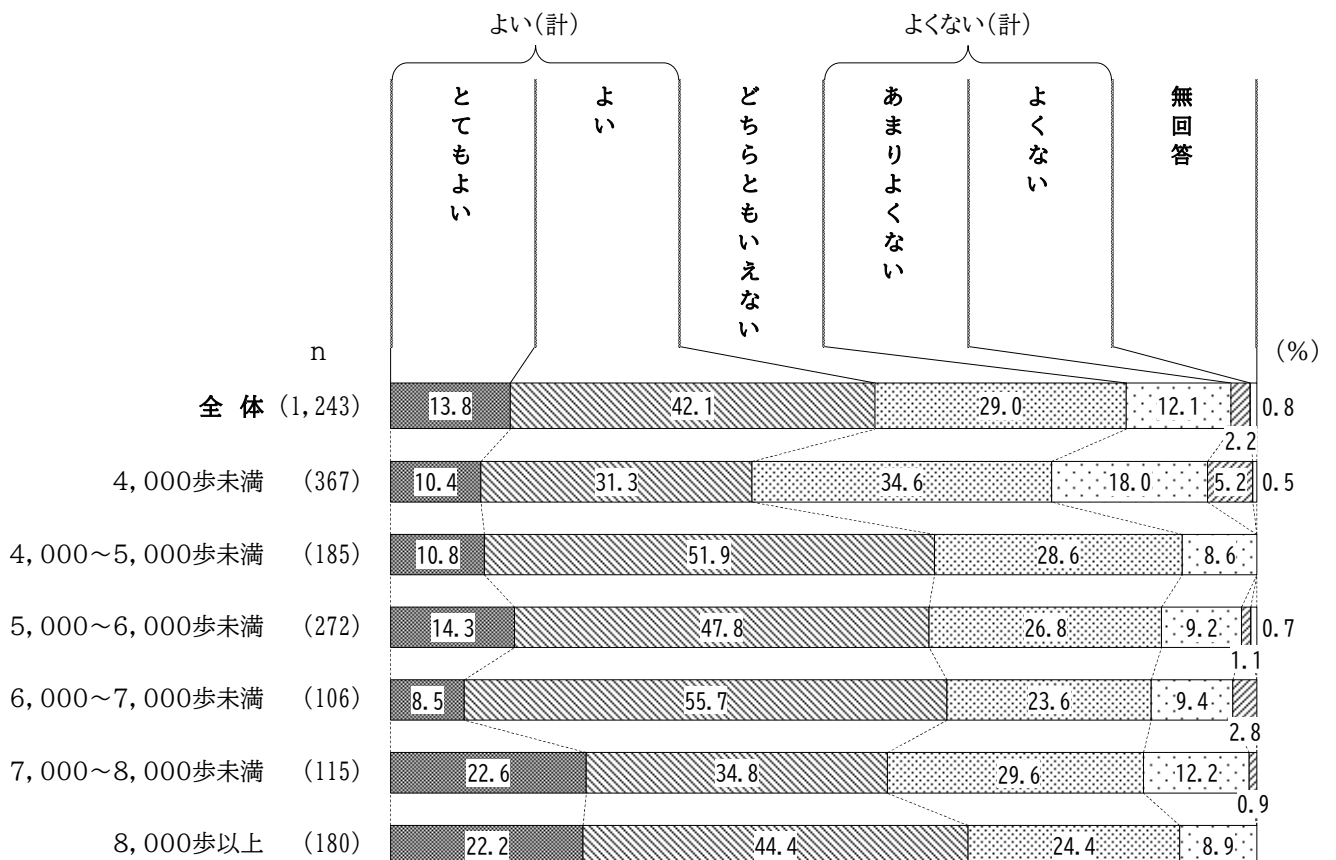
運動の状況別でみると、「よい（計）」（している：67.9% していない：46.3%）は、している方がしていない方よりも21.6ポイント高くなっている。



【1日の歩数別】

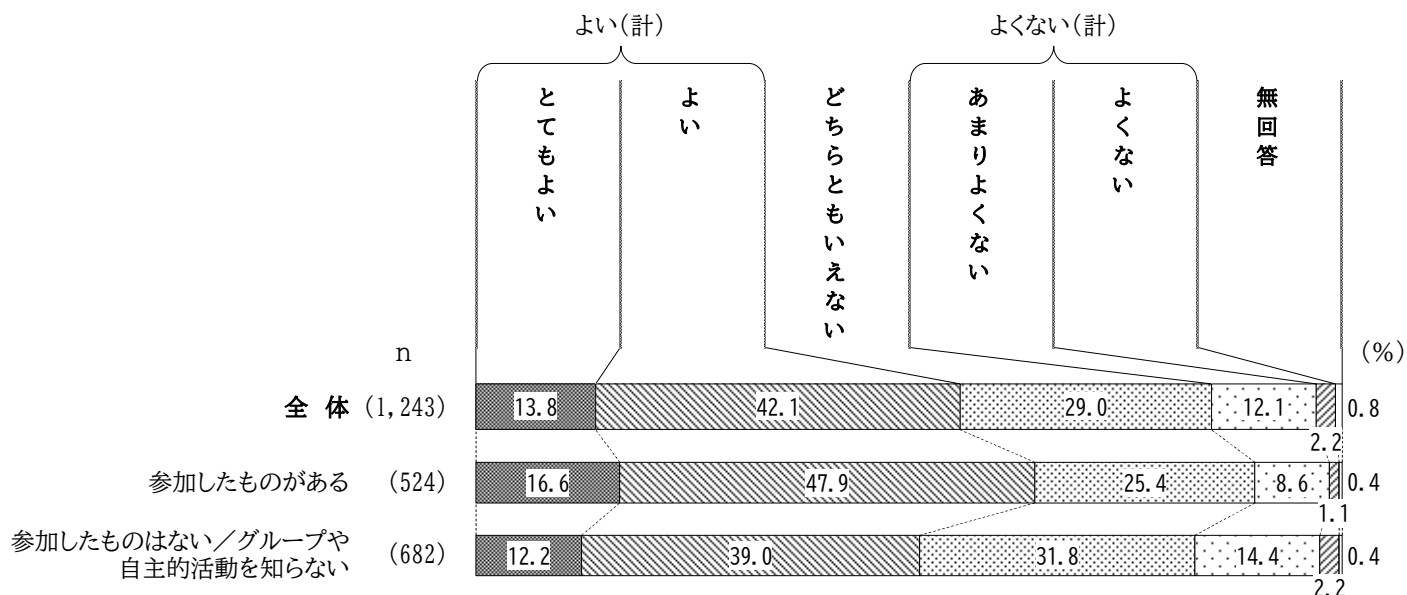
1日の歩数別でみると、「よい（計）」は8,000歩以上で66.6%と最も高く、4,000歩未満を除きいずれも5割を超えている。

一方、「よくない（計）」は4,000歩未満で23.2%と最も高くなっている。



【各種活動への参加状況別】

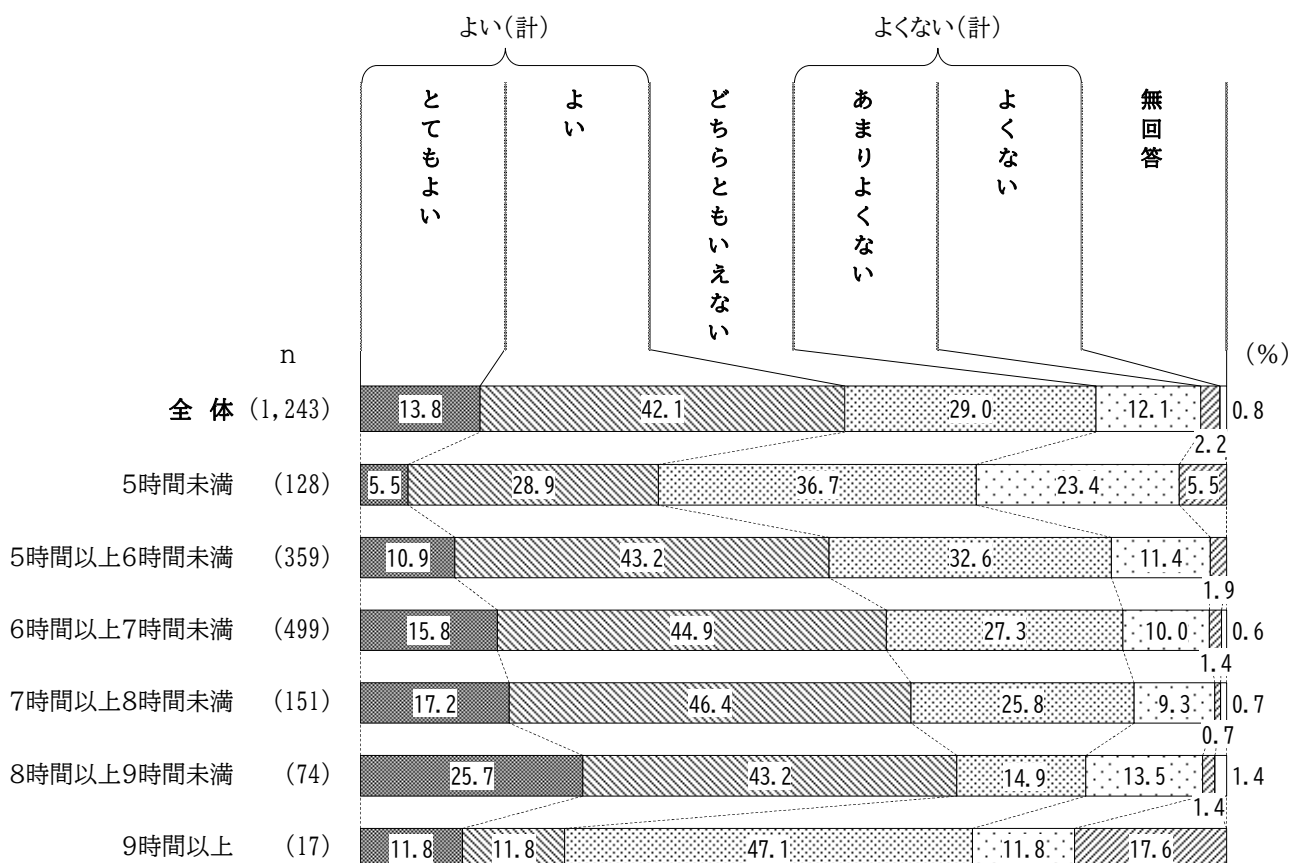
各種活動への参加状況別でみると、「よい（計）」（参加したものがある：64.5% 参加したものはな／グループや自主的活動を知らない：51.2%）は、参加したものがある方が参加したものはな／グループや自主的活動を知らない方よりも13.3ポイント高くなっている。



【1日の平均睡眠時間別】

1日の平均睡眠時間別でみると、「よい（計）」は9時間以上を除き、睡眠時間が増えるほど高くなり、8時間以上9時間未満で68.9%と最も高くなっている。

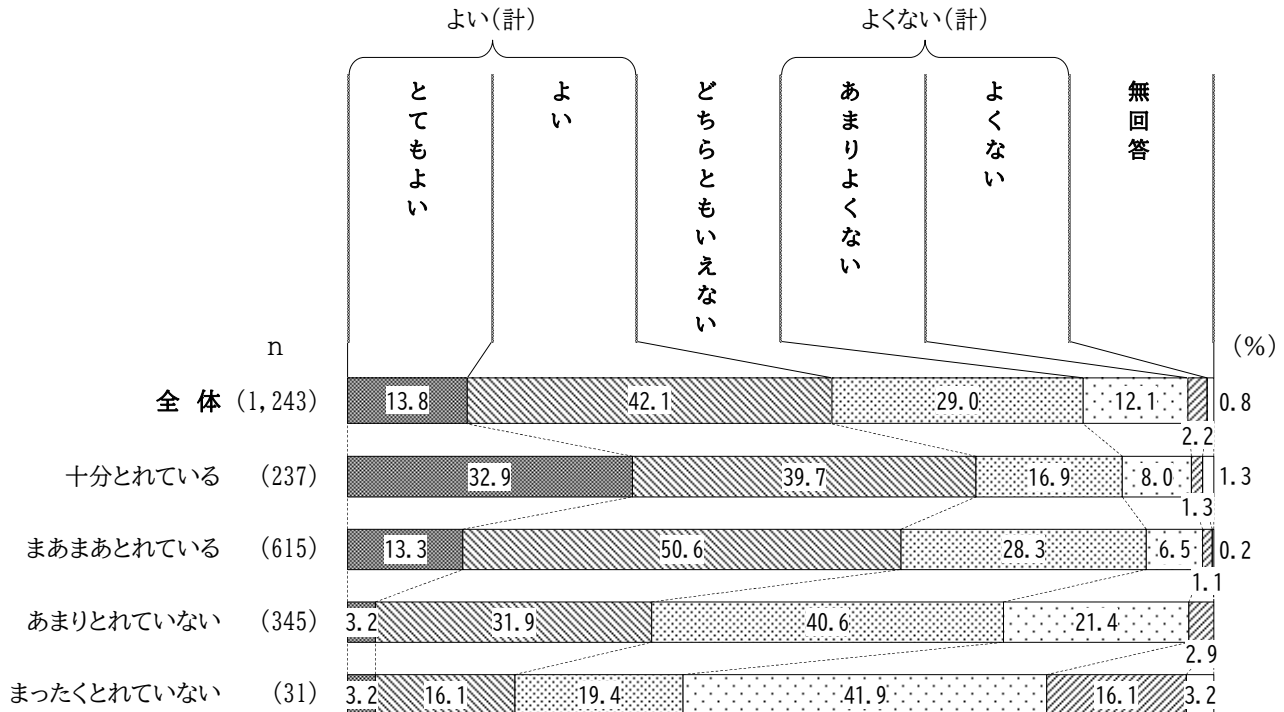
一方、「よくない（計）」は5時間未満で28.9%と最も高くなっている。



【睡眠による休養の状況別】

睡眠による休養の状況別でみると、「よい（計）」は休養がとれているほど高くなり、十分とれているで72.6%と最も高くなっている。

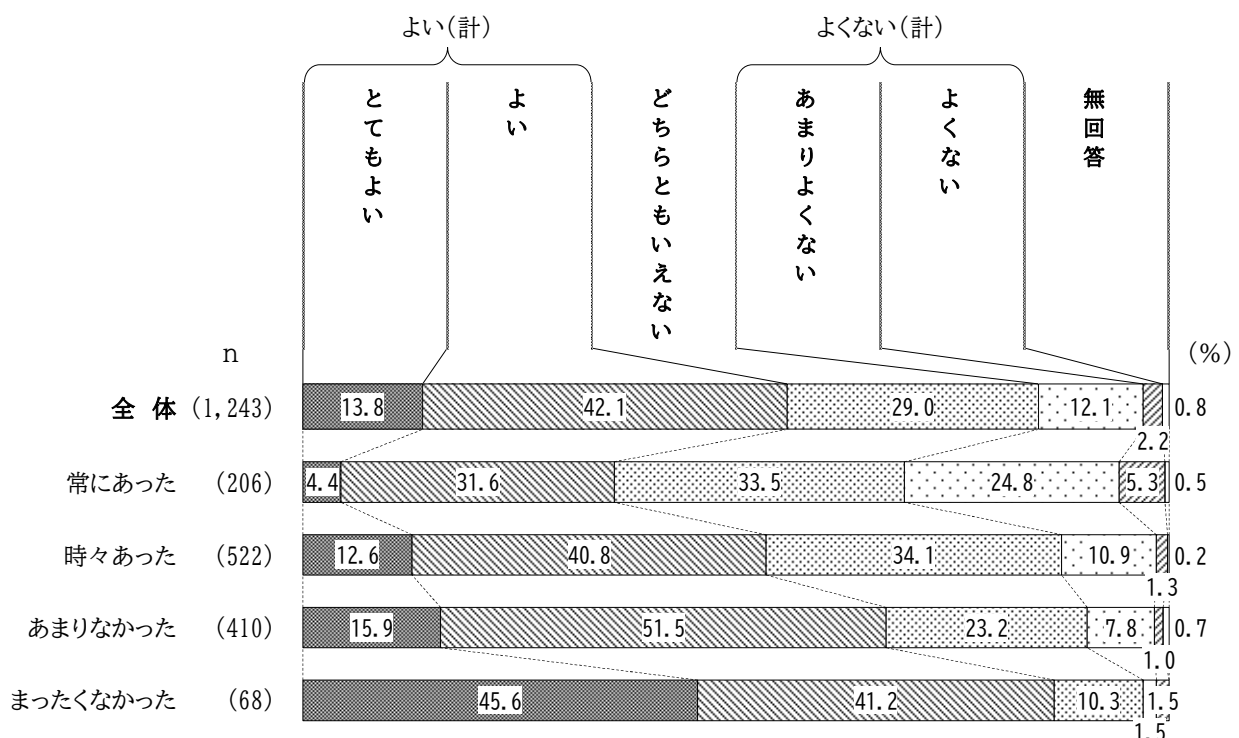
一方、「よくない（計）」はまったくとれていないで58.0%と最も高くなっている。



【ストレスの状況別】

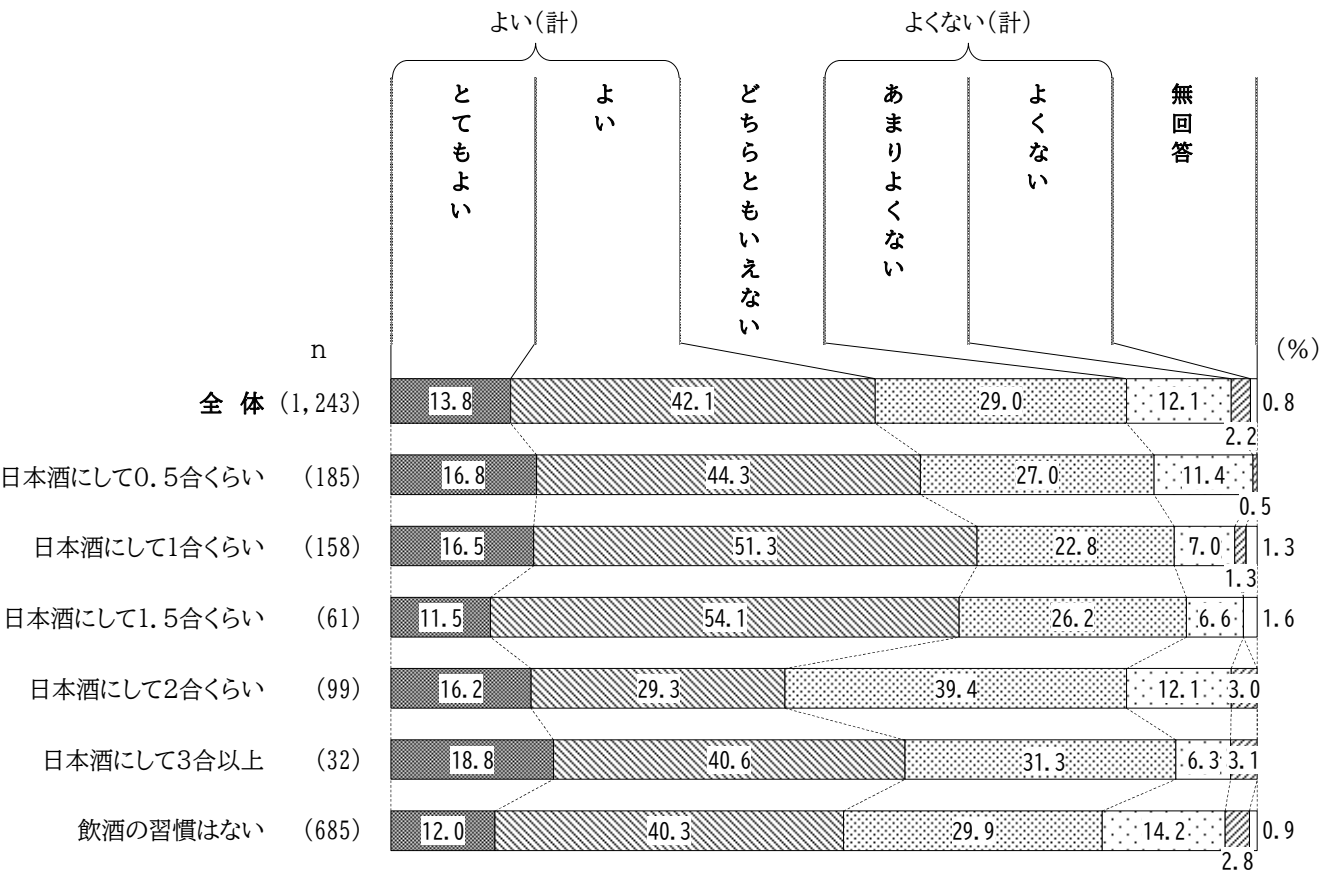
ストレスの状況別でみると、「よい（計）」はストレスがないほど高くなり、まったくなかったで86.8%と最も高くなっている。

一方、「よくない（計）」は常にあったで30.1%と最も高くなっている。



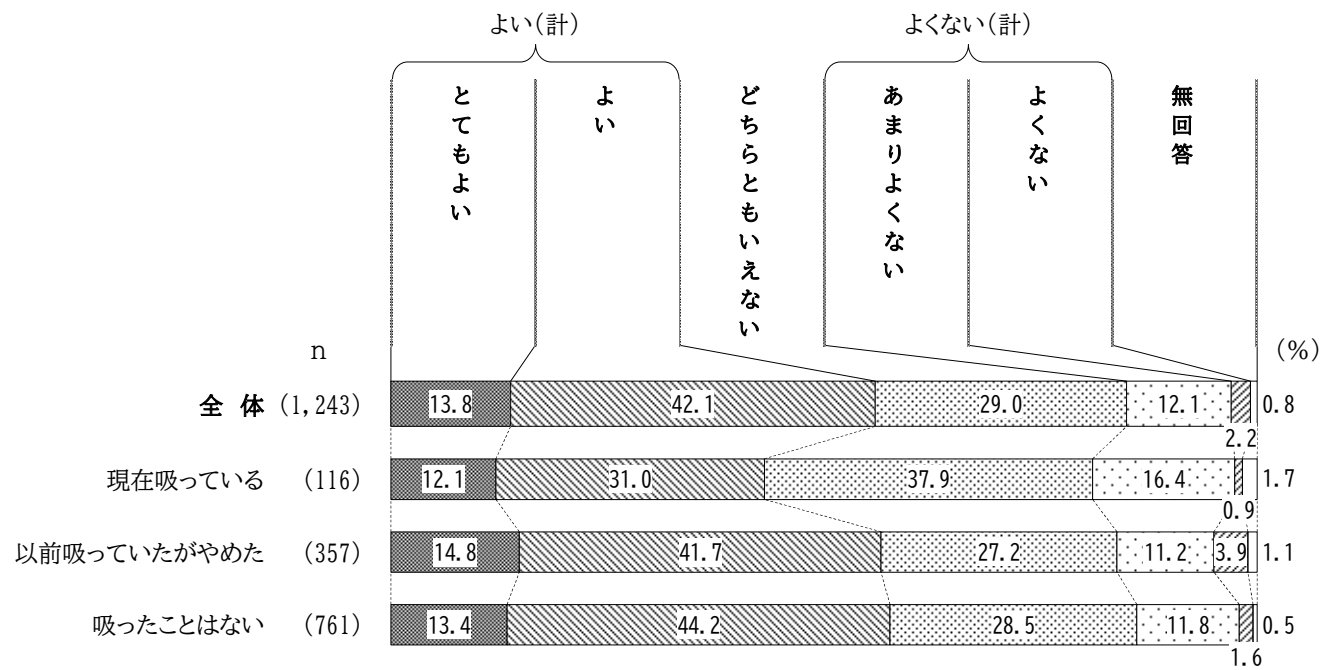
【1日の飲酒量別】

1日の飲酒量別でみると、《よい（計）》は日本酒にして1合くらいで67.8%と最も高く、日本酒にして2合くらいで45.5%と最も低くなっている。



【喫煙状況別】

喫煙状況別でみると、《よい（計）》は吸ったことはないで57.6%、以前吸っていたがやめたで56.5%と高く、現在吸っているで43.1%と最も低くなっている。

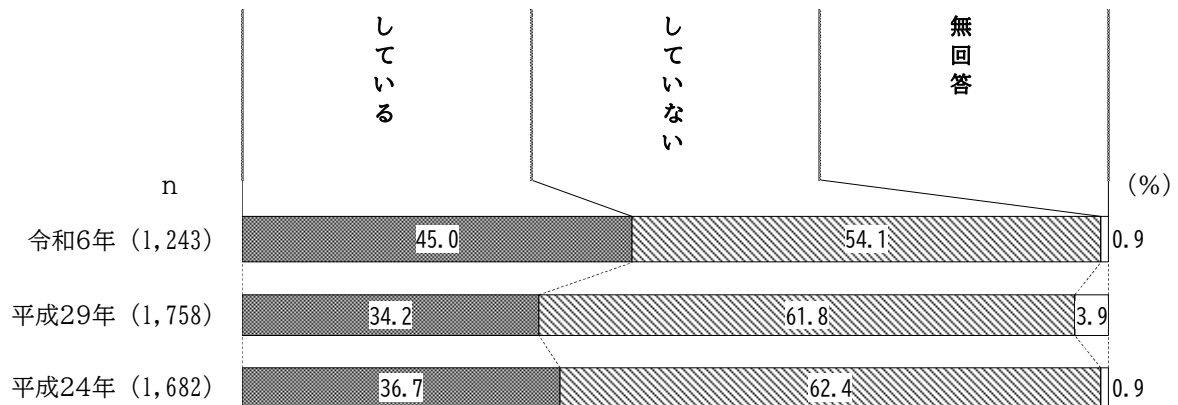


(2) 運動の状況

問12 1日30分以上の軽く汗をかく運動を週2回以上していますか。(○は1つ)

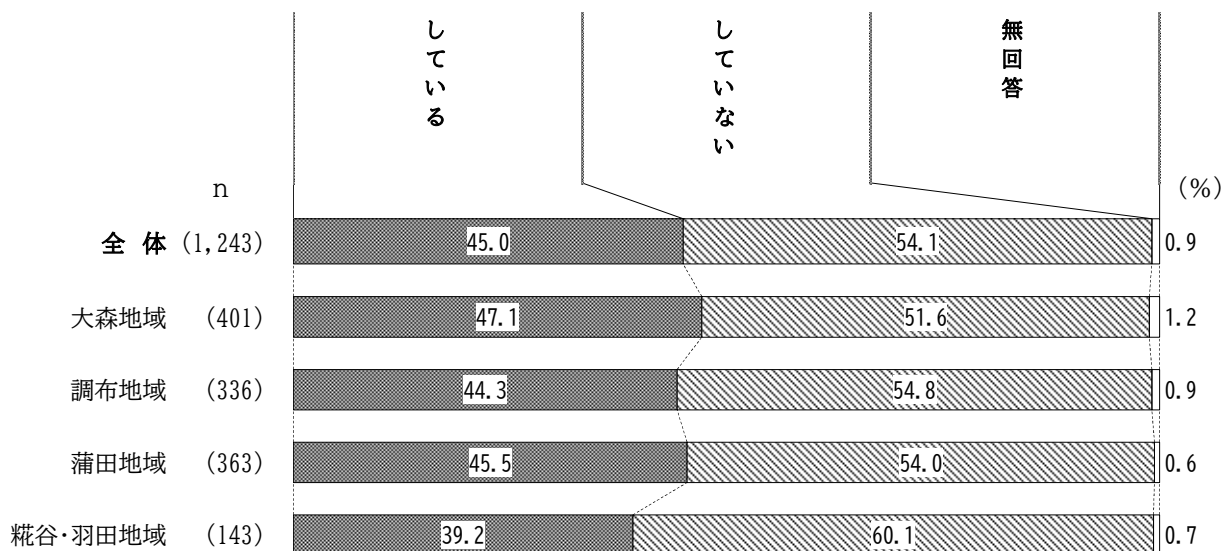
運動の状況は、「している」が45.0%、「していない」が54.1%となっている。

時系列で比較すると、「している」(令和6年：45.0% 平成29年：34.2% 平成24年：36.7%)が前回調査より10.8ポイント、前々回調査より8.3ポイント増加している。



【地域別】

地域別でみると、「している」は大森地域で47.1%と最も高く、糀谷・羽田地域で39.2%と最も低くなっている。



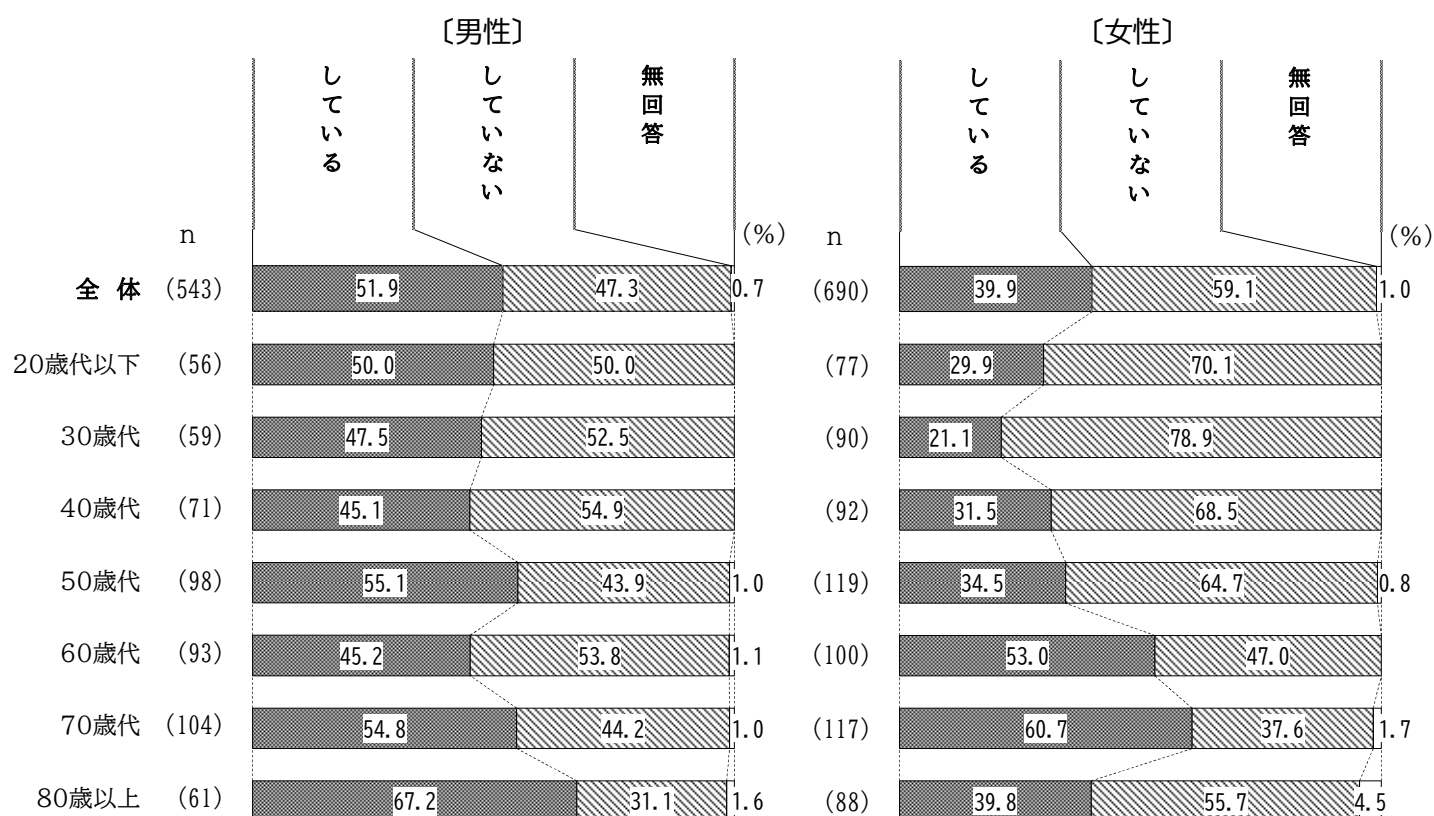
第2部 健康に関するアンケート調査結果

【性別、性／年代別】

性別でみると、「している」（男性：51.9% 女性：39.9%）は、男性の方が女性よりも12.0ポイント高くなっている。一方、「していない」（男性：47.3% 女性：59.1%）は、女性の方が男性より11.8ポイント高くなっている。

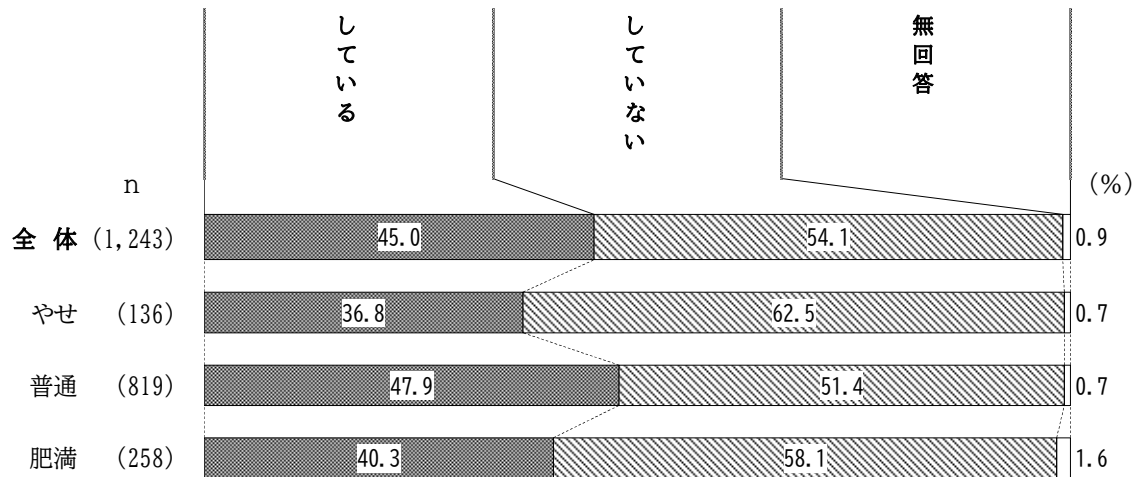
性／年代別でみると、男性では、「している」は80歳以上で67.2%と最も高く、40歳代で45.1%、60歳代で45.2%と他の年代に比べて低くなっている。

女性では、「している」は70歳代で60.7%と最も高くなっている。一方、「していない」は30歳代で78.9%、20歳代以下で70.1%と高くなっている。



【BMI別】

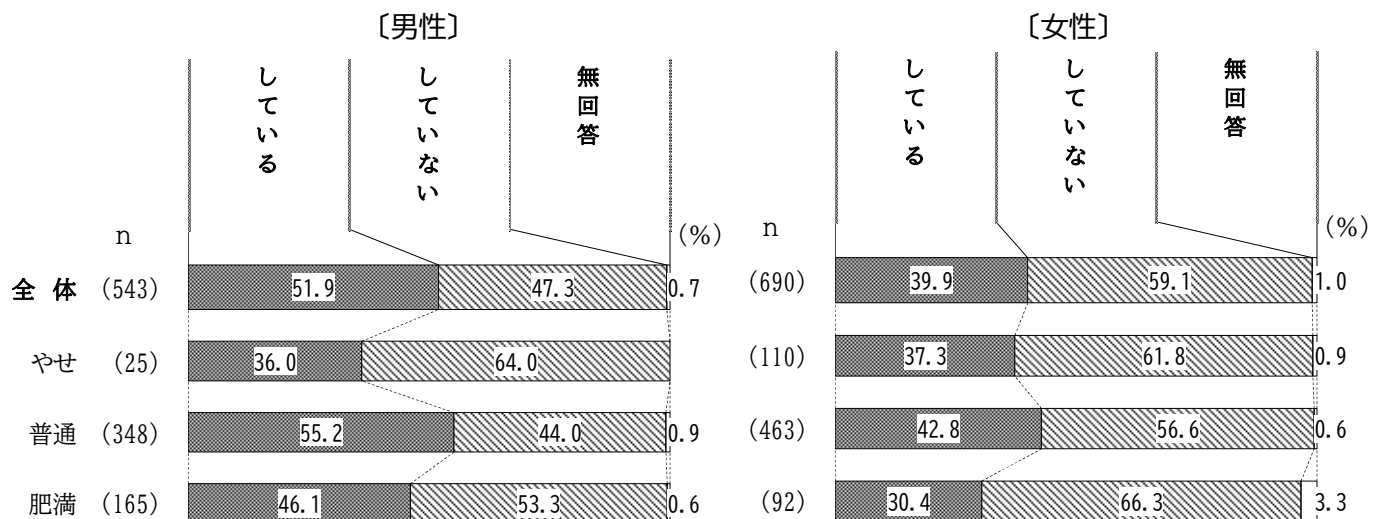
BMI別でみると、「している」は普通で47.9%と最も高く、やせで36.8%と最も低くなっている。一方、「していない」はやせで62.5%、肥満で58.1%となっている。



【性／BMI別】

性／BMI別でみると、男性では「している」は普通で55.2%と最も高く、やせで36.0%と最も低くなっている。一方、「していない」はやせで64.0%と最も高くなっている。

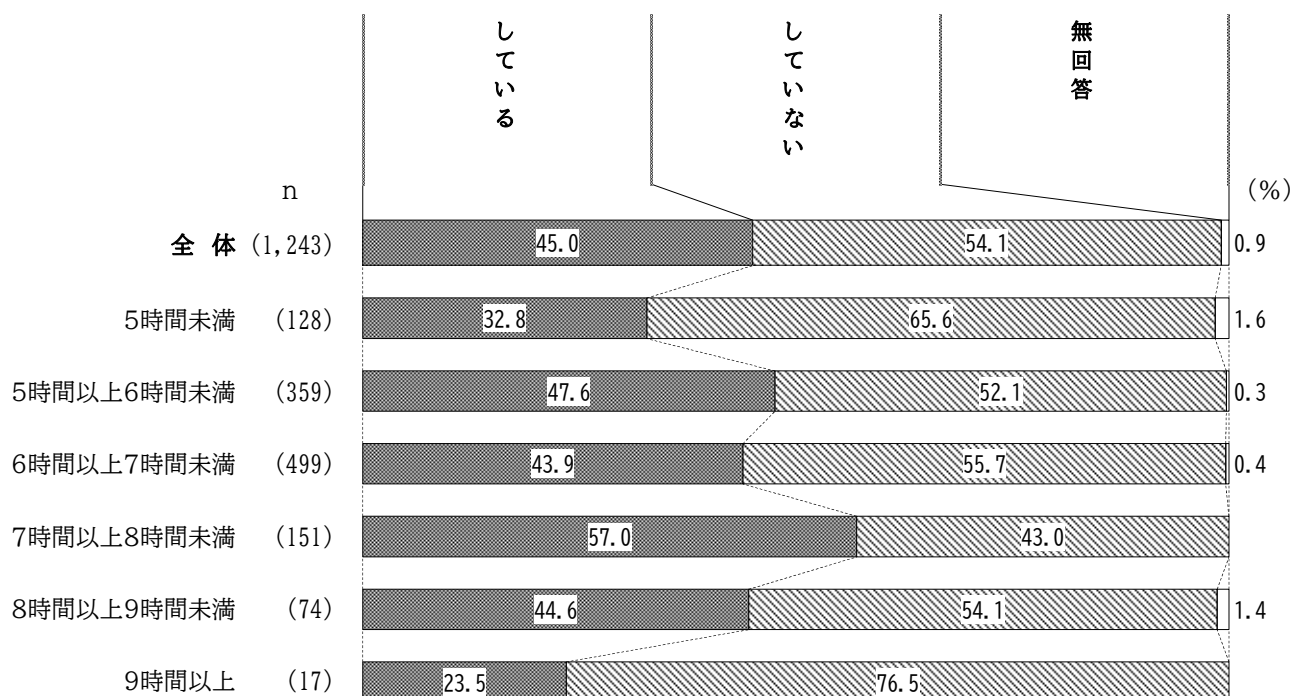
女性では「している」は普通で42.8%と最も高く、肥満で30.4%と最も低くなっている。一方、「していない」は肥満で66.3%、やせで61.8%と6割台となっている。



【1日の平均睡眠時間別】

1日の平均睡眠時間別でみると、「している」は7時間以上8時間未満で57.0%と最も高くなっている。

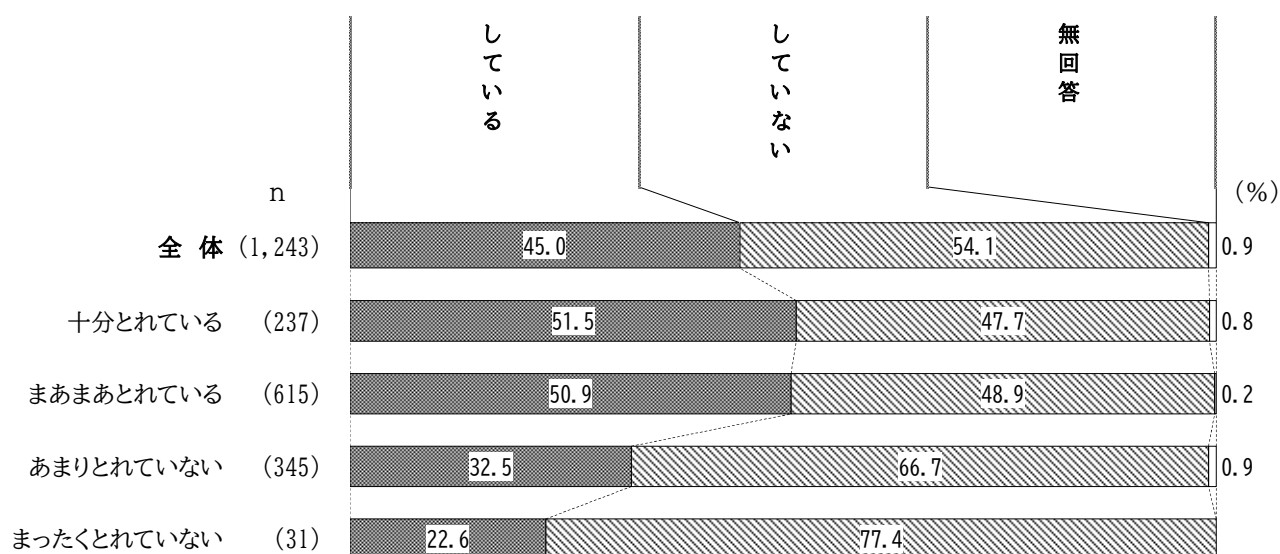
一方、「していない」は5時間未満で65.6%と最も高くなっている。



【睡眠による休養の状況別】

睡眠による休養の状況別でみると、「している」は休養がとれているほど高くなり、十分とれているで51.5%、まあまあとれているで50.9%となっている。

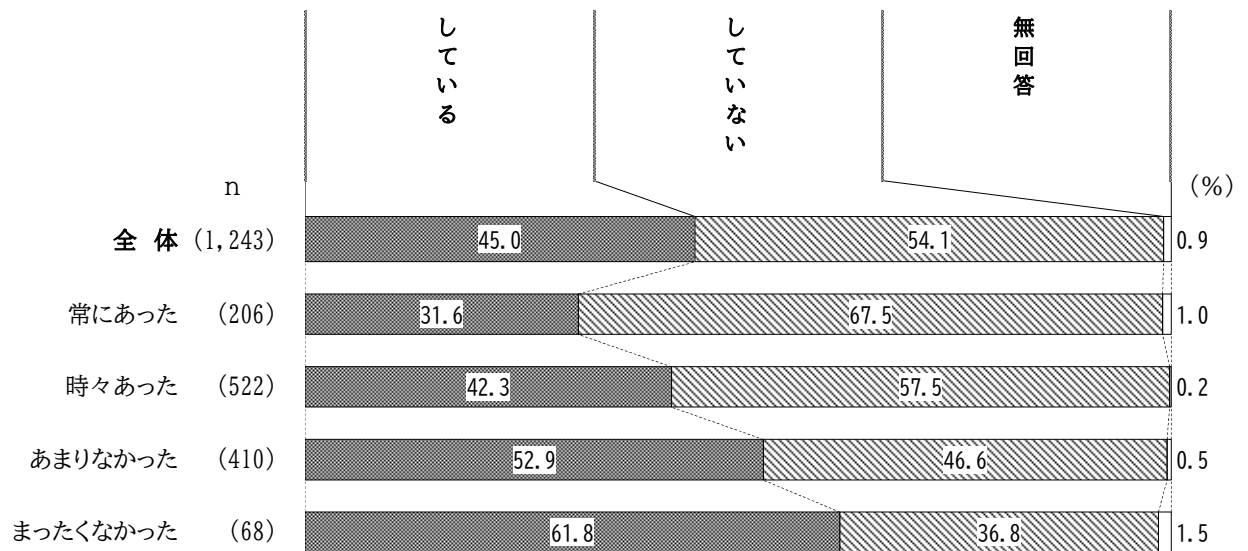
一方、「していない」はまったくとれていないで77.4%、あまりとれていないで66.7%と特に高くなっている。



【ストレスの状況別】

ストレスの状況別でみると、「している」はストレスがないほど高くなり、まったくなかったで61.8%と最も高くなっている。

一方、「していない」は常にあったで67.5%と最も高くなっている。

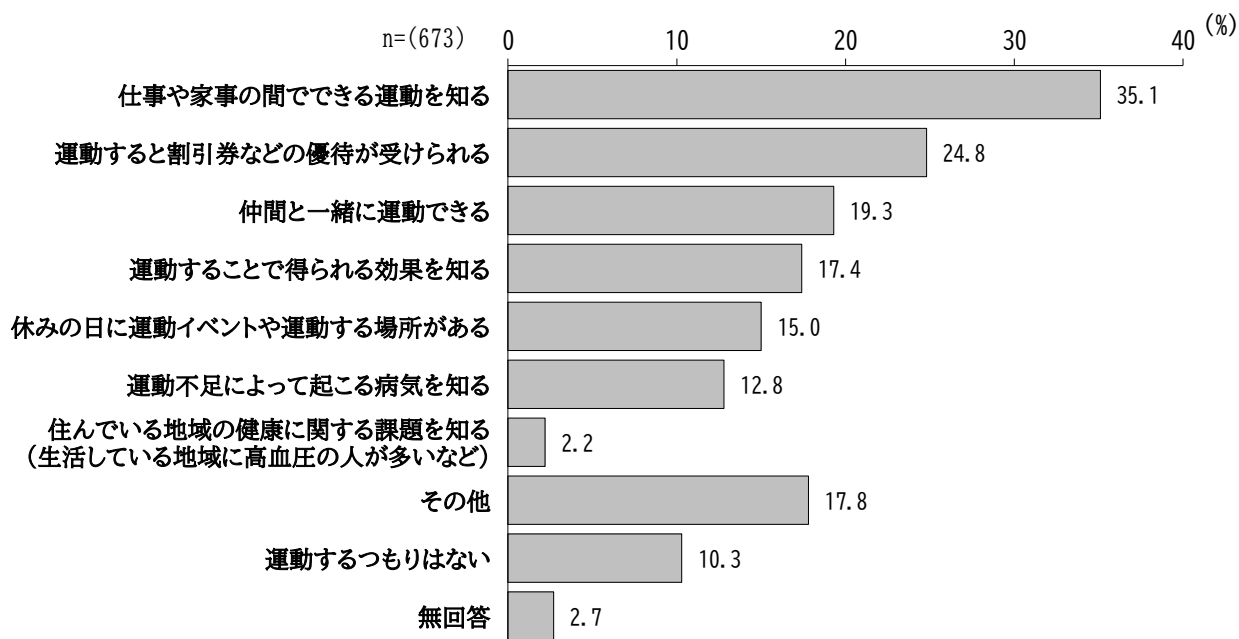


(3) 運動をしようと思う条件

(問12で「していない」と回答した方におたずねします。)

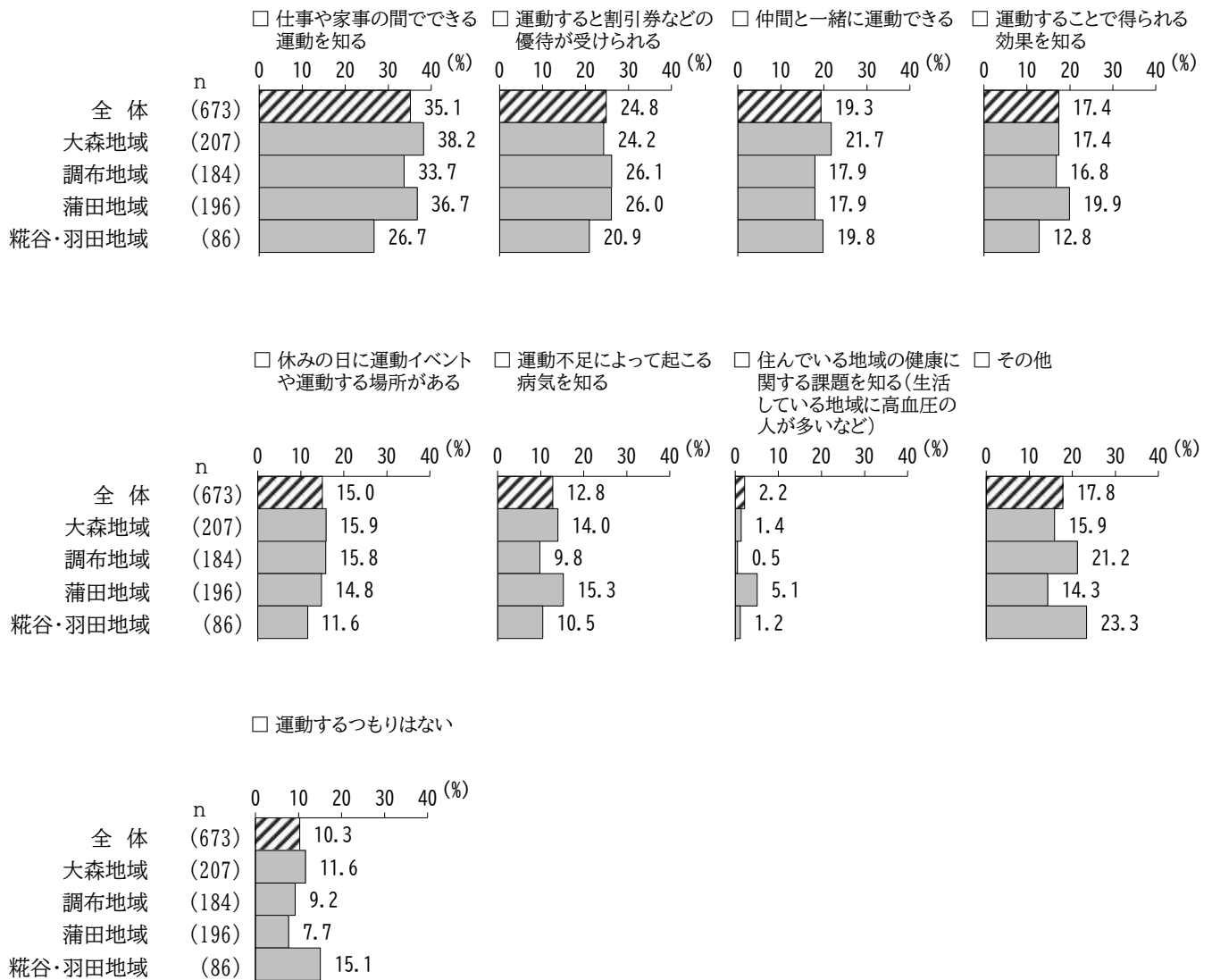
問12-1 どうすれば運動しようと思いますか。(〇はいくつでも)

運動の状況で「していない」と回答した方に運動しようと思う条件をたずねた。その結果、「仕事や家事の間でできる運動を知る」が35.1%で最も高く、次いで「運動すると割引券などの優待が受けられる」が24.8%、「仲間と一緒に運動できる」が19.3%となっている。



【地域別】

地域別でみると、「仕事や家事の間でできる運動を知る」は大森地域で38.2%と最も高く、蒲田地域で36.7%と並んでいる一方、糀谷・羽田地域で26.7%と他の地域に比べて低くなっている。一方、「運動するつもりはない」は糀谷・羽田地域で15.1%と他の地域に比べて高くなっている。



第2部 健康に関するアンケート調査結果

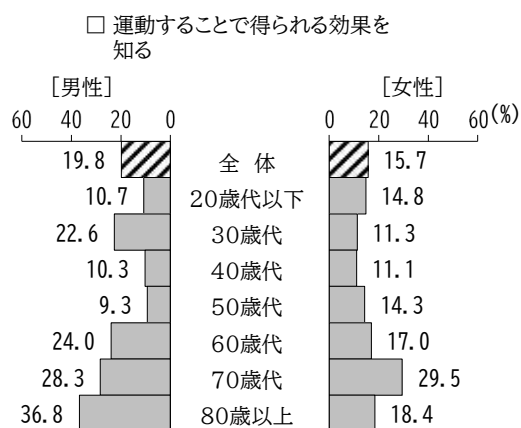
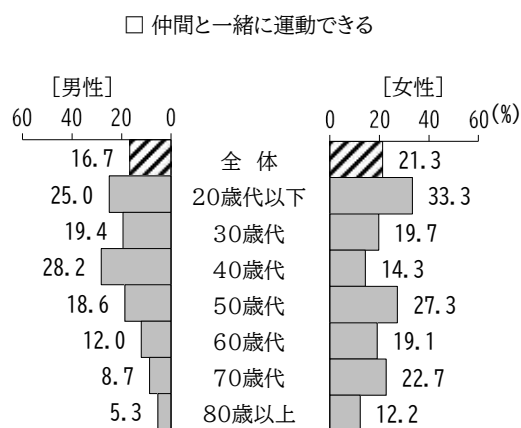
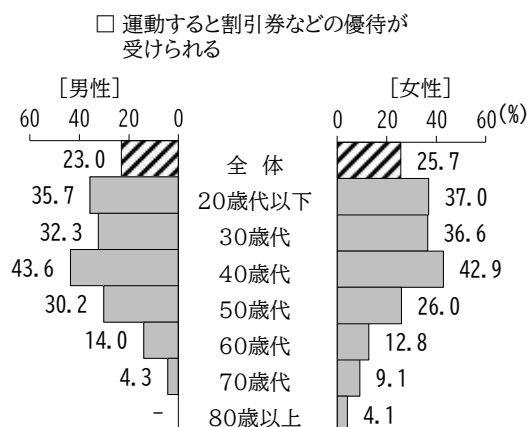
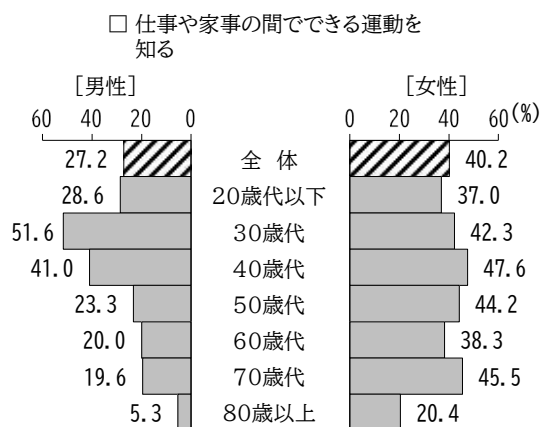
【性別、性／年代別】

性別でみると、「仕事や家事の間でできる運動を知る」(男性：27.2% 女性：40.2%)は、女性の方が男性よりも13.0ポイント高くなっている。

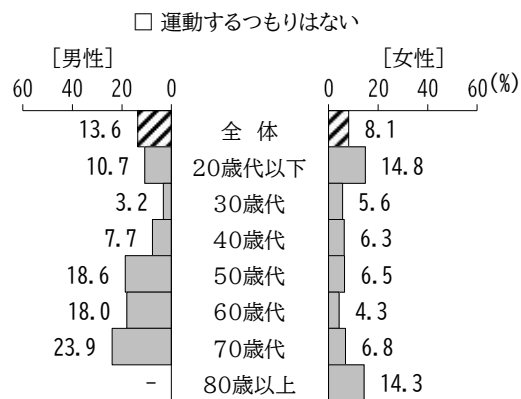
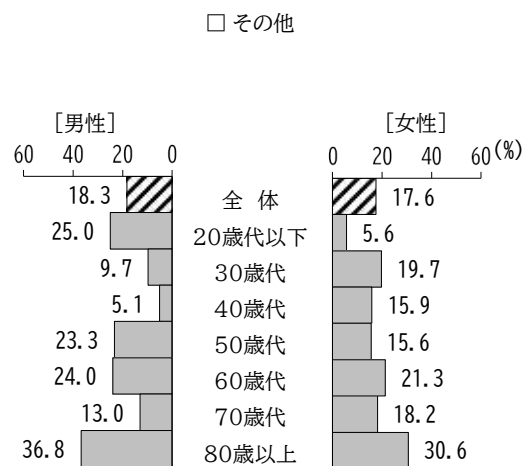
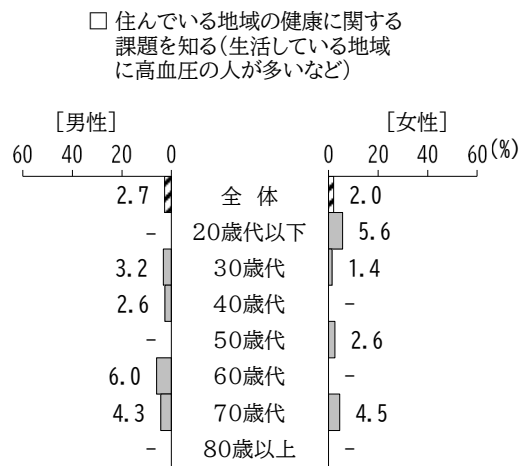
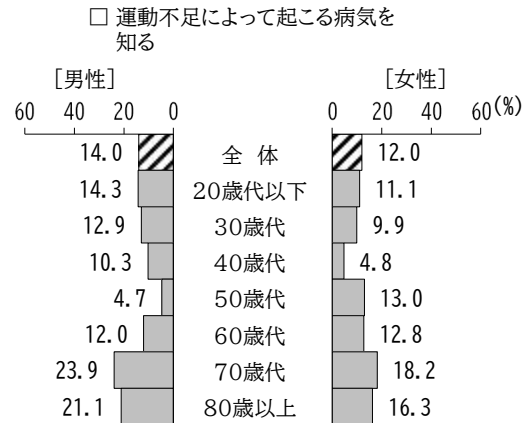
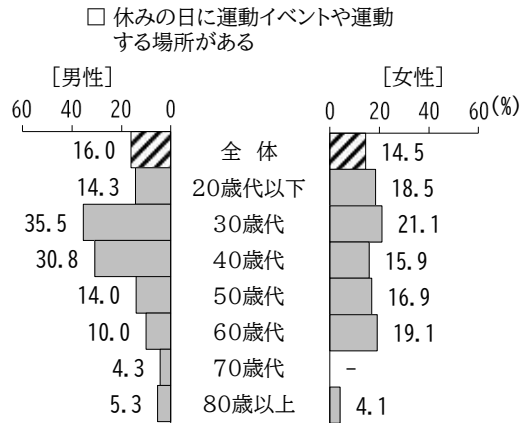
「運動するつもりはない」(男性：13.6% 女性：8.1%)で男性の方が女性よりも5.5ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「仕事や家事の間でできる運動を知る」は男性では30歳代で51.6%、40歳代で41.0%と他の年代に比べて高くなっている。「運動すると割引券などの優待が受けられる」は男女ともに40歳代(男性：43.6% 女性：42.9%)で最も高く、20歳代～30歳代でも3割台、男性では50歳代でも3割となっている。「運動することで得られる効果を知る」は男性では80歳以上で36.8%、女性では70歳代で29.5%と最も高くなっている。「休みの日に運動イベントや運動する場所がある」は男性の30歳代～40歳代で3割台と他の年代に比べて高くなっている。

[男性]				[女性]			
全 体	n=(257)	50歳代	n=(43)	全 体	n=(408)	50歳代	n=(77)
20歳代以下	n=(28)	60歳代	n=(50)	20歳代以下	n=(54)	60歳代	n=(47)
30歳代	n=(31)	70歳代	n=(46)	30歳代	n=(71)	70歳代	n=(44)
40歳代	n=(39)	80歳以上	n=(19)	40歳代	n=(63)	80歳以上	n=(49)



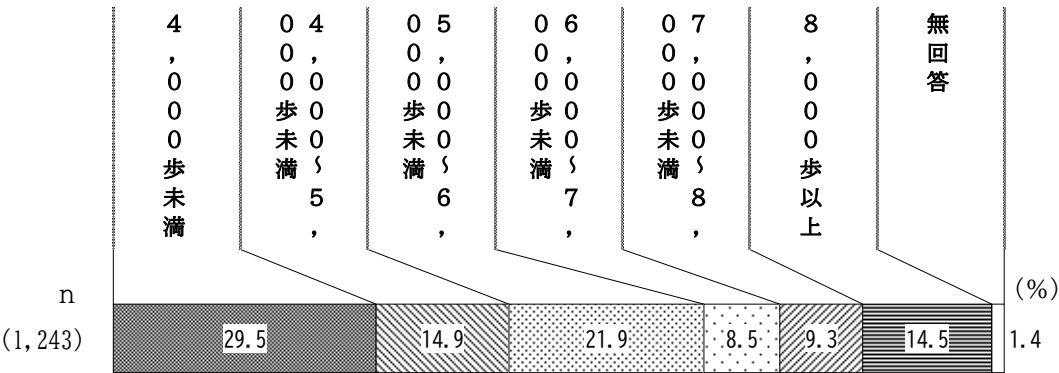
第2部 健康に関するアンケート調査結果



(4) 1日の歩数

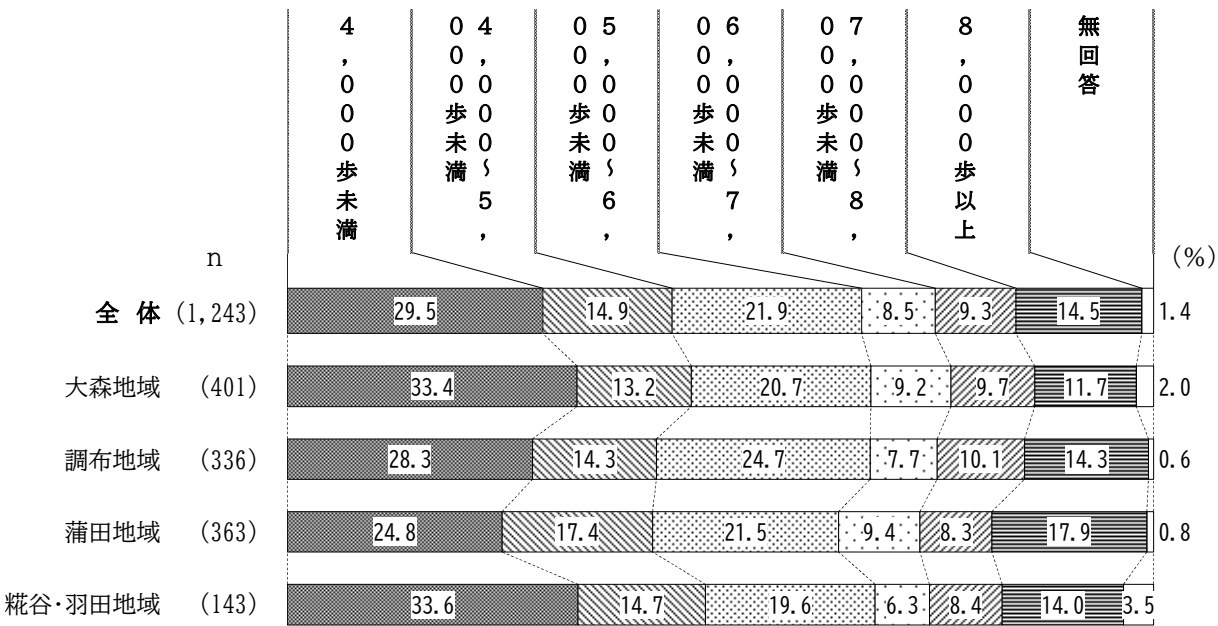
問13 平均すると1日に合計で何歩くらい歩きますか。(10分=1,000歩)(○は1つ)
※運動だけでなく、家事や仕事、犬の散歩等、日常生活における移動も含めます。

1日の歩数は、「4,000歩未満」が29.5%で最も高く、次いで「5,000～6,000歩未満」が21.9%、「4,000～5,000歩未満」が14.9%、「8,000歩以上」が14.5%となっている。



【地域別】

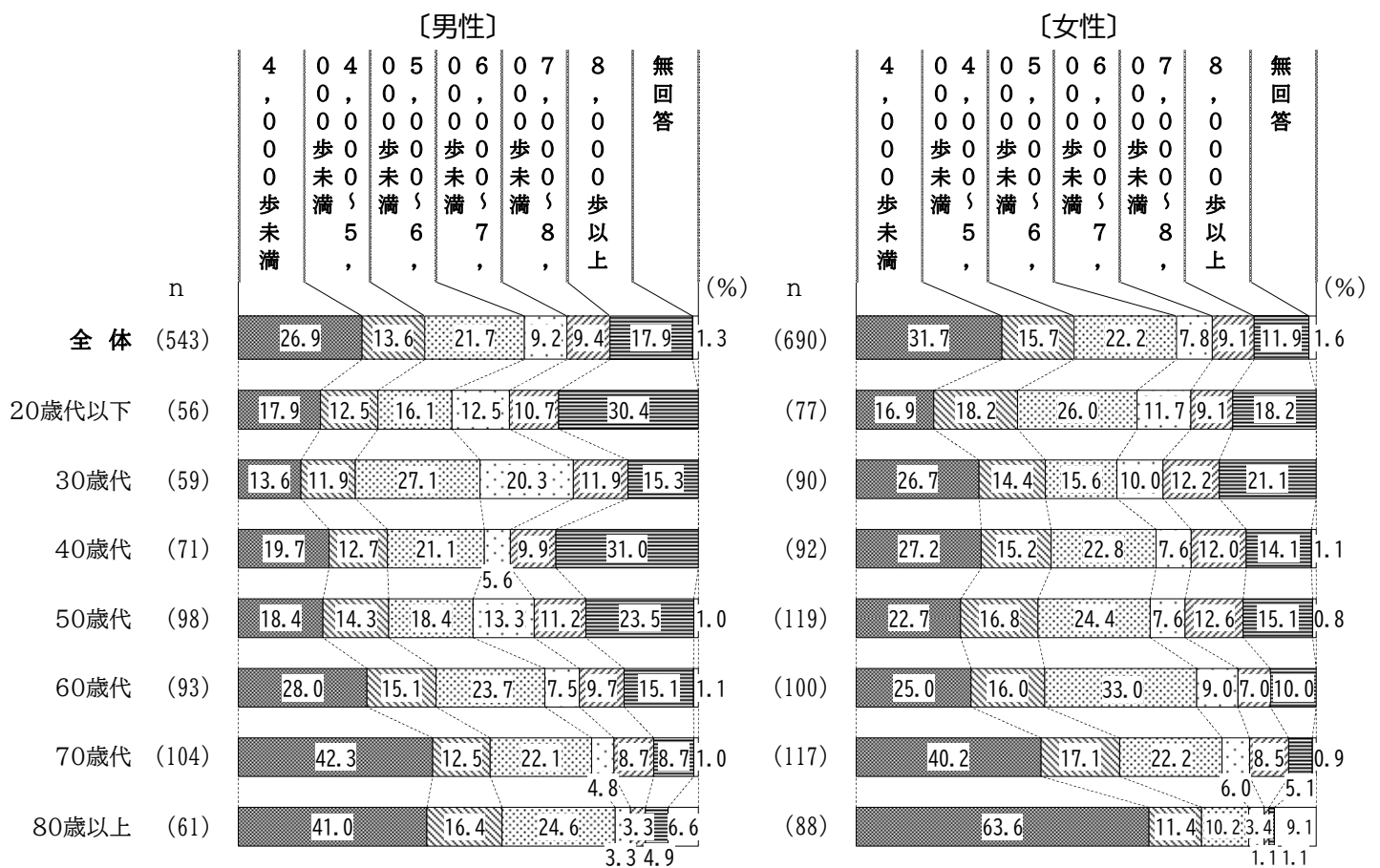
地域別でみると、「8,000歩以上」は蒲田地域で17.9%と最も高く、大森地域で11.7%と最も低くなっている。一方、「4,000歩未満」は糞谷・羽田地域で33.6%と最も高く、大森地域が33.4%と並んでいる。



【性別、性／年代別】

性別でみると、「8,000歩以上」（男性：17.9% 女性：11.9%）は、男性の方が女性よりも6.0ポイント高くなっている。

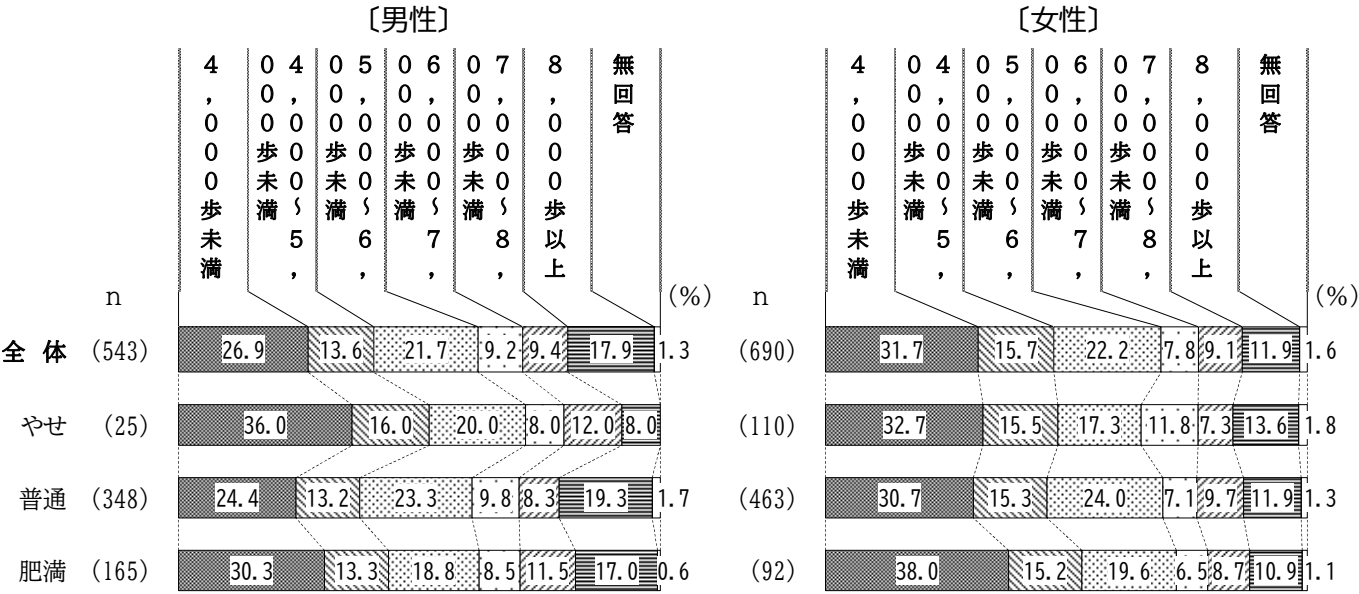
性／年代別でみると、「8,000歩以上」は男性が40歳代で31.0%と高く、20歳代以下で30.4%と並んでおり、女性では30歳代で21.1%と最も高くなっている。一方、「4,000歩未満」は男女ともに70歳代と80歳以上で4割を超えており、特に女性の80歳代で63.6%と最も高くなっている。



【性／BMI別】

性／BMI別でみると、男性では「8,000歩以上」は普通で19.3%と最も高く、やせで8.0%と最も低くなっている。一方、「4,000歩未満」はやせで36.0%と最も高くなっている。

女性では「5,000～6,000歩未満」は普通で24.0%と最も高く、やせで17.3%と最も低くなっている。一方、「4,000歩未満」は肥満で38.0%と最も高くなっている。

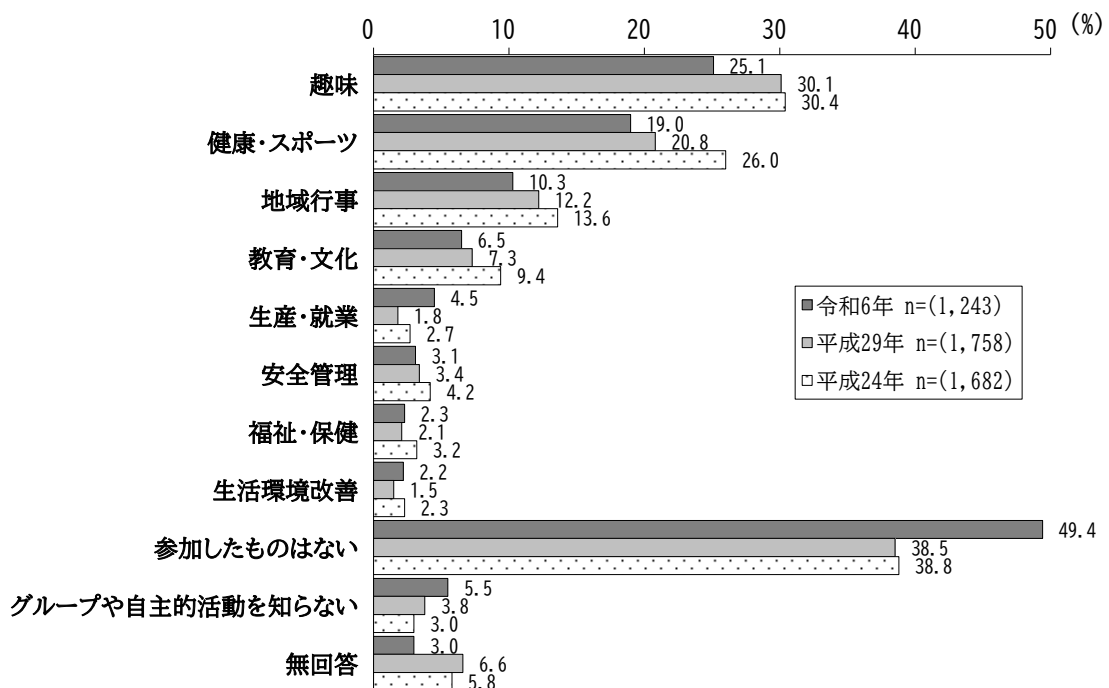


(5) 各種活動への参加状況

問14 あなたは、この1年間に自主的に行われている次のような活動に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)

各種活動への参加状況は、「趣味」が25.1%で最も高く、次いで「健康・スポーツ」が19.0%、「地域行事」が10.3%となっている。一方、「参加したものはなし」が49.4%を占めていた。

時系列で比較すると、「趣味」(令和6年：25.1% 平成29年：30.1% 平成24年：30.4%)が前回調査より5.0ポイント、前々回調査より5.3ポイント減少している。一方、「参加したものはなし」(令和6年：49.4% 平成29年：38.5% 平成24年：38.8%)が前回調査より10.9ポイント、前々回調査より10.6ポイント増加している。

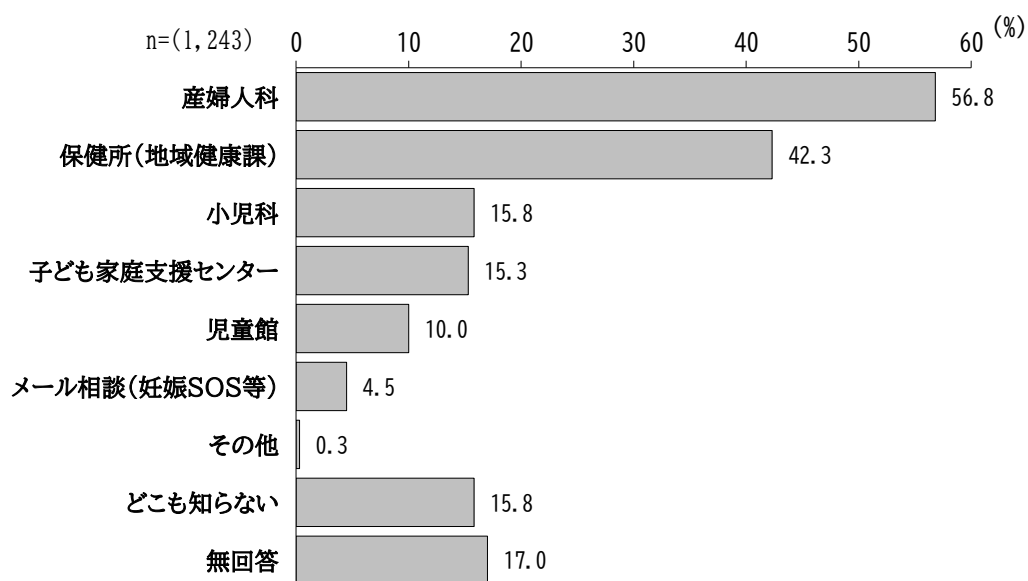


5. 妊娠・出産について

(1) 妊娠・出産に関する相談場所の認知度

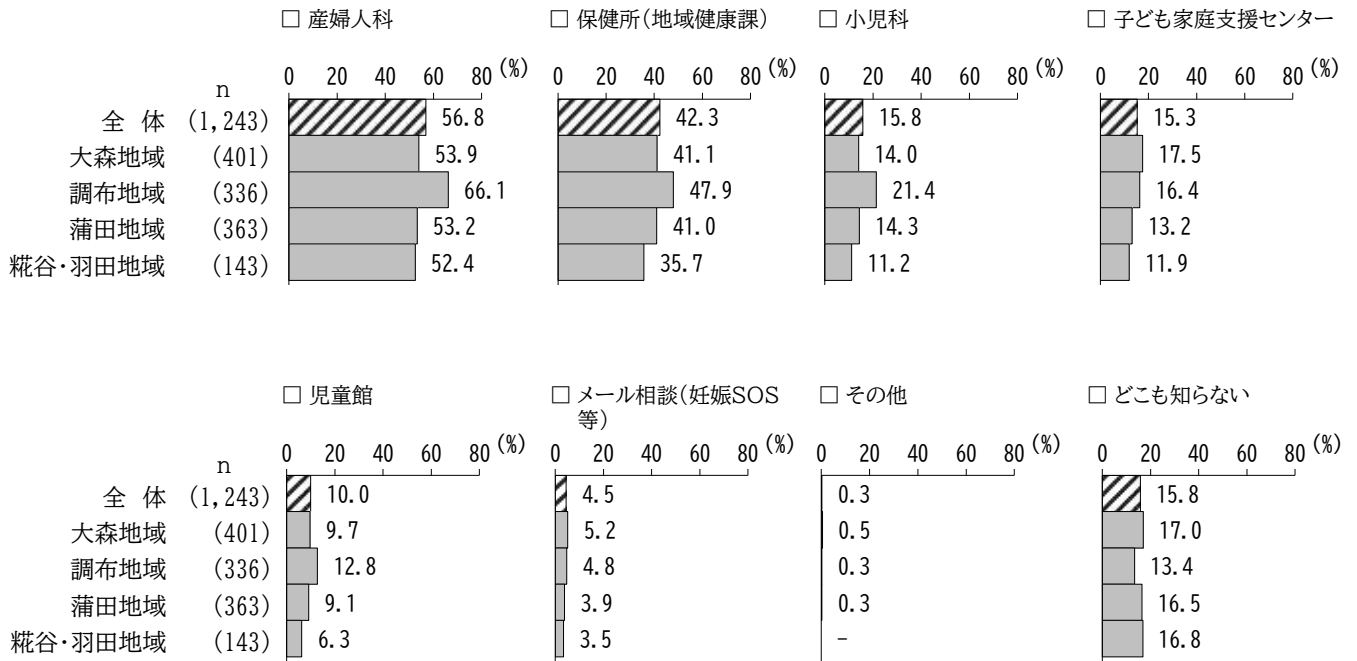
問15 妊娠・出産に関する相談ができる場所について、知っている場所はどこですか。
(〇はいくつでも)

妊娠・出産に関する相談ができる場所の認知状況は、「産婦人科」が56.8%で最も高く、次いで「保健所（地域健康課）」が42.3%、「小児科」が15.8%となっている。一方、「どこも知らない」が15.8%となっている。



【地域別】

地域別でみると、調布地域で「産婦人科」は66.1%、「保健所（地域健康課）」は47.9%、「小児科」は21.4%と他の地域に比べて高くなっている。「子ども家庭支援センター」は大森地域で17.5%と最も高く、調布地域で16.4%と並んでいる。



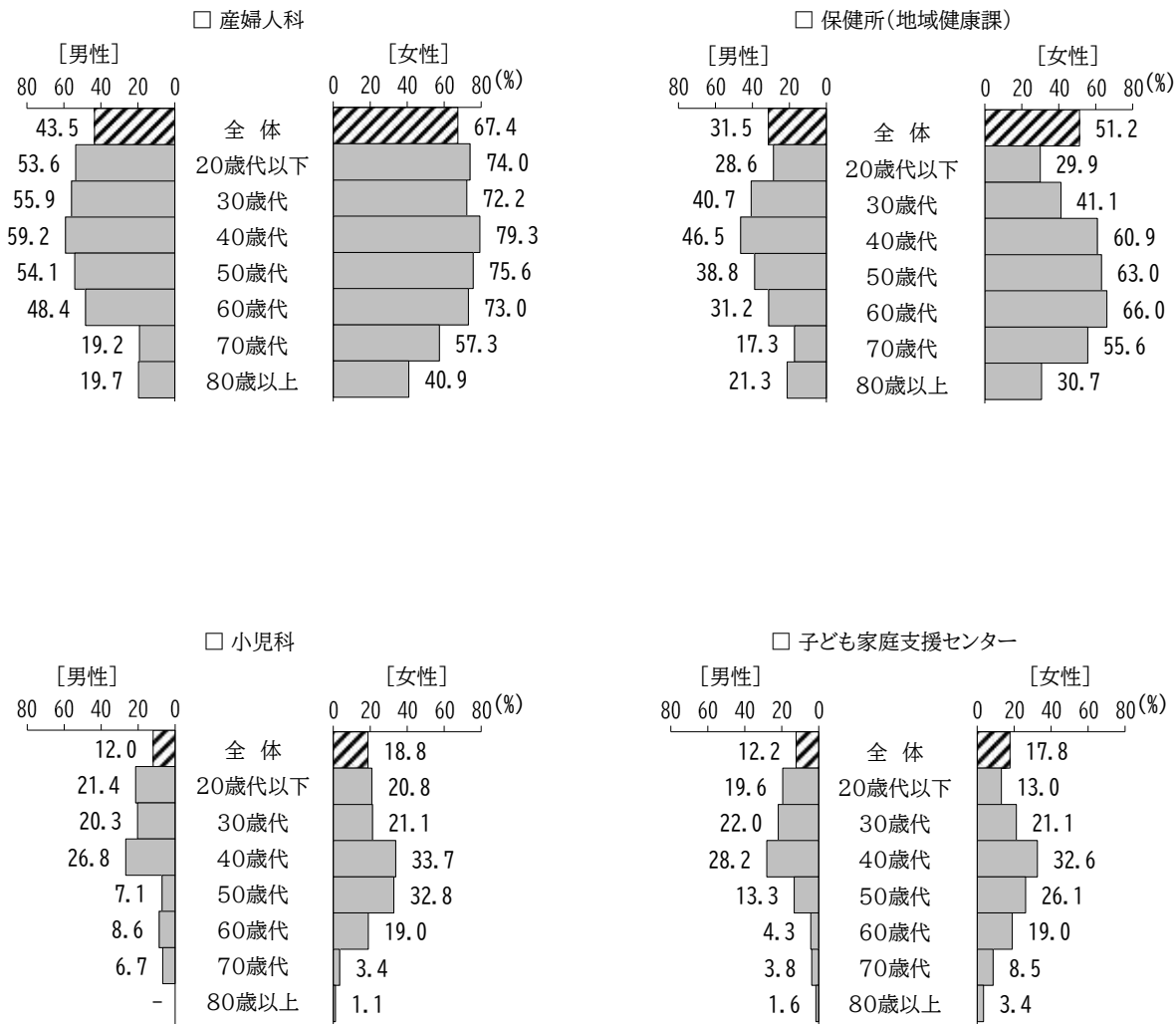
第2部 健康に関するアンケート調査結果

【性別、性／年代別】

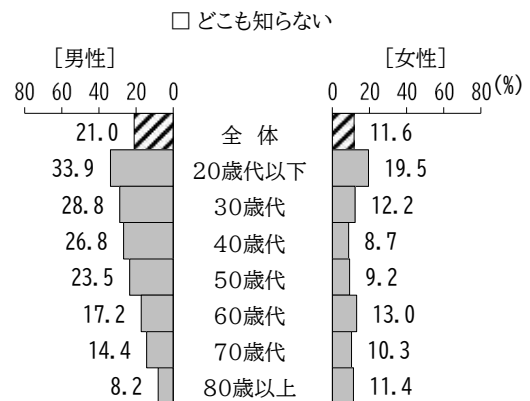
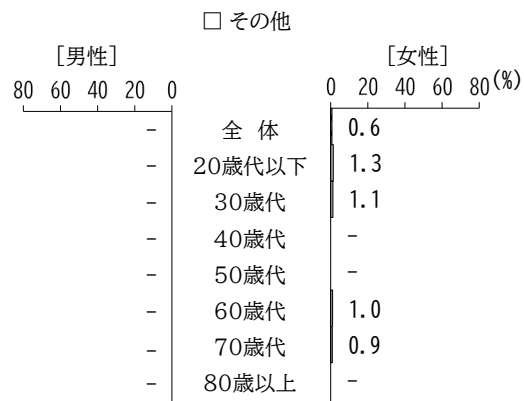
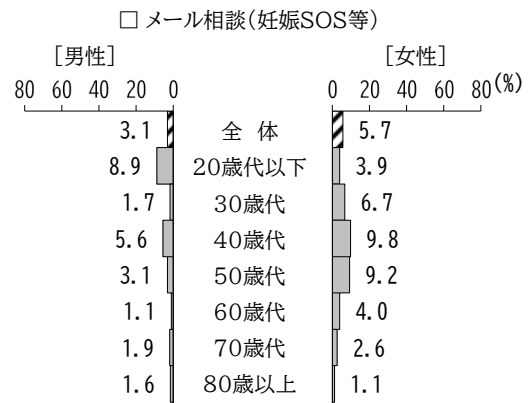
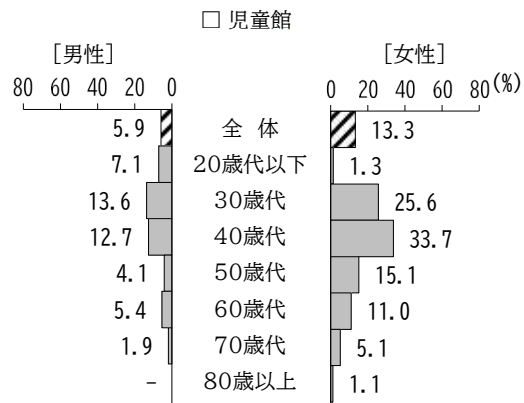
性別でみると、いずれも女性が男性を上回っており、「産婦人科」（男性：43.5％ 女性：67.4％）で23.9ポイント、「保健所（地域健康課）」（男性：31.5％ 女性：51.2％）で19.7ポイント、それぞれ女性の方が男性より高くなっている。一方、「どこも知らない」（男性：21.0％ 女性：11.6％）は男性の方が女性より9.4ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「保健所（地域健康課）」は男性では40歳代で46.5％と高く、70歳代で17.3％と最も低い。女性では60歳代で66.0％と最も高く、20歳代以下で29.9％と最も低くなっている。「子ども家庭支援センター」は男女ともに40歳代（男性：28.2％ 女性：32.6％）で最も高くなっている。一方、「どこも知らない」は女性の20歳代以下で約2割と他の年代に比べて高くなっている。

[男性]	全 体	n=(543)	50歳代	n=(98)	[女性]	全 体	n=(690)	50歳代	n=(119)
	20歳代以下	n=(56)	60歳代	n=(93)		20歳代以下	n=(77)	60歳代	n=(100)
	30歳代	n=(59)	70歳代	n=(104)		30歳代	n=(90)	70歳代	n=(117)
	40歳代	n=(71)	80歳以上	n=(61)		40歳代	n=(92)	80歳以上	n=(88)



第2部 健康に関するアンケート調査結果

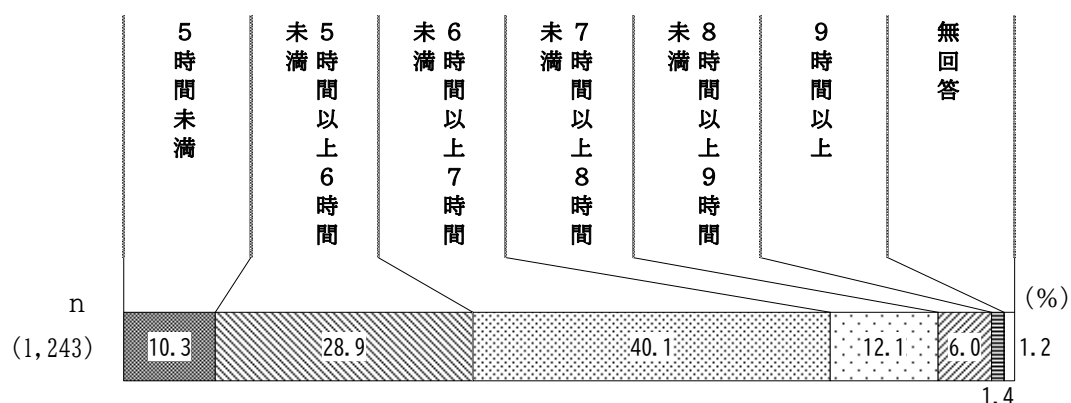


6. こころの健康について

(1) 1日の平均睡眠時間

問16 ここ1か月間、あなたの1日の平均睡眠時間は、どれくらいですか。(○は1つ)

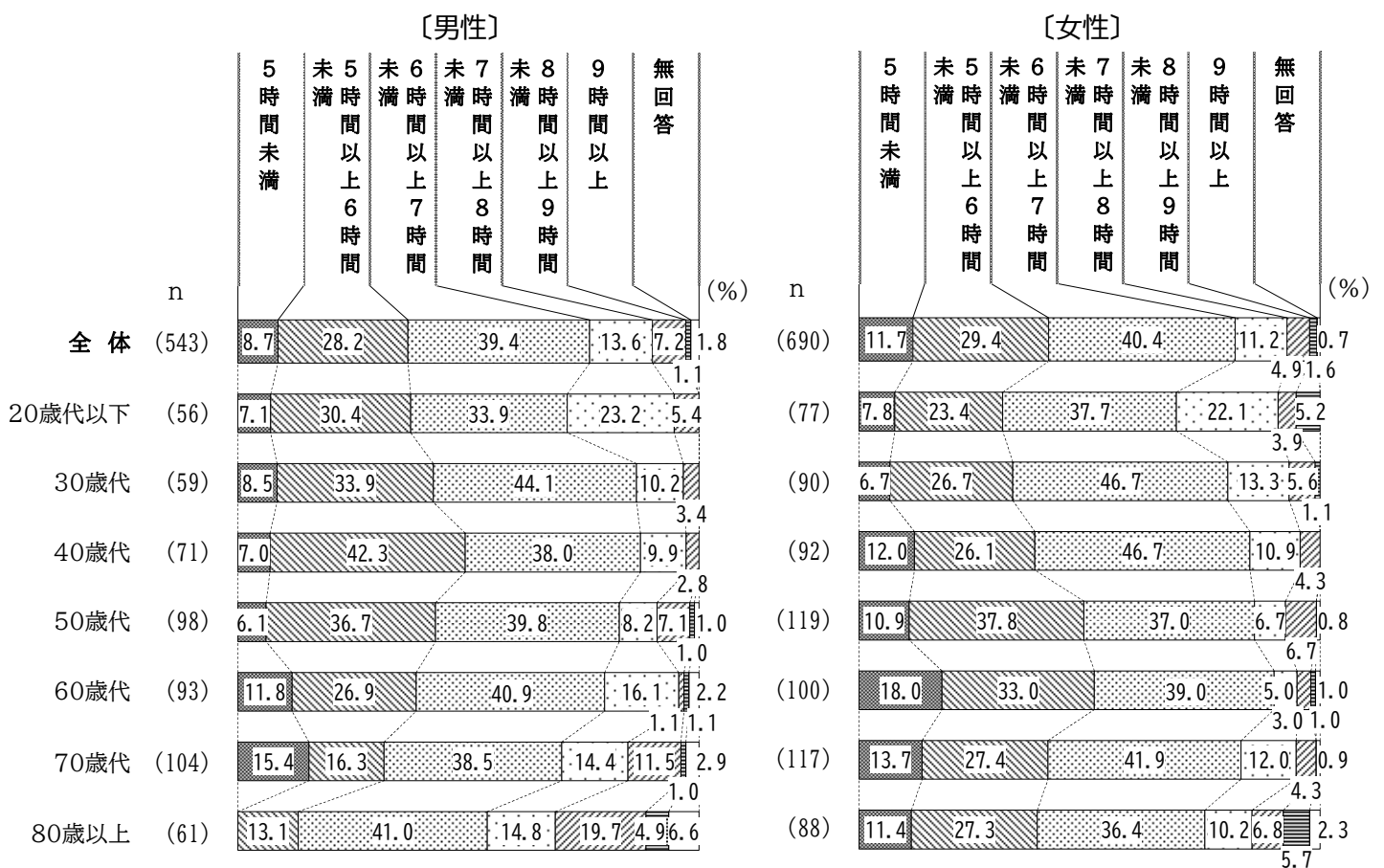
1日の平均睡眠時間は、「6時間以上7時間未満」が40.1%で最も高く、次いで「5時間以上6時間未満」が28.9%、「7時間以上8時間未満」が12.1%、「5時間未満」が10.3%となっている。



【性別、性／年代別】

性別でみると、特に大きな違いはみられない。

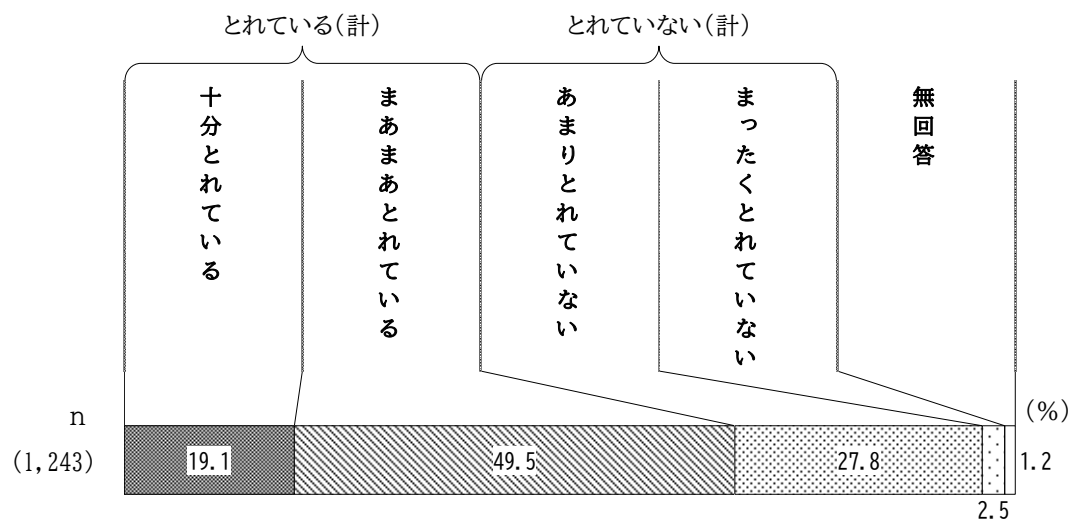
性／年代別でみると、「6時間以上7時間未満」は女性が30歳代と40歳代で46.7%と高く、男性でも30歳代で44.1%と他の年代に比べて高くなっている。「5時間以上6時間未満」は男性が40歳代で42.3%と最も高くなっている。また、「7時間以上8時間未満」は男女ともに20歳代以下（男性：23.2% 女性：22.1%）で最も高くなっている一方、男性30歳代～50歳代で1割前後、女性50歳代～60歳代で1割未満となっている。



(2) 睡眠による休養の状況

問17 ここ1か月間、あなたは睡眠で休養が十分に取れていますか。(○は1つ)

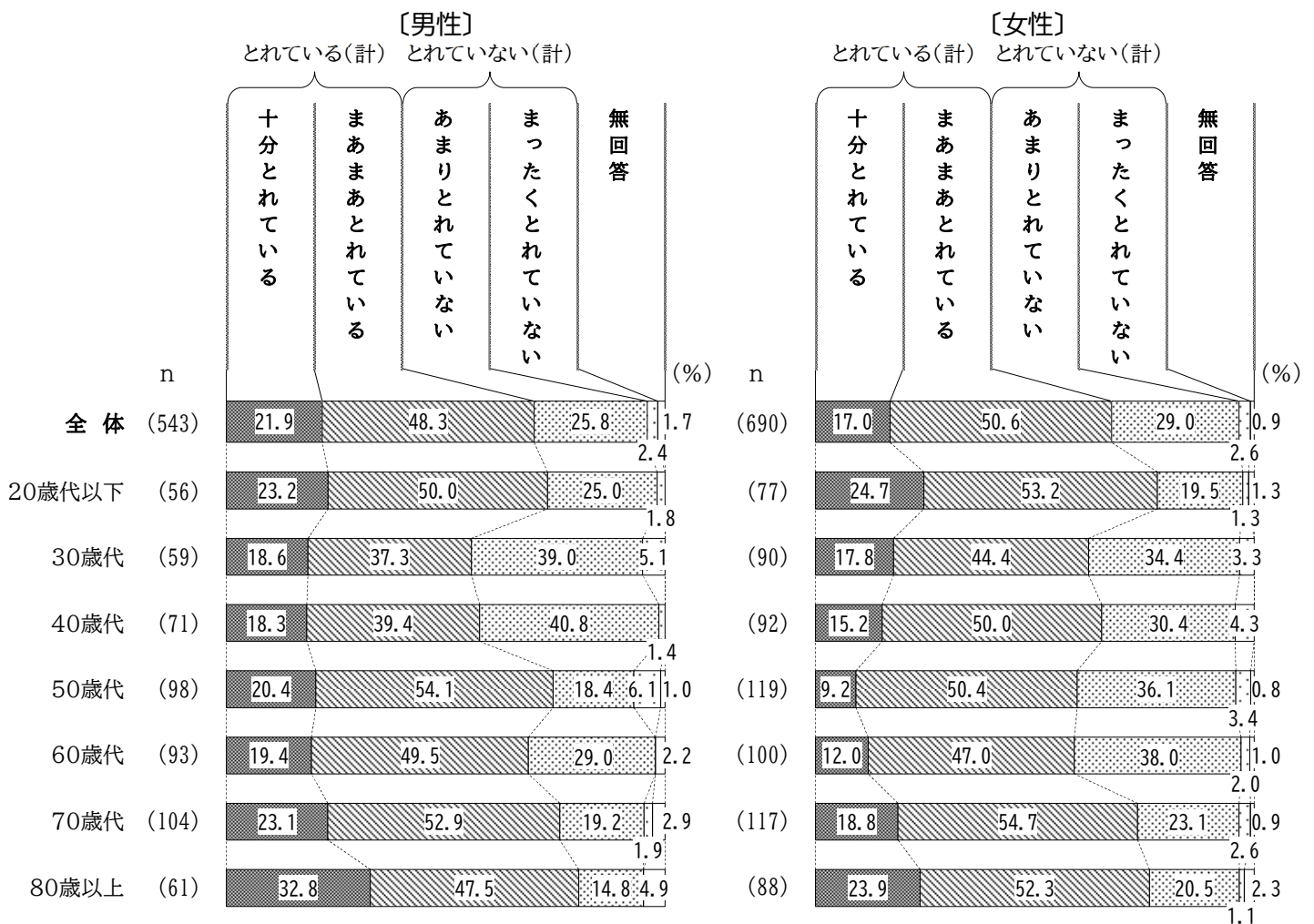
睡眠による休養の状況は、「十分とれている」(19.1%)と「まあまあとれている」(49.5%)を合わせて、《とれている(計)》は68.6%となっている。一方「あまりとれていない」(27.8%)と「まったくとれていない」(2.5%)を合わせて、《とれていない(計)》は30.3%となっている。



【性別、性／年代別】

性別でみると、「十分とれている」（男性：21.9% 女性：17.0%）は、男性の方が女性よりも4.9ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「<<とっている（計）>>」は男性では80歳以上で80.3%と最も高く、30歳代で55.9%、40歳代で57.7%と低くなっている。一方、「<<とれていない（計）>>」は男性の30歳代で44.1%と最も高く、40歳代で42.2%と並んでおり、女性では60歳代で40.0%と最も高く、50歳代で39.5%と並んでいる。



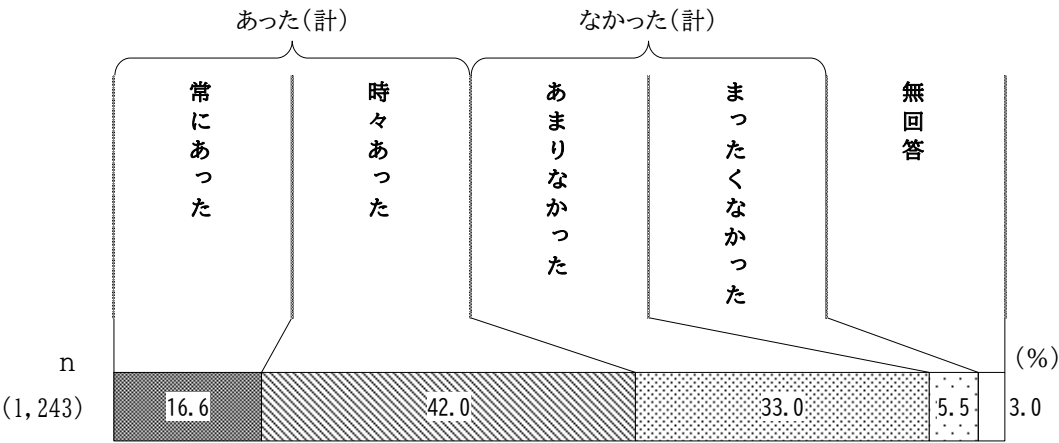
(3) ストレスの状況

問18 あなたは最近1か月間に（不満、悩み、苦労などによる）ストレスを感じたことがありますか。（○は1つ）

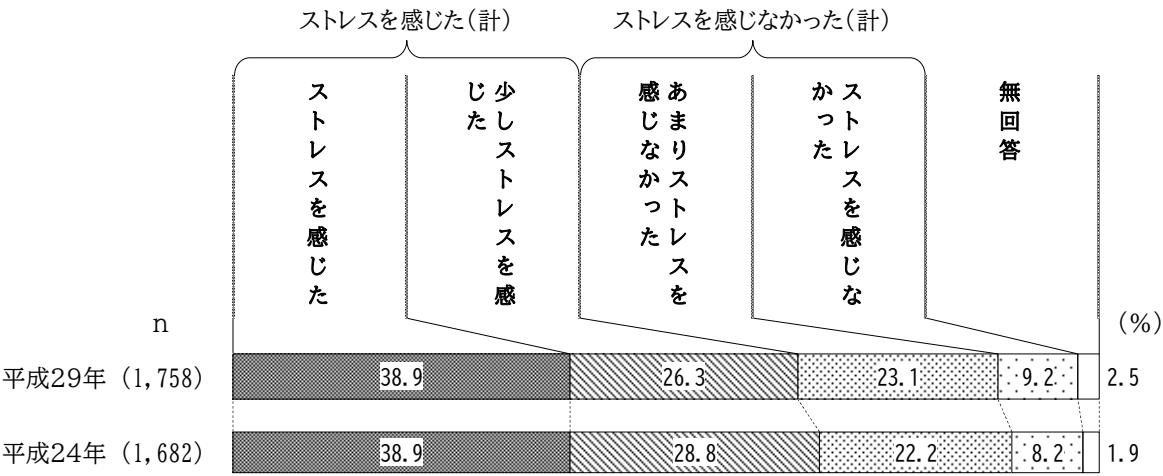
ストレスの状況は、「常にあった」（16.6％）と「時々あった」（42.0％）を合わせて、《あった（計）》は58.6％となっている。

一方「あまりなかった」（33.0％）と「まったくなかった」（5.5％）を合わせて、《なかった（計）》は38.5％となっている。

参考までに時系列で比較すると、今回調査の《あった（計）》が58.6％、前回調査、前々回調査の「ストレスを感じた」（平成29年：38.9％ 平成24年：38.9％）と「少しストレスを感じた」（平成29年：26.3％ 平成24年：28.8％）を合わせて、《ストレスを感じた（計）》は平成29年が65.2％、平成24年が67.7％となっているため、前回調査から6.6ポイント、前々回調査から9.1ポイント減少している。



【参考：経年比較】

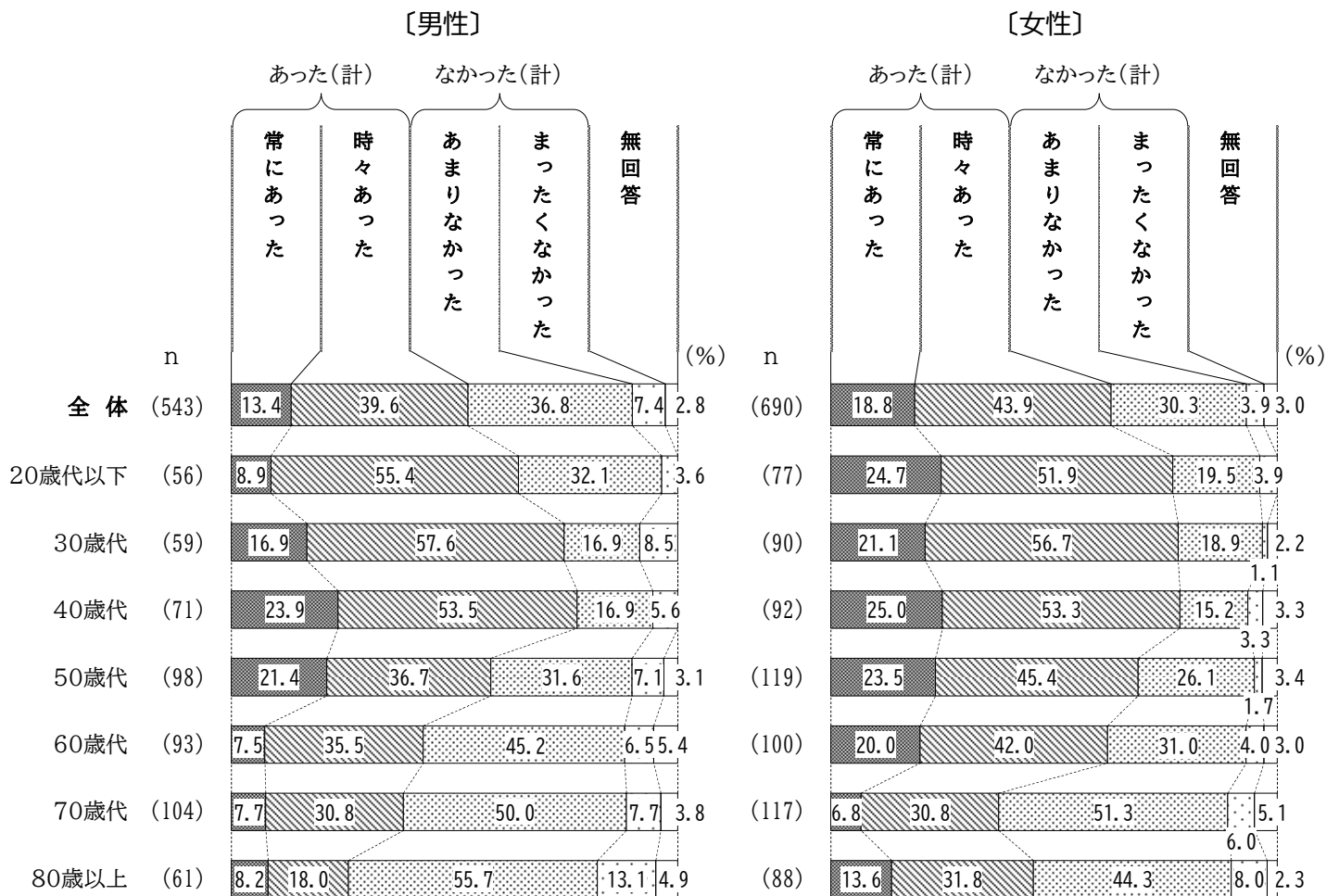


※今回調査より、選択肢「ストレスを感じた」は「常にあった」、「少しストレスを感じた」は「時々あった」、「あまりストレスを感じなかった」は「あまりなかった」、「ストレスを感じなかった」は「まったくなかった」と表記を変更している。

【性別、性／年代別】

性別でみると、「常にあった」（男性：13.4% 女性：18.8%）は、女性の方が男性よりも5.4ポイント高くなっており、「あった（計）」（男性：53.0% 女性：62.7%）は、女性の方が男性より9.7ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「あった（計）」は男性では40歳代で77.4%、30歳代で74.5%と他の年代に比べて高くなっている。また、女性では40歳代で78.3%と最も高く、30歳代で77.8%、20歳代以下で76.6%と並んでいる。一方、「なかった（計）」は男性の80歳以上で68.8%と最も高く、男性では60歳以上、女性では70歳以上でいずれも5割を超えている。



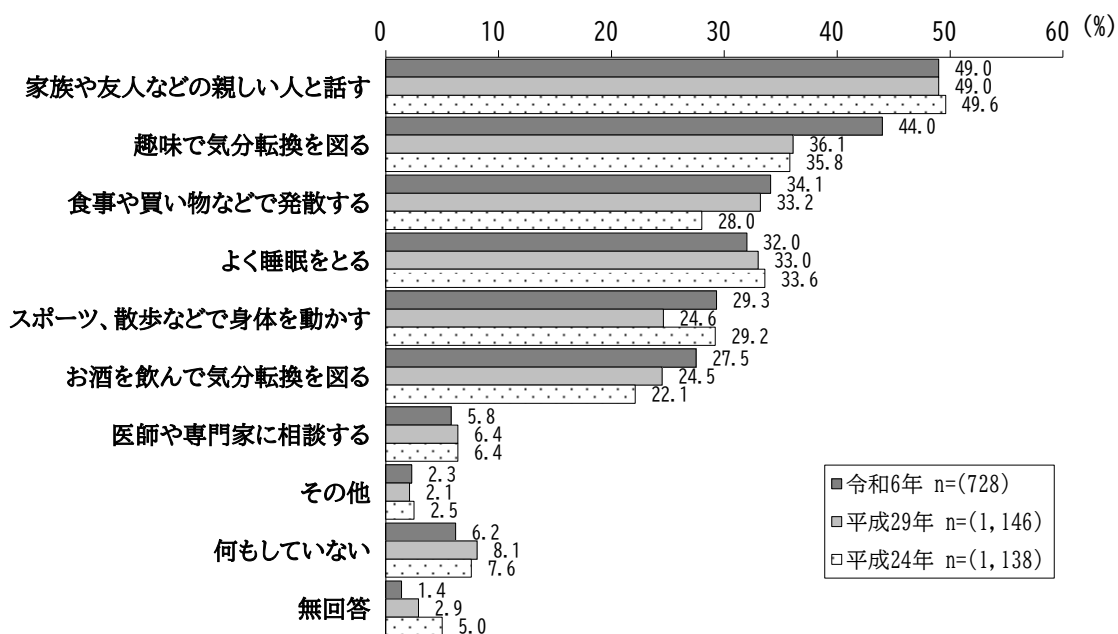
(4) ストレスの解消方法

(問18で「常にあった」または「時々あった」と回答した方におたずねします。)

問18-1 ストレスを解消するために意識的に何かしていますか。(〇はいくつでも)

ストレスの状況で「あった(計)」と回答した方にストレスの解消方法をたずねた。その結果、「家族や友人などの親しい人と話す」が49.0%で最も高く、次いで「趣味で気分転換を図る」が44.0%、「食事や買い物などで発散する」が34.1%、「よく睡眠をとる」が32.0%となっている。

時系列で比較すると、「趣味で気分転換を図る」(令和6年：44.0% 平成29年：36.1% 平成24年：35.8%)が前回調査より7.9ポイント、前々回調査より8.2ポイント増加している。「食事や買い物などで発散する」(令和6年：34.1% 平成29年：33.2% 平成24年：28.0%)が前々回調査より6.1ポイント増加している。



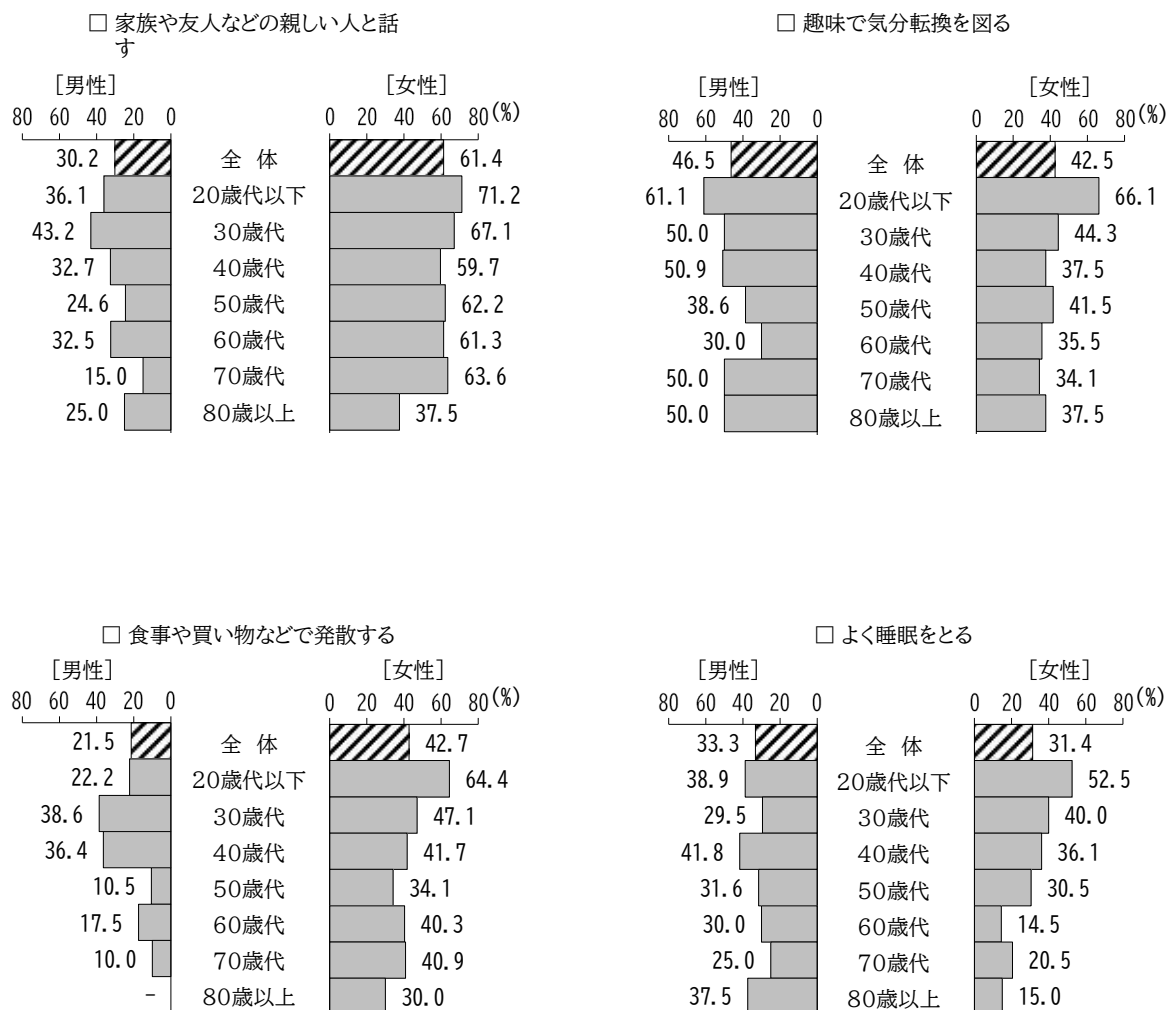
【性別、性／年代別】

性別でみると、「スポーツ、散歩などで身体を動かす」（男性：39.2% 女性：22.9%）で16.3ポイント、「お酒を飲んで気分転換を図る」（男性：36.5% 女性：21.5%）で15.0ポイント、それぞれ男性の方が女性よりもポイントが高くなっている。

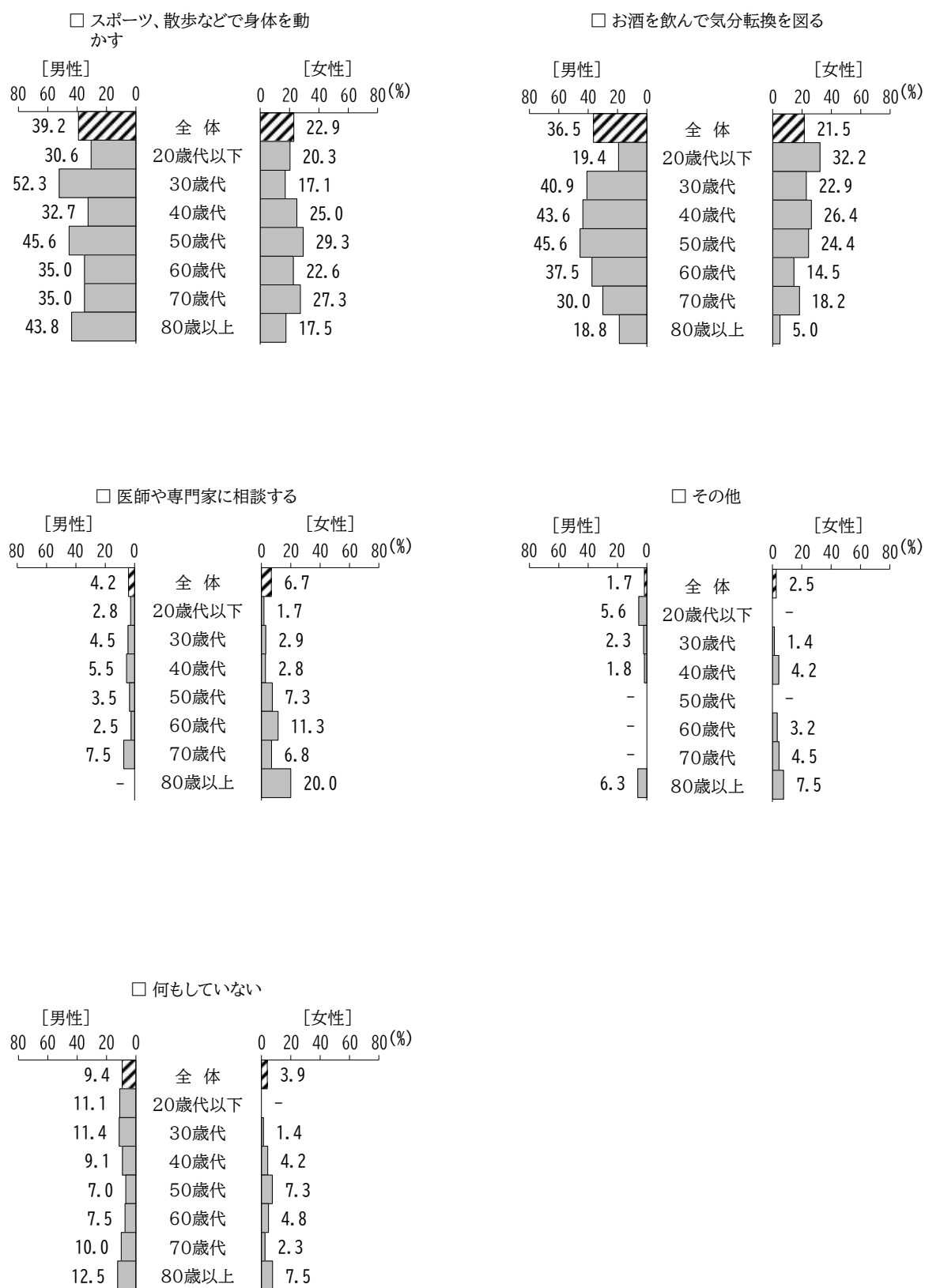
一方、「家族や友人などの親しい人と話す」（男性：30.2% 女性：61.4%）で31.2ポイント、「食事や買い物などで発散する」（男性：21.5% 女性：42.7%）で21.2ポイント、それぞれ女性の方が男性よりもポイントが高くなっている。

性／年代別でみると、「家族や友人などの親しい人と話す」は男性では30歳代が43.2%で最も高く、50歳代で24.6%、70歳代で15.0%と低くなっている。「趣味で気分転換を図る」は男女ともに20歳代（男性：61.1% 女性：66.1%）で最も高くなっている一方、男性で50歳代～60歳代が3割と他の年代に比べて低くなっている。また、女性の20歳代以下で「食事や買い物などで発散する」が64.4%、「よく睡眠をとる」が52.5%、「お酒を飲んで気分転換を図る」が32.2%と最も高くなっている。

[男性]	全 体	n=(288)	50歳代	n=(57)	[女性]	全 体	n=(433)	50歳代	n=(82)
	20歳代以下	n=(36)	60歳代	n=(40)		20歳代以下	n=(59)	60歳代	n=(62)
	30歳代	n=(44)	70歳代	n=(40)		30歳代	n=(70)	70歳代	n=(44)
	40歳代	n=(55)	80歳以上	n=(16)		40歳代	n=(72)	80歳以上	n=(40)



第2部 健康に関するアンケート調査結果

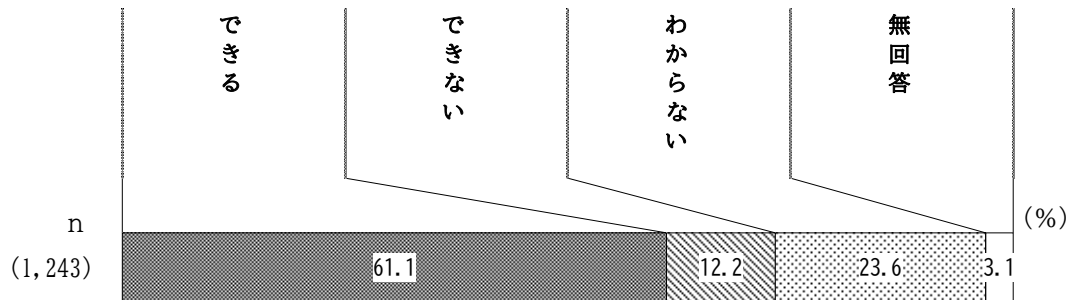


(5) こころが不調な時に相談できる人の有無

問19 あなたはストレス等が長引いてこころが不調なとき、だれかに相談できますか。

(○は1つ)

こころが不調な時に相談できる人の有無は、「できる」が61.1%、「できない」が12.2%、「わからない」が23.6%となっている。



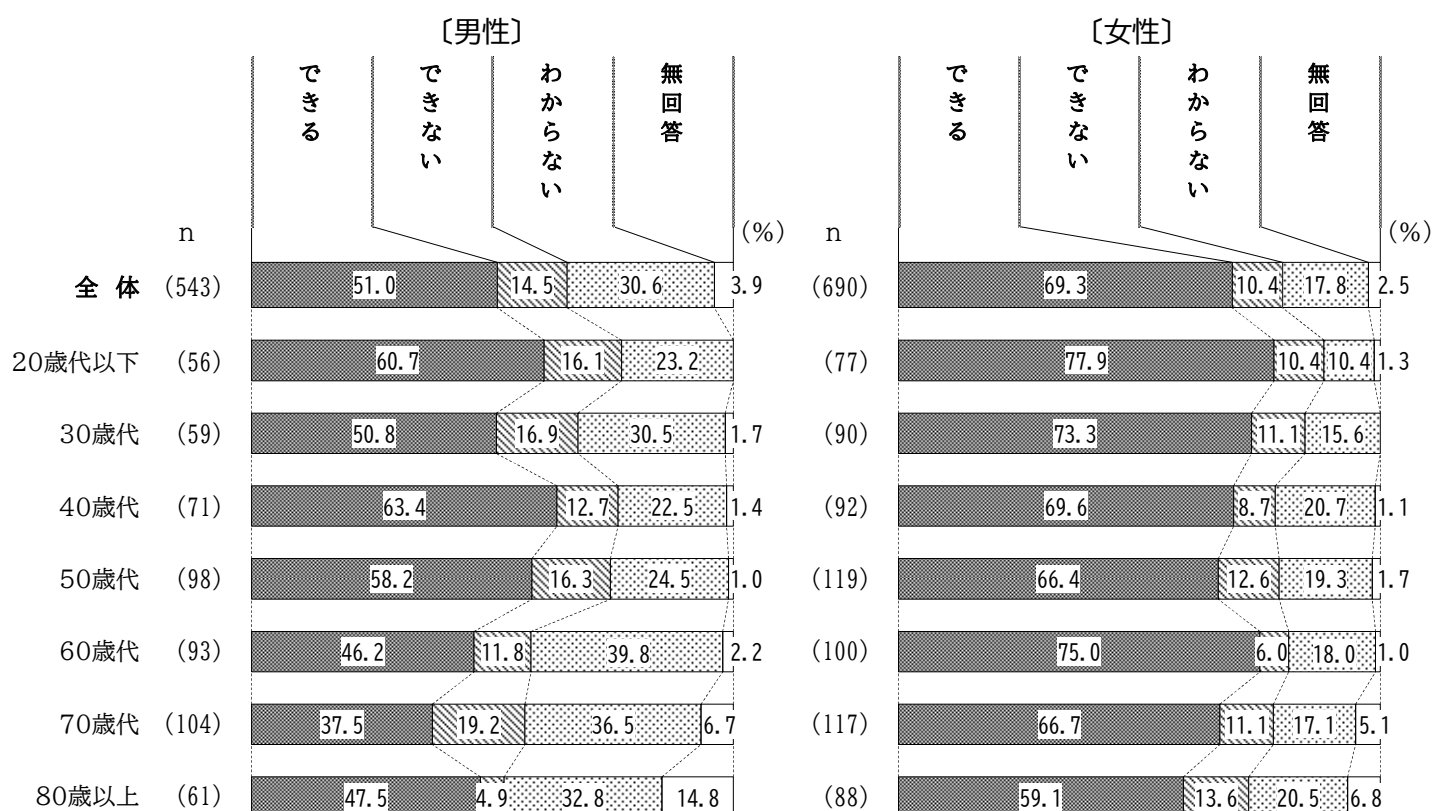
第2部 健康に関するアンケート調査結果

【性別、性／年代別】

性別でみると、「できる」（男性：51.0% 女性：69.3%）は、女性の方が男性よりも18.3ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、男性では、「できる」は20歳代以下～50歳代で5割台から6割を超えているが、70歳代は37.5%にとどまっている。

女性では、「できる」はすべての年代で5割を超えており、20歳代以下で77.9%と最も高く、次いで60歳代で75.0%、30歳代で73.3%となっている。

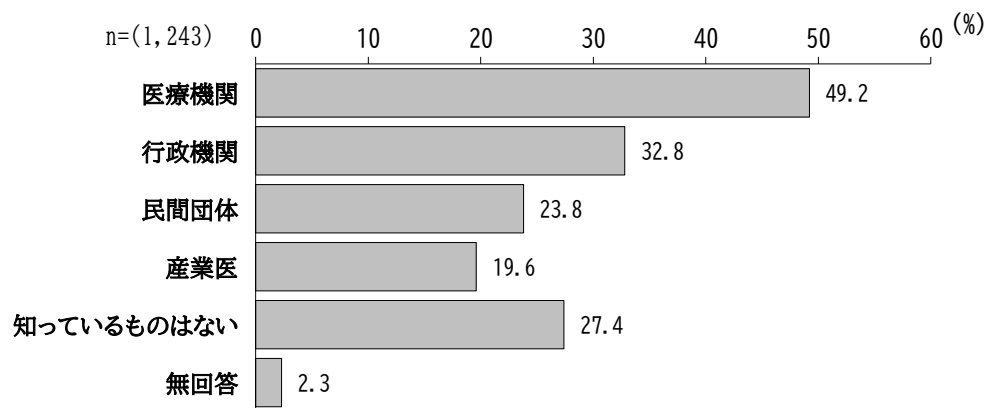


7. 自殺対策について

(1) こころの健康や自殺に関する相談先

問20 こころの健康や自殺に関する相談先について知っているものはどれですか。
(○はいくつでも)

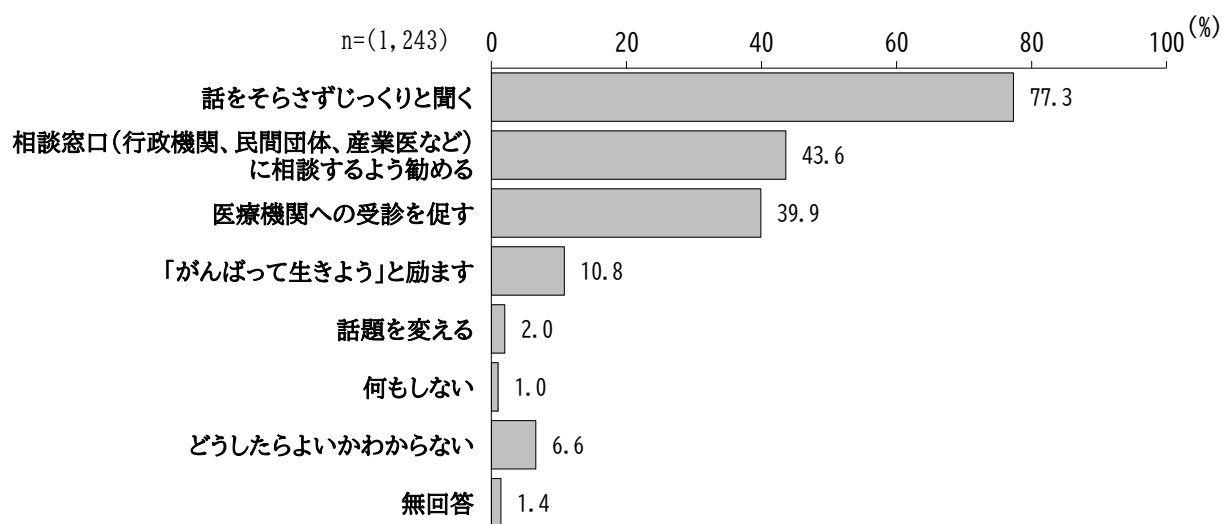
こころの健康や自殺に関する相談先は、「医療機関」が49.2%で最も高く、次いで「行政機関」が32.8%、「民間団体」が23.8%となっている。一方、「知っているものはない」が27.4%となっている。



(2)「死にたい」と打ち明けられた場合の対処法

問21 身近な人から「死にたい」と打ち明けられた場合、適切だと思う対応は次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

「死にたい」と打ち明けられた場合の対処法は、「話をそらさずじっくりと聞く」が77.3%で最も高く、次いで「相談窓口（行政機関、民間団体、産業医など）に相談するよう勧める」が43.6%、「医療機関への受診を促す」が39.9%となっている。



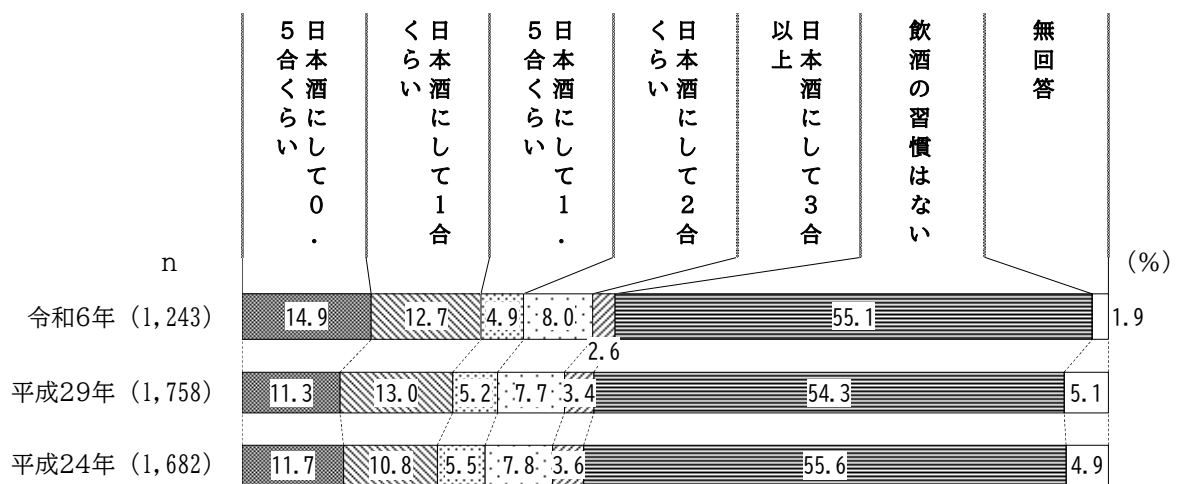
8. アルコール・たばこについて

(1) 1日あたりの飲酒量

問22 あなたは1日あたりどのくらいのお酒を飲みますか。(○は1つ)

1日あたりの飲酒量は、「日本酒にして0.5合くらい」が14.9%、「日本酒にして1合くらい」が12.7%、「日本酒にして2合くらい」が8.0%となっている。一方、「飲酒の習慣はない」が55.1%を占めている。

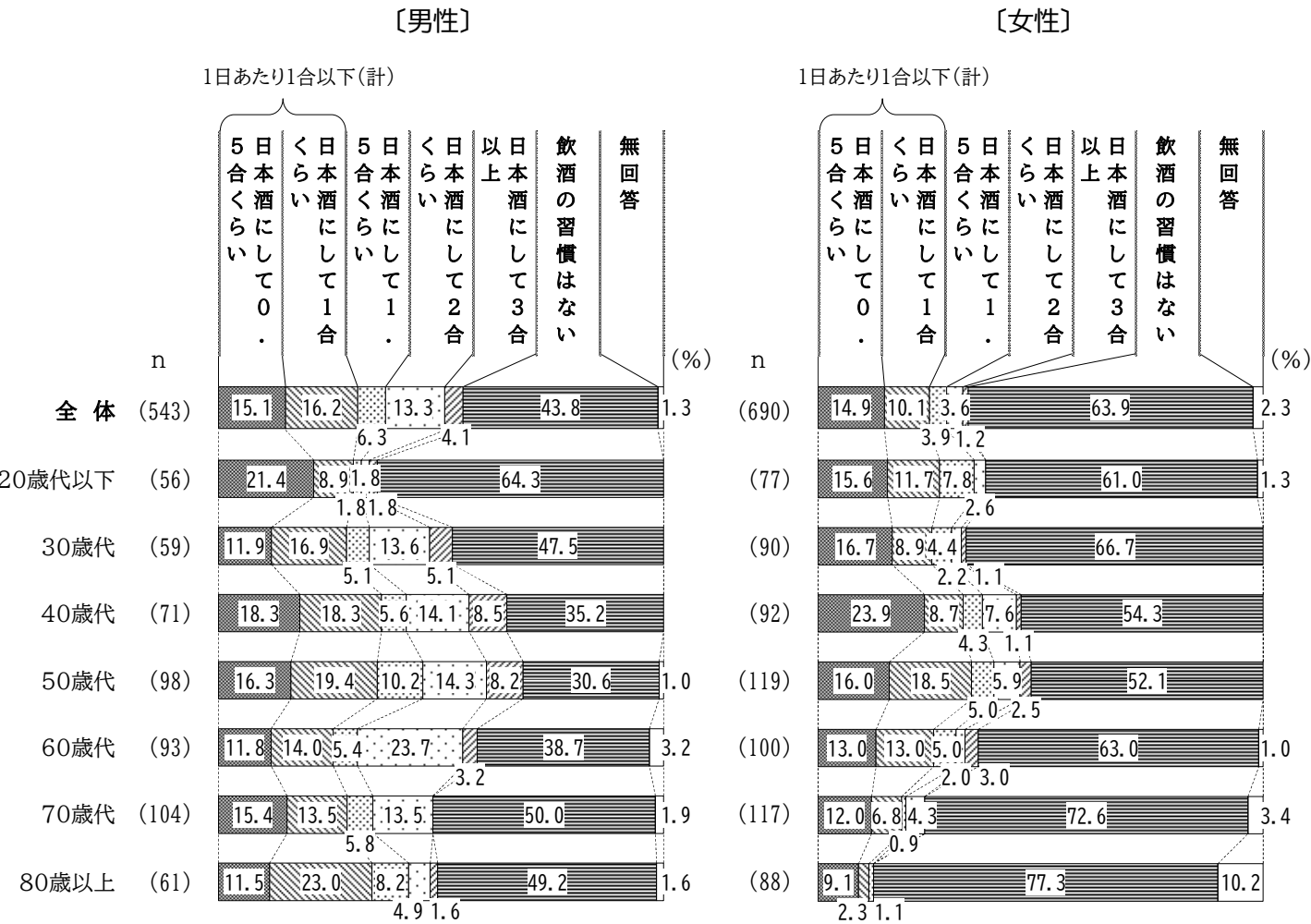
時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。



【性別、性／年代別】

性別でみると、≪1日あたり1合以下(計)≫(男性：31.3% 女性：25.0%)は、男性の方が女性よりも6.3ポイント高くなっている。また、「日本酒にして2合くらい」(男性：13.3% 女性：3.6%)も、男性の方が女性よりも9.7ポイント高くなっている。一方、「飲酒の習慣はない」(男性：43.8% 女性：63.9%)は、女性の方が男性よりも20.1ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、≪1日あたり1合以下(計)≫は男性の40歳代で36.6%と最も高く、次いで50歳代で35.7%と並び、女性では50歳代で34.5%と最も高く、次いで40歳代で32.6%と並んでいる。「日本酒にして2合くらい」は男性が60歳代で23.7%と最も高くなっている。一方、「飲酒の習慣はない」は男性の20歳代以下で64.3%と最も高く、50歳代で30.6%と最も低くなっている。女性ではすべての年代で5割を超えており、80歳以上で77.3%と最も高く、70歳代で72.6%と並んでいる。



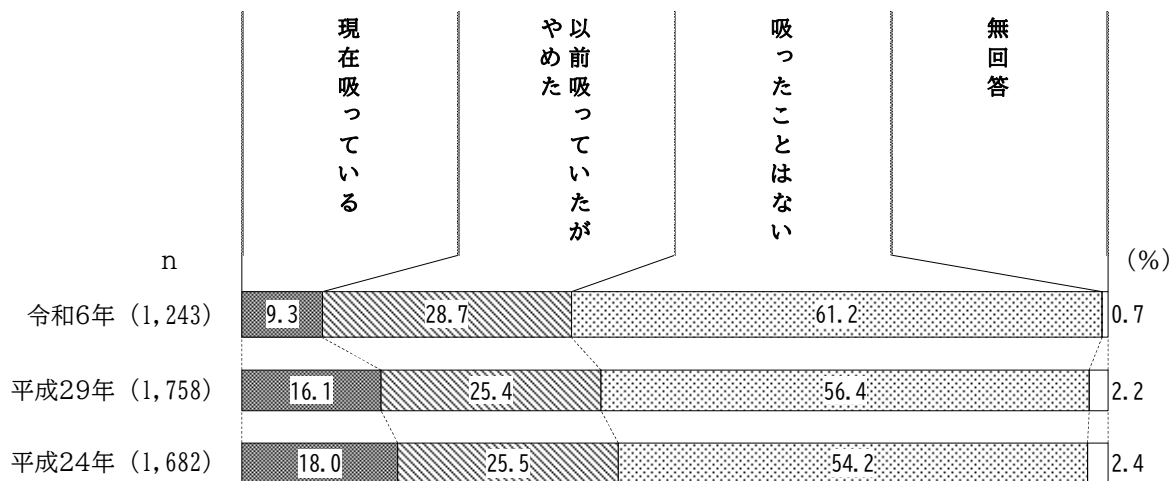
(2) 喫煙状況

問23 あなたはたばこを吸っていますか。

※電子タバコ、加熱式タバコを含めます。(○は1つ)

喫煙状況は、「現在吸っている」が9.3%、「以前吸っていたがやめた」が28.7%、「吸ったことはない」が61.2%となっている。

時系列で比較すると、「現在吸っている」(令和6年：9.3% 平成29年：16.1% 平成24年：18.0%)が前回調査より6.8ポイント、前々回調査より8.7ポイント減少している。一方、「吸ったことはない」(令和6年：61.2% 平成29年：56.4% 平成24年：54.2%)が前回調査より4.8ポイント、前々回調査より7.0ポイント増加している。

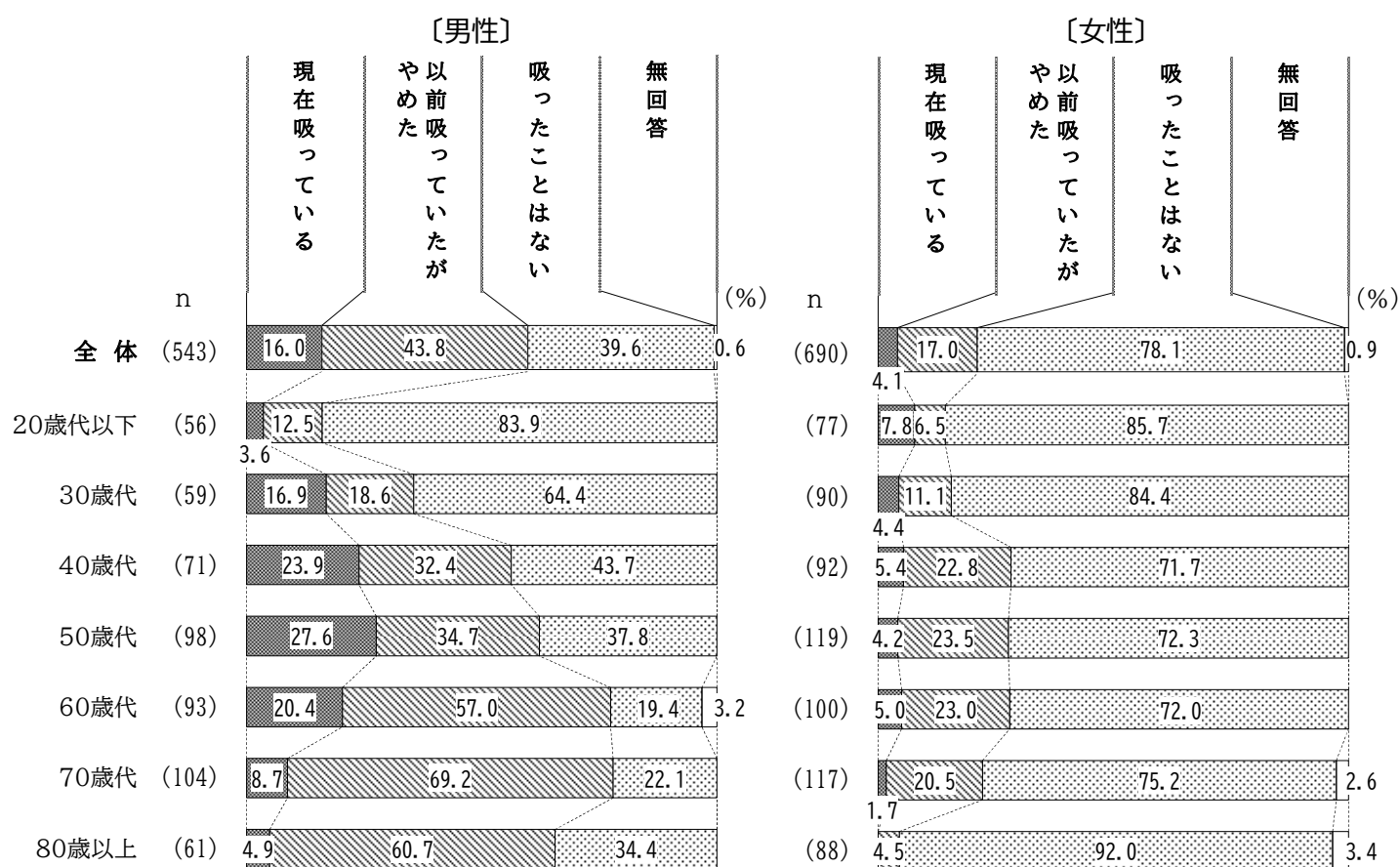


【性別、性／年代別】

性別でみると、「現在吸っている」（男性：16.0% 女性：4.1%）は、男性の方が女性よりも11.9ポイント高くなっている。また、「以前吸っていたがやめた」（男性：43.8% 女性：17.0%）でも、男性は26.8ポイント上回る。一方、「吸ったことはない」（男性：39.6% 女性：78.1%）は、女性の方が男性よりも38.5ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、男性では、「現在吸っている」は50歳代で27.6%と最も高く、次いで40歳代で23.9%となっている。「吸ったことはない」は20歳代以下で83.9%と最も高く、30歳代で64.4%となっている。

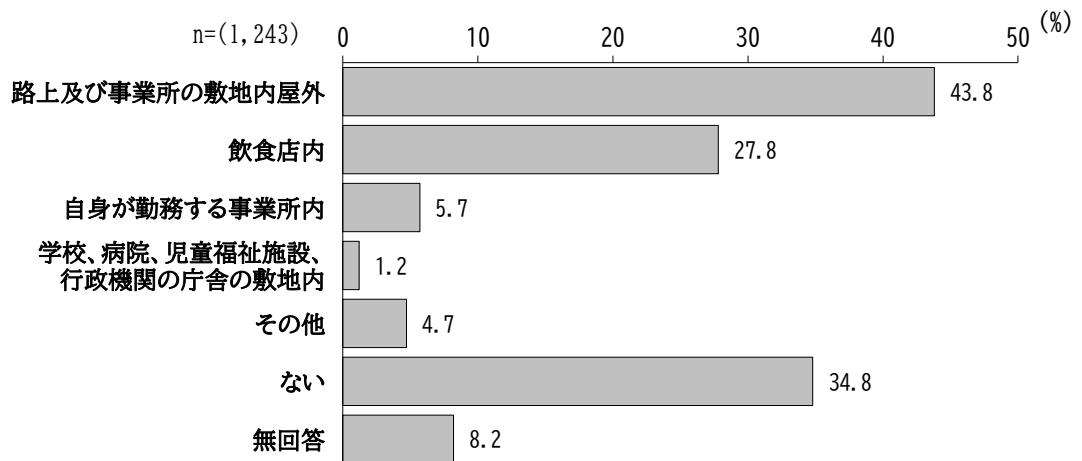
女性では、「以前吸っていたがやめた」は40歳代～70歳代で2割台となっている。また、「吸ったことはない」は80歳以上で92.0%と最も高く、次いで20歳代以下で85.7%、30歳代で84.4%となっている。



(3) 受動喫煙の経験場所

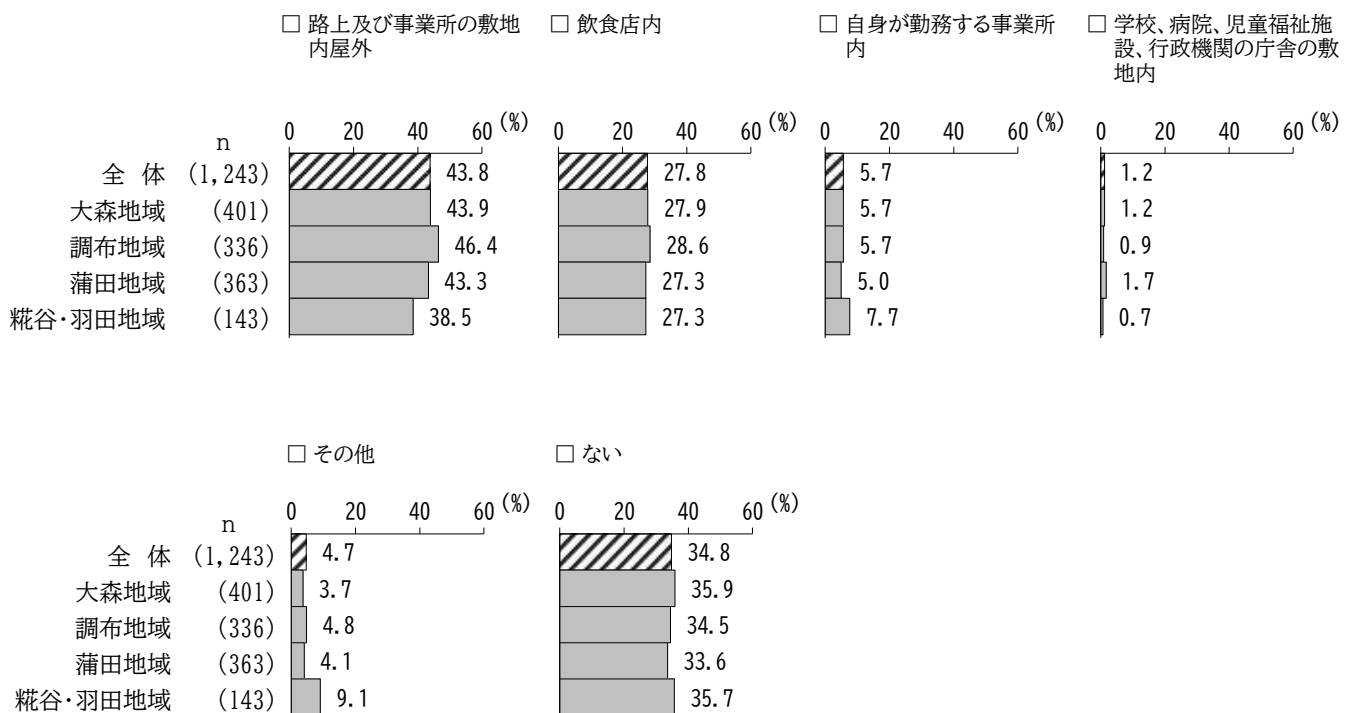
問24 1年以内に、受動喫煙を経験された場所があれば教えてください。(○はいくつでも)

受動喫煙の経験場所は、「路上及び事業所の敷地内屋外」が43.8%で最も高く、次いで「飲食店内」が27.8%、「自身が勤務する事業所内」が5.7%となっている。一方、「ない」が34.8%となっている。



【地域別】

地域別でみると、「路上及び事業所の敷地内屋外」は大森地域、調布地域、蒲田地域で4割台となっている一方、糀谷・羽田地域で38.5%と他の地域に比べて低くなっている。

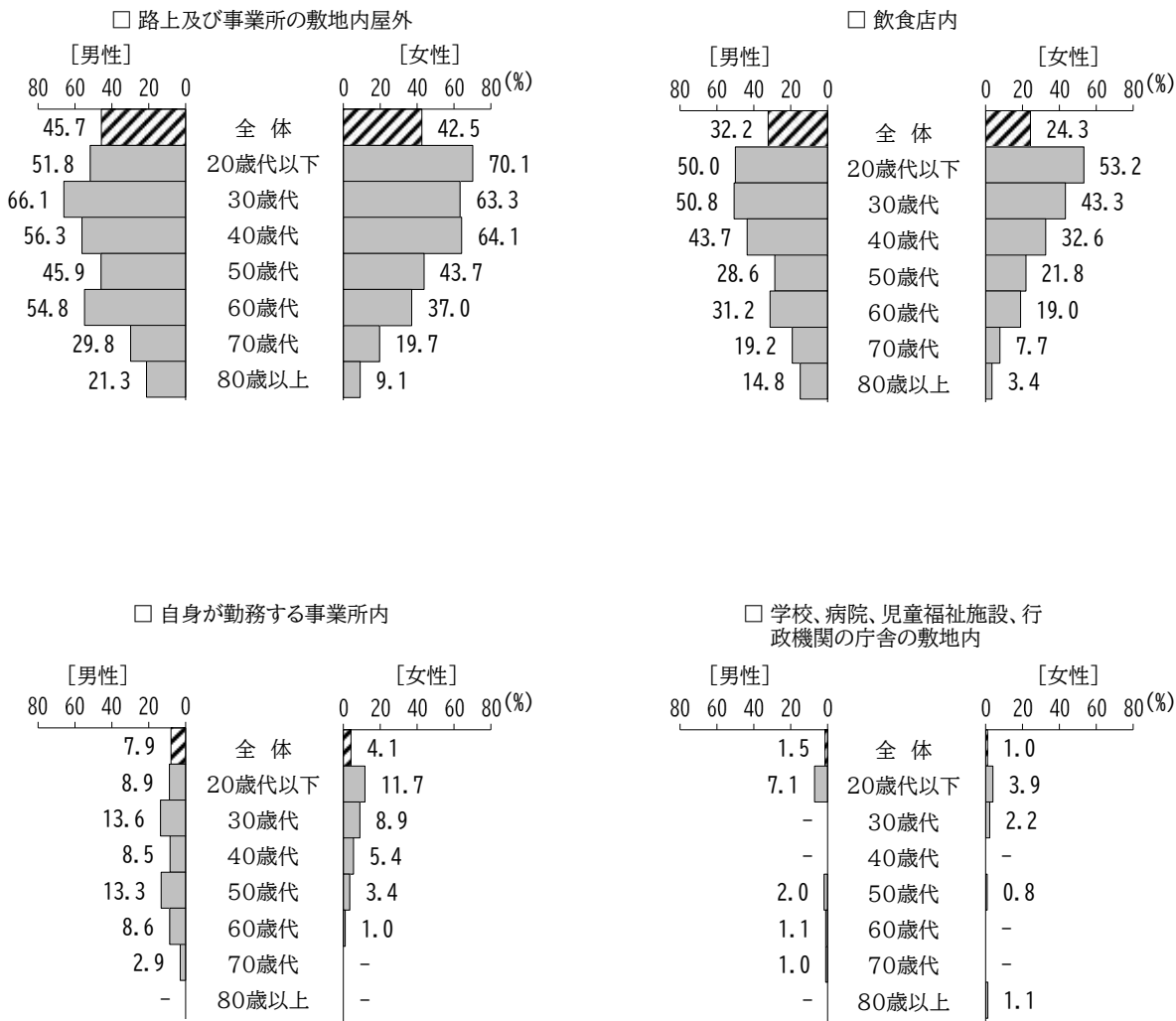


【性別、性／年代別】

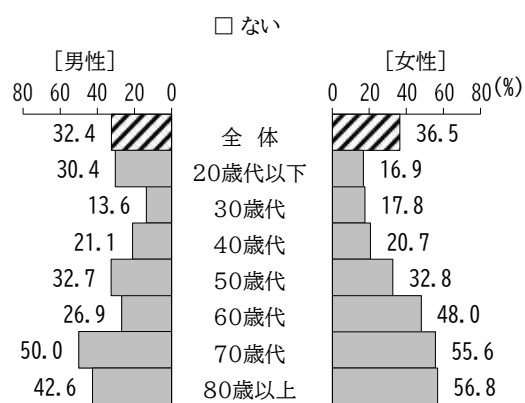
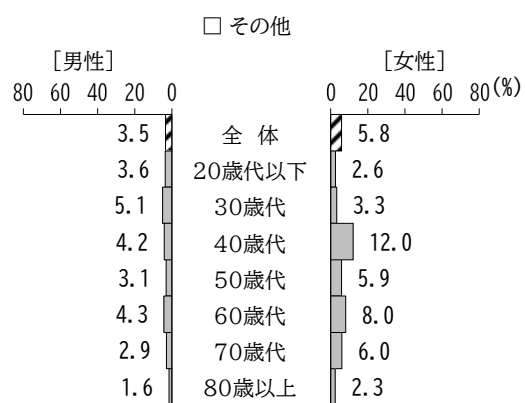
性別でみると、「飲食店内」（男性：32.2％ 女性：24.3％）で男性の方が女性よりも7.9ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「路上及び事業所の敷地内屋外」は男性では20歳代以下～60歳代までが5割以上となっており、特に30歳代で66.1％となっている。女性では20歳代以下で70.1％と最も高く、おおむね年代が上がるほど低くなっている。「飲食店内」は男性では20歳代以下と30歳代で5割と高くなっている。女性では20歳代以下で53.2％と最も高く、年代が上がるほど低くなっている。「ない」は男性では70歳代で50.0％と最も高く、次いで80歳以上で42.6％となっており、女性では20歳代以下で16.9％と最も低く、年代が上がるほど高くなっている。

[男性]				[女性]			
全 体	n=(543)	50歳代	n=(98)	全 体	n=(690)	50歳代	n=(119)
20歳代以下	n=(56)	60歳代	n=(93)	20歳代以下	n=(77)	60歳代	n=(100)
30歳代	n=(59)	70歳代	n=(104)	30歳代	n=(90)	70歳代	n=(117)
40歳代	n=(71)	80歳以上	n=(61)	40歳代	n=(92)	80歳以上	n=(88)



第2部 健康に関するアンケート調査結果

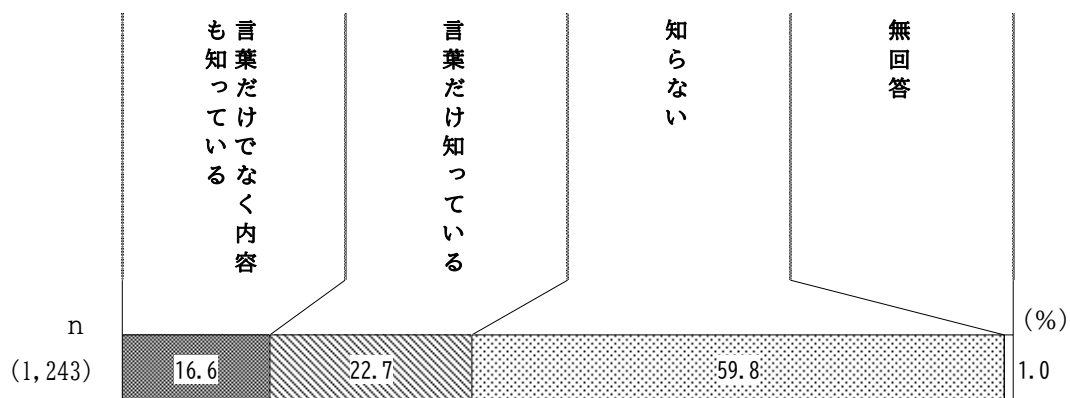


(4) COPDの認知状況

問25 「慢性閉塞性肺疾患（COPD）」について、あなたはこの病気を知っていましたか。

(○は1つ)

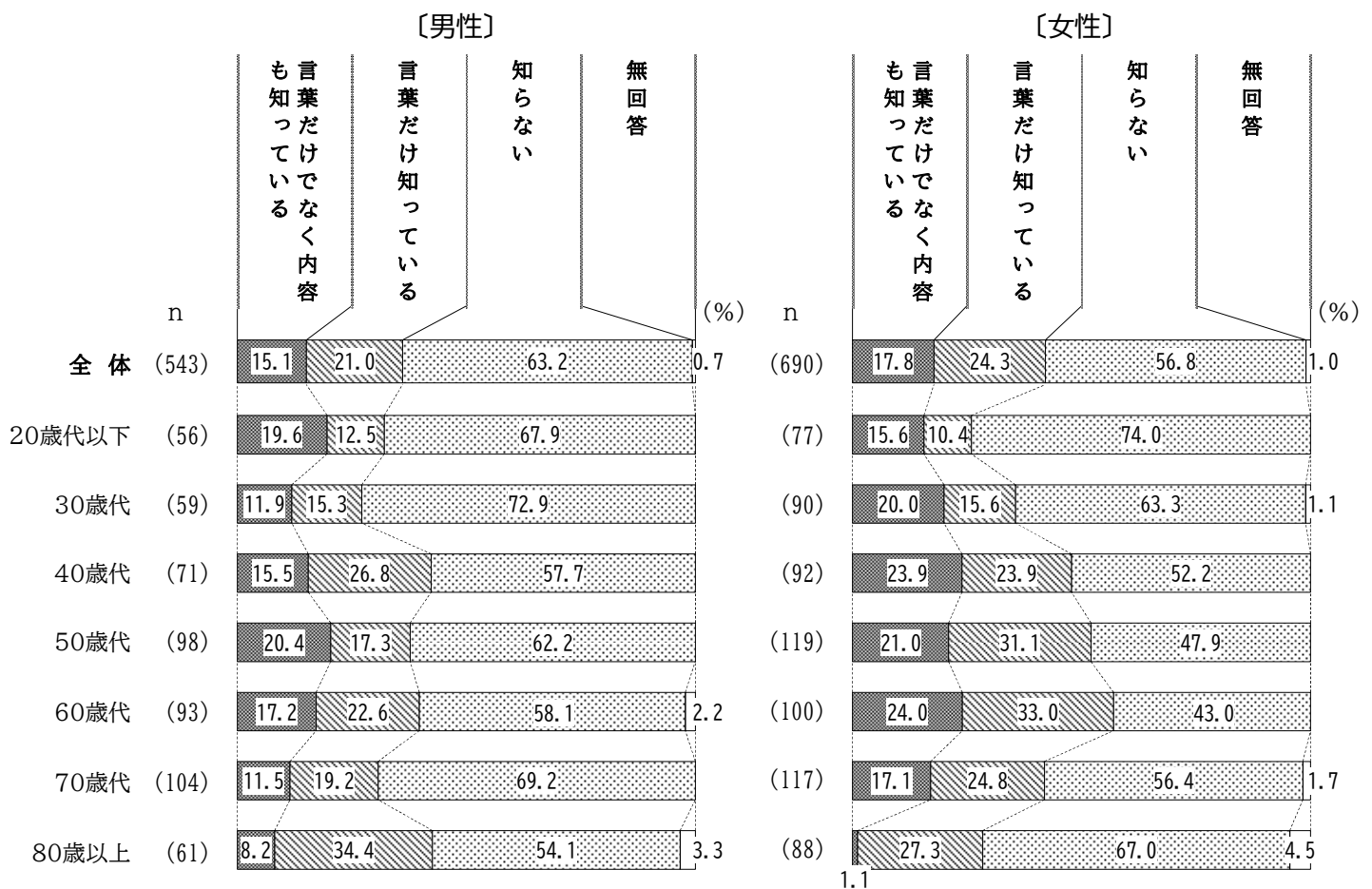
COPDの認知状況は、「言葉だけ知っている」が22.7%、「言葉だけでなく内容も知っている」が16.6%「知らない」が59.8%となっている。



【性別、性／年代別】

性別でみると、「知らない」（男性：63.2% 女性：56.8%）は、男性の方が女性よりも6.4ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「言葉だけでなく内容も知っている」は男性が50歳代で20.4%と最も高く、次いで20歳代以下で19.6%となっている。女性では30歳代～60歳代で2割台となっている。「言葉だけ知っている」は男性では80歳以上で34.4%、女性では60歳代で33.0%、50歳代で31.1%と高くなっている。一方、「知らない」は男性では30歳代で72.9%、女性では20歳代以下で74.0%と最も高くなっている。



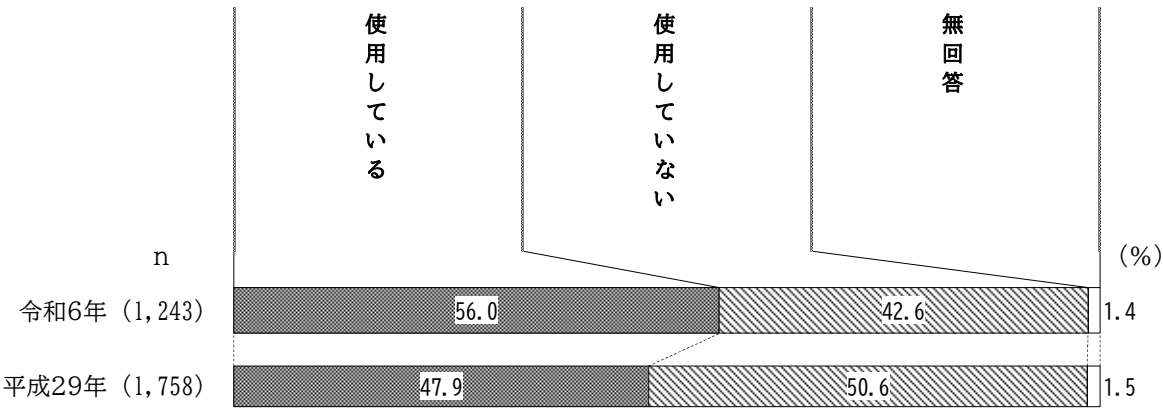
9. 歯の健康について

(1) デンタルフロスや歯間ブラシの使用状況（週1回以上）

問26 デンタルフロスや歯間ブラシを週1回以上使用していますか。（○は1つ）

デンタルフロスや歯間ブラシの使用状況（週1回以上）は、「使用している」が56.0%、「使用していない」が42.6%となっている。

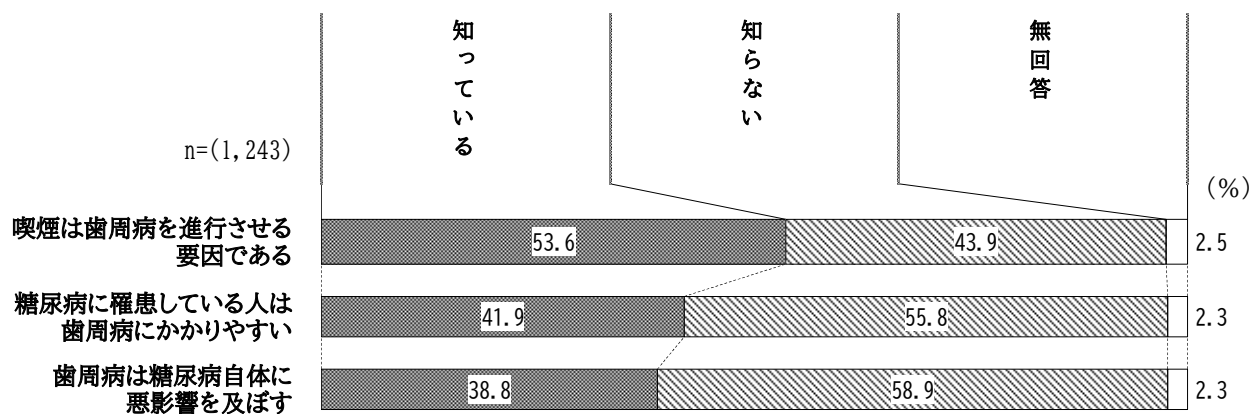
時系列で比較すると、「使用している」（令和6年：56.0% 平成29年：47.9%）が前回調査より8.1ポイント増加している。



(2) 歯周病と喫煙及び糖尿病の関連性の認知度

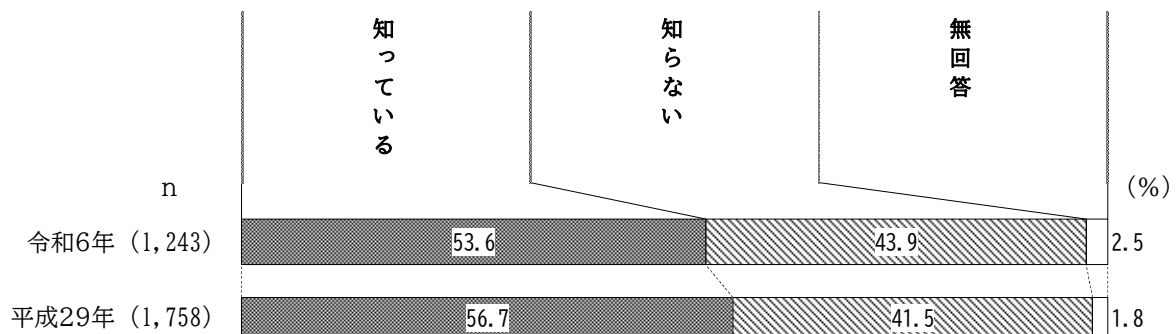
問27 歯周病について、以下のことを知っていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

喫煙と歯周病の関連性の認知度で「知っている」は、“喫煙は歯周病を進行させる要因である”が53.6%、“糖尿病に罹患している人は歯周病にかかりやすい”が41.9%、“歯周病は糖尿病自体に悪影響を及ぼす”が38.8%となっている。一方、「知らない」は“糖尿病に罹患している人は歯周病にかかりやすい”、“歯周病は糖尿病自体に悪影響を及ぼす”で過半数を占めている。



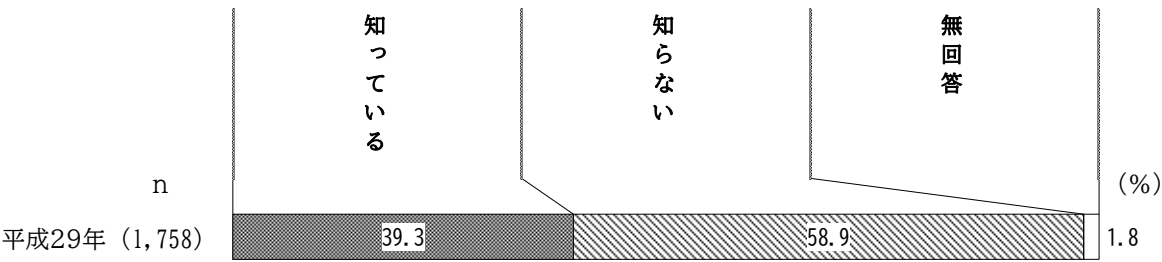
① 喫煙は歯周病を進行させる要因である

時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。



【参考：経年比較（糖尿病と歯周病の関連性の認知度）】

参考までに時系列で比較すると、今回調査の「知っている」は“糖尿病に罹患している人は歯周病にかかりやすい”が41.9%、“歯周病は糖尿病自体に悪影響を及ぼす”が38.8%となっている。前回調査の“糖尿病と歯周病の関連性の認知度”で「知っている」は39.3%となっているため、いずれも認知度は同程度となっている。



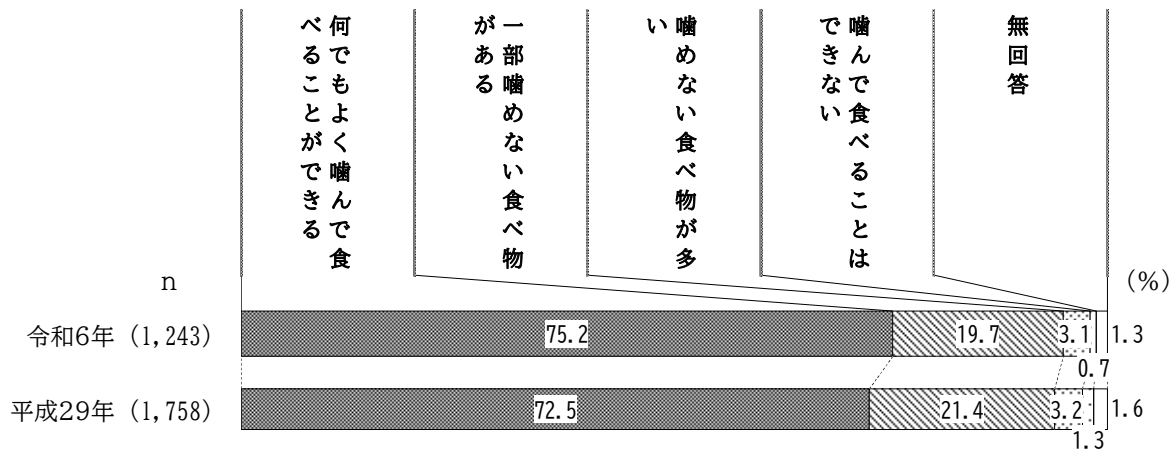
※前回調査では、「糖尿病に罹患（罹患）している人は歯周病にかかりやすく、また歯周病は糖尿病自体に悪影響を及ぼします。このことを知っていますか。」という設問のため、今回調査の“糖尿病に罹患している人は歯周病にかかりやすい”、“歯周病は糖尿病自体に悪影響を及ぼす”がひとつの設問としてまとめられており今回調査と前回調査の設問内容が異なるが、参考までに比較している。

(3) 固いものでもよく噛んで食べることができるか

問28 あなたは固いものでもよく噛んで食べることができますか。(○は1つ)

固いものでもよく噛んで食べることができるかは、「何でもよく噛んで食べることができる」が75.2%で最も高く、次いで「一部噛めない食べ物がある」が19.7%となっている。

時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。



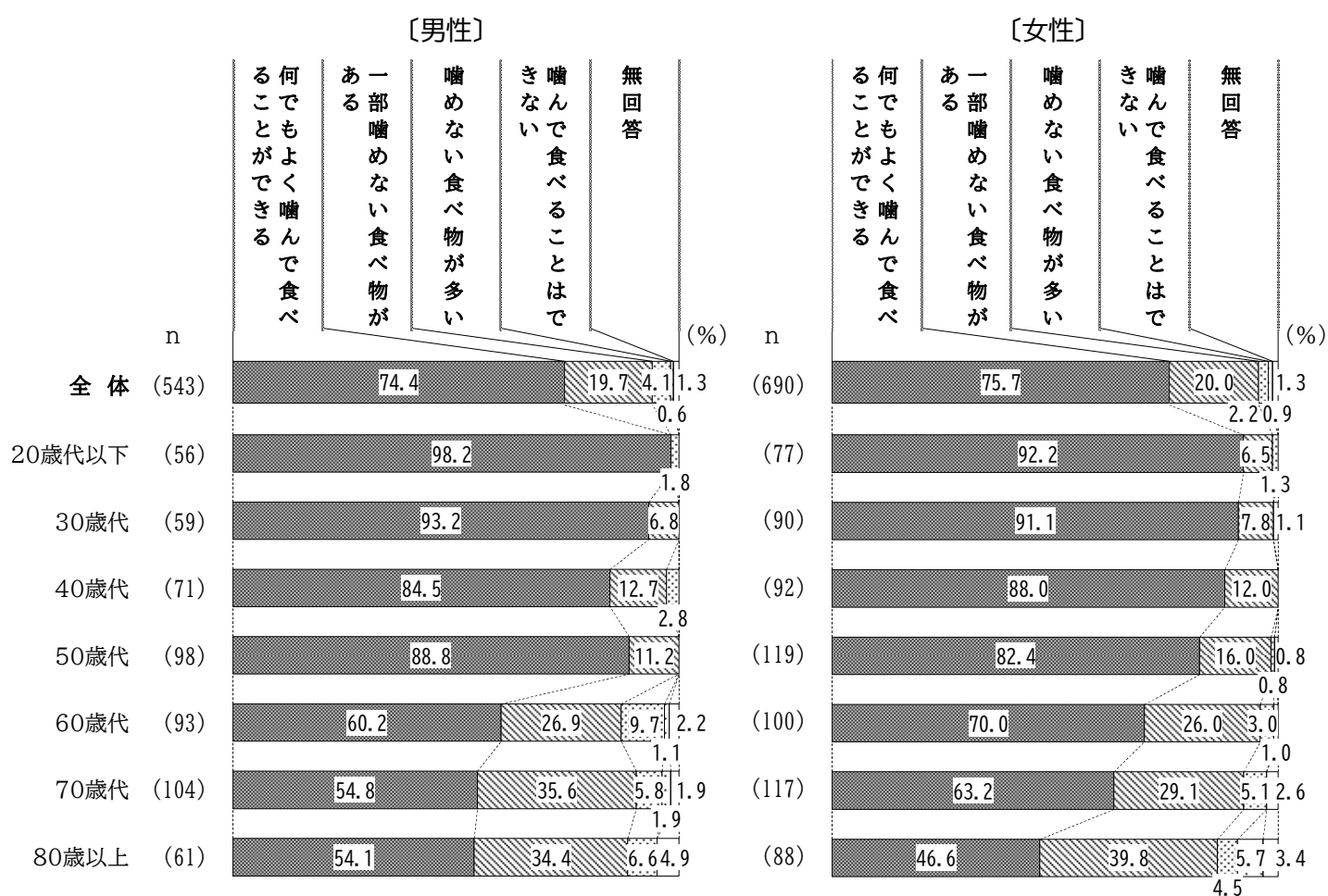
第2部 健康に関するアンケート調査結果

【性別、性／年代別】

性別でみると、特に大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、男性では「何でもよく噛んで食べることができる」は20歳代以下～50歳代で8割台～9割台の一方、60歳代で60.2%、70歳代～80歳以上で5割台半ばとなっている。「一部噛めない食べ物がある」は60歳以上で高くなっており、70歳代で35.6%と最も高く、80歳以上で34.4%と並んでいる。

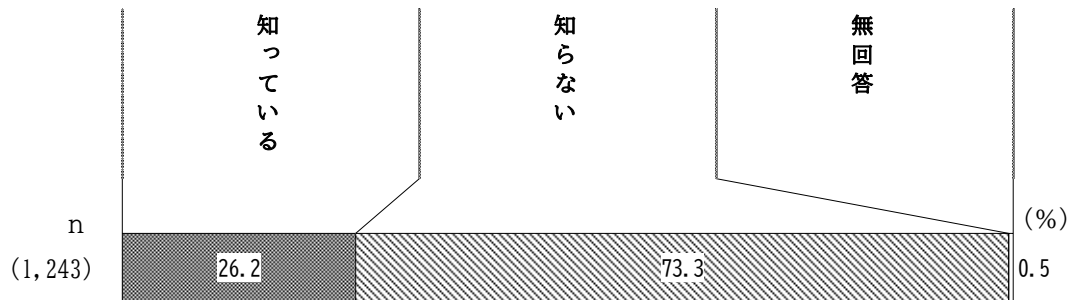
女性では、「何でもよく噛んで食べることができる」は20歳代以下で92.2%と最も高く、年代が上がるほど低くなっている。「一部噛めない食べ物がある」は年代が上がるほど高くなり、80歳以上で39.8%と最も高くなっている。



(4) オーラルフレイルの認知度

問29 オーラルフレイルを知っていますか。(○は1つ)

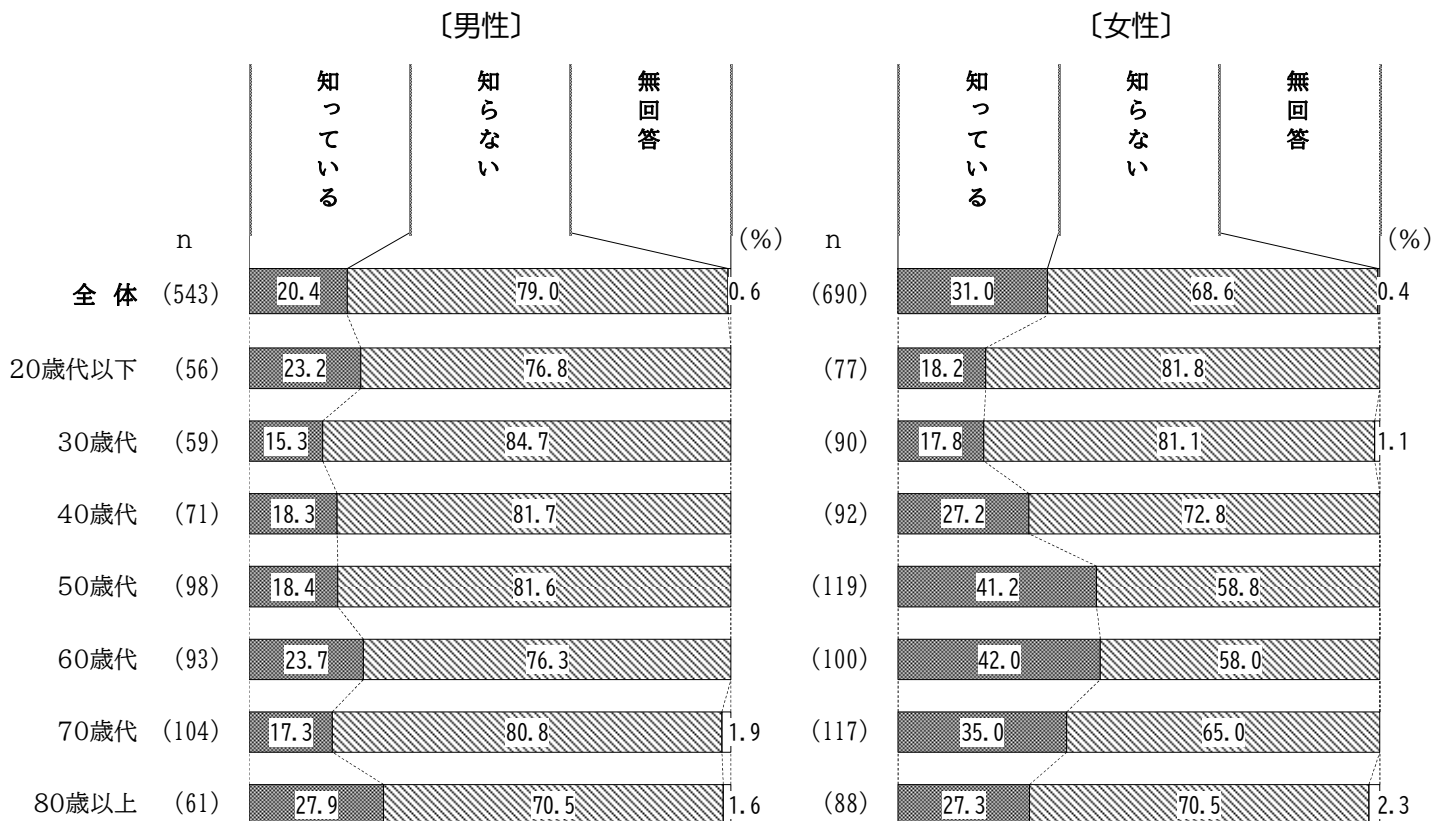
オーラルフレイルの認知度は、「知っている」が26.2%、「知らない」が73.3%となっている。



【性別、性／年代別】

性別でみると、「知っている」(男性：20.4% 女性：31.0%)は、女性の方が男性よりも10.6ポイント高くなっている。一方、「知らない」(男性：79.0% 女性：68.6%)は、男性が10.4ポイント上回る。

性／年代別でみると、「知っている」は男性では80歳以上で27.9%と最も高くなっており、20歳代と60歳代でも2割台となっている。女性では60歳代で42.0%、50歳代で41.2%と他の年代に比べて高くなっている。一方、「知らない」は、男性では30歳代で84.7%と最も高くなっており、女性では20歳代以下で81.8%と最も高く、30歳代で81.1%と並んでいる。



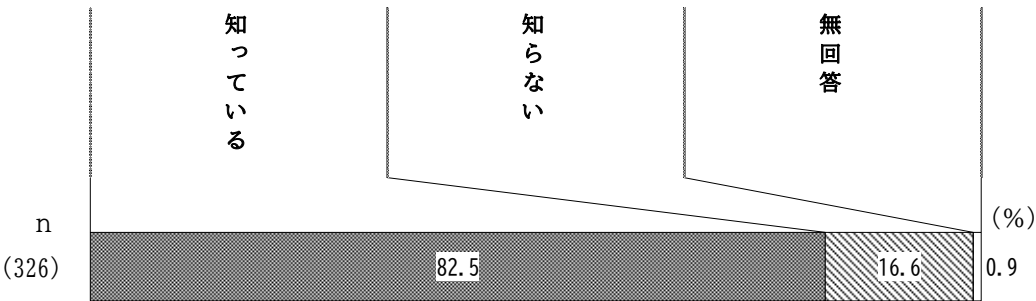
(5) 口腔ケアと誤えん性肺炎の関連性の認知度

(問29で「知っている」と回答した方におたずねします。)

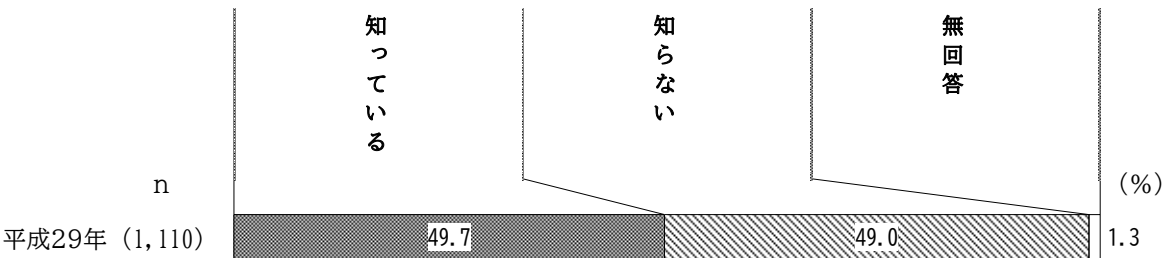
問29-1 オーラルフレイル予防は誤えん性肺炎の予防も目的としています。あなたは歯磨きなどの口腔ケアが誤えん性肺炎を予防することを知っていますか。(○は1つ)

オーラルフレイルの認知度で「知っている」と回答した方に口腔ケアと誤えん性肺炎の関連性の認知度をたずねた。その結果、「知っている」が82.5%、「知らない」が16.6%となっている。

参考までに時系列で比較すると、誤えん性肺炎を知っている人の口腔ケアと誤えん性肺炎予防の関連性の認知度は、「知っている」は平成29年で49.7%となっている。



【参考：経年比較】



※前回調査では、「誤えん性肺炎を知っている」と回答した方が本問に回答しているため、今回調査と前回までの調査の母数の前提が異なるが、参考までに経年比較した。

10. 感染症対策について

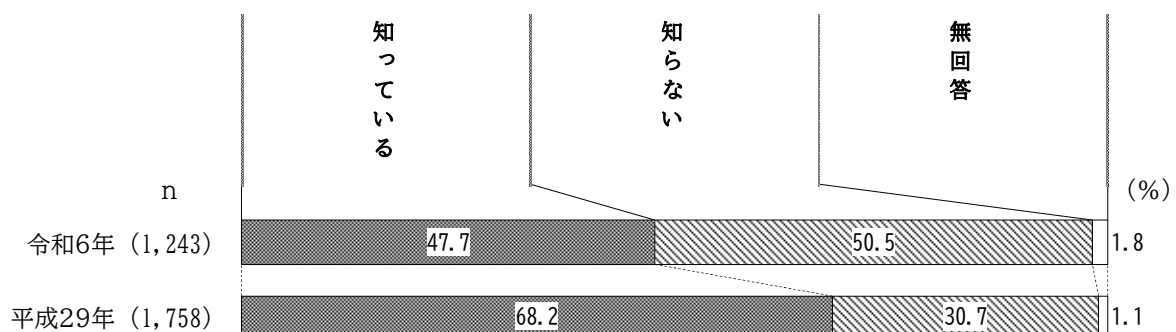
(1) 結核の認知度

問30 あなたは結核について次のことを知っていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

①症状は2週間以上続く咳、痰、息苦しさ、体重減少などである

「知っている」が47.7%、「知らない」が50.5%となっている。

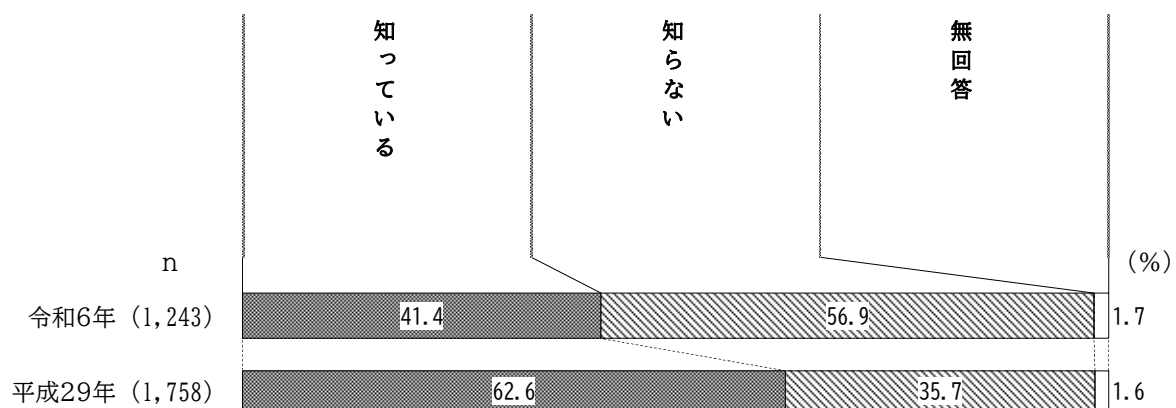
時系列で比較すると、「知っている」(令和6年：47.7% 平成29年：68.2%)が前回調査より20.5ポイント減少している。



②日本では現在も多くの患者が発生している

「知っている」が41.4%、「知らない」が56.9%となっている。

時系列で比較すると、「知っている」(令和6年：41.4% 平成29年：62.6%)が前回調査より21.2ポイント減少している。

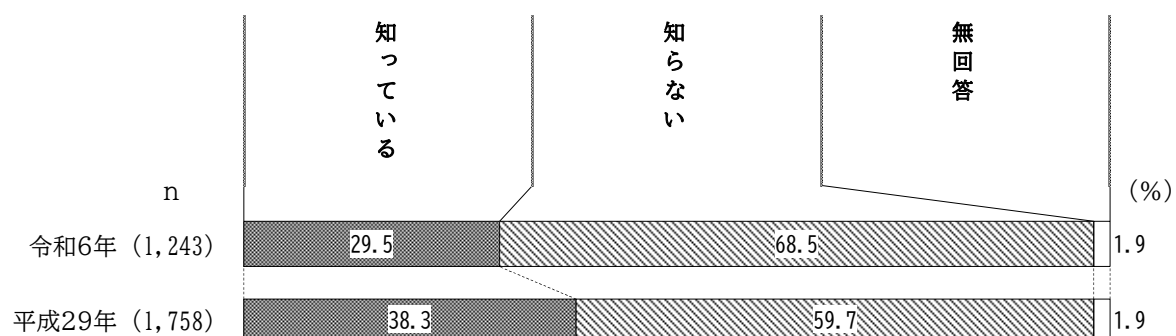


第2部 健康に関するアンケート調査結果

③半年から1年程度薬を飲めば治すことができる

「知っている」が29.5%、「知らない」が68.5%、となっている。

時系列で比較すると、「知っている」（令和6年：29.5% 平成29年：38.3%）が前回調査より8.8ポイント減少している。



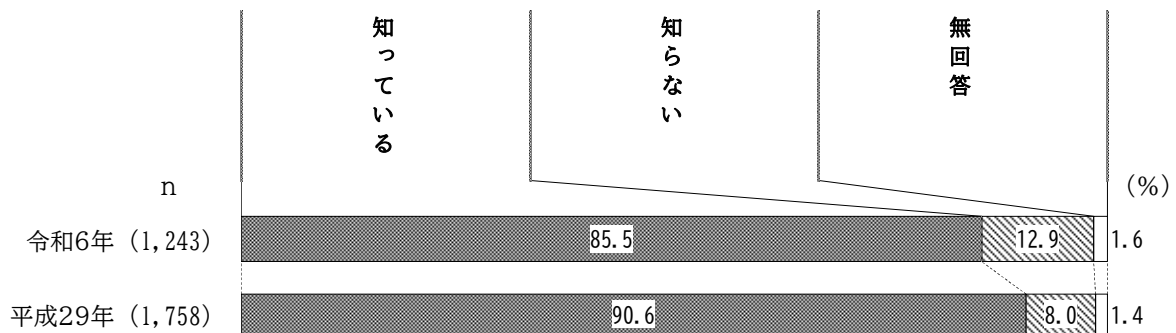
(2) HIV／エイズの認知度

問31 あなたはHIV／エイズについて次のことを知っていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

①血液検査で発見できる

「知っている」が85.5%、「知らない」が12.9%となっている。

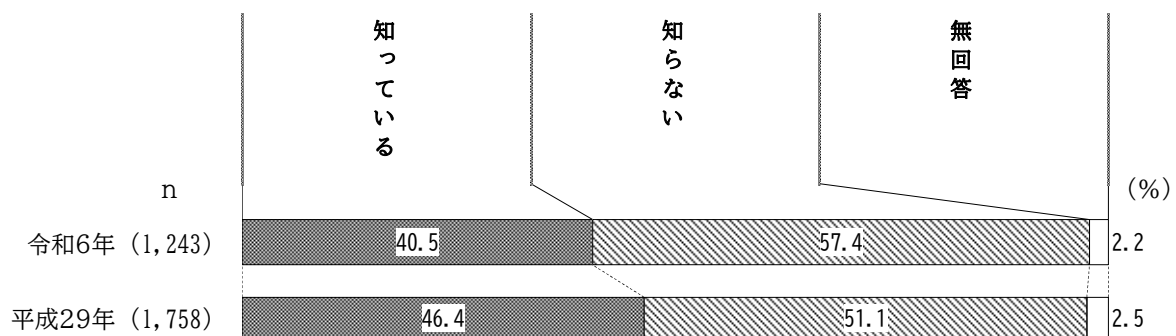
時系列で比較すると、「知っている」(令和6年：85.5% 平成29年：90.6%)が前回調査より5.1ポイント減少している。



②全国の保健所で無料で検査ができる

「知っている」が40.5%、「知らない」が57.4%となっている。

時系列で比較すると、「知っている」(令和6年：40.5% 平成29年：46.4%)が前回調査より5.9ポイント減少している。

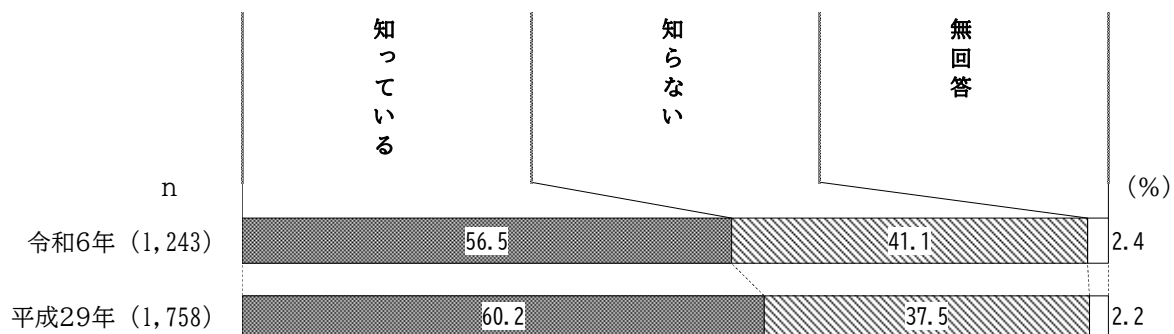


第2部 健康に関するアンケート調査結果

③早期に発見し治療すれば普通の生活ができる

「知っている」が56.5%、「知らない」が41.1%となっている。

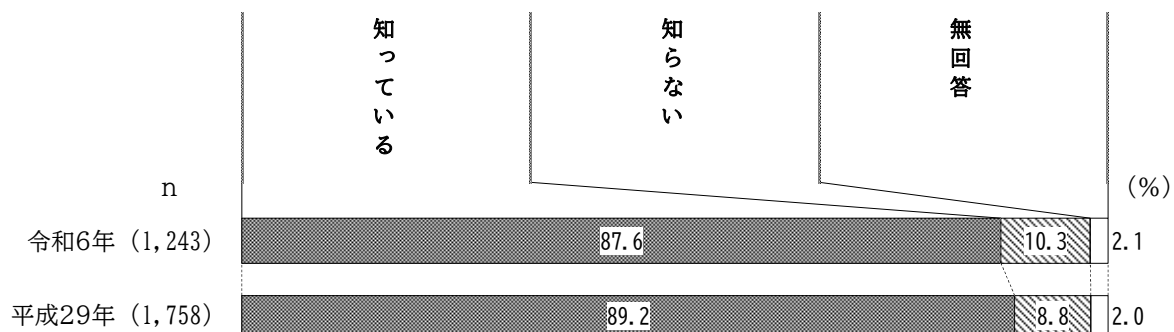
時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。



④予防にはコンドームが有効である

「知っている」が87.6%、「知らない」が10.3%となっている。

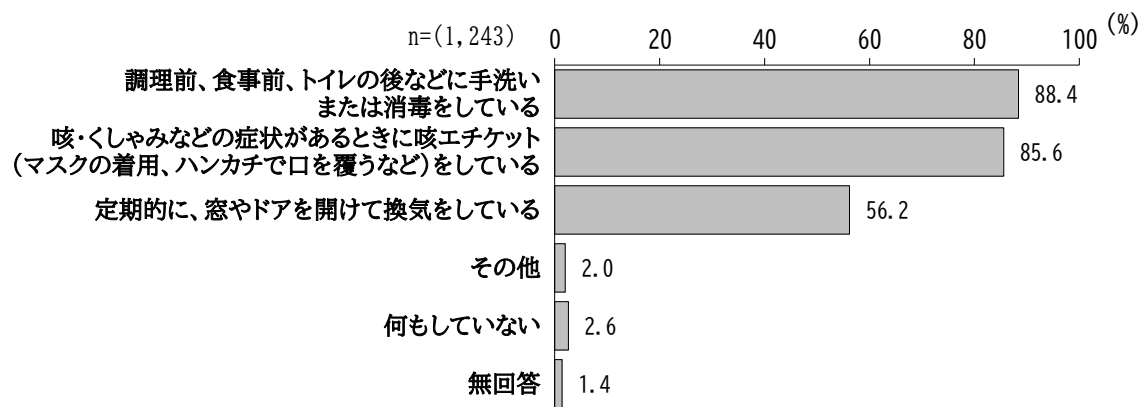
時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。



(3) 感染症予防策の実践状況

問32 あなたは感染症の予防のために以下のことを実践していますか。(○はい/△は時々/×はいくつでも)

感染症予防策の実践状況は、「調理前、食事前、トイレの後などに手洗いまたは消毒をしている」が88.4%で最も高く、次いで「咳・くしゃみなどの症状があるときに咳エチケット（マスクの着用、ハンカチで口を覆うなど）をしている」が85.6%、「定期的に、窓やドアを開けて換気をしている」が56.2%となっている。



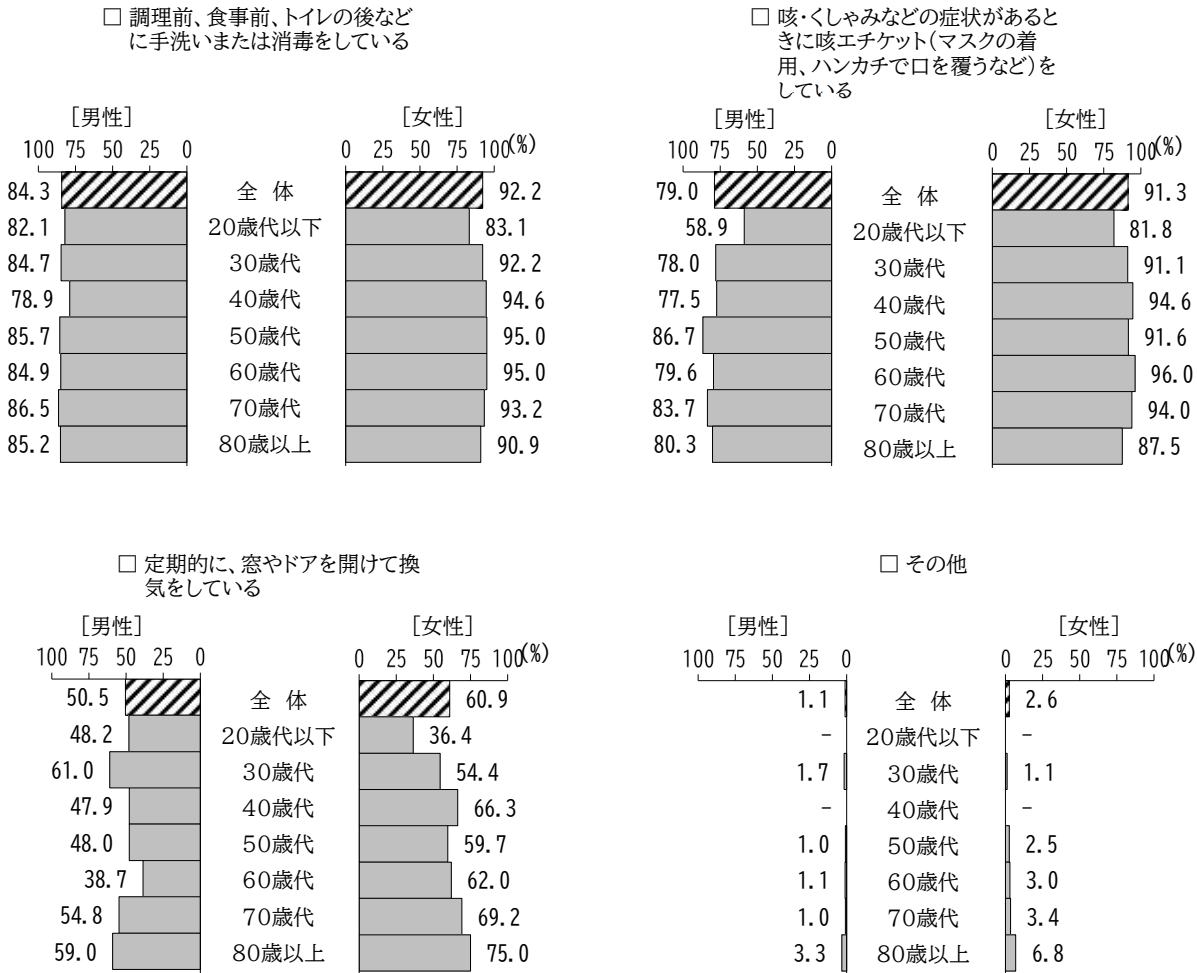
第2部 健康に関するアンケート調査結果

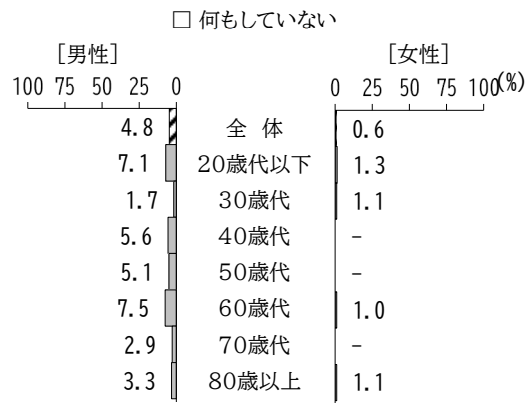
【性別、性／年代別】

性別でみると、いずれも女性が男性を上回っており、「咳・くしゃみなどの症状があるときに咳エチケット（マスクの着用、ハンカチで口を覆うなど）をしている」（男性：79.0% 女性：91.3%）で12.3ポイント、「定期的に、窓やドアを開けて換気をしている」（男性：50.5% 女性：60.9%）で10.4ポイント、それぞれ女性の方が男性より10ポイント以上高くなっている。

性／年代別でみると、「調理前、食事前、トイレの後などに手洗いまたは消毒をしている」は男性では40歳代を除き8割台、女性では20歳代以下を除き9割台となっている。「咳・くしゃみなどの症状があるときに咳エチケット（マスクの着用、ハンカチで口を覆うなど）をしている」は男性では50歳代で86.7%と最も高く、20歳代以下で58.9%と最も低くなっており、女性では20歳代以下と80歳以上を除き9割台となっている。「定期的に、窓やドアを開けて換気をしている」は男性では30歳代で61.0%と最も高く、女性では80歳以上で75.0%と最も高くなっている。

[男性]	全 体	n=(543)	50歳代	n=(98)	[女性]	全 体	n=(690)	50歳代	n=(119)
	20歳代以下	n=(56)	60歳代	n=(93)		20歳代以下	n=(77)	60歳代	n=(100)
	30歳代	n=(59)	70歳代	n=(104)		30歳代	n=(90)	70歳代	n=(117)
	40歳代	n=(71)	80歳以上	n=(61)		40歳代	n=(92)	80歳以上	n=(88)





11. 地域医療について

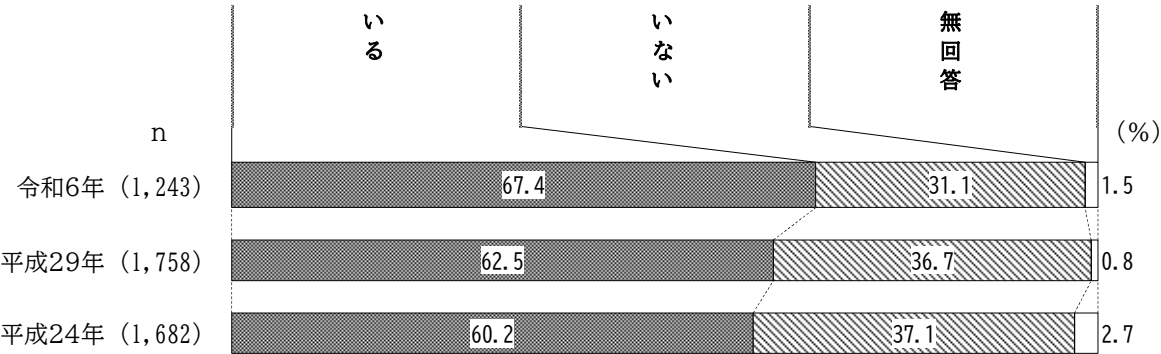
(1) かかりつけ医の有無

問33 以下について、お答えください。(〇はそれぞれ1つずつ)

①かかりつけ医

かかりつけ医は、「いる」が67.4%、「いない」が31.1%となっている。

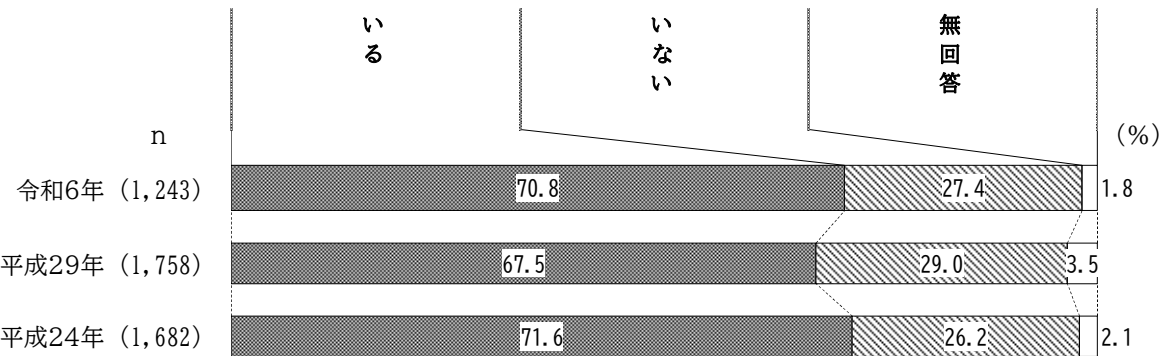
時系列で比較すると、「いる」(令和6年：67.4% 平成29年：62.5% 平成24年：60.2%)が前回調査より4.9ポイント、前々回調査より7.2ポイント増加している。



②かかりつけ歯科医

かかりつけ歯科医は、「いる」が70.8%、「いない」が27.4%となっている。

時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。

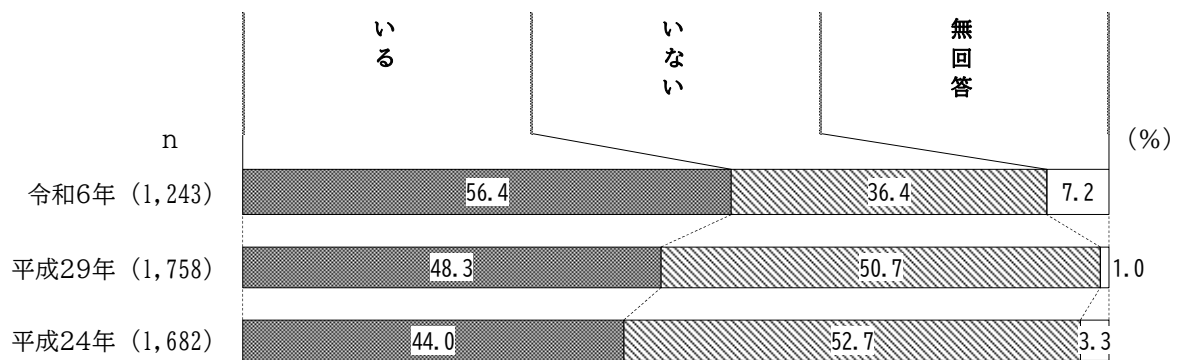


※今回調査より、選択肢「決めている」は「いる」、「決めていない」は「いない」と表記を変更している。

③かかりつけ薬局

かかりつけ薬局は、「いる」が56.4%、「いない」が36.4%となっている。

時系列で比較すると、「いる」（令和6年：56.4% 平成29年：48.3% 平成24年：44.0%）が前回調査より8.1ポイント、前々回調査より12.4ポイント増加している。



※今回調査より、選択肢「決めている」は「いる」、「決めていない」は「いない」と表記を変更している。

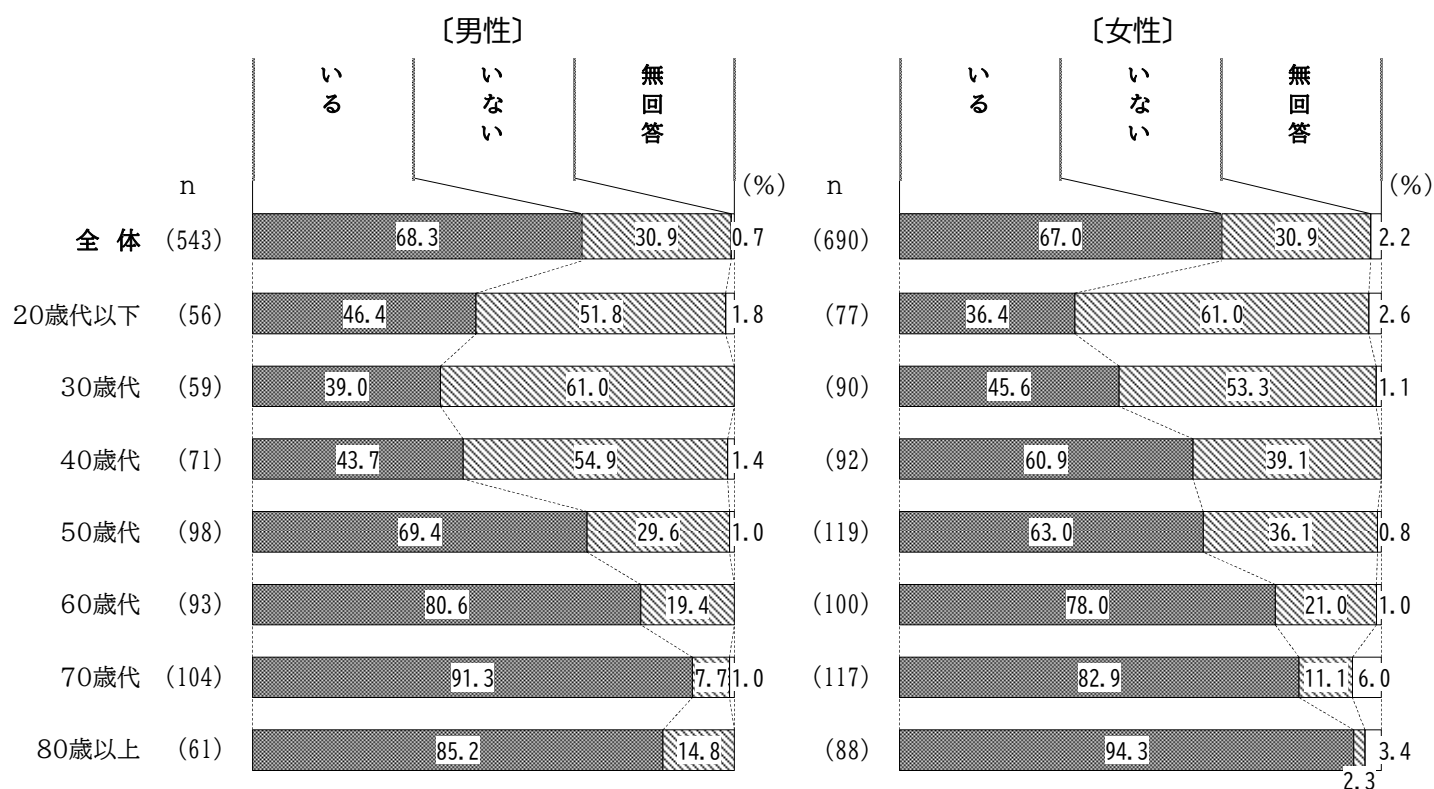
【性別、性／年代別】

① かかりつけ医

性別でみると、特に大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、男性では、「いる」は50歳以上で高く、70歳代で91.3%、80歳以上で85.2%となっている。一方、「いない」は30歳代で61.0%と最も高く、20歳代と40歳代でも5割台となっている。

女性では、「いる」は年代が上がるほど高くなり、80歳以上で94.3%と最も高くなっている。一方、「いない」は20歳代以下で61.0%と最も高く、年代が上がるほど低くなっている。

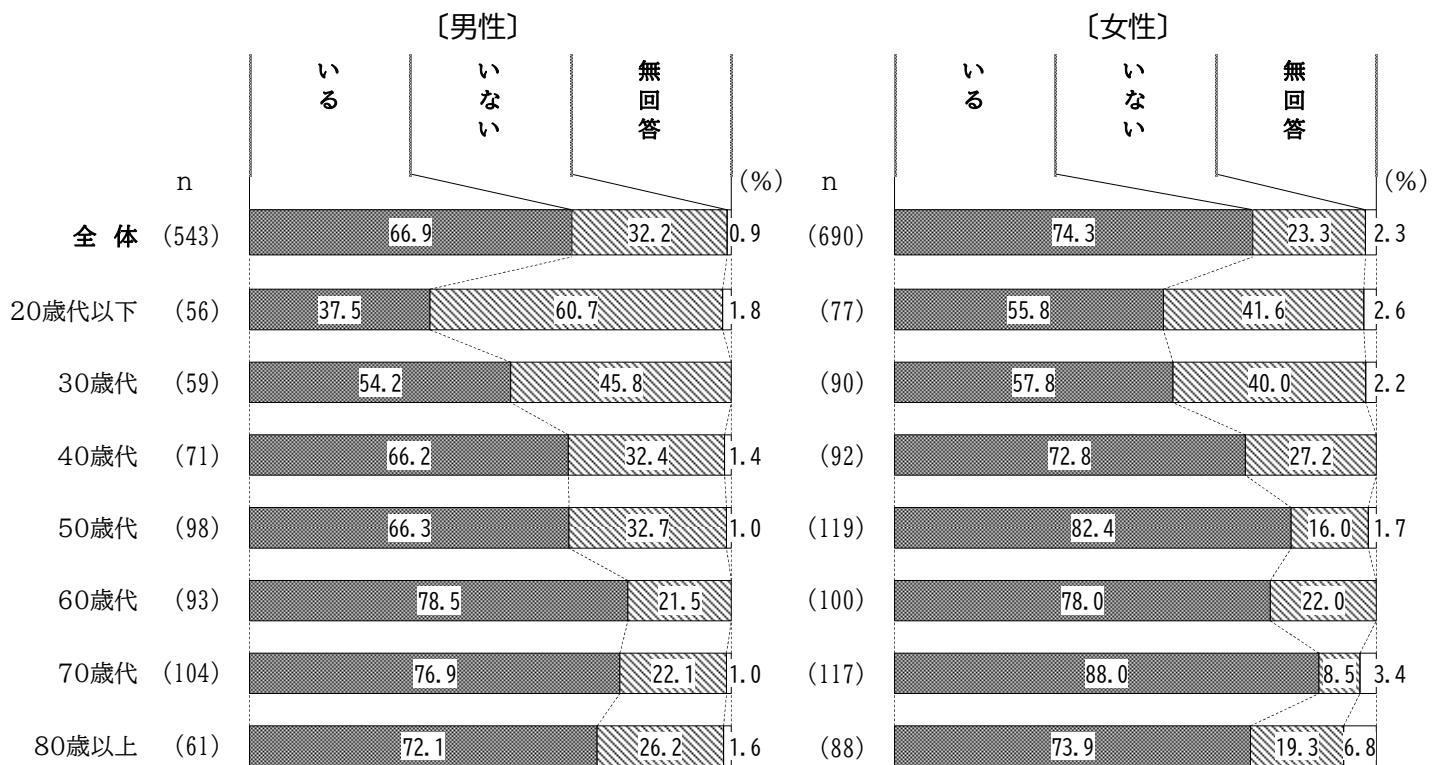


② かかりつけ歯科医

性別で、「いる」(男性：66.9% 女性：74.3%)は、女性の方が男性よりも7.4ポイント高くなっている。一方、「いない」(男性：32.2% 女性：23.3%)は、男性の方が女性より8.9ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、男性では、「いる」は60歳代で78.5%と最も高く、次いで70歳代で76.9%と並んでいる。一方、「いない」は20歳代以下で60.7%と最も高くなっている。

女性では、「いる」は70歳代で88.0%と最も高く、一方、「いない」は20歳代以下で41.6%、30歳代で40.0%と高くなっている。

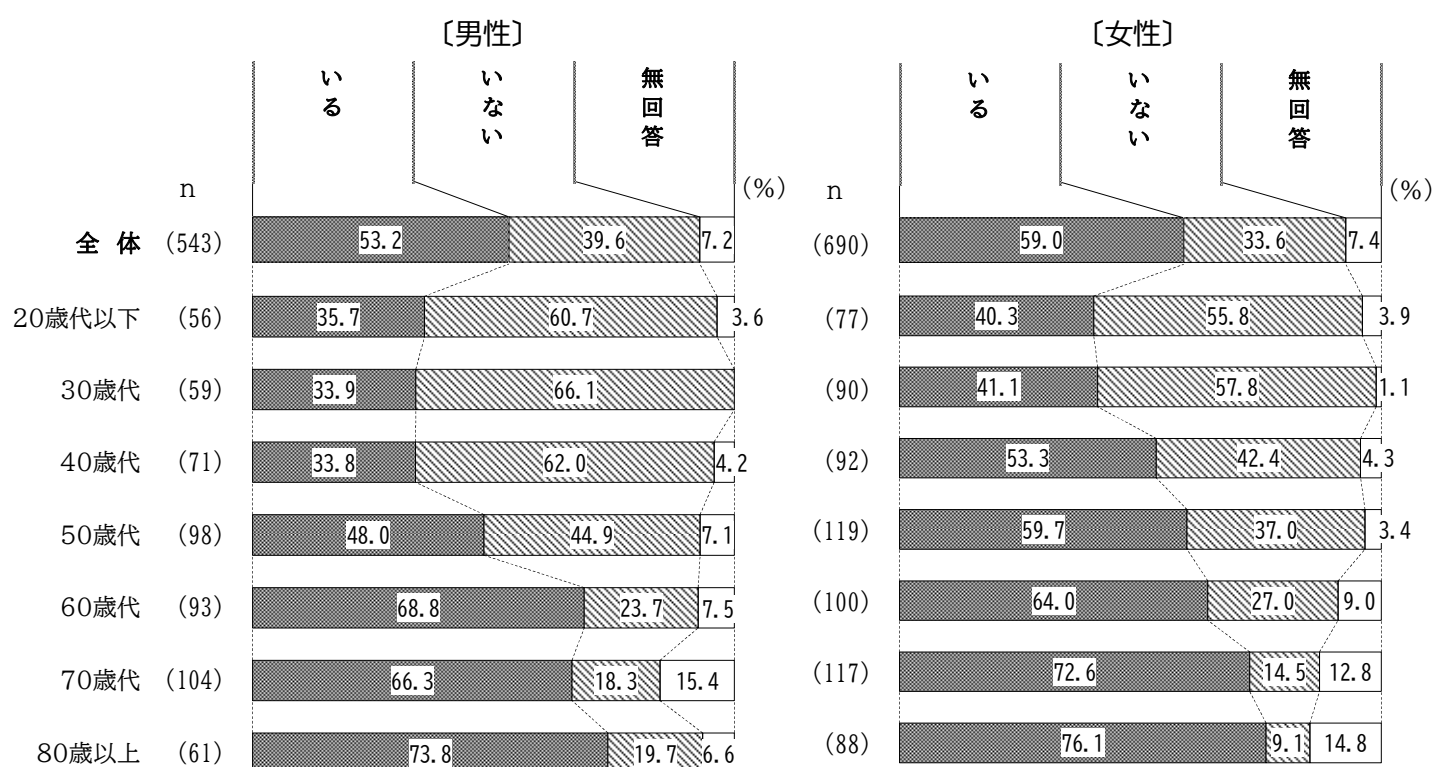


③ かかりつけ薬局

性別でみると、「いる」（男性：53.2% 女性：59.0%）は、女性の方が男性よりも5.8ポイント高くなっている。一方、「いない」（男性：39.6% 女性：33.6%）は、男性の方が女性より6.0ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、男性では、「いる」は60歳以上で高く、80歳以上で73.8%、60歳代で68.8%となっている。一方、「いない」は30歳代で66.1%と最も高く、20歳代と40歳代でも6割台となっている。

女性では、「いる」は年代が上がるほど高くなり、80歳以上で76.1%と最も高くなっている。一方、「いない」は30歳代で57.8%と最も高く、20歳代以下で55.8%と並んでいる。



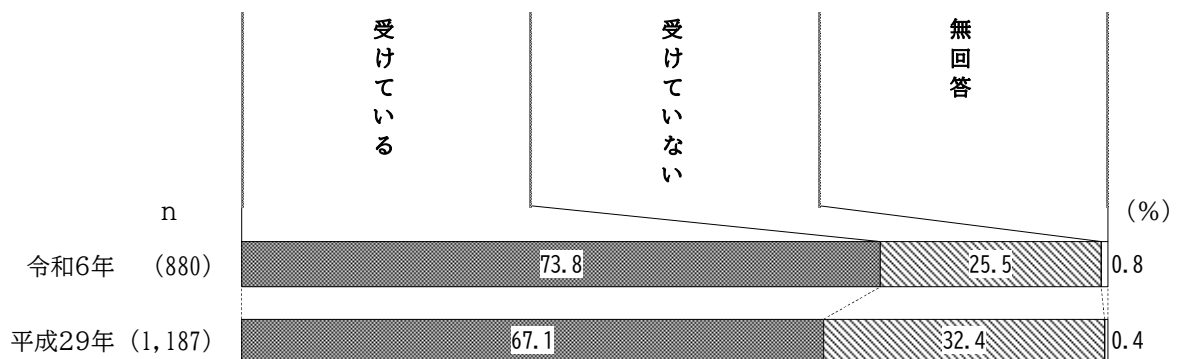
(2) かかりつけ歯科医での定期検診状況

(問33の②かかりつけ歯科医で「いる」と回答した方におたずねします。)

問33-1 かかりつけ歯科医で、年1回以上の定期検診を受けていますか。(○は1つ)

かかりつけ歯科医の有無で「いる」と回答した方にかかりつけ歯科医での定期検診状況をたずねた。その結果、「受けている」が73.8%、「受けていない」が25.5%となっている。

時系列で比較すると、「受けている」(令和6年：73.8% 平成29年：67.1%)が前回調査より6.7ポイント増加している。



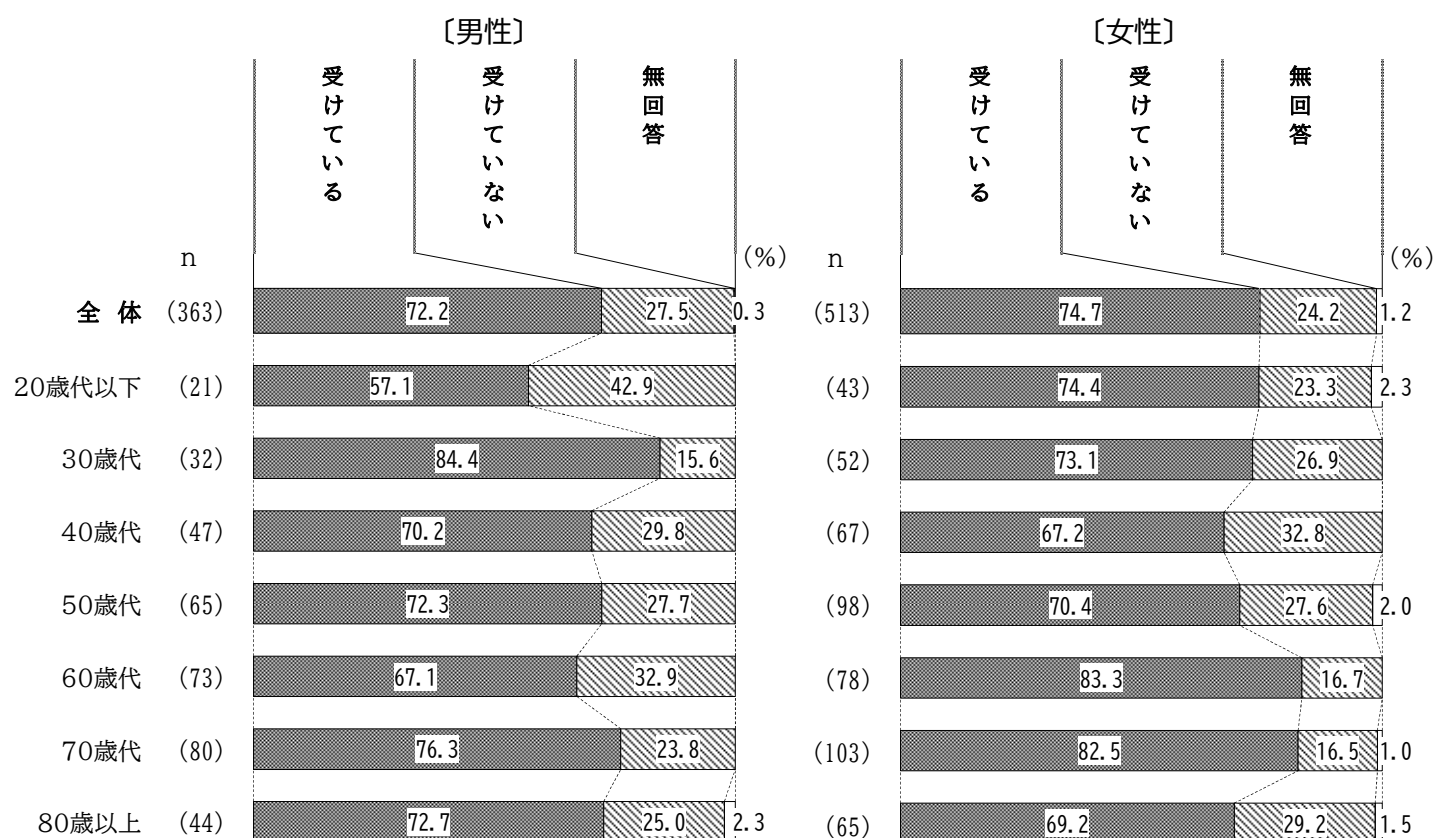
第2部 健康に関するアンケート調査結果

【性別、性／年代別】

性別でみると、特に大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、男性では、「受けている」は30歳代で84.4%と最も高く、次いで70歳代で76.3%となっている。

女性では、「受けている」は60歳代で83.3%と最も高く、70歳代で82.5%と並んでいる。

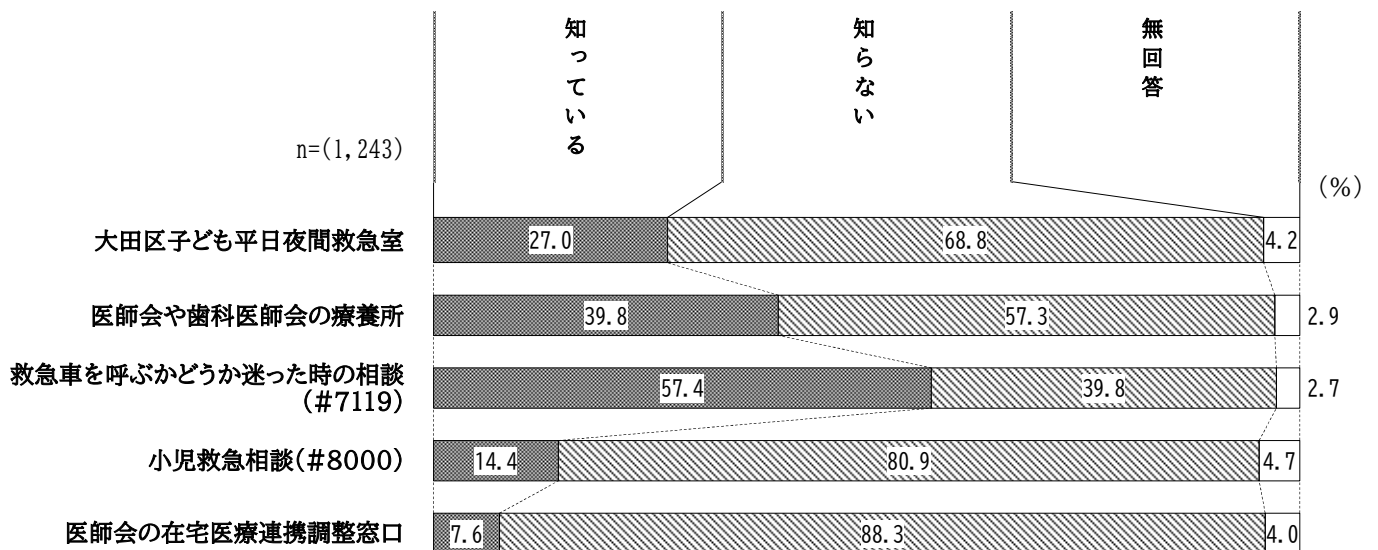


(3) 休日診療や相談事業の認知度

問34 大田区や東京都では、夜間や休日に病気や歯痛になった時に休日診療や相談などの事業を実施しています。あなたは次のことについて知っていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

休日診療や相談事業の認知度で「知っている」は、“救急車を呼ぶかどうか迷った時の相談(#7119)”が57.4%、“医師会や歯科医師会の療養所”が39.8%、“大田区子ども平日夜間救急室”が27.0%、“小児救急相談(#8000)”が14.4%、“医師会の在宅医療連携調整窓口”が7.6%となっている。一方、「知らない」は“救急車を呼ぶかどうか迷った時の相談(#7119)”を除くすべての項目で過半数を占めている。

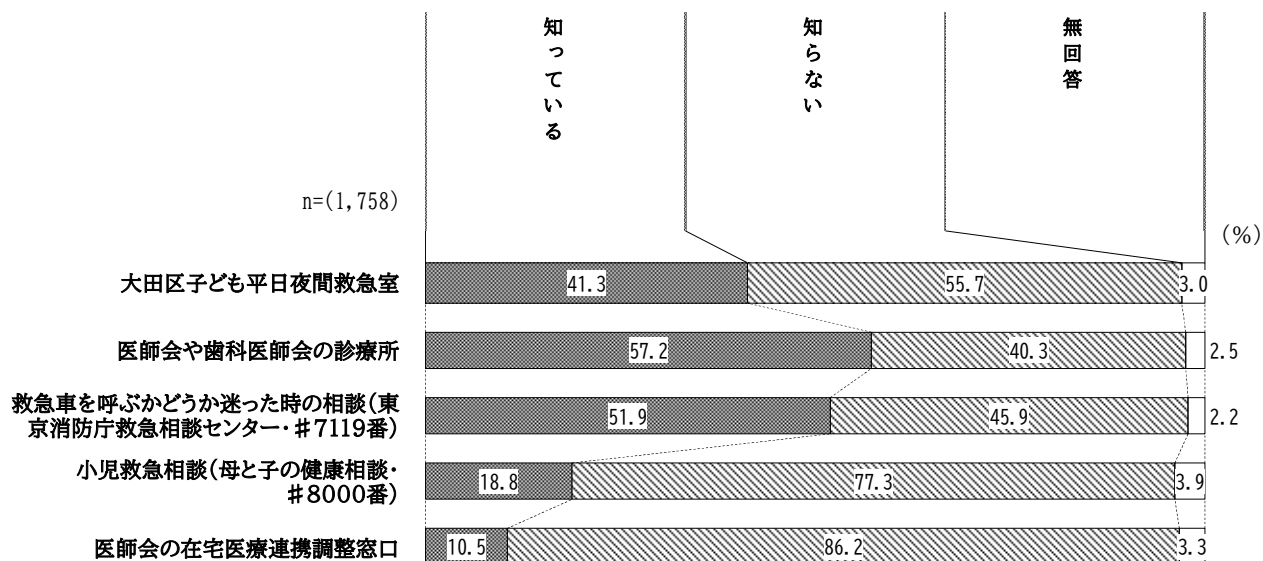


第2部 健康に関するアンケート調査結果

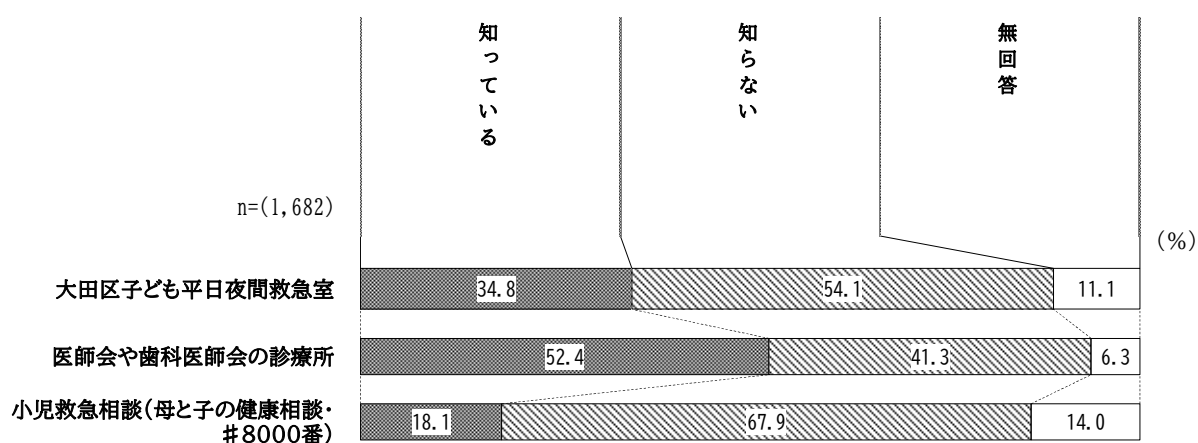
【参考：経年比較】

参考までに時系列で比較すると、「知っている」が“大田区子ども平日夜間救急室”（令和6年：27.0% 平成29年：41.3% 平成24年：34.8%）、“医師会や歯科医師会の療養所”（令和6年：39.8% 平成29年：57.2% 平成24年：52.4%）で前回調査より10ポイント以上減少している。一方、“救急車を呼ぶかどうか迷った時の相談（#7119）”で「知っている」（令和6年：57.4% 平成29年：51.9%）が前回調査から5.5ポイント増加している。

○平成29年



○平成24年



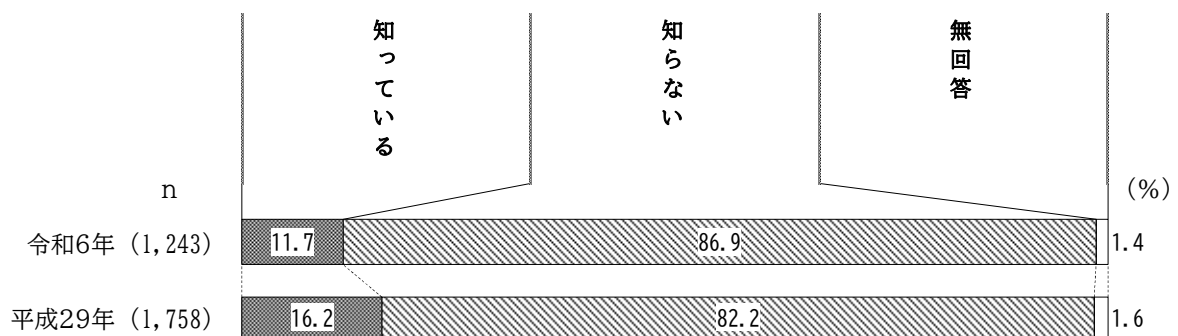
※前回調査より、『救急車を呼ぶかどうか迷った時の相談（#7119）』、『医師会の在宅医療連携調整窓口』が追加された。
 ※今回調査より、『小児救急相談（母と子の健康相談・#8000番）』は『小児救急相談（#8000番）』と表記が変更された。

(4) 緊急医療救護所の認知度

問35 「緊急医療救護所」は、地震など大規模災害時に、病院の門前などで負傷者の治療の優先度をつけたり、軽症者の治療を行うために設置されます。あなたは緊急医療救護所を知っていますか。(○は1つ)

緊急医療救護所の認知度は、「知っている」が11.7%、「知らない」が86.9%となっている。

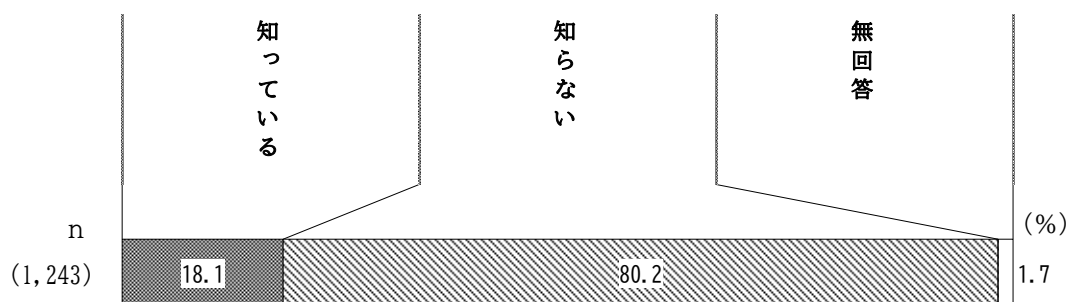
時系列で比較すると、特に大きな違いはみられない。



(5) 在宅医療の制度や仕組みの認知状況

問36 あなたは在宅医療の制度や仕組みについて知っていますか。(○は1つ)

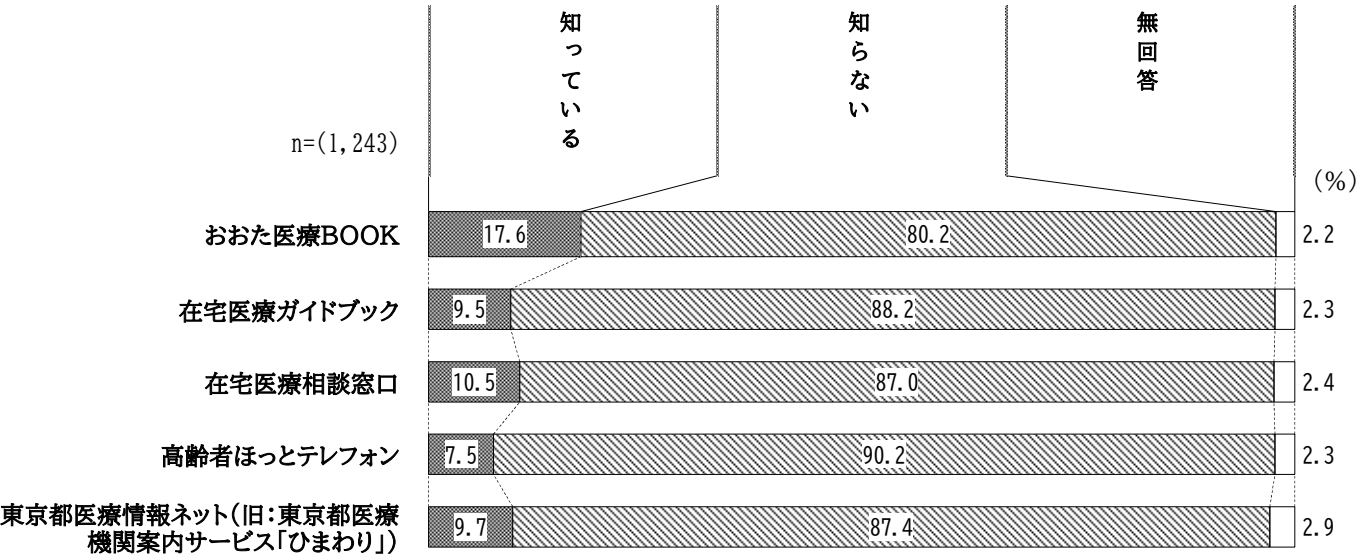
在宅医療制度やしくみの認知度は、「知っている」が18.1%、「知らない」が80.2%となっている。



(6) サービスや情報誌の認知状況

問37 大田区や東京都では、区民の誰もが身近な環境で診療や健康相談ができるよう、医療機関・相談窓口等に関する情報提供を実施しています。あなたは、以下のサービスや情報誌等について知っていますか。(○はそれぞれ1つずつ)

サービスや情報誌の認知状況で「知っている」は、“おおた医療BOOK”が17.6%、“在宅医療相談窓口”が10.5%、“東京都医療情報ネット（旧：東京都医療機関案内サービス「ひまわり」）”が9.7%、“在宅医療ガイドブック”が9.5%、“高齢者ほっとテレフォン”が7.5%となっている。一方、「知らない」はすべての項目で8割以上を占めている。



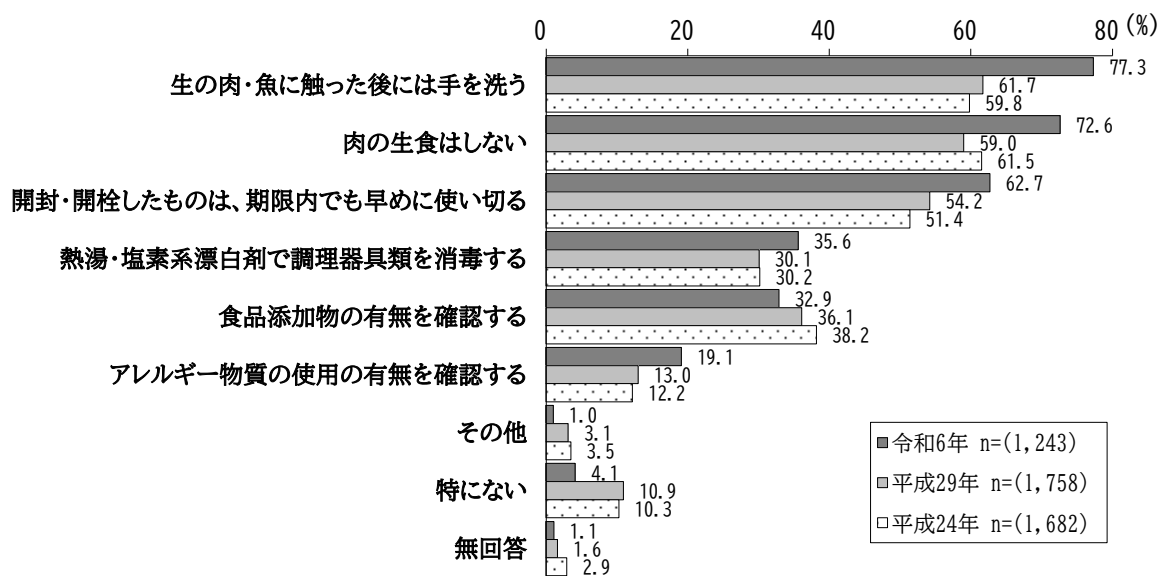
12. 生活衛生対策について

(1) 食品衛生の注意点

問38 食品衛生で注意していることはありますか。(〇はいくつでも)

食品衛生の注意点は、「生の肉・魚に触った後には手を洗う」が77.3%で最も高く、次いで「肉の生食はしない」が72.6%、「開封・開栓したものは、期限内でも早めに使い切る」が62.7%となっている。

時系列で比較すると、「生の肉・魚に触った後には手を洗う」(令和6年：77.3% 平成29年：61.7% 平成24年：59.8%)が前回調査より15.6ポイント、前々回調査より17.5ポイント、「肉の生食はしない」(令和6年：72.6% 平成29年：59.0% 平成24年：61.5%)が前回調査より13.6ポイント、前々回調査より11.1ポイント、「開封・開栓したものは、期限内でも早めに使い切る」(令和6年：62.7% 平成29年：54.2% 平成24年：51.4%)が前回調査より8.5ポイント、前々回調査より11.3ポイント増加している。



13. 自由記述

(1) 心身ともに穏やかな人生100年を送るために大切なこと（F A）

問39 心身ともに健やかな人生100年時代を送るためには、何が大切だと思いますか。ご自由にご記入ください。

ご意見を自由に記入していただいたところ、882名の方から延べ1,814件の貴重な回答が寄せられた。

ここでは、意見や要望を分類し、その内容別で記載した。一人の回答が複数の内容にわたる場合には、複数回答として、原文の内容の趣旨を損なわないよう回答を分け、それぞれの内容へ数えている。

■メンタル	251
ストレスをためない	149
前向きでいる・興味を持つ・楽しむ	41
細かいことを気にしない・考えすぎない	15
心の余裕を持つ	14
積極的に自分で動くこと	14
怒らない・穏やかでな気持ちでいる	9
気分転換	2
日々感謝の気持ちを持つ	2
その他	5
■健康意識	247
健康	54
健康維持への心がけ	50
定期健診受診	45
心の健康	40
早期受診・早期治療	15
歯や口の健康	11
頭を使う	11
健康寿命の延伸	7
お酒を控える・飲まない	7
医療や薬に頼らない	3
胃腸の調子を整える	2
呼吸・姿勢を整える	2
■生活習慣・行動	238
楽しみや趣味・生きがい・目的を持つ	83
規則正しい生活・早寝早起き	42

笑顔・笑うこと	24
無理をしない	18
情報リテラシー	16
衣食住が整っていること・安定した生活	11
良い生活習慣を意識する	9
リラックス・自分の時間を持つ	9
好きなことをする・我慢しない	7
引きこもらない・外出する	6
日常生活の積み重ね	5
人に負担をかけない	3
その他	5
■食事	237
食事内容・栄養バランスに気をつかう	104
よく食べる・食事習慣	94
規則正しく食べる	13
食べ過ぎない・暴飲暴食しない	10
添加物・加工食品・サプリメント等を避ける	8
美味しいものを食べる	3
たんぱく質を多めにとる	3
塩分・糖分をとりすぎない	2
■人との関わり	201
人とのつながり・コミュニケーション	96
友人・仲間	27
家族	19
地域と関わりを持つ・地域活動	13
人の悪口を言わない・思いやり・助け合い	12
話し相手・相談相手がいること	11
社会とのつながり・コミュニティを持つ	10
社会から必要とされる	6
人と関わらない	4
孤独にならないこと	3
■運動	109
適度な運動	156
運動習慣	39
ウォーキング、足腰を鍛える	32
筋肉をつける、筋力トレーニング	14
体力づくり	12
■経済面	109

第2部 健康に関するアンケート調査結果

金銭的余裕・お金の不安がない状態	97
安定した収入	12
■行政・社会に求めるもの	108
地域福祉・医療等行政サポートの充実	32
100年生きることの難しさ・不安	14
経済的サポート	13
相談機関・体制の充実	9
老後不安のない社会	6
年金の充実・支給額見直し	6
区施設の充実・利用しやすさ	5
減税	5
政治経済の安定・平和	5
運動の機会や食事の支援	4
物価の安定	4
格差のない社会、多様性の理解・受容	3
交通の利便性	2
■睡眠・休養	84
睡眠	68
睡眠の質	10
休養	6
■労働関係	40
働くこと	17
労働時間や量の制限	9
ワーク・ライフ・バランス	6
労働環境の改善・多様な働き方の導入	5
賃金アップ	3
■環境	18
自然環境保護	7
住環境・生活環境	6
安全・安心な環境	5
■医療	18
医療の充実	9
健診・医療が受診しやすい環境	6
予防医療の充実	3
■その他	10

(2) 健康に関する意見 (F A)

問40 その他、健康に関することで区に対するご意見がございましたら、ご記入ください。

ご意見を自由に記入していただいたところ、300名の方から延べ341件の貴重な回答が寄せられた。

ここでは、意見や要望を分類し、その内容別で記載した。一人の回答が複数の内容にわたる場合には、複数回答として、原文の内容の趣旨を損なわないよう回答を分け、それぞれの内容へ数えている。

■区の健診・検診	
健診・検診の費用について	16
健診・検診項目や内容について	12
健診・検診の予約について	8
健診・検診の受診条件（年齢、人数等）を見直し	8
健診・検診実施回数について	5
健診等を実施する医療機関について	3
健診等の案内・申請手続きについて	2
その他	4
■区の取組について	95
情報提供・周知について	58
相談場所・問合せについて	13
イベント、講演会等の企画	13
区の取組・対応について	11
■健康づくり支援	49
公共の運動施設について	29
自主的に健康管理・健康でいられる努力をしたい	11
若年層・働く世代向けの健康支援について	5
その他	4
■医療・保健	39
医療費等について	18
医療機関等の充実	7
病院の混雑緩和	5
かかりつけ医について	4
マイナ保険証について	3
病院で処方される薬についての疑問	2
■福祉施策	30
見守り支援について	7

第2部 健康に関するアンケート調査結果

地域の集いの場・つながりの整備	6
介護保険料について	5
高齢者への経済的支援	5
高齢者施設の充実、介護について	4
経済的支援	2
その他	1
■環境・まちづくり	23
受動喫煙・路上喫煙について	13
喫煙所の環境整備	2
公衆衛生について	2
その他	6
■アンケート	19
回答することにより窓口を知った	13
アンケートの改善点	4
その他	2
■予防接種	8
ワクチン接種の費用について	3
HPVワクチンについて	2
その他	3
■食品と食生活	6
食の安全について	4
食品価格の高騰対策を希望	2
■その他	14